

 **今すぐご登録を!**
本機は P2HD 5 年間無償
修理特約の対象商品です。
詳しくは 220 ページをご覧ください。
http://panasonic.biz/sav/pass_j/

Panasonic®

取扱説明書

メモリーカードレコーダー
品番 **AJ-HPD2500**

P2HD



AVCHD™  

AVC INTRA

DVC PRO HD

DVC PRO 50

DVC PRO

本書は PDF ファイル形式で CD-ROM にも納められています。(2 ページ参照)

このたびは、“パナソニック製品”をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」(7~9ページ)を必ずお読みください。
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

保証書別添付

製造番号は、品質管理上重要なものです。製品本体と保証書の製造番号をお確かめください。

- AVCHD は、AVCHD コーデックボード AJ-YCX250G (オプション) 取り付け時にご利用いただけます。

- SDHCロゴはSD-3C, LLCの商標です。
- “AVCHD” および “AVCHD” ロゴはパナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。
- Microsoft®、Windows® および Windows Vista® は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。
- Adobe® および Reader® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- その他、この説明書に記載されている各種名称、会社名、商品名などは各社の商標または登録商標です。
- 本製品は、AVC Patent Portfolio License に基づきライセンスされており、お客様が個人的かつ非営利目的において以下に記載する行為にかかわる個人使用を除いてはライセンスされておりません。
 - AVC規格に準拠する動画(以下、AVCビデオ)を記録する場合
 - 個人的かつ非営利的活動に従事する消費者によって記録されたAVCビデオを再生する場合
 - ライセンスを受けた提供者から入手されたAVCビデオを再生する場合
 詳細については米国法人 MPEG LA, LLC (<http://www.mpegla.com>) をご参照ください。
 - 本製品でSDメモリーカードに記録して、エンドユーザーに営利目的でそのカードを配布する場合には、別途MPEG-LAとのライセンス契約が必要です。ここで言うエンドユーザーとは、個人使用目的でコンテンツを扱う人や団体を指しています。
- Use of DCF Technologies under license from Multi-Format, Inc.

取扱説明書PDFファイルの聞き方

CD-ROMを挿入してソフトウェアのインストール画面が立ち上がる場合は、インストールを中止してください。

CD-ROM内の[INDEX.pdf]を聞くと取扱説明書の一覧が表示されます。

開きたい取扱説明書のドキュメント名をクリックしてください。

- PDFファイルをご覧いただくには、Adobe® Reader® が必要です。

アドビシステムズ社のホームページからダウンロードしてください。

本書内のイラストについて

- レコーダー本体、メニュー画面などのイラストは、実際とは異なることがあります。

参照ページについて

- 本書では、参照ページを(→00ページ)のように示しています。

用語について

- SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、どちらも「SDメモリーカード」と記載しています。
- 「P2」ロゴがついたメモリーカード(別売のAJ-P2C064AGなど)を「P2カード」と記載しています。
- ハードディスクドライブ(HDD)を「ハードディスク」と記載しています。
- 1回の記録動作により作成された映像を「クリップ」と呼び、そのように記載しています。
- THUMBNAIL、PLAY LIST ボタンが消灯している状態を「録再モード」と呼び、そのように記載しています。(31 ページ参照)

目次

はじめに

安全上のご注意 必ずお守りください	7
電源プラグの接地に関するご注意	9
付属品	10
オプション	10
フロントパネル（下部）のチルト調整	11
特長	13
各部の名称と機能	17
オーディオ・ビデオ制御部	17
GUI 操作部	21
パネル制御部とカードスロット	25
表示パネル	26
フロントパネル内の接続端子部	27
リアパネルの接続端子部	28
画面の切り替えとメニューの操作について	31
操作モードについて	31
メニューの操作	32
キーボードを利用する	33
フルキーボードを利用する	33
テンキーボードを利用する	33
USB キーボードを利用する	34
記録・再生と P2 カードの取り扱いについて	35
P2 カードの挿入	35
記録と再生	35
P2 カードと記録時間について	36
LOOP REC 機能	37
P2 カードの取り出し	38
誤消去を防ぐには	38
接続	39
23.98/24/29.97/25 Hz モード時のシステム接続例	39
外部リモート制御時の接続例	39
バリエラブルフレームレートカメラからの記録	40
バリエラブルフレームレートカメラからの	
HD SDI 出力信号を 720/23.98p 記録する	40
HD カメラからの HD SDI 出力信号を 1080/23.98p 記録する	41
サーチダイヤルによるジョグ／シャトル操作	42
ジョグモード（JOG モード）	42
シャトルモード／スローモード（SHTL モード／SLOW モード）	42
サムネイルとクリップの管理について	43
サムネイル画面各部の名称とはたらき	44
サムネイルメニューの構成	46
サムネイル画面の表示の変更	47
サムネイルの変更	50
クリップを選択する	51
クリップを再生する	52
単一クリップを再生する	53
P2 カードを抜き差ししながらクリップを連続再生する（つなぎ再生）	54
テキストメモやショットマークを付加する	57
テキストメモを付加する	57
ショットマークを付加する	58
クリップをコピーする	59
クリップ音声を変換する	60
クリップを削除する	61
クリップを修復する・連結する	62
不良クリップの修復	62
不完全クリップの連結	62
クリップの情報を表示・修正する	63
クリップ情報の表示	63
クリップメタデータの修正	64

クリップの管理

クリップにメタデータを付加する	65
メタデータアップロードファイルの準備	65
メタデータを付加するための設定	65
メタデータ設定値の読み込み	67
メタデータを付加したクリップの記録	68
SD/SDHC メモリーカードを利用する	69
SD メモリーカードの各種情報を表示する	69
SD メモリーカードをフォーマットする	69
P2 カードをフォーマットする	71
特定の P2 カードをフォーマットする	71
全ての P2 カードをフォーマットする	71
カードの状態を確認する	72
表示する情報を指定する	72
カードの状態に関する情報を表示する	73
プレイリストについて	74
編集の流れ	75
挿入編集モードと上書き編集モードについて	76
無映像、無音声区間の扱いについて	76
操作の取り消しと再実行について	76
イベント間のオーディオフィードについて	76
プレイリスト画面各部の名称とはたらき	77
プレイリストの操作で使用するボタン	82
プレイリスト作成の準備	86
システム周波数の設定をする	86
プレイリストフォーマットの設定をする	86
再生時のタイムコード (TC) の設定をする	86
その他の設定をする	87
プレイリストを新規作成する	88
プレイリスト名を付ける	88
プレイリストを作成する	89
プレイリストへの登録	89
クリップ単位でのイベント登録	95
登録イベントの修正	95
プレイリストを P2 カードに保存する	99
プレイリストファイルを開く	100
プレイリストをエクスポートする	101
プレイリストファイルを削除する	102
オーディオを追加記録する	103
オーディオの追加記録の準備	103
IN / OUT 点を指定してからの追加記録	104
再生状態からの追加記録	105
オーディオ追加記録部分の修正	105
オーディオのレベル設定を行う	106
イベント登録時にイベント全体に一定のオーディオレベル設定を行う	106
イベント登録時にイベント途中で変化するオーディオレベル設定を行う	107
区間を指定してオーディオレベル設定を行う	107
イベントとクリップの情報を表示する	109
イベントのプロパティーの表示	109
クリップのプロパティーの表示	109
プレイリストを再生する	111
プレイリストを再生する	111
イベントをレビューする	111
プレイリストから新しいクリップを作成する (エディットコピー)	112
クリップを編集して上書きする (リライトエディット)	113
USB 端子や eSATA 端子を利用する	115
USB デバイスとして利用する	115
ハードディスクと接続する	115
本機にパーソナルコンピューターを接続して利用する	116
USB デバイスモードへの切り替え	116

編集

接続

本機にハードディスクを接続して利用する	117
使用できるハードディスク	117
ハードディスクのフォーマット	119
カード単位でのハードディスクへのエクスポート	119
クリップ単位でのハードディスクへのコピー	121
ハードディスクの情報の表示 (エクスプローラー画面)	122
ハードディスクの各種操作について	122
ハードディスクや FTP サーバーから P2 カードへのインポート / コピー	124
ハードディスクのクリップのサムネイル表示	125
ハードディスクのクリップの情報を表示する	126
ハードディスクのクリップを削除する (TYPE S タイプ、FAT タイプのハードディスク)	126
ハードディスクのクリップの映像と音声の再生確認をする	127
外部リモート制御	128
外部機器のリモート操作	128
カードへの自動記録	129
本機をネットワークに接続して利用する	130
ネットワークの設定	130
FTP クライアント機能を利用する	135
FTP サーバー上のクリップのサムネイル表示 (FTP サムネイル画面)	136
FTP サーバー上のクリップを削除する	136
FTP サーバー上のクリップの情報を表示する	137
クリップを転送する	137
SD メモリーカードのデータを転送する	138
LAN モードでのサーバー機能を利用する	140
ブラウザー機能を利用する	141
録再モードでのサーバー機能を利用する	143
RS-232C インターフェースについて	144
RS-232C インターフェースからの コマンド受け付け条件	144
ハードウェア仕様について	144
ソフトウェア仕様 (プロトコル) について	144

クリップセレクト機能

クリップセレクト機能について	148
クリップセレクトの設定	148
クリップセレクトの解除	148

AVCHD 記録・再生

AVCHD オプションボードを使用する	149
SD/SDHC メモリーカードについて	149
AVCHD のサムネイル画面を操作する	151
再生の設定をする	157
AVCHD クリップを再生する	158
AVCHD の素材を P2 カードへ記録する	159
SD メモリーカードへ AVCHD を記録する	160

セットアップ



本機の設定について	162
設定の変更	163
変更の操作	163
ロックによるユーザー設定ファイルの保護	164
工場出荷時の設定 (初期設定) に戻すには	164
セットアップメニューの構成	165
各項目の設定内容	167
SYSTEM	167
BASIC	169
OPERATION	176
INTERFACE	178
EDIT	179
TIME CODE	179
VIDEO	182
AUDIO	186
LCD	190
MENU	191
メニューの SD メモリーカードへの保存について	192

	タイムコード／ユーザーズビット／CTL について	194
	スーパーインポーズ画面	197
	入力／出力対応フォーマット一覧	198
	音声 V フェード機能	200
	音声の記録チャンネルの選択	201
	音声の記録チャンネル	201
<hr/>		
未永くお使いいただくために	結露	202
	お手入れについて	202
	エラーメッセージ	203
	ワーニング情報の表示	204
	アワーメーター情報の表示	213
	ショートカット一覧	213
	複数ボタン操作一覧	214
	本機搭載ファームウェアのアップデート	216
	ラックマウント	217
	ラックに組み込む	217
	P2 カード記録データの取り扱いについて	218
	SD メモリーカード記録データの取り扱いについて	219
保証とアフターサービス（よくお読みください）.....		220
定格.....		221
さくいん.....		223








安全上のご注意 **必ずお守りください**

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。




	警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。





					してはいけない内容です。
		実行しなければならない内容です。			

警告




異常、故障時には直ちに使用を中止する

	<p>■ 異常があったときは、電源プラグを抜く [内部に金属や水などの液体、異物が入ったとき、落下などで外装ケースが破損したとき、煙や異臭、異音などが出たとき] <small>(そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。)</small> ⇒ 本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグに簡単に手が届くようにしてください。 ⇒ 本機を電源から完全に遮断するには、電源プラグを抜く必要があります。 ⇒ お買い上げの販売店にご相談ください。</p>
	<p>■ 電源プラグは、根元まで確実に差し込む <small>(差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。)</small> ⇒ 傷んだプラグやゆるんだコンセントのまま使用しないでください。</p>
	<p>■ 電源プラグのほこりなどは、定期的にとる <small>(プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災や感電の原因になります。)</small> ⇒ 半年に一度はプラグを抜いて、乾いた布で拭いてください。</p>
	<p>■ 付属品・オプションは、指定の製品を使用する <small>(本体に誤って指定外の製品を使用すると、火災や事故を起こす原因になります。)</small></p>
	<p>■ 電源コード・プラグが破損するようなことはしない [傷つける、加工する、高温部や熱機器に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重いものを載せる、束ねるなど] <small>(傷んだまま使用すると、火災・感電・ショートの原因になります。)</small> ⇒ 電源コードやプラグの修理は、お買い上げの販売店にご相談ください。</p>
	<p>■ コンセントや配線機器の定格を超える使い方や、交流100 V～240 V以外での使用はしない <small>(たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。)</small></p>
	<p>■ 内部に金属物を入れたり、水などの液体をかけたりぬらしたりしない <small>(ショートや発熱により、火災・感電・故障の原因になります。)</small> ⇒ 機器の上や近くに液体の入った花瓶などの容器や金属物を置かないでください。</p>
	<p>■ SD/SDHCメモリーカード(別売品)は、乳幼児の手の届く所に置かない <small>(誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。)</small> ⇒ 万一、飲み込んだと思われるときは、すぐに医師にご相談ください。</p>
	<p>■ 不安定な場所に置かない <small>(落ちたり、倒れたりして、けがの原因になります。)</small></p>

警告(つづき)

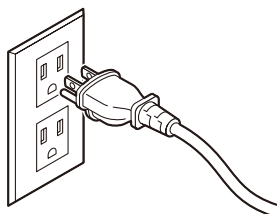
 分解禁止	<p>■ 分解や改造をしない (内部には電圧の高い部分があり、感電や火災の原因になります。また、使用機器を損傷することがあります。) ⇒ 内部の点検や修理などは、お買い上げの販売店にご相談ください。</p>
 接触禁止	<p>■ 雷が鳴り出したら、本機や電源プラグには触れない (感電の原因になります。)</p>
 水場使用禁止	<p>■ 水場で使用しない (火災や感電の原因になります。)</p>
 ぬれ手禁止	<p>■ ぬれた手で電源プラグやコネクタに触れない (感電の原因になります。)</p>

注意

	<p>■ 本機の放熱を妨げない [押し入れや本箱など狭いところに入れない、テーブルクロスを掛けたりじゅうたんや布団の上に置かない、通風孔やファンは、ふさがない、横倒し、逆さまにしない] (内部に熱がこもり、火災の原因になります。)</p>
	<p>■ ヘッドホン使用時は音量を上げすぎない (ヘッドホンから大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。)</p>
	<p>■ 油煙や湯気の当たるところ、湿気やほこりの多いところに置かない (電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災・感電の原因になることがあります。たばこの煙なども製品の故障の原因になることがあります。)</p>
	<p>■ 直射日光の当たる場所や異常に温度が高くなる場所に置かない (特に真夏の車内、車のトランクの中は、想像以上に高温(約60℃以上)になりますので、外装ケースや内部部品が劣化するほか、火災の原因になります。) ⇒ 本機を絶対に放置しないでください。</p>
	<p>■ 電源プラグやコネクタを抜くときは、コードを引っ張らない (コードが傷つき、火災や感電の原因になります。) ⇒ 必ずプラグやコネクタを持って抜いてください。</p>
	<p>■ 本機の上に重いものを置いたり、乗ったりしない (落下したり倒れたりして壊れ、けがの原因になります。また、重量で外装ケースが変形し、内部部品が破損すると、火災・故障の原因になります。)</p>
 電源プラグを抜く	<p>■ 長期間使用しないときや、お手入れのときは、電源プラグをコンセントから抜く (火災や感電の原因になります。)</p>
	<p>■ コードを接続した状態で移動しない (コードが傷つき、火災や感電の原因になります。また、コードが引っかかって、けがの原因になります。)</p>
	<p>■ 1年に1度ぐらいは、販売店に内部の掃除の相談をする (本機の内部にほこりがたまったまま使用すると、火災や故障の原因になります。)</p>

電源プラグの接地に関するご注意

- 本機に付属されている電源コードは、接地端子を備えた3ピンのコンセントに接続してください。



海外で使用する場合は、その国に合った接地端子付電源コードを準備してください。

付属品

電源コード(3芯)	1
CD-ROM.....	1

オプション

- ラックマウントアダプター
AJ-MA75P
- AVCHDコーデックボード
AJ-YCX250G

◆NOTE:

- オプションボードは、必ず上記の製品を使用してください。
- オプションボードの取り付けは、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 本製品に関するソフトウェア情報

1. 本製品には、GNU General Public License (GPL)ならびにGNU Lesser General Public License (LGPL)に基づきライセンスされるソフトウェアが含まれており、お客様は、これらのソフトウェアのソースコードの入手・改変・再配布の権利があることをお知らせいたします。

ソースコードの入手については、下記のホームページをご覧ください。

<http://panasonic.biz/sav/>

なお、お客様が入手されたソースコードの内容等についてのお問い合わせは、ご遠慮ください。

2. 本製品には、MIT-Licenseに基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。

3. This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

4. 本製品には、OpenBSD Licenseに基づきライセンスされるソフトウェアが含まれています。

5. This product includes PHP, freely available from <http://www.php.net/>.

6. This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

これらの内容については、本機に付属したインストールCDに収められています。「LDOC」という名前のフォルダーを参照してください(原文(英文)で記載しております)。

■ 録画内容の補償はできません

本機およびP2カードの使用で、万一これらの不具合により録画されなかった場合の録画内容の補償についてはご容赦ください。

■ メモリーカードを破棄／譲渡するときのお願い

本機やパーソナルコンピューターの機能による「フォーマット」や「削除」では、ファイル管理情報が変更されるだけで、メモリーカード内のデータは完全には消去されません。廃棄／譲渡の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のパーソナルコンピューター用データ消去ソフトなどを使って、メモリーカード内のデータを完全に消去することをお勧めします。メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

■ 設置場所について

本機を直射日光にさらされた場所に置かないでください。キャビネットの劣化や、液晶画面の損傷のおそれがあります。

■ 液晶について

- ・ 液晶部は99.99 %以上の有効画素がありますが、0.01 %以下の画素欠けや常時点灯(赤、青、緑)するものがあります。これは故障ではありません。
- ・ 表示映像によっては、画面にムラが発生する場合があります。
- ・ 液晶部を固い布で拭いたり、強くこすったりすると、表面に傷が付く原因となります。
- ・ 長時間静止画像を映したままにしておくと、一時的な残像(焼き付き)が発生する場合があります。
- ・ 液晶の応答速度や輝度は使用温度によって変化します。
- ・ 本機を、温度や湿度の高いところに長時間放置すると、液晶パネルの特性が変化し、ムラの原因となります。

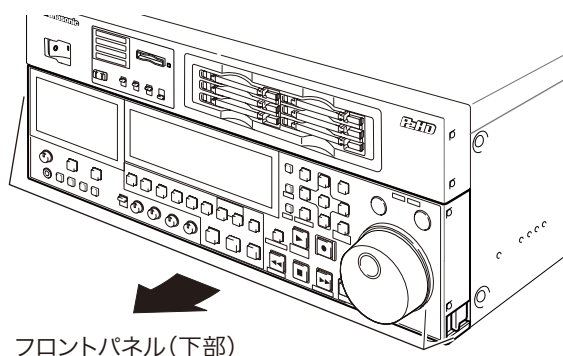
フロントパネル（下部）のチルト調整

◆NOTE:

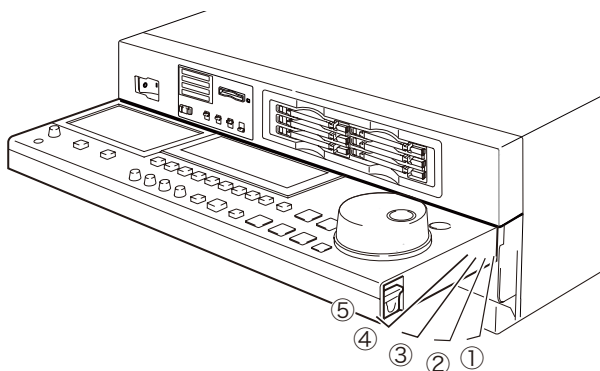
- フロントパネル(下部)のチルト調整時に、指を挟まないように注意してください。

フロントパネル(下部)の開き方

- 1 フロントパネル(下部)を持ち上げて開きます。



- 2 下記の位置でフロントパネル(下部)を固定します。

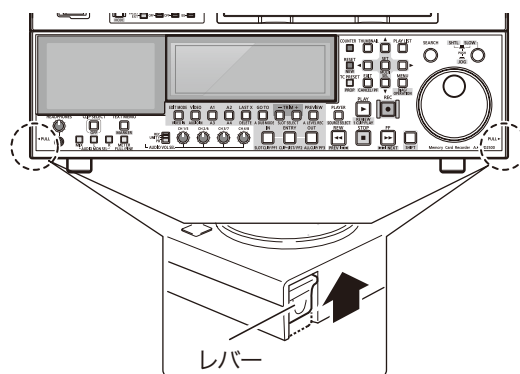


◆NOTE:

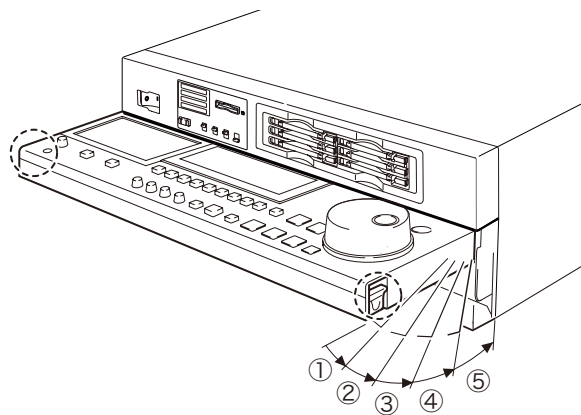
- 調整は5段階で行うことができます。
- フロントパネルを開くときは必ず固定する位置でとめてください。

フロントパネル(下部)の閉じ方

- 1 フロントパネル(下部)両端のレバーを引きロックを解除します。



- 2 レバーを引いたまま、フロントパネル(下部)を下げて閉じます。

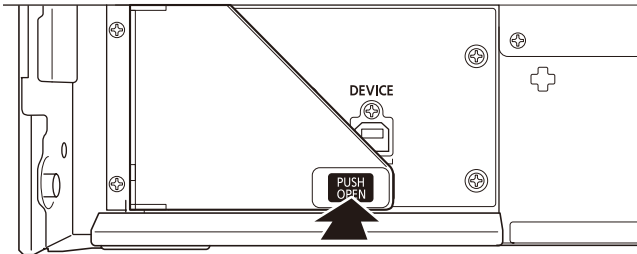


◆NOTE:

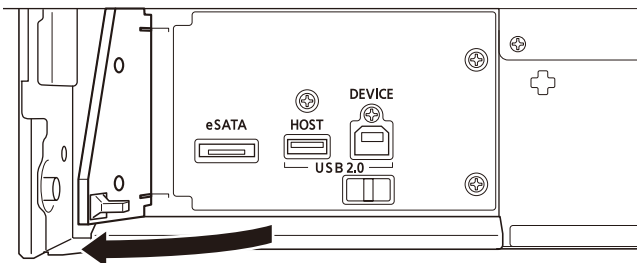
- フロントパネルを閉じるときは、eSATA、USB HOST、USB DEVICE端子カバーが閉じていることを確認してください。
→「eSATA、USB HOST、USB DEVICE端子カバーの閉じ方」(12ページ)を参照。

eSATA、USB HOST、USB DEVICE端子カバーの開き方

- 1 フロントパネル(下部)を開きます。
- 2 カバーの右端を押し、ロックを解除します。

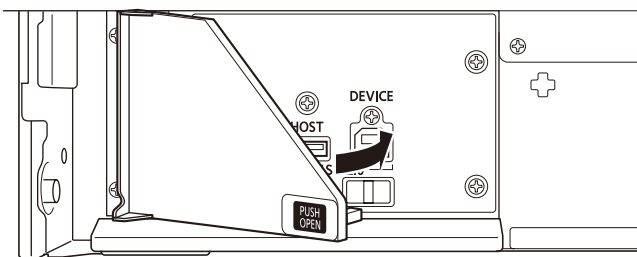


- 3 カバーを下図のように90度開きます。



eSATA、USB HOST、USB DEVICE端子カバーの閉じ方

- 1 接続しているケーブルをすべて抜き、端子カバーを下図のように閉じます。

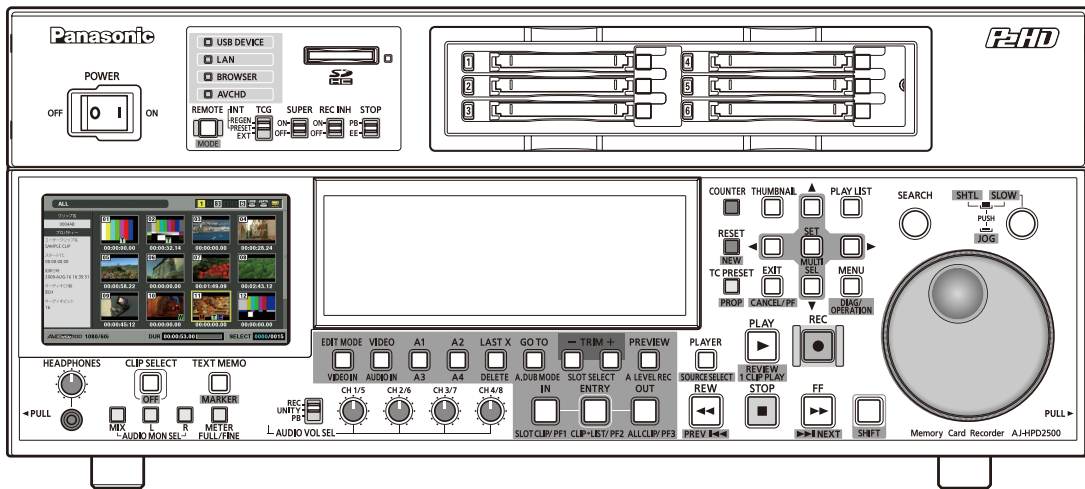


はじめに

特長

AJ-HPD2500は、6つのP2カードスロット、4.3型カラー液晶モニターを搭載したメモリーカードレコーダーです。6枚のP2カードにDVCPRO HD、DVCPRO50、DVCPRO、DV、AVC-Intraの圧縮フォーマットで映像・音声などの記録・再生を行うことができ、P2カード上の素材やハードディスク上の素材を用いた編集や、外部VTRをプレーヤー側とした編集を行うことができます。また、従来の編集用VTRのプレーヤー側としても使用できます。AJ-HPD2500は、次のような特長があります。

はじめに



■ P2カード対応カメラとの連携

P2カメラレコーダーで収録したP2カードを、PCカードスロットへ直接マウント、そのまま操作できます。

P2カードはプロユースのA/Vメディアとしてパナソニックが開発した半導体メモリーカードです。

■ ダイヤルジョグ / ダイヤルシャトル

ジョグ操作は、-1.0～+1.0倍速でのスロー再生が可能です。シャトル操作は、正・逆方向に最大100倍速まで再生可能で、10倍速以下までは、音声付き再生も可能です。

■ サムネールによりクリップを視覚的に管理

フロントパネルの4.3型カラー液晶モニターに、P2カードに収録されたクリップの代表画像(サムネール)を表示。サムネール画面には、指定したクリップだけを表示できます。

サムネールの一覧から選択したクリップをすぐに再生したり、ショットマークの追加、クリップのファイル情報の確認や修正などのクリップの管理が行えます。

〈クリップについて〉

クリップとは、画像、音声、メタデータなどの付加情報を含む、ひとかたまりのデータのことです。通常は、記録を開始して停止するまでの1回の記録によって生成される1ショットが1クリップになります。ただし、複数のP2カードにまたがったショットは、各カードの映像が独立したクリップとして扱われます。また、記録を開始したときの映像がそのクリップの代表映像としてサムネール画面に表示されます。

■ ハードディスク・インターフェースの拡張・高速化

● eSATA インターフェースによる高速コピー

従来のUSBインターフェースに加え、より高速なeSATAインターフェースのハードディスクに対応しています。P2カード内の素材をより高速にハードディスクにバックアップ、あるいはハードディスクからP2カードへリストアすることができます。

● ハードディスク素材の再生(ベストエフォート)・プレイリスト編集への利用

ハードディスク内の素材をサムネールで表示したり、滑らかに再生*1することができます。また、低速なハードディスクを使用したり、振動などでハードディスク側に一時的な読み取り性能の低下があった場合も音声だけを継続して出力する機能を備えています。

ハードディスク内の素材を再生*1することで、ハードディスク内の素材もP2カード上の素材と同等に編集素材として活用することができます。

*1こま落ちのない再生を保証するものではありません。

■ G-bit Etherネットワーク対応

● FTPクライアント

P2カードや外部ハードディスク内に保存されている素材をサムネール画面上で選択し、インターネット上のFTPサーバーに高速転送することができます。またFTPサーバー内の素材をサムネール表示し、選択した素材をP2カードや外部ハードディスクに取り込むこともできます。さらに、SDメモリーカード内のデータも、カード単位でFTPサーバーと双方向に転送することができます。SSHを利用した送受信データの暗号化にも対応しています。

● ブラウザー

ブラウザーモードを利用することで、様々なWebサイトを閲覧したり、インターネット接続に必要なWebページ認証操作を行うことができます。

● FTPサーバー

録再モードでFTPサーバーを起動時、パーソナルコンピュータなどのFTPクライアントでP2カード内に保存されている素材ファイルを読み書きできます。ただし、記録中はネットワーク読み書きできません。再生中はペンディングされます。

また、LANモードで本機をFTPサーバーとして動作させることにより、パーソナルコンピュータなどのFTPクライアントでP2カードや外部ハードディスク内に保存されている素材ファイルを読み出すことができます。

● SAMBAサーバー

本機をSAMBAサーバーとして動作させることにより、Windows PCなどのネットワークコンピューター機能を利用して、P2カードや外部ハードディスク内に保存されている素材ファイルを読み出すことができます。

● HTTPサーバー

本機をHTTPサーバーとして動作させることにより、パーソナルコンピュータなどのブラウザーから、素材の一覧、メタ情報表示、プロキシーデータの再生を行うことができます。

■ 編集機能・GUI

● AV独立編集

ビデオとオーディオ(4ch)の中から任意のトラックを選択し、独立して編集することができます。

● 挿入編集と上書き編集

イベントとイベントの間に新しいイベントを挿入する挿入編集と、イベントの上新しいイベントを上書きする上書き編集の2つの編集が可能です。

● リライトエディット編集

クリップを修正して上書き保存することが可能です。

● 編集素材とプレイリスト映像の2画面表示

編集素材(プレーヤー)、プレイリスト(レコーダー)の映像を常に2画面表示しています。また画面と同時に編集状態をタイムラインとして表示しています。このため、より直感的な編集を行うことができます。

● テープ、ハードディスク素材を編集可能

RS-422Aインターフェースを持つVTRなどをプレーヤーとして使用し、リニアライクの編集(DeckToDeck編集)ができます。またeSATAやUSBのハードディスクに転送した素材も編集素材として活用できます。

● 任意の区間にオーディオレベル設定(可変)が可能

編集時には、オーディオ再生用ボリュームを用いてレベル調整を自由に行えます。

● プレーヤーのサムネール表示と再生

プレーヤー側にP2カードやハードディスクを使用している場合には、プレーヤーサムネールを表示することができます。サムネールは設定により、プレーヤーとして使用するクリップを、選択したクリップなどの必要なものだけに絞り込むことができます。

■ タイムコード / 編集用プレーヤー機能を搭載

本機は、TCG(タイムコードジェネレーター) / TCR(タイムコードリーダー)を内蔵しています。内部タイムコードの他に、外部タイムコード入力または入力信号のVITCをタイムコードとして記録できます。

また、RS-422Aを用いた編集システムのプレーヤーとしても使用できます。

■ HD / SDに対応

本機は、HD / SDの信号を記録・再生できます。アナログビデオ入出力、SDI入出力が行えます。

■ Audio AES/EBU入出力対応(16/24 bit、48 kbps / 8ch)

標準でAES/EBU入出力インターフェースを8ch装備しています。これにより48 kHzサンプリングのデジタルオーディオ機器やデジタルVTRとのインターフェースが可能となります。また、8チャンネルのPCMオーディオを持ち、各チャンネルは独立(HD-SDI・AES/EBUは8ch独立、アナログIFは2ch独立)して記録ができるほか、チャンネルミックスが可能です。

■ AVCHDオプション(AJ-YCX250G)

オプションのAVCHDコーデックボードAJ-YCX250Gを使用することで、SDメモリーカードを使用したAVCHDフォーマットの記録 / 再生が可能となります。

これにより、以下のような使い方が可能となります。

- AVCCAMで記録したクリップを、P2カードへDVCPRO HDやAVC-Intraフォーマットとしてダビングし、クリップをプレイリスト編集したり、ノンリニア編集機へインジェストしたりすることができます。
- P2HDカメラレコーダーで記録したP2カードのクリップを、SDメモリーカードへAVCHDフォーマットでダビングすることができます。
- HD-SDIなどの外部入力をP2カードのDVCPRO HDまたはAVC-Intraと同時にSDメモリーカードへAVCHDフォーマットで記録することができます。

■ WFM / ベクトル表示

LCD画面 / モニター出力にビデオ波形またはベクトル波形を表示する機能を備えています。

アップコンバート記録時は、アップコンバート後の波形が表示されます。

◆NOTE:

- 入力がないときは、波形は表示されません。

■ HD-SDIリモート

外部機器制御機能を備えたカメラレコーダーからHD-SDI信号を入力することにより、入力信号の記録 / 停止信号に従って自動的に本機の記録 / 記録一時停止などの操作が行えます。

■ USBキーボード

下記の機能についてUSBキーボードを使用可能です。

- クリップメタデータの入力や修正
- ネットワークの設定やブラウザーでの操作・URL等の入力

◆NOTE:

- USBキーボードの種類によっては正常に入力できない場合があります。

■ VANCデータの記録/再生機能(59.94 Hz、50 Hzのみ)

映像の垂直ブランキング領域に多重されたSMPTE291M準拠のアンシラリデータ(VANCデータ)を1フレームあたり最大5760バイト記録 / 再生可能です。

■ メニュー方式のセットアップ

セットアップの各種設定は、本機の4.3型カラー液晶モニター、モニターTV表示のセットアップメニューを見ながら、確実に行えます。

■ AVC-Intra標準装備

標準でAVC-Intraコーデックを内蔵しています。

動画圧縮技術H.264規格ベースのフレーム内(Intra-Frame)圧縮方式により、高圧縮率、高画質を実現します。

本製品のAVC-Intraコーデックでは下記の2方式に対応しています。

- AVC-Intra100: フルビットHDをサポートする高画質
- AVC-Intra50: 低レート、低コストで運用可能

■ 24ビット音声対応

AVC-Intraコーデックでは、セットアップメニューNo.034(A.SMPL RES)で記録時の音声ビット数を24ビットまたは16ビットに設定できます。

24ビット選択時は、記録音声チャンネル数は4チャンネルになります。

◆NOTE:

- AVC-Intra以外のコーデックで記録するときは、セットアップメニューNo.034(A.SMPL RES)の値に関係なく、音声は常に16ビット記録となります。
- 24ビットで記録されたクリップは、24ビット対応のP2機器、またはP2ビューアーで再生してください。
- 24ビットで記録されたクリップをダウンコンバートして再生するときは、SDI出力の音声は16ビットとなります。ただしAES/EBU出力は24ビットのままです。また、SD-SDIモニター出力は、常に16ビットとなります。
- 24ビット未対応のP2機器ではクリップ番号が赤色に表示され、再生できません。
- 24ビット未対応のP2ビューアーでは音声は正常に再生されません。最新版のP2ビューアーをご使用ください。→「P2カード記録データの取り扱いについて」(218ページ)を参照。

■ 出力アップ / ダウン / クロスコンバーターおよび入力アップコンバーター内蔵

標準で出力のアップ / ダウン / クロスコンバート再生機能を内蔵しています。また入力のコンプジット、SD-SDI信号をシステムフォーマットと同じHDフォーマットにアップコンバート記録する機能を備えています。

◆NOTE:

- アップコンバート記録時はクロスコンバーター機能は無効となります。
- アップコンバート記録時、SD信号のクローズドキャプション信号は、608形式のHD(VANC)信号として記録されます(59.94 Hzのみ)。
- 再生時、ダウン / クロスコンバートを行うと、クローズドキャプション信号は出力されません。
- SD信号をアップコンバートし、再生する場合も、クローズドキャプション信号は出力されません。

■ フレームレート変換機能

バリエーションフレームレートカメラからの入力を24PN (Native)で記録したり、フレームレートが24 fpsで記録されたカードを再生し、1080/24PsFへの変換出力を行うことができます。また、バリエーションフレームレートカメラからの入力を25PN(Native)で記録することができます。

◆NOTE:

- 撮影後に編集加工したカードやフォーマットの混在したカードを使用しないでください。管理情報が失われ、正常に変換再生できない場合があります。

■ Native記録

有効フレームのみを記録するNative記録に対応しています。VaricamやAJ-HPX2100、AJ-HPX3000などとHD-SDIで接続し、より記録時間を延ばすことができます。またVaricamとの接続によるVFR記録にも対応しています。

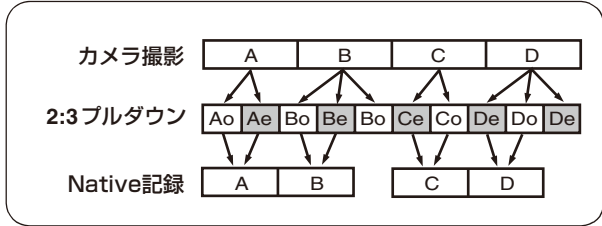
● Native記録とは

1080iのAVC-Intra記録、および720PのDVCPRO HDとAVC-Intra記録で記録のフレームレートに応じて、有効フレームのみを抜き出して記録する方式です。

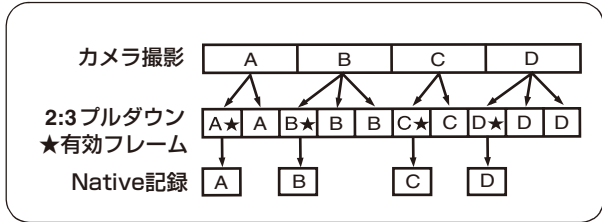
720Pの場合、プルダウン記録よりも2~2.5倍長く記録することができます。

なお、Native記録のときでもセットアップメニューNo.25 (SYSTEM FREQ)の設定が59.94 Hzあるいは50 Hzの場合はプルダウン出力となります。

1080-24PN (Native) の例



720-24PN (Native) の例

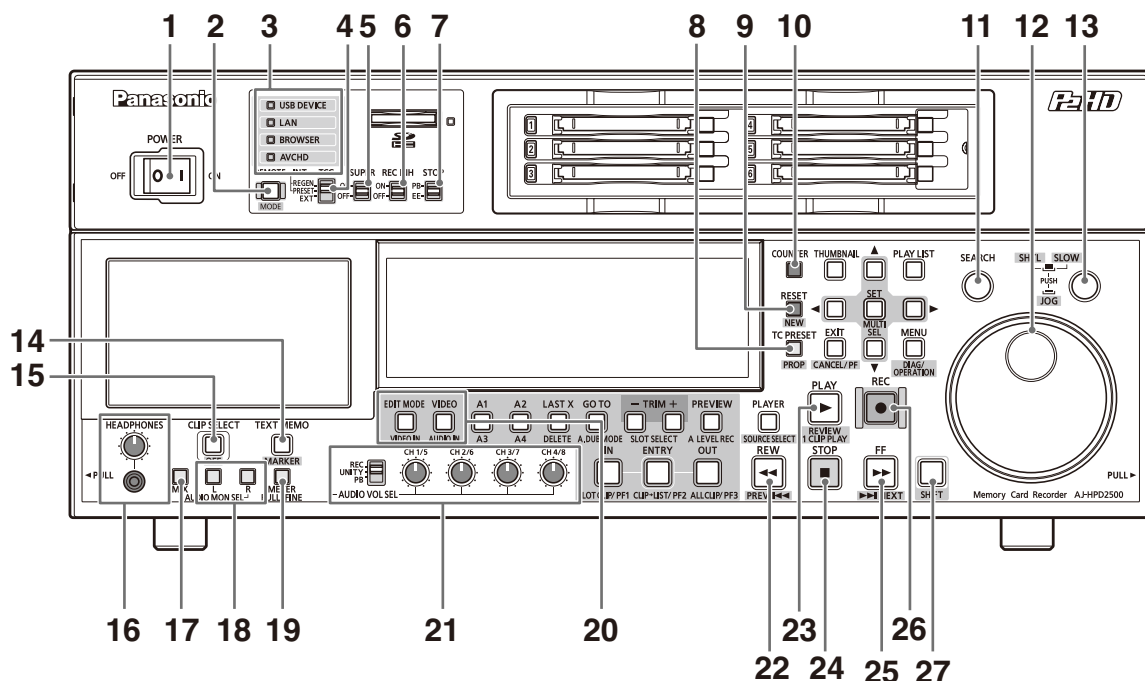


■ 4Uラックマウント

本機は4Uサイズで、ラックマウントアダプター(オプション、AJ-MA75P)を使用することにより、19インチラックに取り付けることができます。

各部の名称と機能

オーディオ・ビデオ制御部



1. POWERスイッチ(| / ○)

電源のON / OFFを行うスイッチです。
|側を押すと電源が入ります。

→「本機をネットワークに接続して利用する」(130ページ)を参照。

→「AVCHDのサムネイル画面を操作する」(151ページ)を参照。

2. REMOTE/MODEボタン(REMOTE表示)

REMOTEボタン

外部から本機をコントロールするモードに切り替えるボタンです。

REMOTE 9ピンREMOTE、RS-232C、パラレルボタン点灯時：ル、カメラレコーダーから本機をコントロールできます。

MODE(SHIFT+REMOTE)ボタン

SHIFTボタンと同時に押し则表示パネルにモード選択画面が表示されますので、モードを選択して切り替えます。パーソナルコンピューターと接続するためのUSBデバイスモード、LAN(ネットワークのサーバー)モード、ブラウザーモードおよびAVCHDモード(オプション装着時のみ)に切り替えることができます。録再モードにおいて、外部から本機にFTPログイン時は、FTPログイン解除画面が表示されます。(「LANモードでのサーバー機能を利用する」(140ページ)を参照。)

→「USB端子やeSATA端子を利用する」(115ページ)を参照。

3. モード表示部

現在のモードを示すランプが点灯します。

4. TCGスイッチ

INT P2カードから読み込んだタイムコードに
REGEN: 内蔵タイムコードジェネレーターを同期させます。TC / UBのどれをREGENにするかはセットアップメニューNo.505(TCG REGEN)で選択します。

INT 本機内蔵のタイムコードを使います。設定
PRESET: 内容は操作パネルまたはリモートコントロールでプリセットできます。→「タイムコード/ユーザーズビット/CTLについて」(194ページ)を参照

EXT: タイムコード入力端子、または映像信号のVITC、SLTC、SVITC入力信号から入力する外部タイムコードを使用します。選択はセットアップメニューNo.507(EXT TC SEL)で設定します。

5. SUPERスイッチ

スーパーの出力を次のように切り替えるスイッチです。

ON: 液晶モニターおよびSD SDI MON端子、ANALOG VIDEO MON端子にタイムコードなどのスーパーを出力します。

OFF: スーパーを出力しません。

6. REC INHスイッチ

P2カードへの記録の禁止か許可を選択する切り替えスイッチです。

ON: 表示パネルのREC INHランプが点灯し、記録を禁止します。

OFF: 書き込み禁止機構を無効とし、P2カードへの記録を可能にします。

7. STOPスイッチ

ストップモード中の信号を選択するスイッチです。

PB: P2カードから再生される信号を出力します。

EE: VIDEO IN (SHIFT+EDIT MODE) / AUDIO IN (SHIFT+VIDEO) ボタンで選択された入力信号を出力します。

8. TC PRESETボタン

TCやUBの値を設定するボタンです。設定するときには、まずこのボタンを押して、表示が点滅している桁を変更します。ただし、サムネールモード、USBデバイスモード、LANモード、ブラウザーモードでは動作しません。

9. RESET/NEWボタン

RESETボタン

表示パネルのカウンター表示がCTLのとき、このボタンを押すとカウンター表示が[0:00:00:00]になります。表示パネルのカウンター表示がTCまたはUBのとき、TC PRESETボタンを押しながらこのボタンを押すと、ジェネレーターをリセットできます。GUIでのソフトキーボード使用時は、テキストの全削除や、プレイリストなどのIN点、OUT点などの消去に使用します。

NEW(SHIFT+RESET)ボタン

プレイリストで使用します。

→「プレイリストを新規作成する」(88ページ)を参照。

10. COUNTERボタン

表示パネルのカウンター表示を切り替えるボタンです。このボタンを押すたびに[CTL(先頭からの相対位置)]→[TC(読み出したタイムコード)]→[UB(読み出したタイムコードのユーザーズビット)]と切り替わります。

11. SEARCHボタン

このボタンを押すとサーチモードになります。サーチダイヤルをSHTLモードにして任意の位置に回しておき、このボタンを押すと、サーチダイヤルで設定した速度の再生が始まります。

12. サーチダイヤル

映像の確認、検索のためのダイヤルです。ダイヤルは、押すたびにSHTL(シャトル)/SLOW(スロー)モードとJOG(ジョグ)モードが交互に切り替わり、JOG/SHTL/SLOWランプのいずれかが点灯します。電源を入れた直後は、一度ダイヤルをSTILLの位置に戻さないと動作しません。

13. SHTL/SLOWボタン

サーチダイヤルがSHTL(シャトル)/SLOW(スロー)モードのとき、このボタンを押すたびに、サーチダイヤルがSHTL(シャトル)モードとSLOW(スロー)モードに切り替わります。

14. TEXT MEMO / MARKERボタン

TEXT MEMOボタン

記録・再生中にこのボタンを押すと、その位置にテキストメモが付加されます。サムネール画面を表示中に、このボタンを押すと、クリップのサムネール(通常は先頭)の位置にテキストメモが付加されます。

→「テキストメモを付加する」(57ページ)を参照。

MARKER(SHIFT+TEXT MEMO)ボタン

サムネール画面を表示中にこのボタンを押すと、ポインター位置にあるクリップのマーカーのON / OFFを切り替えることができます。

→「ショットマークを付加する」(58ページ)を参照。

15. CLIP SELECTボタン

このボタンを押すと、クリップ単位で再生させることができます。

→「クリップセレクト機能」(148ページ)を参照。

16. HEADPHONES

ヘッドホンジャックにステレオヘッドホンを接続すると、記録・再生中の音声をヘッドホンで聞くことができます。ヘッドホン音量調整つまみで音量が調整できます。

MON L/R出力端子を連動させるか連動させないかは、セットアップメニューNo.712(MONI OUT)で設定します。

17.AUDIO MON SEL MIXボタン

MON L / R端子に出力する音声ミックス信号を切り替えます。

このボタンを押しながらAUDIO MON SEL Lボタンを押すと、MON L端子に出力する信号を[CH1+CH2] [CH3+CH4] → [CH5+CH6] → [CH7+CH8] → [ミックス解除]と切り替えることができます。

MON R端子に出力するミックス信号は、AUDIO MON SEL Rボタンで切り替えることができます。

18.AUDIO MON SEL L / Rボタン

MON L / R端子に出力する音声信号を切り替えるボタンです。ボタンを押すたびに、MON L / R端子に出力する信号が次のように切り替わります。

AUDIO MON SEL ボタンのみ押す:	CH1 → CH2 → CH3 → CH4 → CH5 → CH6 → CH7 → CH8 → CH1
------------------------	---

SHIFTボタンを押しながらAUDIO MON SELボタンを押す:	CH8 → CH7 → CH6 → CH5 → CH4 → CH3 → CH2 → CH1 → CH8
------------------------------------	---

どの信号を選択しているかは、オーディオレベルメーターのL / Rに表示されます。L/Rの表示が点灯しているときは、セットアップメニューNo.767(METER SELECT)で設定したチャンネルが選択されています。L/Rの表示が点滅しているときは、セットアップメニューNo.767(METER SELECT)で設定していない方のチャンネルが選択されています。

19.METER FULL / FINE 切り替えボタン

オーディオレベルメーターのスケール表示(目盛)を切り替えるボタンです。

FULL	標準目盛りになります。
モード:	($-\infty \sim 0$ dBの範囲)
FINE	0.5 dB毎のスケールになります。「 — 」
モード:	の位置が基準レベルとなり、「 ● 」が1 dBの目盛りになります。基準レベルは、セットアップメニューNo.776(REF LEVEL)で設定します。

20.VIDEO IN (SHIFT + EDIT MODE) / AUDIO IN (SHIFT+VIDEO)ボタン

ビデオとオーディオの入力信号を切り替えるボタンです。

VIDEO IN: VIDEO IN(SHIFT + EDIT MODE)ボタンを押すと、入力信号選択画面が表示されます。選択画面を表示中にボタンを押すとCMPST、HD SDI、SD SDI、SGから入力信号を選択できます。SGのときの信号は、セットアップメニューNo.601(VIDEO INT SG)で選択された内部信号に切り替わります。

セットアップメニューNo.020(SYS FORMAT)が1080iまたは720pの設定時に、CMPSTあるいはSD SDIを選択すると、自動的にHDにアップコンバートして記録します。その場合、表示がCMPST(U/C)、SD SDI(U/C)となります。

AUDIO IN: AUDIO IN (SHIFT + VIDEO)ボタンを押すと、入力選択画面が表示されます。選択画面を表示中にボタンを押すとANALOG、AES/EBU、SDI、SGから入力を選択できます。

◆NOTE:

- 入力信号がない場合は、選択されている入力項目が点滅します。
- 入力選択のボタンを1度押すと現在の設定が表示されます。設定を変更しない場合はEXITボタンを押すか表示後3秒たつと自動的に表示は消えます。

21.AUDIO VOL SEL スイッチとオーディオボリューム REC/UNITY/PBスイッチ

REC: オーディオボリュームで、記録レベルが調整できます。

UNITY: オーディオボリュームの位置に関係なく、固定されたレベルでオーディオ信号を記録・再生します。

PB: オーディオボリュームで、再生レベルが調整できます。

オーディオボリューム

オーディオ信号(CH1 / CH2 / CH3 / CH4 / CH5 / CH6 / CH7 / CH8)の記録レベルと再生レベルが調整できます。

→詳細な動作は「セットアップメニューNo.790(VOL SEL)」(189 ページ)を参照。

22.REW / PREVボタン

REWボタン

このボタンを押すと早戻し再生になります。速度は、セットアップメニューNo.102(FF.REW MAX)で選択できます。

PREV(SHIFT+REW)ボタン

再生中、またはJOG/VAR/SHTLで静止画を表示しているときにこのボタンを押すと、現在のクリップまたは前のクリップの頭出しを行います。プレイリストモードのレコーダーを再生中の場合は、前のビデオイベントの頭出しを行います。頭出し後はそれまでの動作を継続します。

サムネール表示中にこのボタンを押すと、先頭のサムネールに移動します。

23.PLAY / REVIEW / 1 CLIP PLAYボタン

PLAYボタン

このボタンを押すと再生が始まります。このボタンとRECボタンを同時に押すと、記録が始まります。

REVIEW(SHIFT+PLAY)ボタン

プレイリスト画面表示中にこのボタンを押すと、カーソル位置のイベントをレビュー(IN点3秒前からOUT点1秒後までを再生)することができます。

1 CLIP PLAY(SHIFT+PLAY)ボタン

サムネール表示中またはサムネールからSEARCHボタンを押し静止画状態のときにこのボタンを押すと、カーソル位置または現在位置のクリップのみ再生することができます。

この再生中はSTOPのみ有効です。

24.STOPボタン

このボタンを押すとストップモードに移行し、STOPスイッチがPBモードのときには静止画をモニターでできます。リファレンスビデオ信号が入力されていない場合のワーニングアラームとして点滅させるか、点滅させないかは、セットアップメニューNo.104(REF ALARM)で設定します。

25.FF / NEXTボタン

FFボタン

このボタンを押すと早送り再生になります。速度は、セットアップメニューNo.102(FF.REW MAX)で選択できます。

NEXT(SHIFT+FF)ボタン

再生中、またはJOG/VAR/SHTLで静止画を表示しているときにこのボタンを押すと、次のクリップの頭出しを行います。

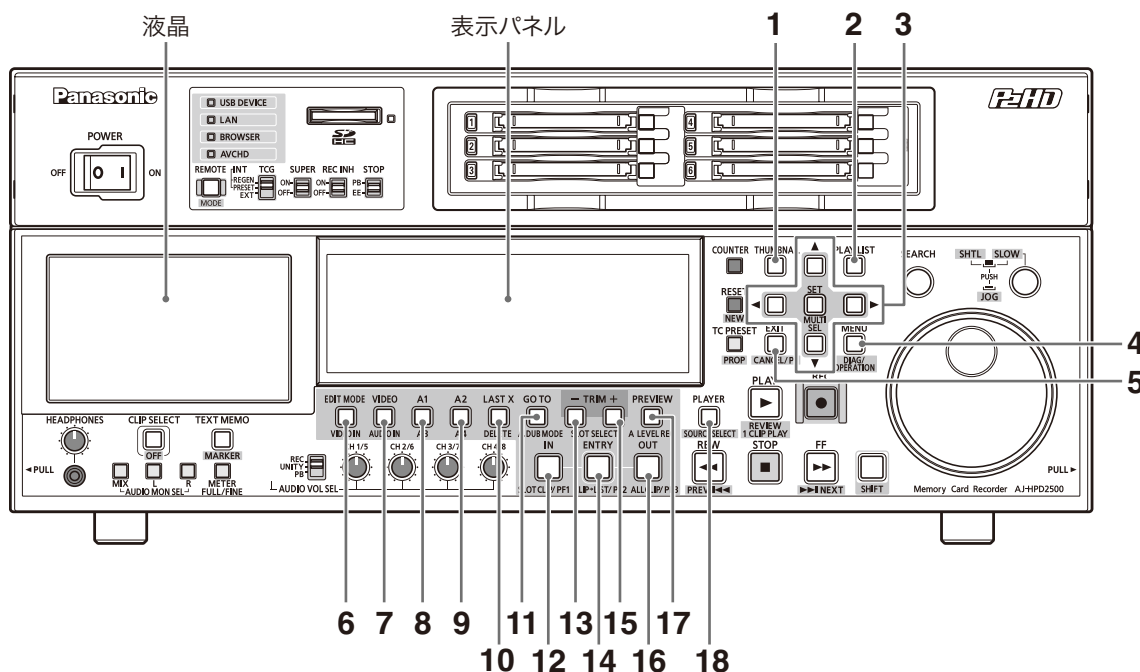
サムネール表示中にこのボタンを押すと、最後のサムネールに移動します。

26.RECボタン

ストップモード中に、このボタンとPLAYボタンを同時に押すと、記録が始まります。STOPスイッチがPBモードのとき、ストップモード中にこのボタンを押すと、EEモードの画像と音声をモニターで確認できます。STOPボタンを押すと、元の画像・音声に戻ります。

27.SHIFTボタン

他のボタンと組み合わせて使用します。



1. THUMBNAILボタン

このボタンを押すと、ボタンが点灯し液晶モニターにサムネール画面が表示されます。再度押すと、録再モードへ切り替わりボタンは消灯します。セットアップメニューNo.051(GUI OUTPUT)を設定すると、ビデオ出力にサムネール画面やプレイリスト画面を表示することができます。

2. PLAY LISTボタン

プレイリストモードを開始/終了します。
→「プレイリストについて」(74ページ)を参照。

3. 十字カーソル(◀/▶/▲/▼)ボタン

周辺の4つのボタンがカーソルボタンです。サムネール、メニュー、イベントなどのカーソルの移動などに使用します。中心のボタンがSETボタンで、メニューの項目やクリップの選択などに使用します。サムネール表示・プレイリスト表示中にSHIFTボタンを押しながら十字カーソルボタンを押すと、カーソルを先頭または最終へ移動させることができます。また、SHIFTボタンを押しながらSETボタンを押すと、複数のクリップあるいは複数のイベントを選択することができます。プレイリスト表示中(レコーダー)にSETボタンを長押しすると、カーソルのあるイベントのIN点OUT点と一致する全てのトラックのイベントを一括して選択したり解除したりできます。

4. MENU / DIAG / OPERATIONボタン

MENUボタン

このボタンを押すと、セットアップメニューまたはサムネール/プレイリストメニューが表示されます。再度押すと、元に戻ります。

→「画面の切り替えとメニューの操作について」(31ページ)を参照。

「セットアップ」(162ページ)を参照。

DIAG(SHIFT+MENU)ボタン

サムネール/プレイリスト表示中以外でこのボタンを押すと、本機の情報が表示されます。再度このボタンを押すと、元の表示に戻ります。ただし、サムネール、プレイリスト表示中はOPERATION(SHIFT+MENU)ボタンを押した場合と同じ動作となります。本機の情報には「VIDEO SYSTEM」情報、「WARNING」情報、「HOURS METER」情報、「UMID」情報があります。これらの情報は、SETボタンまたは十字カーソル左右(◀/▶)ボタンを押して表示を切り替えます。

「VIDEO SYSTEM」画面:	現在のシステム周波数、記録フォーマット、入出力フォーマットなどが表示されます。
「WARNING」画面:	ワーニングの内容が表示されます。
「HOURS METER」画面:	本機のシリアルNo.、通電時間、電源の入り回数などが表示されます。
「UMID」画面:	現在の映像のUMID情報が表示されます。

OPERATION(SHIFT+MENU)ボタン

サムネール / プレイリスト表示中(メニュー表示して
いないとき)にSHIFTボタンとこのボタンを同時に押
すと、「OPERATION」メニューを表示・選択することが
できます。

5. EXIT / CANCEL / PFボタン

PLAY LIST / THUMBNAILボタン 点灯中:	このボタンを押すことで、ク リッププロパティやカード ステータス、HDDサムネール などの各種画面から一つ前の 画面へ戻ることができます。 また、メニューの「EXIT」で、 SETボタンを押した場合と同 じ動作をします。 SHIFTボタンとこのボタンを 同時に押すと、選択状態の解 除などの操作が行えます。
PLAY LIST / THUMBNAILボタン 消灯中:	このボタンを押すと、ボタン 12 (IN)、14 (ENTRY)、16 (OUT)はそれぞれPF1～PF3 として動作します。 他のボタンを押す前に再度こ のボタンを押すか、一定時間 を経過すると、このモードは 解除されます。 →「PFボタンによる変更」(164 ページ)を参照。

6. EDIT MODEボタン

プレイリストモードのとき、編集モードの選択に使用
します。
→「プレイリストの操作で使用するボタン」(82ペー
ジ)を参照。

7. VIDEOボタン

プレイリストモードのとき、編集対象(ビデオ)の選択
に使用します。
→「プレイリストの操作で使用するボタン」(82ペー
ジ)を参照。

8. A1 / A3ボタン

プレイリストモードのときの編集対象(オーディオ
CH1、3)選択に使用します。
→「プレイリストの操作で使用するボタン」(82ペー
ジ)を参照。

9. A2 / A4ボタン

プレイリストモードのときの編集対象(オーディオ
CH2、4)選択に使用します。
→「プレイリストの操作で使用するボタン」(82ペー
ジ)を参照。

10. LAST X / DELETEボタン

LAST Xボタン

プレイリストモード中において、編集操作を一つ前の
状態に戻すことができます。
→「プレイリストの操作で使用するボタン」(82ペー
ジ)を参照。

DELETE(SHIFT+LAST X)ボタン

サムネール / プレイリスト表示中にこのボタンを押す
と、選択したクリップ / イベントを削除できます。

11. GO TO / A. DUB MODEボタン

GO TOボタン

このボタンを押しながらIN/OUTボタンを押すとIN/
OUT点へキューアップすることができます。
また、このボタンを押しながらTRIM(+)/TRIM(-)ボタ
ンを押すと、録再モードとプレイリストモードではコ
マ送りができます
→プレイリストモードについては「GOTO / A. DUB
MODEボタン」(84ページ)を参照。

◆NOTE:

•タイムコードが不連続な場合は、キューアップに失敗する
ことがあります。できるだけ連続したタイムコードでご使
用ください。

A. DUB MODE(SHIFT+GOTO)ボタン

このボタンを押すとA. DUBモードとなりオーディオ
の追加記録が可能となります。
→「オーディオを追加記録する」(103ページ)を参照。

12. IN / SLOT CLIP / PF1ボタン

INボタン

クリップの再生中や外部機器制御中に以下の操作が行
えます。

- IN+ENTRY
ENTRYボタンとこのボタンを同時に押すと、IN点が
設定できます。
- IN
このボタンを押すと設定したIN点を確認することが
できます。未設定の場合は「---:---:---」が表示されます。
- IN+RESET
RESETボタンとこのボタンを同時に押すと、現在の
IN点を削除できます。
- IN+GOTO
GOTOボタンとこのボタンを同時に押すと、設定し
たIN点へキューアップを行うことができます。

SLOT CLIP(SHIFT+IN)ボタン

サムネール表示中にSHIFTボタンと同時にこのボタンを押すごとに、クリップの表示状態を特定のスロットや選択したクリップの表示に切り替えることができます。

PF1ボタン

録再モードで、PFボタンを押した後にこのボタンを押すと、PF1ボタンに登録されたセットアップメニューの操作が行えます。

13.TRIM- / SLOT SELECT-ボタン**SLOT SELECT-(SHIFT+TRIM-)ボタン**

SHIFTボタンと同時に押すと、記録スロット位置を一つ前のスロットに移動することができます。第1スロットのときは第6スロットへ移動します。

TRIM-ボタン

ハードディスクのパーティション移動に使用します。

→「ハードディスクのクリップのサムネール表示」(125ページ)を参照。

トリム機能に使用します。

→「プレイリストの操作で使用するボタン」(82ページ)を参照。

14.ENTRY / CLIP→LIST / PF2ボタン**ENTRYボタン**

クリップの再生中や外部機器制御中に、IN/OUTボタンのいずれかとともにこのボタンを同時に押すと、IN/OUT点が設定できます。

CLIP→LIST(SHIFT+ENTRY)ボタン

クリップの取り込みに使用します。

→「プレイリストの操作で使用するボタン」(82ページ)を参照。

PF2ボタン

録再モードで、PFボタンを押した後にこのボタンを押すと、PF2ボタンに登録されたセットアップメニューの操作が行えます。

15.TRIM+ / SLOT SELECT+ボタン**SLOT SELECT+(SHIFT+TRIM+)ボタン**

SHIFTボタンと同時に押すと、記録スロット位置を一つ後ろのスロットに移動することができます。第6スロットのときは第1スロットへ移動します。

TRIM+ボタン

HDDのパーティション移動に使用します。

→「ハードディスクのクリップのサムネール表示」(125ページ)を参照。

トリム機能に使用します。

→「プレイリストの操作で使用するボタン」(82ページ)を参照。

16.OUT / ALL CLIP / PF3ボタン**OUTボタン**

クリップの再生中や外部機器制御中に以下の操作が行えます。

- OUT+ENTRY

ENTRYボタンとともにこのボタンを同時に押すと、OUT点が設定できます。

- OUT

このボタンを押すと設定したOUT点を確認することができます。未設定の場合は「---:---:---」が表示されません。

- OUT+RESET

RESETボタンとともにこのボタンを同時に押すと、現在のOUT点を削除できます。

- OUT+GOTO

GOTOボタンとともにこのボタンを同時に押すと、設定したOUT点へキューアップを行うことができます。

ALL CLIP(SHIFT+OUT)ボタン

サムネール表示中にSHIFTボタンとともにこのボタンを押すと、クリップの表示状態をALLへ戻すことができます。

PF3ボタン

録再モードで、PFボタンを押した後にこのボタンを押すと、PF3ボタンに登録されたセットアップメニューの操作が行えます。

17.PREVIEW / A LEVEL RECボタン**PREVIEWボタン**

このボタンを押すと、プレイリストモードで編集のプレビュー(IN点の設定したプリロール時間前からOUT点の1秒後までを再生)を行うことができます。

→「プレイリストの操作で使用するボタン」(82ページ)を参照。

A LEVEL REC(SHIFT+PREVIEW)ボタン

オーディオトラックのレベル調整を行います。

→「プレイリストの操作で使用するボタン」(82ページ)を参照。

登録しようとしているイベントのプレビュー再生を行います。プレビュー前にイベントが登録されタイムラインに表示されます。プレーヤーがP2カードのときは、プレビュー中にボリューム操作を行って登録されたイベントには、操作時のレベル変化がそのまま設定されます。

→「オーディオのレベル設定を行う」(106ページ)を参照。

18.PLAYER / SOURCE SELECTボタン

PLAYERボタン

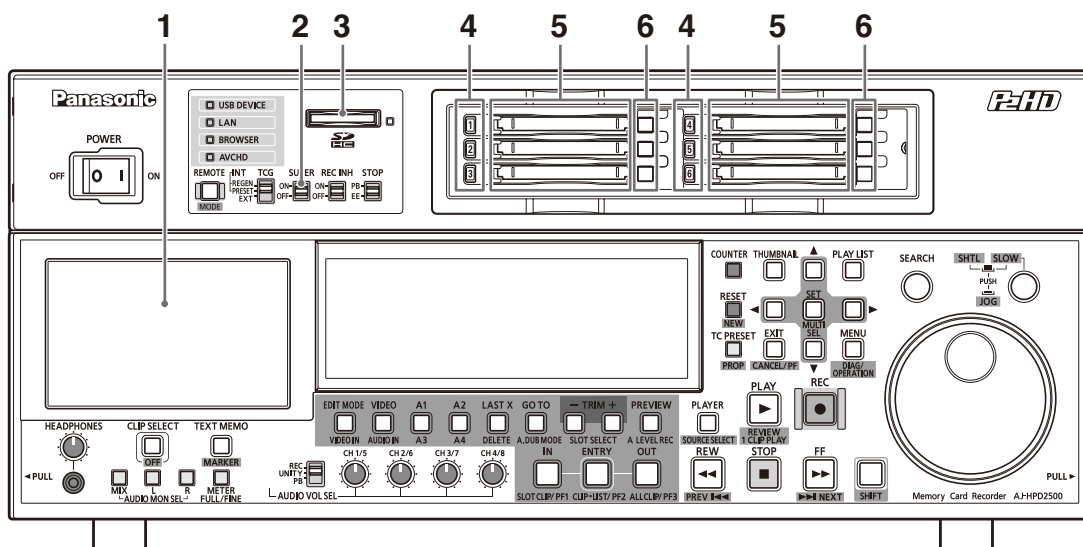
外部機器の制御やプレイリストモードのプレーヤーを操作するとき 사용합니다。

- サムネールやプレイリストモード以外のとき
外部機器(RS-422A)の操作に切り替えます。PLAYなどの操作ボタンを押すと外部機器がリモート操作され、映像・音声やTC表示は外部入力信号の表示となります。
- プレイリストモードのとき
プレーヤー / レコーダーを切り替えます。
→「プレイリスト作成の準備」(86ページ)を参照。
「プレイリストの操作で使用するボタン」(82ページ)を参照。

SOURCE SELECT(SHIFT+PLAYER)ボタン

- 録再モードのとき：
外部機器(RS-422A)の操作に切り替えます。
- プレイリストモードのとき：
プレーヤーとして使用するソース(インターフェース)の設定を行います。
→「プレイリストについて」(74ページ)を参照。

パネル制御部とカードスロット



1. 4.3型液晶モニター

サムネール画面表示などにより、映像・音声の検索・確認ができます。

2. SUPERスイッチ

スーパーの出力を次のように切り替えるスイッチです。

ON： 液晶モニターおよびセットアップメニュー No.005(SUPER)で選択した出力端子にタイムコードなどのスーパーを出力します。

OFF： スーパーを出力しません。

3. SD/SDHCメモリーカードスロット / アクセスランプ

SD/SDHCメモリーカードを挿入できます。挿入するときは、カードのラベル面を上にしてコーナーカット側から入れ、ロックされるまで挿入します。

取り出すときは、緑色のランプが点灯しているか、あるいはオレンジ色のランプが点滅していないことを確認し、カードを挿入した方向に押しつけてロックを解除します。

→オプションのAVCHDの記録再生に使用する場合は、「SD/SDHCメモリーカードを利用する」(69ページ)を参照。

◆NOTE:

<SD/SDHC*1メモリーカード使用上の注意>

- SD/SDHCメモリーカード以外は、挿入しないでください。
- 本機で使用するSD/SDHCメモリーカードは、SD/SDHC規格に準拠したものをお使いください。マルチメディアカード*2は使用できません。また、miniSDメモリーカードやmicroSDメモリーカードを使用するときは、必ずそれぞれに専用のアダプターを装着してご使用ください。

*1SDHCメモリーカード、miniSDHCメモリーカード、microSDメモリーカードは、2006年にSDアソシエーションにより策定された、2GBを超える大容量メモリーカードの新規格です。

*2マルチメディアカード(MMC)は、InfineonTechnologies AG社の登録商標です。

- フォーマットは、必ず本機で行ってください。

- 本機では、以下の容量のSD/SDHCメモリーカードが使用できます。

- SD:8 MB~2 GBまで
- SDHC:4 GB~32 GB

- 取扱説明書に記載された情報以外の最新情報は、下記のWebサイトのサポートデスクをご覧ください。

日本語：<http://panasonic.biz/sav/>

英語：<http://pro-av.panasonic.net/>

- オプションのAVCHDの記録再生に使用する場合は、「AVCHDオプションボードを使用する」(149ページ)も参照してください。

4. P2カードアクセスLED

P2カードの状態を示すLEDです。

→「P2カードアクセスLEDとP2カードの状態について」(36ページ)を参照。

5. P2カードスロット

P2カードを装着するスロットです。

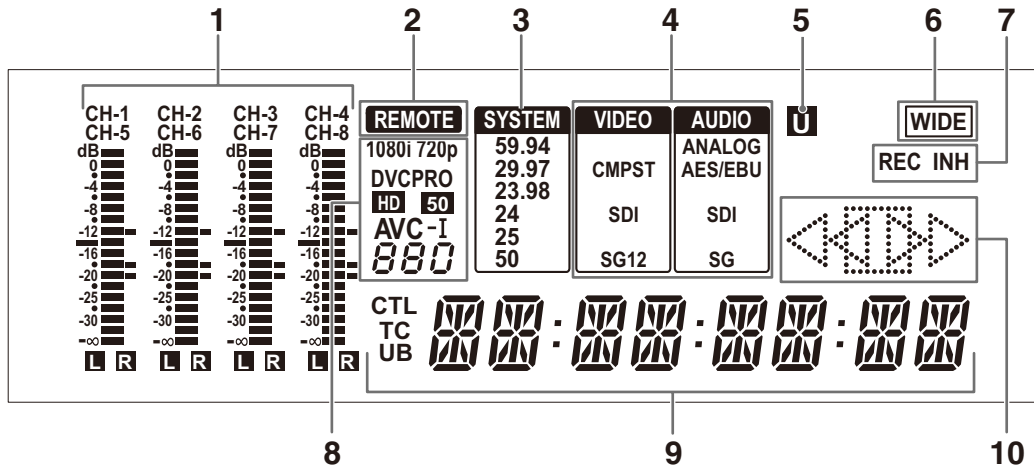
カードは、EJECTボタンが飛び出すまで、しっかり挿入します。カード挿入後は、EJECTボタンを倒しておいてください。

6. EJECTボタン

P2カードスロットに挿入したP2カードを取り出すときに使用します。ボタンを起こし、強く押します。P2カードアクセスLEDがオレンジで点滅しているときは操作しないでください。

→「P2カードアクセスLEDとP2カードの状態について」(36ページ)を参照。

表示パネル



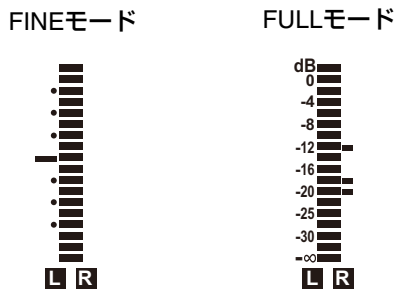
1. レベルメーター

オーディオ信号のCH1/CH2/CH3/CH4(セットアップメニューNo.767(METER SELECT)がCH1-4のとき)の各レベルが表示されます。

セットアップメニューNo.767(METER SELECT)がCH5-8のときは、CH5/CH6/CH7/CH8の各レベルが表示されます。

オーディオ信号は、記録時およびEE選択時には入力信号の各レベルが表示され、再生時には出力信号の各レベルが表示されます。

オーディオレベル表示は、METER FULL / FINE 切り替えボタンでFULLモードとFINEモードに切り替わります。



2. REMOTEランプ

REMOTEボタンで、REMOTE状態にしたときに点灯します。

3. TVシステム表示部

TVシステムの周波数が表示されます。

59.94:	59.94 Hzのシステム周波数が選択されると点灯します。
29.97:	29.97 Hzのシステム周波数が選択されると点灯します。
23.98:	23.98、59-23 Hzのシステム周波数が選択されると点灯します。
24:	24、60-24 Hzのシステム周波数が選択されると点灯します。
25:	25、60-25 Hzのシステム周波数が選択されると点灯します。
50:	50 Hzのシステム周波数が選択されると点灯します。

4. INPUT SELECT表示部

VIDEOとAUDIOの入力選択が表示されます。アナログオーディオを除き、選択された入力信号がないときは、点滅します。

SDI入力選択時は、システムフォーマットと合っていない信号が入力されているときにも点滅します。

VIDEO

CMPST:	アナログ・コンポジット・ビデオ入力信号
SDI:	シリアル・デジタル・ビデオ入力信号
SG:	内部基準信号

AUDIO

ANALOG:	アナログオーディオ入力信号
AES/EBU*1:	8チャンネルデジタルオーディオ入力信号
SDI:	シリアル・デジタル・オーディオ入力信号
SG:	内部基準信号

*1 AES/EBUは、システム設定により記録可能な入力がない場合に点滅します。

5. U表示

EEモードのときは、入力信号にUMID情報が存在しているときに点灯します。

再生時は、UMID情報が記録されているときに点灯します。

プレイリストモード中は消灯します。

6. WIDEランプ

SDモードで16:9のワイド画面情報をP2カードに記録するときに点灯します。

セットアップメニューNo.645(WIDE SELECT)で、ワイド画面情報の記録を選択することができます。

SDモードで記録されたクリップ再生時は、ワイド画面情報が記録されているときに点灯します。

プレイリストモード中は消灯します。

7. REC / REC INHランプ

P2カードの記録選択状態が表示されます。

RECランプ点灯の 記録状態のときに点灯します。

とき:

REC INHランプ点 記録禁止状態(フロントREC INH

灯のとき: スイッチがONか、すべてのP2

カードが書き込み禁止状態)のときに点灯します。
このときにはP2カードへの記録はできません。

8. フォーマット表示

記録フォーマットや挿入されているP2カードに記録されているフォーマットが表示されます。

9. カウンター表示

カウンターやタイムコードなどが、CTL/TC/UBで表示されます。

CTL:	先頭からの相対位置を表わします。
TC:	読み出したタイムコードを表わします。
UB:	読み出したタイムコードのユーザーズビットを表わします

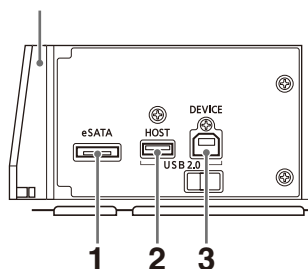
10. 動作モード表示

本機の動作状態を表示します。

▶	: 通常再生と記録
◻▶	: 1倍速より遅い速度の再生
◻▶▶	: 1倍速より速い速度の再生
▶▶	: FF
◀	: 1倍速の逆再生
◀◻	: 1倍速よりも遅い速度の逆再生
◀◻◻	: 1倍速よりも速い速度の逆再生
◀◀	: REW
◻◻	: STILL

フロントパネル内の接続端子部

端子カバー*1



*1 端子カバーの開け方については、「eSATA、USB HOST、USB DEVICE端子カバーの閉じ方」(12ページ)を参照。

1. eSATA端子

ホスト機器としてeSATA端子を備えたハードディスクドライブを接続することができます。

→「本機にハードディスクを接続して利用する」(117ページ)を参照。

2. USB2.0 HOST端子(Type A)

USBホストモードで使用します。

P2 storeやUSB2.0対応のハードディスクドライブなどと接続できます。

→「USB端子やeSATA端子を利用する」(115ページ)を参照。

3. USB2.0 DEVICE端子(Type B)

USBデバイスモードで使用します。

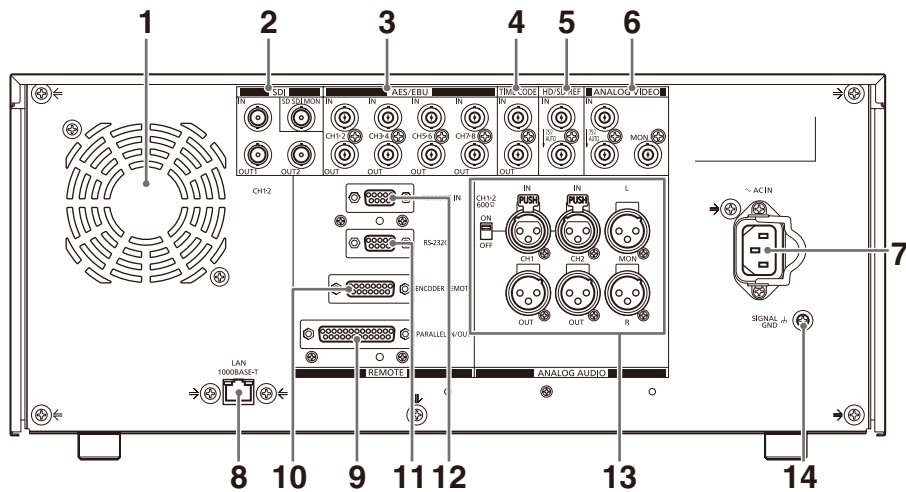
パーソナルコンピュータなどと接続できます。

→「USB端子やeSATA端子を利用する」(115ページ)を参照。

◆NOTE:

- USB2.0端子に接続するケーブルは、ダブルシールド付きのものをご使用ください。

リアパネルの接続端子部



1. ファン

本機冷却用のファンです。通風を妨げないように設置してください。

ファンが異常停止したときは、カウンター表示部に“E-10”が表示されます。ファンが停止しても本機は動作しますが、すみやかに使用を中止してください。

2. SERIAL DIGITAL COMPONENT AUDIO VIDEO IN/OUT端子

デジタル・コンポーネント・オーディオ/ビデオの入出力端子です。

SD-SDI-MONITOR端子は、スーパーを重畳したビデオ信号出力ができます。

スーパーのON/OFFは、セットアップメニューNo.005 (SUPER)の設定と、フロントパネル上部のSUPERスイッチで選択します。

◆NOTE:

- SD-SDI-MONITOR端子は、常に480/59.94iまたは576/50i信号で出力します。
- 入力するデジタル・オーディオ信号は、ビデオ入力信号に同期している必要があります。同期していないときは、オーディオ出力信号にノイズが発生します。
- SERIAL DIGITAL COMPONENT端子に接続するケーブルは、5C-FB相当のダブルシールドのものをご利用ください。

3. DIGITAL AUDIO IN/OUT端子

AES/EBU規格に準拠したデジタル・オーディオ信号の入出力端子です。

◆NOTE:

- 入力するデジタル・オーディオ信号は、ビデオ入力信号に同期している必要があります。同期していないときは、オーディオ出力信号にノイズが発生します。
- DIGITAL AUDIO IN/OUT端子に接続するケーブルは、ダブルシールド付きのものをご使用ください。

4. TIME CODE IN / OUT端子

タイムコードの入出力端子です。

TIME CODE IN: 外部タイムコードを、P2カードに記録するための端子です。

TIME CODE OUT: 再生時は再生タイムコードを出力する端子です。

記録時は、タイムコードジェネレーターから発生するタイムコードを出力します。

◆NOTE:

- セットアップメニューNo.25 (SYSTEM FREQ)を59-23、60-24、60-25に設定しているときはTIME CODE IN端子からのタイムコード入力はできません。
- TIME CODE IN/OUT端子に接続するケーブルは、ダブルシールド付きのものをご使用ください。

5. REF VIDEO IN端子

HD/SDリファレンス・ビデオ信号の入力端子と、ループスルー出力端子です。

◆NOTE:

- リファレンス・ビデオ信号を入力しないとき、映像や音声の出力信号が乱れることがありますので、リファレンス・ビデオ信号を入力するシステムで使用することをお勧めします。
- HDリファレンスとして使用するとき、正負両極性の3値同期信号を入力してください。また、入力信号やフォーマットにあった信号を入力してください。
→リファレンス信号については「23.98/24/29.97/25 Hzモード時のシステム接続例」(39ページ)を参照。
- SDリファレンスとして使用するとき、SMPTE170M、ITU624-4に準拠したブラックバースト信号を入力してください。

- REF VIDEO ループスルー端子にケーブルを接続しないとき、REF VIDEO IN端子は自動的に75 Ω 終端になります。ケーブルを接続すると、75 Ω 終端は解除されます。REF VIDEO ループスルー端子にケーブルを接続したときは、ケーブルの他方の端子をオープンのままにしないでください。
- 720Pでは、HDリファレンスを入力する、またはリファレンスを入力せずに記録を行うと、入力信号に対して位相がずれて記録されることがあります。
- セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)を59-23、60-24、60-25に設定した場合、再生のみHDリファレンス信号に同期します。
- REF VIDEO IN端子に接続するケーブルは、ダブルシールド付きのものをご使用ください。

6. ANALOG VIDEO IN/MON端子

IN端子:	アナログ・コンポジット・ビデオ信号を入力します。 ループスルー端子にケーブルを接続しないときは、IN端子は自動的に75 Ω 終端になります。ケーブルを接続すると、75 Ω 終端は解除されます。
MON端子:	アナログ・コンポジット・モニタービデオ信号を出力します。

◆NOTE:

- ANALOG VIDEO IN/MON端子に接続するケーブルは、ダブルシールド付きのものをご使用ください。

7. AC INコネクター

付属の電源コードを使って、電源コンセントに接続します。

8. LAN端子

1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Tでネットワーク接続することができます。

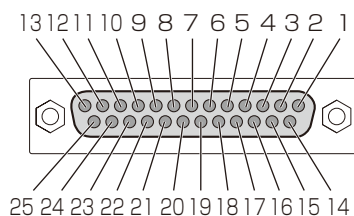
→「本機をネットワークに接続して利用する」(130ページ)を参照。

◆NOTE:

- LAN端子に接続するケーブルは、シールド付きのものをご利用ください。
- 1000BASE-TでLANリンクが確立している場合は、緑のLEDが点灯します。データ転送中はオレンジのLEDが点滅します。

9. PARALLEL IN/OUT端子

25pinパラレルリモート端子です。



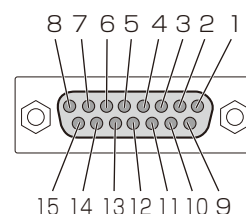
ピンNo.	信号内容
1	PLAY COMMAND
2	STOP COMMAND
3	FF COMMAND
4	REW COMMAND
5	REC COMMAND
6	—
7	SHTL 0.0 COMMAND
9	—
10	CLIP SELECT OFF COMMAND
11	1 CLIP PLAY COMMAND
12	+10 V以上、最大+300 mA
13	PLAY STATUS
14	STOP STATUS
15	FF STATUS
16	REW STATUS
17	REC STATUS
18	EJECT STATUS
19	STAND BY ON STATUS
20	—
21	—
22	OPERATION ENABLE STATUS
23	CLIP SELECT STATUS
24	—
25	GND

◆NOTE:

- COMMANDはTTLレベル、アクティブLOW、エッジは100 msec以上の電気信号を流してください。
- STATUSはオープンコレクタ、シンク電流は最大6 mAで出力されます。
- OPERATION ENABLE STATUSはセットアップメニュー213 EXTENDED CMDがONのときは、PARALLEL REMOTEからの再生操作が可能なときにアクティブとなります。
- OPERATION ENABLE STATUSはセットアップメニュー213 EXTENDED CMDがOFFのときは、REMOTE状態のときにアクティブとなります。
- PARALLEL IN/OUT端子に接続するケーブルは、シールド付きのものをご使用ください。
- セットアップメニューNo.27(VDCP CMD)がONの場合は、パラレルリモート端子からの制御はできません。

10. ENCODER REMOTE端子

ビデオ出力信号の各設定を外部から調整するときに、外部のエンコーダーリモートコントローラーを接続します。



ピンNo.	信号内容
1	FRAME GROUND
4	REM(G)
7	REM RX(X)REMOTE CONTROL PROTOCOL RECEIVE
8	REM COMMANDREMOTE CONTROL PROTOCOL TRANSMIT
14	REM RX(Y)REMOTE CONTROL PROTOCOL RECEIVE
15	REM TX(Y)REMOTE CONTROL PROTOCOL TRANSMIT

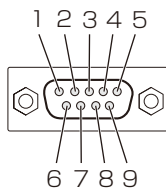
◆NOTE:

- ENCODER REMOTE端子はデジタルにのみ対応しています。
- ENCODER REMOTE端子に接続するケーブルは、シールド付きのものをご使用ください。

11.RS-232C端子

パーソナルコンピュータ等を接続して、本機を操作することができます。

ピンNo.	信号内容
1	-
2	TXD
3	RXD
4	DSR
5	SG
6	DTR
7	CTS
8	RTS
9	-



◆NOTE:

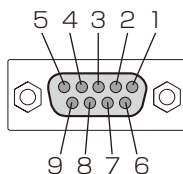
- RS-232C端子に接続するケーブルは、ダブルシールド付きのものをご使用ください。
- セットアップメニューNo.27(VDCP CMD)がONの場合は、RS-232C端子からの制御はできません。

12.REMOTE端子

本機と外部コントローラーを接続して、外部から本機を操作したり、外部機器を接続して制御したりすることができます。

RS-422A REMOTE(9P)

ピンNo.	信号内容
1	FRAME GROUND
2	TRANSMIT A
3	RECEIVE B
4	RECEIVE COMMON
5	-
6	TRANSMIT COMMON
7	TRANSMIT B
8	RECEIVE A
9	FRAME GROUND



◆NOTE:

- REMOTE端子に接続するケーブルは、シールド付きのものをご使用ください。

- 制御コマンドの種類はセットアップメニューNo.27 (VDCP CMD)で変更できます。

13.ANALOG AUDIO端子

アナログオーディオ信号を入出力します。

CH1/CH2 IN端子: アナログオーディオの入力端子です。
CH1/CH2の入力インピーダンスの切り替えをスイッチで行うことができます。

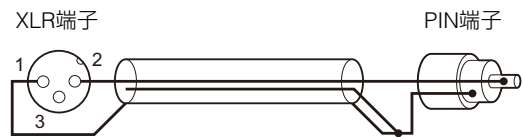
CH1/CH2 OUT端子: アナログオーディオの出力端子です。
セットアップメニューNo.750 (A CH1/2 SEL)で選択した信号を出力します。

MON L/R端子: アナログオーディオ出力端子です。
再生時にはオーディオ信号 (CH1/CH2/CH3/CH4/CH5/CH6/CH7/CH8)の中からAUDIO MON SEL ボタンで切り替えた信号を出力します。

◆NOTE:

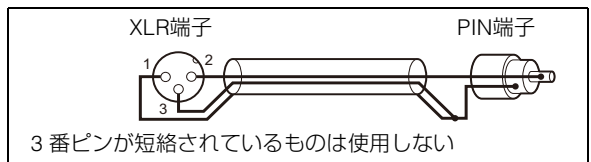
- 本機のバランス音声信号出力(XLR 端子)を外部機器のアンバランス入力端子に接続する場合、下図(接続例)のように接続してください。(3番ピンはオープンにしてください。)

接続例



- 1: Ground (Shield)
- 2: Hot (+Ve)
- 3: Cold (-Ve)

市販の変換コネクタや変換ケーブルは、3番ピンが1番ピンに短絡されているものがあり、これらを使用すると故障の原因になります。

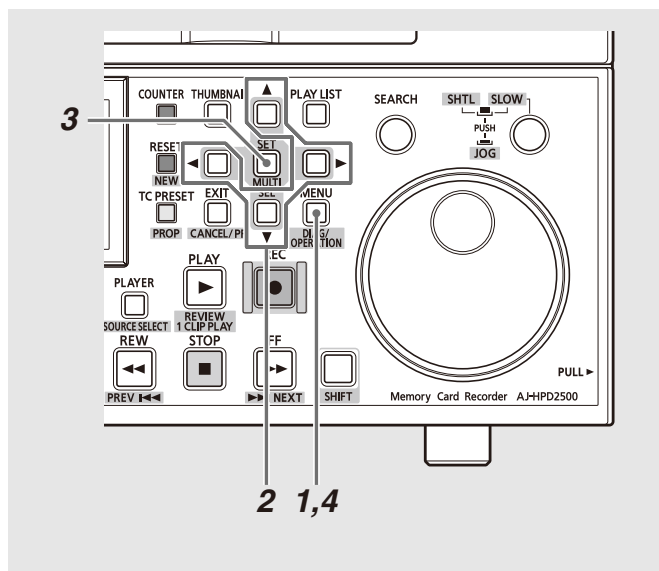


14.SIGNAL GND端子

ノイズ軽減のため接続機器の信号アース端子と接続します。
安全アースではありません。

メニューの操作

プレイリストやサムネールモードでMENUボタンを押すと、メニューが表示されます。
録再モードのときは、セットアップメニューが表示されます。
→「セットアップ」(162ページ)
メニューは、次のように操作します。



1 MENUボタンを押し、メニューを表示する

2 十字カーソルボタンで該当のメニュー項目にカーソルを合わせる

次の階層のメニューがある場合は ▶ が表示されています。

◆NOTE:

- 十字カーソル上下(▲/▼)ボタンを押すとカーソルが上下します。
- 十字カーソル右(▶)ボタンまたはSETボタンを押すと、下位のメニューが開きます。
- 十字カーソル左(◀)ボタンまたはEXITボタンで上の階層へ戻ります。

3 SETボタンを押す

◆NOTE:

- メニュー項目によっては、確認画面が表示されます。
- 十字カーソルボタンで処理を選択し、SETボタンを押します。
- 設定した項目には、項目の前にチェックマークがつきます。

4 MENUボタンを押し、メニューを終了する

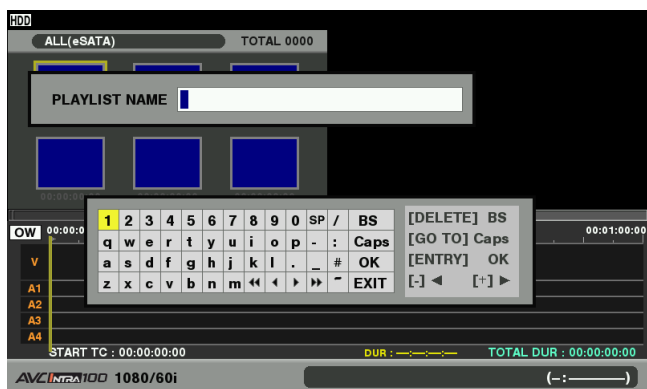
◆NOTE:

- メニュー項目によっては、自動的に元の画面に戻ります。

キーボードを利用する

フルキーボードを利用する

フルキーボードは、必要なときに表示されます。
入力したい文字にカーソルを移動し、SETボタンを押すと文字が入力されます。
カーソルの移動は十字カーソルボタンで行います。



次のキーボード上のキーは、対応する機能を実行します。

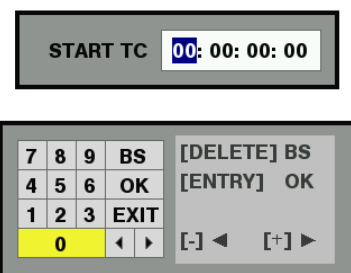
キー	機能	ショートカット
BS	1文字削除	SHIFT+LAST X
Caps	大文字小文字切り替え	GO TO
OK	入力保存しソフトキーボードを閉じる	ENTRY
EXIT	入力破棄しソフトキーボードを閉じる	EXIT
◀◀	カーソル位置を先頭文字に移動	SHIFT+REW
◀	カーソル位置を1文字分戻す	-
▶	カーソル位置を1文字分進める	+
▶▶	カーソル位置を最終文字の次の入力位置に移動	SHIFT+FF

◆NOTE:

- RESETボタンで入力文字をすべて消去します。
- ショートカットでEXITボタンを押したときは閉じる前に確認メッセージが表示されますので、閉じる場合は[YES]を選択してSETボタンを押してください。
- Capsを切り替ええると、記号の内容も変化します。

テンキーボードを利用する

テンキーボードは、必要なときに表示されます。
入力したい文字にカーソルを移動し、SETボタンを押すと文字が入力されます。
カーソルの移動は十字カーソルボタンで行います。



次のキーボード上のキーは、対応する機能を実行します。

キー	機能	ショートカット
BS	1文字削除	SHIFT+LAST X
OK	入力保存しソフトキーボードを閉じる	ENTRY
EXIT	入力破棄しソフトキーボードを閉じる	EXIT
◀	<10進数入力時> カーソル位置を1文字分戻す <タイムコード入力時> カーソル位置を1項目戻す	-
▶	<10進数入力時> カーソル位置を1文字分進める <タイムコード入力時> カーソル位置を1項目進める	+

USBキーボードを利用する

USBキーボードをUSBホスト端子に接続すると、フルキーボードやテンキーボードを表示するメニューを選択した場合には、USBキーボードからの入力を行うことができます。

キーボードの配列の設定

1 サムネール画面を表示する

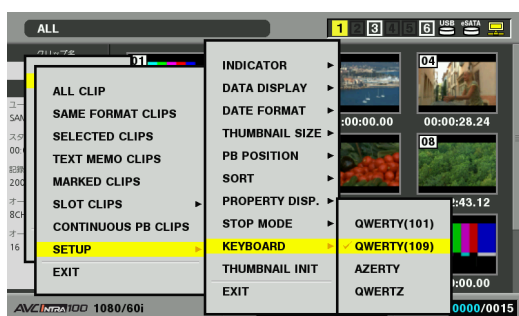
2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで[THUMBNAIL] - [SETUP] - [KEYBOARD]にカーソルを合わせる

4 SETボタンを押す

項目メニューに入ります。

5 設定したいキーボード配列の項目へカーソルを移動しSETボタンを押す



◆NOTE:

- 入力できる文字は英数字と記号のみとなります。
- キーボードによっては正しく動作しない場合があります。

記録・再生とP2カードの取り扱いについて

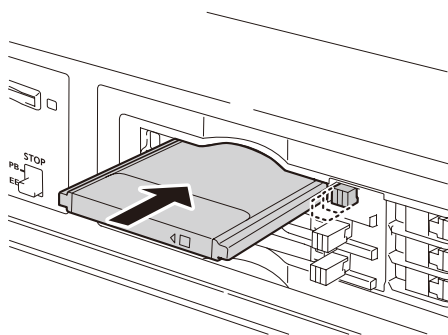
P2カードの挿入

◆NOTE:

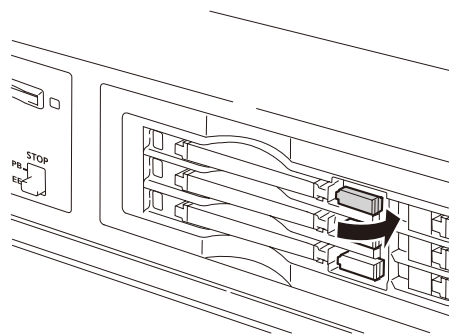
- 本機を最初に使用するときには、必ず内蔵の時計の設定を、セットアップメニューNo.069(CLOCK SET)(174ページ)で先に行ってください。

1 本機のPOWERスイッチをONにする

2 P2カードスロットにP2カードを挿入し、EJECTボタンが飛び出てくるまで押し入れる




3 飛び出たEJECTボタンを右に倒す



- 本機にP2カードを挿入すると、P2カードアクセスLEDによりP2カードの状態表示を行います。
→P2カードの状態表示については「P2カードアクセスLEDとP2カードの状態について」(36ページ)を参照。

記録と再生

録再モード中にストップモードでREC  ボタンとPLAY  ボタンを同時に押すと、オレンジ色に点灯しているP2カードに記録が始まります。STOP  ボタンを押すと記録が終了します。

PLAY  ボタンを押すと再生が始まります。

サムネール/プレイリストモードからの記録はできません。

→「各部の名称と機能」(17ページ)のボタンの説明を参照。

◆NOTE:

- 再生中は、他のスロットにP2カードを挿入しても、P2カードアクセスLEDは消灯のままで、P2カードは認識されません。再生終了後に認識されます。
ただし、つなぎ再生時は、再生中に挿入されたP2カード内のクリップを含む全クリップを再生することが可能です。
→「P2カードを抜き差ししながらクリップを連続再生する(つなぎ再生)」(54ページ)
- クリップセレクト中にP2カードを挿入すると、P2カードは認識されます。ただし、外部から本機にFTPログイン時は認識されません。

- 記録中は、他のスロットにP2カードを挿入すると、P2カードアクセスLEDが点滅しP2カードを認識します。認識中はP2カードを取り出さないでください。
- 記録中に、記録対象でないP2カードの挿入または取り出しを行うと記録終了後のEEの音声が入切れることがあります。記録内容には問題ありません。
- P2カードは、スロット1→2→3→4→5→6→1の順にアクセスします。
- 電源をONにしたときに、前回電源をOFFにしたときの記録対象スロットに、同一のP2カードが挿入されているときは前回の記録対象スロットが記録対象に、P2カードが挿入されていないとき、または違うP2カードが挿入されているときは、もっとも若い番号の記録可能スロットが記録対象となります。
- 記録中に記録対象のP2カードがフルになったときは、フルになったP2カードが挿入されているスロットの次の番号の記録可能スロットが記録対象となります。

〈P2カード使用上の注意〉

- P2カードは、必ずP2機器でフォーマットしてご使用ください。
- セットアップメニューNo.27(VDCP CMD)がONでREMOTE時は、記録はできません。

P2カードアクセスLEDとP2カードの状態について

P2カードアクセスLED	P2カードの状態
緑色に点灯	書き込み / 読み出しとも可能です。
オレンジ色に点灯	書き込み / 読み出しとも可能で、現在記録(LOOP RECを含む)の対象になっています。
オレンジ色の点滅	現在、書き込み / 読み出し中です。 USB DEVICEモードでP2カードにアクセス中です。 LANモードでP2カードが使用可能あるいはアクセス中です。

◆NOTE:

- 記録時など、オレンジ色の点滅時は、本体の電源をOFFにしたり、P2カードを抜いたりしないでください。

オレンジ色の早い点滅	P2カード認識中です。
緑色の点滅	P2カードのメモリー残量がありません。読み出しのみ可能です。 P2カードのライトプロテクトスイッチが「PROTECT」側になっています。読み出しのみ可能です。
消灯	P2カードが正規のフォーマットをされていません。本機でフォーマットをやり直してください。 本機では使用できないカードです。カードを交換してください。 P2カードが挿入されていません。 USB DEVICEモードでP2カードにアクセスしていません。

◆NOTE:

- P2カードの状態を詳細に確認することができます。「カードの状態を確認する」(72ページ)をご覧ください。
- 録再モードにおけるLANからのアクセス中も点滅しますが、アクセス終了後もしばらく点滅が継続する場合があります。

P2カードと記録時間について

P2カードの記録時間: 64 GBカード1枚使用時

映像方式	HDモード		
	記録方式と記録時間		
	DVCPRO HD	AVC-Intra100	AVC-Intra50
1080-59.94/50i*1	約64分	約64分	約128分
1080-30PN/25PN(Native)	----	約64分	約128分
1080-24PN(Native)	----	約80分	約160分
720-59.94P/50P*1	約64分	約64分	約128分
720-30PN/25PN(Native)	約128分	約128分	約256分
720-24PN(Native)	約160分	約160分	約320分

*1 30P, 24P, 25Pプルダウン時を含む

映像方式	SDモード		
	記録方式と記録時間		
	DVCPRO 50	DVCPRO*2	DV*2
480-59.94i/576-50i*3	約128分	約256分	約256分

*2 オーディオ2ch記録時

*3 30P, 24P, 25Pプルダウン時を含む

◆NOTE:

- AJ-P2C002SG(2 GB)は使用できません。
- 32 GBのP2カードは上記の各値を1/2に、16 GBのP2カードは1/4に、8 GBのP2カードは1/8に換算してください。

●P2カードおよびSD/SDHCメモリーカードの最新情報について

取扱説明書に記載された情報以外の最新情報は、下記のWebサイトのサポートデスクをご覧ください。

日本語: <http://panasonic.biz/sav/>

英語: <http://pro-av.panasonic.net/>

4 GB超でのクリップ分割について

本機で8 GB以上のP2カードを使用したとき、1回の連続記録時間が下表に示す時間を超えると、自動的に別のクリップとして記録を継続します。なお、P2機器にてクリップのサムネール操作(表示、削除、修復、コピーなど)を行うときは、1つのクリップとして操作できます。

ノンリニア編集ソフトおよびパーソナルコンピューターなどでは、別々のクリップとして表示されることがあります。

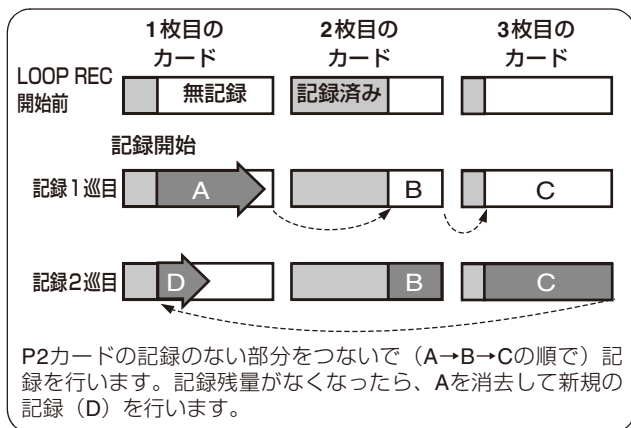
記録フォーマット	記録時間
DVCPRO HD	約5分
DVCPRO50	約10分
DVCPRO / DV	約20分
AVC-Intra50	約10分
AVC-Intra100	約5分

LOOP REC機能

P2カードスロットに2枚以上のP2カードが挿入されているとき、順次カードを切り替えながら記録する機能です。P2カードの記録残量がなくなった時点で最初に戻って、古い記録を消去しながら新規に記録を行うことにより、継続的な記録が可能です。

LOOP REC機能を使用するには、セットアップメニューNo.041(LOOP REC)をONにしてください。

→「セットアップメニューNo.041(LOOP REC)」(173 ページ)を参照。



◆NOTE:

- POWERスイッチをOFFにすると、次回電源投入時にLOOP REC機能はOFFになりますのでご注意ください。
- LOOP RECには、1分以上の記録残量があるP2カードをご使用ください。
- LOOP REC中は、記録に使用するP2カードのP2カードアクセスLEDが、すべてオレンジ色に点灯します。これらのP2カードを抜くと、LOOP RECは停止しますのでご注意ください。
- セットアップメニューNo.041(LOOP REC)がONのときは、スーパーインポーズ画面の一行目にLOOPと表示されます。ただしLOOP RECがONのときでも、カードが一枚しか挿入されていないか、カードの記録残量が1分未満だとLOOP RECができません。この場合、スーパーインポーズ画面のLOOP表示が点滅します。ただし、THUMBNAIL、PLAY LISTボタンが点灯時には表示されません。セットアップメニューNo.155(AUTO REC)がOFF以外でリモート制御中のときはLOOP&Aと表示されます。
- セットアップメニューNo.041(LOOP REC)がONのとき、P2カード残量は最低記録保障時間を表示します。最低記録保障時間とは、古い記録を消去直後にLOOP RECを停止したとき、さかのぼってクリップに記録されている時間の目安のことです。
- LOOP REC中はショットマークの付加、削除はできません。
- LOOP REC中はテキストメモの記録はできません。
- 外部機器をリモート制御してAUTO CAPTUREをしているときは、LOOP RECができません。
- VFRモードのときは、LOOP RECができません。

LOOP RECモードを終了するには

以下の2通りの方法があります。

- 本機のPOWERスイッチをOFFにする。
- セットアップメニューNo.041(LOOP REC)をOFFに設定する。

P2カードの取り出し

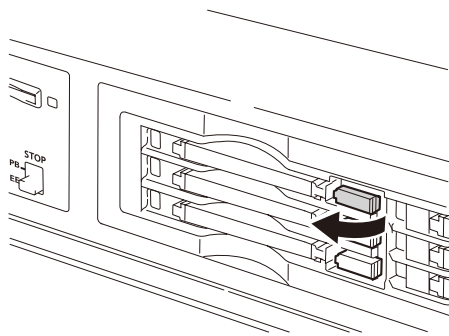
◆NOTE:

- アクセス中や、挿入後の認識中(P2カードアクセスLEDがオレンジ色に点滅時)には、P2カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。

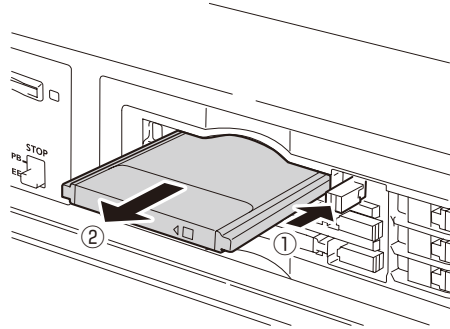
1 STOP ■ ボタンを押す

取り出したいP2カードのアクセスLEDがオレンジ色に点滅しているときは、STOP ■ ボタンを押して点滅を停止させてください。

2 EJECTボタンを起こす



3 EJECTボタンを押し込んで、P2カードを取り出す

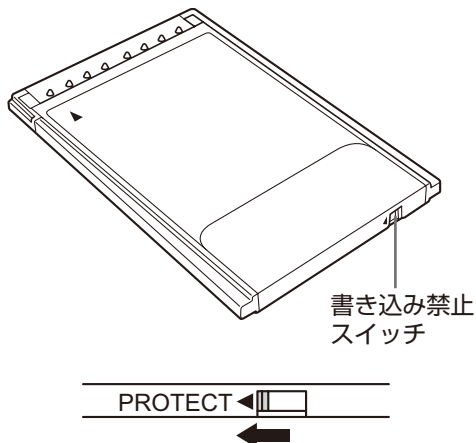


◆NOTE:

- サムネール画面表示中にP2カードを抜くと、自動的にサムネール画面から抜け出します。
- P2カードの故障の原因となりますので、アクセス中や、挿入後の認識中(P2カードアクセスLEDがオレンジ色に点滅時)に、P2カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。
万一、アクセス中のP2カードを取り出したとき、液晶モニターには「E-30」の表示、表示パネルには「AUTO OFF」の警告表示を行います。また、P2カードアクセスLEDは、すべてオレンジ色の早い点滅となります。一度、電源を切ってください。
- アクセス中に取り出されたP2カードのクリップが、不正規の状態になることがあります。クリップをご確認のうえ、修復を行ってください。
→「不良クリップの修復」(62ページ)を参照。
- フォーマット中にP2カードが抜かれたときは、フォーマットが保証されません。再起動後、再度フォーマットを行ってください。
- 記録中に、記録対象でないP2カードの挿入または取り出しを行うと記録終了後のEEの音声が途切れることがありますが、記録内容には問題ありません。

誤消去を防ぐには

P2カードの記録内容を誤って消してしまうのを防ぐには、P2カードの書き込み禁止スイッチを「PROTECT」側にします。



◆NOTE:

- 書き込み禁止スイッチは、記録中や再生中などのアクセス中に切り替えても、再生や記録を終了してアクセス状態が終わるまで有効になりません。
- フロントパネル上部のREC INHスイッチをONにすると、すべてのP2カードへの記録を禁止しますが、フォーマット、クリップ削除、ショットマークのON/OFFなどは可能です。
- P2カードの書き込み禁止スイッチを「PROTECT」側にすると、記録、フォーマット、クリップ削除などすべての書き込みを禁止することができます。

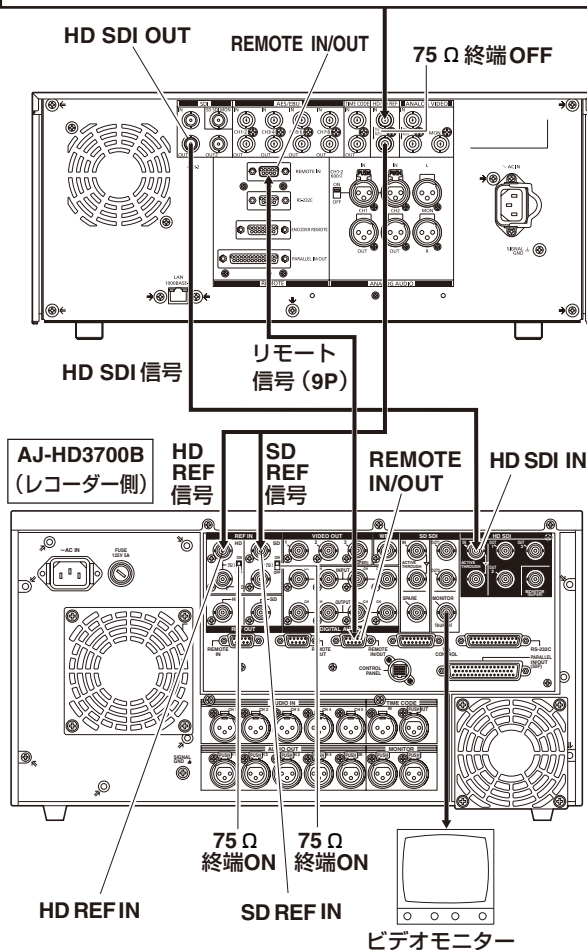
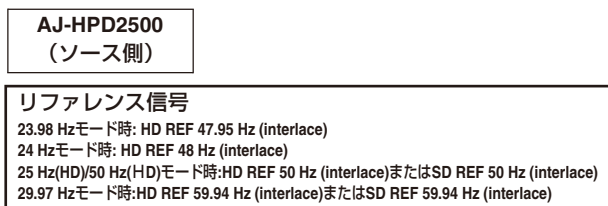
接続

23.98/24/29.97/25 Hzモード時のシステム接続例

本機では、フレームレートが24 fps(25 fps)で記録されたカードを再生すると、1080/24PsF(1080/25PsFまたは1080/50i)に変換して出力でき、AJ-HD3700シリーズへの記録が可能です。

下図はデッキ対デッキの接続例です。

REF入力は、下記のリファレンス信号を入力してください。



◆NOTE:

- 23.98/24 Hzモードの再生開始時に、REF入力と同期をとるため、数フレーム間映像が乱れ、音声出力がミュートされる場合があります。1倍速再生以外のHD SDI出力映像は動きが不自然になる場合があります。

- 23.98 Hzモード時、コンポジットモニタービデオには、VITC信号は出力されません。
- 対応する入力/出力フォーマットについては、「入力/出力対応フォーマット一覧」(198 ページ)を参照してください。
- 23.98/24 Hzモード時、HD SDI出力はアナログVIDEO出力に対して、約2フレーム遅延します。
- 24 Hzモード時、コンポジットモニタービデオは出力されません。

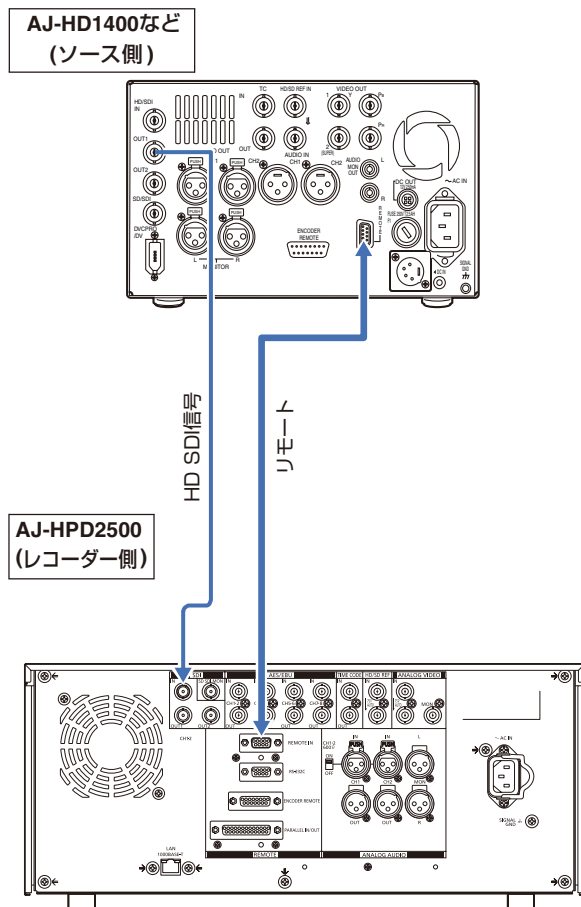
外部リモート制御時の接続例

リモートコントロール端子よりコマンドを送信し、外部機器をリモート制御することができます。プレイリストモードでは、ソース側の機器をコントロールしてタイムラインに直接キャプチャすることができます。

下図はデッキ対デッキの接続例です。

外部機器側は、フロントパネルのCONTROLスイッチをREMOTEにしてください。

本機側は、REMOTEボタンを消灯状態にしてください。



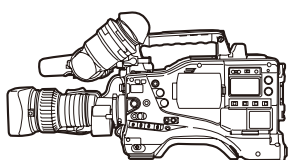
バリアブルフレームレートカメラからの記録

バリアブルフレームレートカメラからのHD SDI出力信号を720/23.98p記録する

バリアブルフレームレートカメラ (Varicam:AJ-HDC27シリーズ)のHD SDI(720/23.98p over 59.94p)出力を、DVCPRO HDまたはAVC-Intra 720/23.98p Native記録することができます。

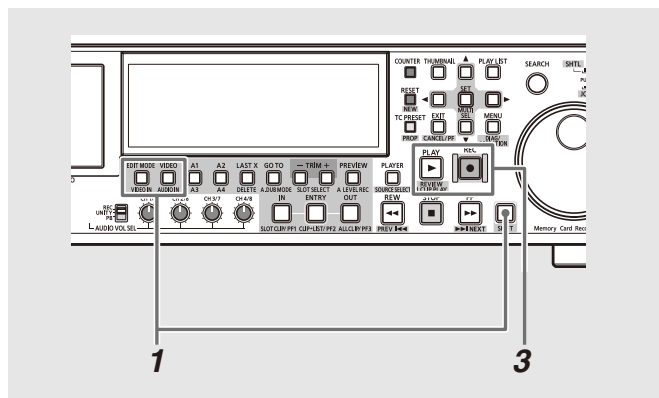
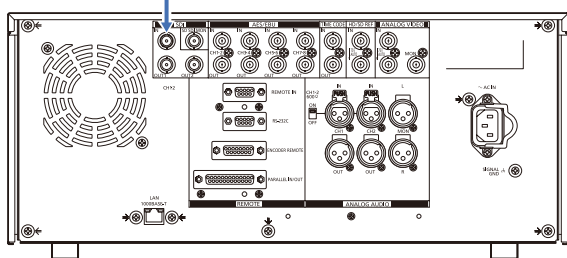
カメラ出力のHD SDI信号を記録する

- 1 カメラのHD SDI(720/23.98p over 59.94p)出力をSDI入力端子に接続し、VIDEO IN (SHIFT+EDIT MODE) / AUDIO IN (SHIFT+VIDEO)ボタンを押し、HD SDIを選択する



HD SDI(720/23.98p over 59.94p)出力

SDI入力端子



2 セットアップメニューを下記のように設定する

項目		設定値
No.25	SYSTEM FREQ	59-23
No.020	SYS FORMAT	720p
No.040	VFR REC	OFF

◆NOTE:

- バリアブルフレームレートカメラからの720/24p over 60p出力を記録する場合には、セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)を60-24に設定してください。このとき、コンポジットモニタービデオは出力されません。

3 カメラのHD SDI出力映像を確認しながら、RECボタンとPLAYボタンを同時に押す

記録が開始されます。

◆NOTE:

- セットアップメニューNo.155(AUTO REC)をTYPE1に設定し、REMOTEボタンを点灯状態にすると、カメラのREC/STOPに連動して自動的に記録を開始、停止させることができます。
- SDI出力のビデオフォーマットは1080/23.98PsFとなります。
- TIME CODE IN端子からのタイムコード入力はできません。
- SDI出力は液晶モニター、モニタービデオ出力より遅れて出力されます。アナログオーディオ、スピーカー、ヘッドホン出力は液晶モニター、モニタービデオ出力に合わせて出力します。SDI出力に合わせる場合には、セットアップメニューNo.778(AUD OUT DLY)をONに設定してください。
- カメラのTCGはフリーラン、ノンドロップモードに設定してください。SDI入力のTC/UBが正常に読み出せない場合は、正常に記録できません。

バリアブルフレームレート記録

セットアップメニューNo.040(VFR REC)をONに設定すると、バリアブルフレームレートカメラのバリアブルフレーム出力から有効フレームのみを記録することができます。撮影時に意図したスロー/クイックのスピードエフェクトを、撮影したその場ですぐに確認できます。

◆NOTE:

- このモードではオーディオは記録されません。また、外部タイムコードを記録することはできません。
- 記録中は、記録対象のP2カードの切り替えはできません。
- このモードでのP2カード残量表示は、最も遅いスロースピードエフェクトの60p(50p)の残量値を表示しています。

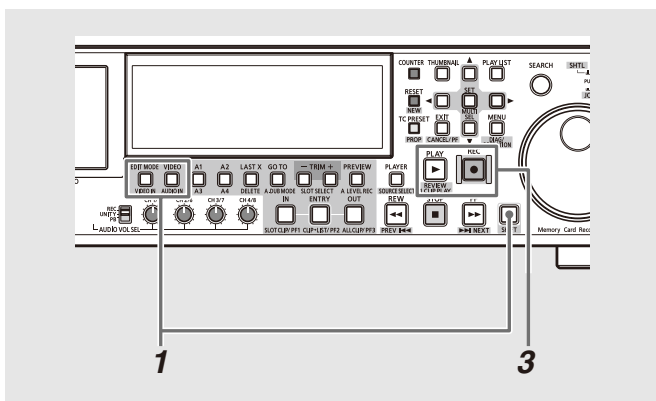
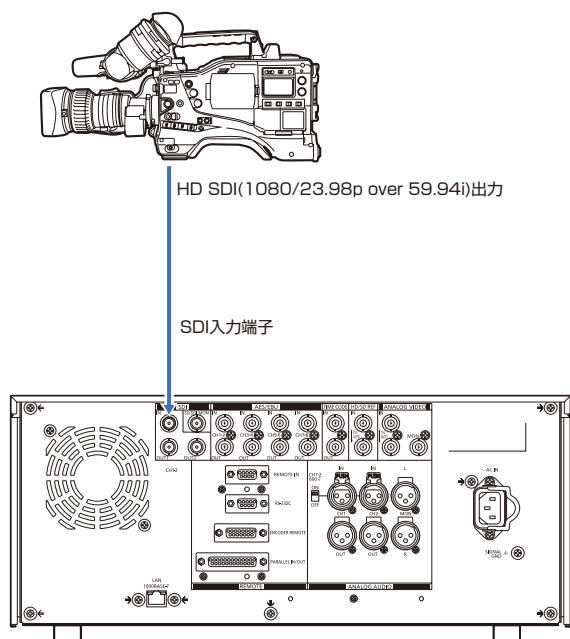
- セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)が59-23、60-24に設定されている場合、入力するフレームレートが24p以外のときのHD SDI出力映像は、動きが不自然になる場合があります。
- バリアブルフレームレートカメラからの出力信号を記録中にフレームレートを変更すると、変更時にコマ落ちすることがあります。

HDカメラからのHD SDI出力信号を1080/23.98p記録する

HDカメラのHD SDI(1080/23.98p over 59.94i)出力をAVC-Intra 1080/23.98p Native記録することができます。

カメラ出力のHD SDI信号を記録する

- 1 HDカメラレコーダーのHD SDI (1080/23.98p over 59.94i)出力をSDI入力端子に接続し、VIDEO IN (SHIFT+EDIT MODE) / AUDIO IN (SHIFT+VIDEO) ボタンを押し、HD SDIを選択する



2 セットアップメニューを下記のように設定する

項目		設定値
No.25	SYSTEM FREQ	59-23
No.020	SYS FORMAT	1080p

- 3 カメラのHD SDI出力映像を確認しながら、RECボタンとPLAYボタンを同時に押す
記録が開始されます。

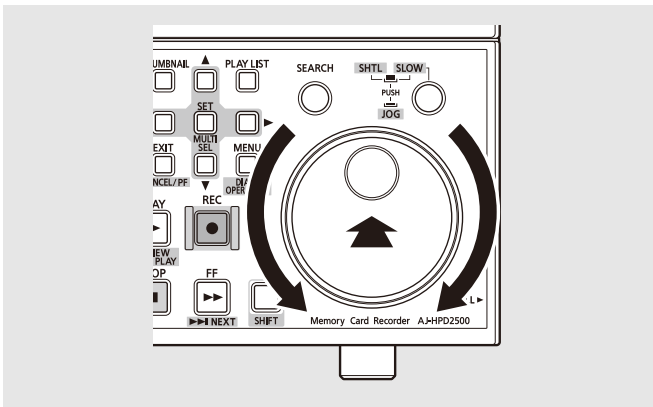
◆NOTE:

- セットアップメニューNo. 155(AUTO REC)をTYPE2に設定し、REMOTEボタンを点灯状態にすると、カメラのREC/STOPIに連動して自動的に記録を開始、停止させることができます。
- SDI出力のビデオフォーマットは1080/23.98PsFとなります。
- TIME CODE IN端子からのタイムコード入力はできません。
- SDI出力は液晶モニター、モニタービデオ出力より遅れて出力されます。アナログオーディオ、スピーカー、ヘッドホン出力は液晶モニター、モニタービデオ出力に合わせて出力します。SDI出力に合わせる場合には、セットアップメニューNo.778(AUD OUT DLY)をONに設定してください。
- カメラのTCGはフリーランに設定してください。SDI入力のTC/UBが正常に読み出せない場合は、正常に記録できません。

サーチダイヤルによるジョグ／シャトル操作

サーチダイヤルは、映像の確認、検索のためのダイヤルです。
ダイヤルは、押す毎にSHTLモード/SLOWモードとJOGモードが交互に切り替わります。
電源を入れた直後は、一度ダイヤルをSTILLの位置に戻さないと動作しません。

ジョグモード (JOGモード)



1 サーチダイヤルを押し込む

ジョグモードになります。

2 サーチダイヤルを回す

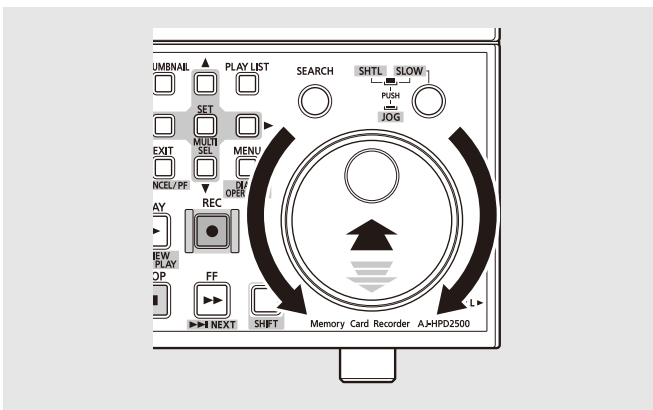
ダイヤルにクリック感がなくなり、ダイヤルの回転速度に応じたスピード(-1~+1倍速)で再生が行われます。
ダイヤルの回転を止めると、静止画になります。

3 ジョグモードから他のモードに移行するときは、移行するモードのボタンを押す

◆NOTE:

- 工場出荷時には、サーチダイヤルを回すと、シャトルモードまたは、ジョグモードに移行するダイレクトサーチモードに設定されています。
- セットアップメニューNo.100(SEARCH ENA)の設定を「KEY」にすることで、SEARCHボタンを押さないとサーチモードに移行しないように設定することができます。

シャトルモード/スローモード (SHTLモード /SLOWモード)



1 サーチダイヤルを押して、押し込まれたダイヤルを元に戻す

シャトルモードになります。

電源を入れた直後は、サーチダイヤルを回して、センターの位置にしてください。

2 SHTL/SLOWボタンを押して、必要に応じSHTL (シャトル)モードとSLOW(スロー)モードを切り替える

3 サーチダイヤルを回す

ダイヤルの位置に応じて、再生画のスピードが変化します。
セットアップメニューNo.101(SHTL MAX)でシャトルモードの最大速度の設定を±8、±16、±32、±60、±100倍速に変更できます。
ダイヤルをセンター位置でクリックすると、静止画になります。

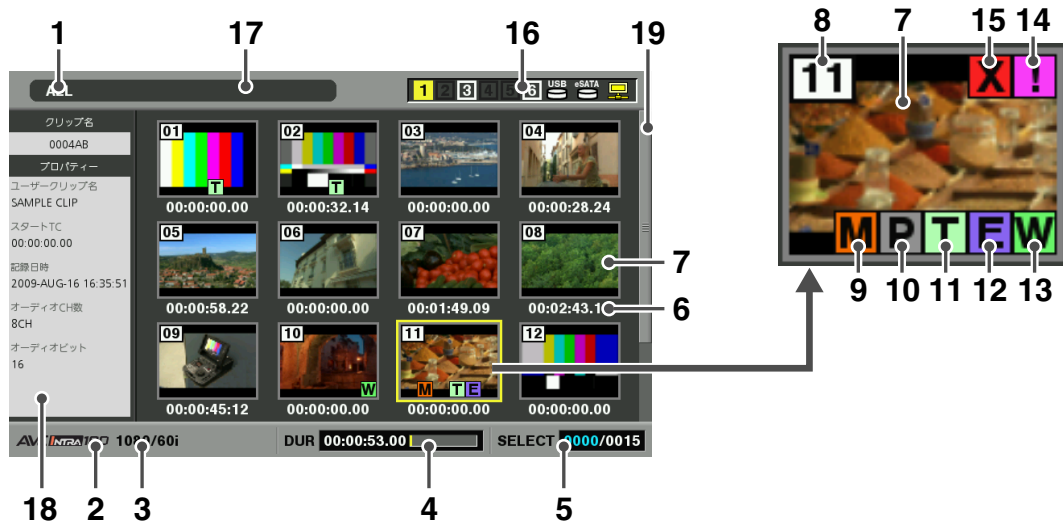
4 シャトルモードから他のモードに移行するときは、STOP ボタンまたは、他のボタンを押す

◆NOTE:

- オーディオモニター出力からは、-10~+10倍速の範囲で再生音を聞くことができます。
- サーチモードでの再生音にはノイズが含まれます。
- 複数のP2カードにまたがったクリップを±1倍速より速い速度で再生するとき、再生音が一瞬途切れることがありますが、故障ではありません。
- 10倍速再生するとき、再生音が途切れることがありますが、故障ではありません。
- AVC-Intra 1080/23.98p記録されたクリップをサーチモードで再生すると、再生画の動きが不自然になることがあります。

クリップの管理

サムネールとクリップの管理について



本機にはクリップを管理するためのサムネール画面があります。クリップとは、画像、音声、メタデータなどの付加情報を含む、ひとかたまりのデータのことです。通常は記録を開始して停止するまでの、1回の記録によって生成される1ショットが1クリップになります。複数のP2カードにまたがったショットについても単一クリップとして扱われます。

サムネール画面には、各クリップに記録されたサムネールが一覧表示されます。このサムネールを確認しながら、以下の操作を行ってクリップを管理できます。

- クリップの再生、コピー、削除、修復
- クリップにテキストメモを付加
- テキストメモの確認と削除
- ショットマークの表示と消去
- P2カードのフォーマット
- クリップのプロパティー表示
- P2カードの状態表示

◆NOTE:

- サムネールは実際の映像の一部成分から生成されています。そのため実際の映像より荒いものとなります。

サムネール画面各部の名称とはたらき

1. 表示状態

画面に表示されている情報の種類が、次のように示されます。

ALL:	すべてのクリップ
SAME FORMAT:	システムフォーマットと同じフォーマットのクリップ
SELECT:	SETボタンで選択したクリップ
MARKER:	ショットマークが付加されたクリップ
TEXT MEMO:	テキストメモデータが付加されたクリップ
SLOT n:	n番スロットのP2カード内のクリップ
PROPERTY:	クリップの詳細情報
CONTINUOUS PB:	連続再生を行うためのクリップ
P2 / REMAIN:	メディア情報(残量表記)
P2 / USED:	メディア情報(使用量表記)
META DATA:	設定されたメタデータ

→表示の切り替え方法は「表示する情報の種類を切り替える」(47ページ)を参照。

2. 記録モード

カーソル位置のクリップの記録モードが表示されます。

3. システムフォーマット

カーソル位置のクリップの記録フォーマットが表示されます。

4. デュレーション

カーソル位置のクリップの長さ(デュレーション)とクリップの長さに対する現在の概略再生位置が表示されます。

レジューム設定がオンのとき(→「表示する項目を設定する」(48ページ)を参照。)、再生開始位置が先頭でない場合に概略の再生位置がわかります。

5. クリップ選択数

選択されたクリップの数と全クリップ数が表示されます。

6. 時間表示

クリップの記録開始時のTC(タイムコード) / UB(クリップの記録開始時のユーザーズビット) / 撮影時刻 / 撮影日 / 撮影日時 / クリップ名 / ユーザークリップ名 / スロット番号のいずれかが表示されます。

→「表示する項目を設定する」(48ページ)を参照。

7. サムネール

各クリップに記録されたサムネールを表示します。このサムネールはEXCH.THUMBNAIL機能を使用し変更することができます。

→「サムネールの変更」(50ページ)を参照。

8. クリップ番号

通常は記録日時が早い順に、P2カード上のクリップに割り当てた番号が表示されます。再生できないクリップは、クリップ番号が赤色で表示されます。表示順はSORT機能を使用し変更する事ができます。

→「表示する項目を設定する」(48ページ)を参照。

9. **M**ショットマークインジケーター

ショットマークが付加されたクリップに表示されます。

10. **P**プロキシインジケーター

AJ-HPX2700、AJ-HPX3700などのカメラで記録したプロキシが付加記録されているクリップに表示されます。

本機ではプロキシを記録できません。

11. **T**テキストメモインジケーター

テキストメモデータが付加されているクリップに表示されます。

12. **E**エディットコピーインジケーター

エディットコピーしたクリップなどに表示されます。

13. **W**ワイドインジケーター

16:9の画角で記録されたクリップに表示されます。ただしHDフォーマットのクリップのときは表示されません。

14. **!**不完全クリップインジケーター

複数のP2カードにまたがって記録されているにもかかわらず、その内のいずれかのP2カードが、P2カードスロットに挿入されていないときなどに表示されません。

15. **X**不良クリップ・**?**不明クリップインジケーター

記録中に電源が切れるなどの原因で、記録に不具合のあるクリップに表示されます。黄色の不良クリップインジケーターが表示されたクリップは、修復が可能な場合があります。

→「不良クリップの修復」(62ページ)を参照。

赤色の不良クリップインジケータが表示されたクリップは、修復できませんので削除してください。削除できないときは、P2カードをフォーマットしてください。

P2規格のフォーマットなどが異なるクリップのときは、**[X]**の代わりに**[?]**が表示されます。

16. P2カードスロット・ハードディスク・LANの状態表示

P2カードおよびUSB/eSATAハードディスクドライブ、LANの接続の状態が、次のように表示されます。



[1]~[6] P2カードが挿入されているP2カードスロット番号が白色で表示されます。

[1] カーソル位置のクリップが記録されているP2カードのP2カードスロット番号が、黄色で表示されます。クリップが複数のP2カードにまたがって記録されているときは、そのクリップが記録されたカードのスロット番号すべてが表示されます。

◆NOTE:

挿入されたP2カードが以下のような場合に、枠がピンク色になります。

- 「RUN DOWN CARD」
P2カードの規定の書き換え回数を超えた場合
- 「DIR ENTRY NG CARD」
P2カードのディレクトリー配置が不正規な場合

■ハードディスクの状態表示



ハードディスクドライブは使用するインターフェースによって USBとeSATAがあります。

USB ハードディスクドライブが非接続のとき、灰色で表示されます。
(灰色)

USB ハードディスクドライブが使用可能のとき、白色で表示されます。
(白色)

USB ハードディスクドライブのクリップがサムネイル表示されているとき、黄色で表示されます。
(黄色)

USB ハードディスクドライブが接続されているが、使用可能な状態でないときに赤色で表示されます。
(赤色)

■LANの状態表示



LANの接続状態を表します。



(灰色)

LANの設定がOFFになっているとき、灰色で表示されます。



(白色)

LANの設定がONになっているとき、白色で表示されます。



(黄色)


LANケーブルが挿入されLINKしているとき、黄色で表示されます。



(赤色)

本機に異常があるときは、赤色で表示されます。故障が考えられますのでお買い上げ販売店にご相談ください。

17. 状態メッセージ

処理状態を示すメッセージが表示されます。たとえば、画面更新中には「UPDATING」の文字と回転するアイコンが表示されます。

18. 簡易プロパティ表示

カーソル位置のクリップの各種プロパティを表示します。表示する項目はメニューから選択できます。→「プロパティ表示する項目を設定する」(49ページ)を参照。

◆NOTE:

- 表示できる文字数以上の文字がある場合はすべて表示されずに表示可能な文字までを表示して、以降の文字を省略します。

19. サムネイルスクロールバー

現在表示しているサムネイルがサムネイル全体のどの辺りかを示します。

サムネイル画面でのカーソルの操作

カーソルは十字カーソルボタンを使用して動かすことができます。

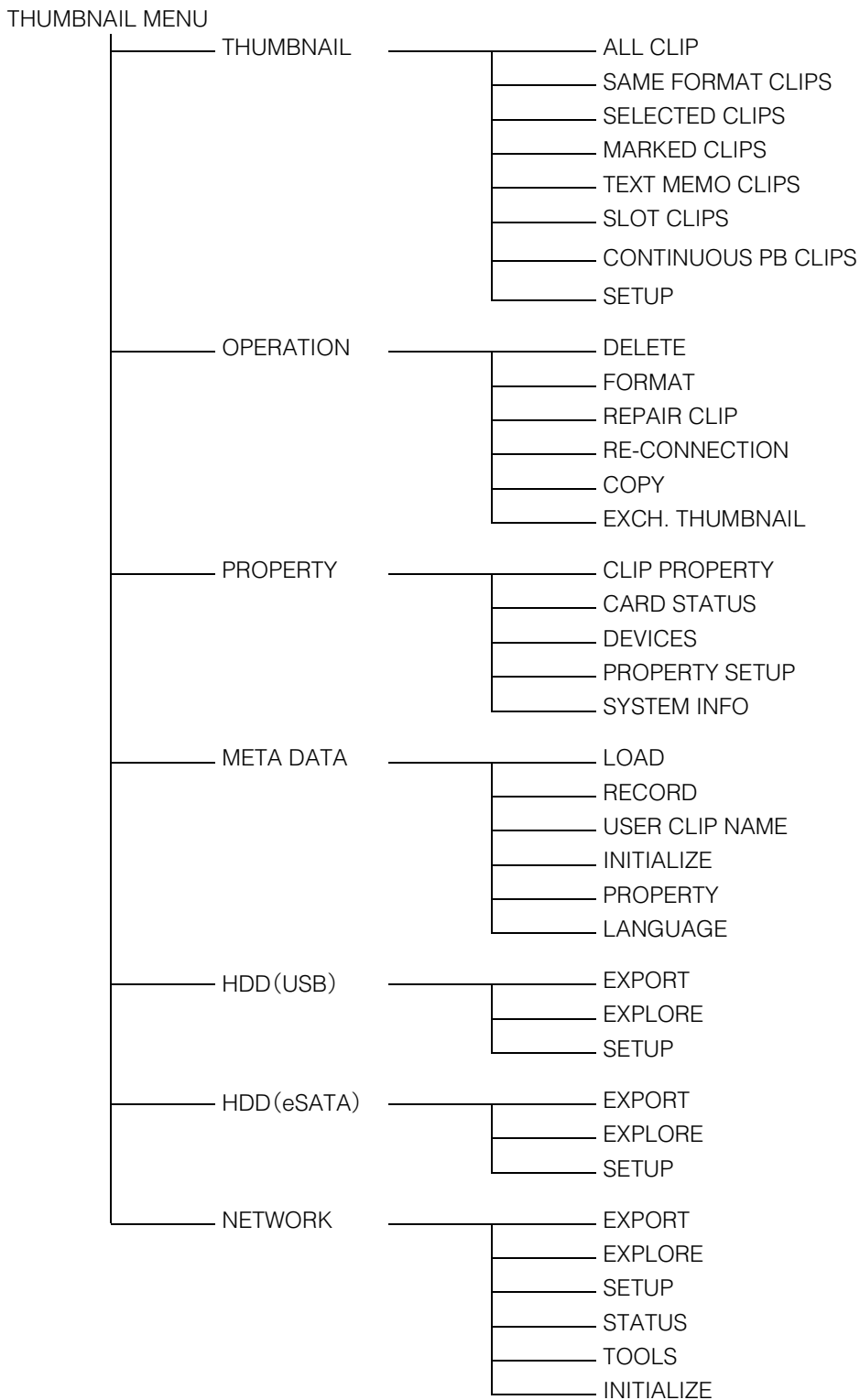
◆NOTE:

- サーチダイヤルでもカーソルを動かすことができます。

■カーソルの高速移動やジャンプ

- SHIFTボタンを押しながら上下カーソルボタンを押すと、カーソルを先頭クリップ / 最終クリップへ移動できます。
- SHIFTを押しながらサーチダイヤルを回すとサムネイルは青色となり、スクロールバーのみが移動し高速なカーソルページ移動を行うことができます。

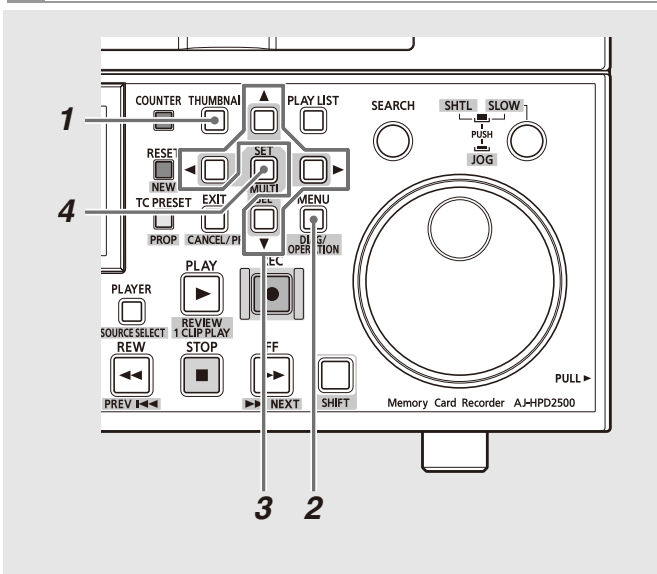
サムネイルメニューの構成



サムネール画面の表示の変更

使用状況に応じてサムネール画面をカスタマイズし、効率よく操作を行うことができます。

表示する情報の種類を切り替える



1 サムネール画面を表示する

2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで[THUMBNAIL]の下位の、表示したいクリップの種類にカーソルを合わせる



ALL CLIP: すべてのクリップを表示するとき
 SAME FORMAT CLIPS: システムフォーマットと同じフォーマットで、かつ、セットアップメニューNo.034(A.SMPL RES)で設定した音声ビット数と同じクリップを表示するとき

◆NOTE:

- セットアップメニューNo.25 (SYSTEM FREQ)が23.98、24、29.97、59-23、60-24、25、60-25の場合、記録可能なフォーマットのクリップのみ表示します。
- 音声記録されていないクリップに対しては、セットアップメニューNo.034(A.SMPL RES)の設定値と一致しているものとみなします。

SELECTED CLIPS: SETボタンで選択したクリップを表示するとき
 このときサムネールの並び順は、選択した順番となります。クリップの並び順を変えて再生したいときなどに使用できます。

MARKED CLIPS: ショットマークが付加されたクリップを表示するとき

TEXT MEMO CLIPS: テキストメモデータがあるクリップのみを表示するとき
 →「テキストメモやショットマークを付加する」(57ページ)を参照。

SLOT CLIPS: n番スロットのP2カード内のクリップを表示するとき

◆NOTE:

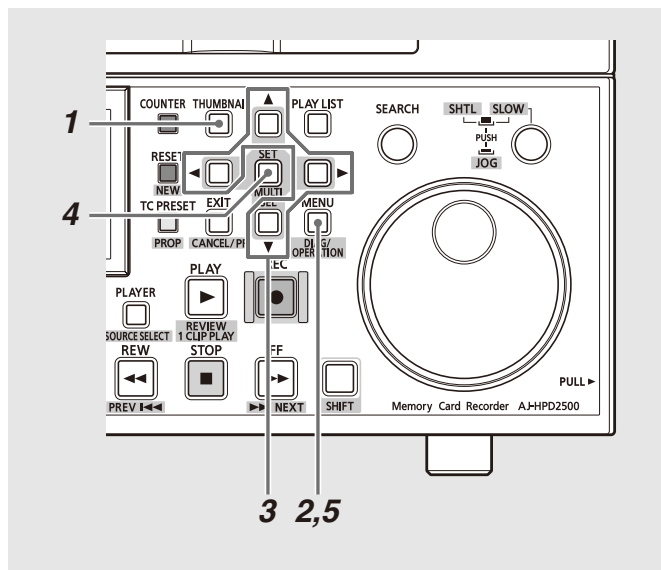
- 以下のボタンを操作しても切り替えることができます。
- SLOT CLIP(SHIFT+IN)ボタンを押すたびにSELECTED→SLOT1→SLOT2…SLOT6→SELECTED(ただしカードが挿入されているスロットのみ)に切り替えることができます。
 - ALL CLIP(SHIFT+OUT)を押してALL CLIPに切り替えることができます。

CONTINUOUS PB CLIPS: 再生中に挿入されたP2カードを再生するとき
 →「P2カードを抜き差ししながらクリップを連続再生する(つなぎ再生)」(54ページ)を参照。

4 SETボタンを押す

表示する項目を設定する

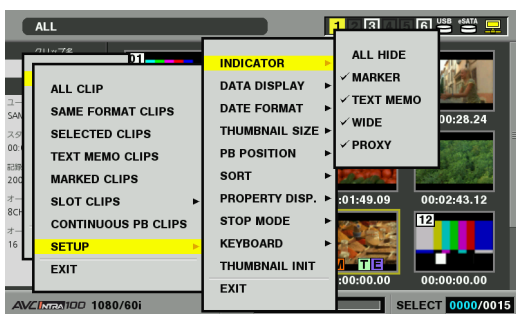
用途に合わせ、サムネールの表示方法をカスタマイズできません。サムネール表示のインジケータやデータ設定の切り替えを行います。



1 サムネール画面を表示する

2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで[THUMBNAIL] - [SETUP]の下位の設定したい項目にカーソルを合わせる



XXは初期値を表す。

INDICATOR: 以下の項目から表示したい項目でSETを押すとチェックが付きその項目が表示されます。ALL HIDEを選択している場合は他の項目は選択できません。

ALL HIDE インジケータをすべて非表示

MARKER ショットマークインジケータを表示

TEXT MEMO テキストメモインジケータを表示

WIDE ワイドインジケータを表示

PROXY プロキシインジケータを表示

DATA DISPLAY: 時間表示部(→「サムネール画面各部の名称とはたらき」(44ページ)の6を参照)に表示する内容を選択する

TC タイムコード

UB ユーザーズビット

TIME 記録時刻

DATE 記録日

DATE TIME 記録日時

CLIP NAME クリップ名

USER CLIP NAME ユーザークリップ名の先頭の最大15文字(英語表示の場合)

SLOT スロット番号

THUMBNAIL サムネール位置のタイムコード

TC タイムコード

DATE FORMAT: 記録日時の表示書式を選択する

Y-M-D 年月日

M-D-Y 月日年

D-M-Y 日月年

◆NOTE:

- この設定は、クリップのプロパティで表示される記録日、DATA DISPLAYでDATEを選択したときに表示される記録日時、およびプレイリストのイベントプロパティ画面のクリップ情報で表示される記録日、メタデータのロードなど各種ファイル表示の作成日時にも反映されます。

THUMBNAIL SIZE: サムネールモードで画面に表示されるサムネールの大きさを設定します。

LARGE 大(サムネール表示: 3×2)

NORMAL 標準(サムネール表示: 4×3)

PB POSITION	サムネール画面から再生するときの再生開始位置を設定します。
RESUME	再生を停止した位置から再生
THUMBNAIL TC	サムネール位置のタイムコードから再生
<u>START TC</u>	スタートタイムコード(クリップの先頭)から再生
SORT:	サムネールの表示順番を設定します。
<u>OFF</u>	記録日時順
SLOT	スロット順(同スロット内のクリップ記録日時順に表示されます)。
PROPERTY DISP.:	サムネールの左側に表示される簡易プロパティ項目を設定します。 →「プロパティ表示する項目を設定する」(49ページ)を参照。
STOP MODE:	サムネールからの再生停止後、サムネールに戻るかどうかを設定します。
STAY	再生モードを維持
<u>RETURN</u>	サムネールへ戻る →「クリップを再生する」(52ページ)を参照。
KEYBOARD:	利用するUSBキーボードを設定します。
QWERTY (101)	QWERTY101キーボード設定
<u>QWERTY (109)</u>	QWERTY109キーボード設定
AZERTY	AZERTYキーボード設定
QWERTZ	QWERTZキーボード設定
THUMBNAIL INIT:	上記設定を、工場出荷状態(初期値)に戻す。

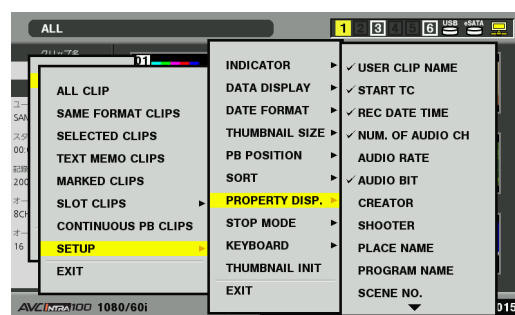
プロパティ表示する項目を設定する

サムネールの左側に表示される簡易プロパティ項目を設定します。

1 サムネール画面を表示する

2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで[THUMBNAIL] - [SETUP] - [PROPERTY DISP.]にカーソルを合わせる



4 SETボタンを押し項目メニューに入る

選択されている項目にはチェックマークが付いています。

5 SETボタンを押し、表示したい項目にチェックをつける

SETボタンを押すと、未チェックの項目はチェックされ、チェック済みの項目はチェックが外れます。

◆NOTE:

- 同時に表示できる項目数は最大6項目です。
- 6項目選択した段階で残りの未チェック項目は全て選択不可となります。チェック済みの項目を未チェック状態に戻すことで再び項目の変更が可能になります。

4 SETボタンを押す

◆NOTE:

- [THUMBNAIL INIT]のときは確認画面が表示されますので、[YES]を選択します。

5 MENUボタンを押して、処理を終了する

サムネイルの変更

次の方法でサムネイルを変更することができます。

テキストメモを利用したサムネイルの変更

- 1 変更したい映像にテキストメモを付加する
→「テキストメモを付加する」(57ページ)を参照。
- 2 サムネイル表示をテキストメモ表示に変更する
- 3 テキストメモ下段へ移動し、変更したいサムネイルにカーソルを移動する
- 4 MENUボタンを押す
- 5 十字カーソルボタンで、[OPERATION] - [EXCH. THUMBNAIL]にカーソルを合わせSETボタンを押す



- 6 [YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
メニューが閉じて、サムネイルが変更されます。



◆ NOTE:

- クリップの情報表示のTHUMBNAIL項目で、サムネイルの変更位置(先頭からのフレーム数)を見ることができます。通常の先頭フレームのサムネイルの場合は0と表示されます。
- サムネイルから再生する際の開始位置を変更する場合は、「クリップを再生する」(52ページ)のNOTEを参照してください。

クリップ再生中のサムネイルの変更

- 1 サムネイル画面を表示する
- 2 十字カーソルボタンで、サムネイルを変更したいクリップにカーソルを合わせる



- 3 クリップを再生する
→「クリップを再生する」(52ページ)を参照。
- 4 再生中、またはJOG/VAR/SHTLで静止画を表示しているときに、ENTRY ボタンを押しながら TEXT MEMOボタンを押す
ボタンを押したときのフレーム画像がサムネイルとして予約されます。
- 5 STOPボタンを押し、サムネイル画面に戻る
 - サムネイルが変更されます。
 - クリップの先頭、または最後まで再生したときもサムネイル画面に戻り、サムネイルが変更されます。

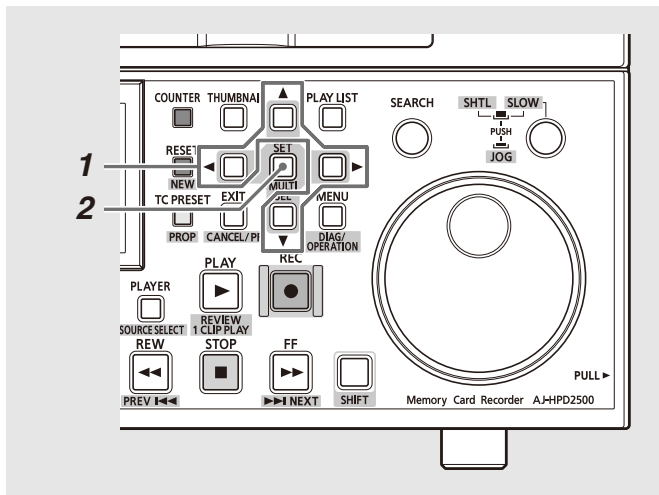


◆ NOTE:

- クリップの再生中に複数回ENTRYボタンとTEXT MEMOボタンを同時に押したときは、最後に押した位置のフレーム画像がサムネイルとして予約されます。
- ENTRYボタンとTEXT MEMOボタンを同時に押したときは、ボタンを押したときのフレームにテキストメモが設定されます。クリップ中のテキストメモ数が100個に達した場合には、サムネイルの変更はできません。
- サムネイル変更中は、状態メッセージとしてUPDATINGの文字と回転するアイコンが表示されます。この状態のとき、P2カードを抜かないでください。
- サムネイル画面に戻るまでP2カードを抜かないでください。サムネイルが変更されません。

クリップを選択する

サムネイル画面で操作を行うとき、操作の対象となるクリップを次のように選択します。



1 十字カーソルボタンで、黄色い枠(カーソル)を対象のクリップに合わせる

◆NOTE:

- SHIFTボタンを押しながらREW / FFボタンあるいは十字カーソル(▲/▼/◀/▶)ボタンを押すと、カーソルを先頭クリップ / 最終クリップへ移動できます。

2 SETボタンを押す

カーソルを合わせたクリップに水色の枠が表示され、選択状態になったことを表します。



◆NOTE:

- 1~2の操作を繰り返すと、複数のクリップを選択できます。
- クリップを選択した後、別のクリップにカーソルを移動し、SHIFTボタンを押しながらSETボタンを押すと、直前に選択したクリップからカーソル位置までのクリップをまとめて選択できます。
- クリップを選択すると、選択数に応じて画面右下のクリップ選択数表示部の選択数が更新されます。

選択を解除するには

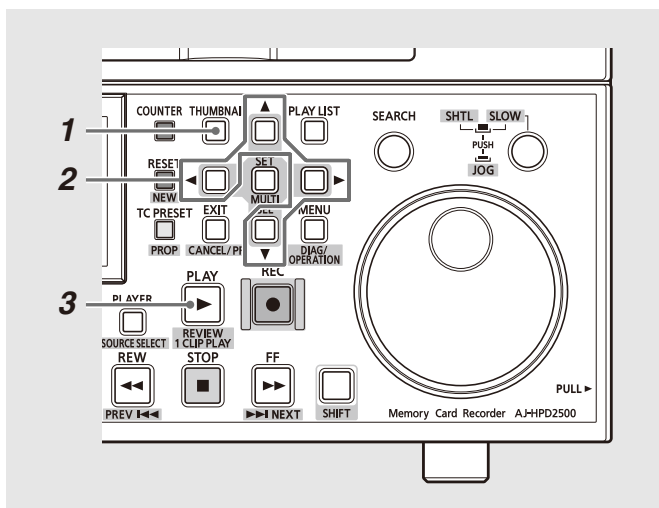
1 選択状態のクリップにカーソルを合わせ、再度SETボタンを押す

選択が解除されます。

◆NOTE:

- SHIFTボタンを押しながらEXITボタンを押すと、選択状態のクリップを一括して選択解除できます。

クリップを再生する



1 サムネール画面を表示する

2 十字カーソルボタンで、再生したいクリップにカーソルを合わせる



3 PLAY▶ ボタンを押す

カーソルを合わせたクリップから、再生がはじまります。カーソルを合わせたクリップの再生が終わると、それ以降のクリップが順に再生され、最後のクリップの再生が終わるとサムネール画面に戻ります。

◆NOTE:

- クリップを再生するときには、クリップを選択(サムネールに水色の枠が表示された状態)にする必要はありません。
- サムネール表示設定を変更して、選択したクリップだけを再生したり、テキストメモが挿入されたクリップだけを再生したりすることができます。選択したクリップのサムネール表示や再生は、選択した順番に表示・再生されます。
- PLAYボタンの代わりにSEARCHボタンを押すと、クリップの先頭フレームの映像が静止画として表示されます。
- クリップ番号が赤色に表示されたクリップは、再生できません。
- PLAYボタンの代わりに、REW ◀ ボタンを押すと早戻し再生、FF ▶ ボタンを押すと早送り再生が行えます。

- クリップの再生中にSTOP ■ ボタンを押すと、再生を停止してサムネール画面に戻ります。
- 再生を停止すると、カーソル位置は停止直前に再生していたクリップに移動します。
- 異なった映像フォーマット(DVCPRO HD、DVCPRO50、DVCPRO、DV、AVC-Intra50、AVC-Intra100)を再生すると、クリップとクリップの間で映像・音声がかかりますが故障ではありません。
- 映像が同じフォーマットで音声ビット数が異なったクリップを連続再生すると、クリップ間で音声はミュートになります。
- 音声精度が24ビットのクリップをPLAYボタンを使った通常再生以外で再生すると、音声精度は16ビットとなります。
- サムネール画面をテキストメモ表示に変更すると、テキストメモ位置からの再生を行うことができます。
→「テキストメモ位置から再生する」(57ページ)を参照。

◆ NOTE:

- サムネールから再生するときの再生開始位置を、[THUMBNAIL] - [SETUP] - [PB POSITION]メニューで設定できます。

PB POSITION:	RESUME	カーソルを動かさなかったときに、前回再生を停止した位置から続けて再生
THUMBNAIL TC		サムネール位置のタイムコードから再生
<u>START TC</u>		スタートタイムコード(クリップの先頭)から再生

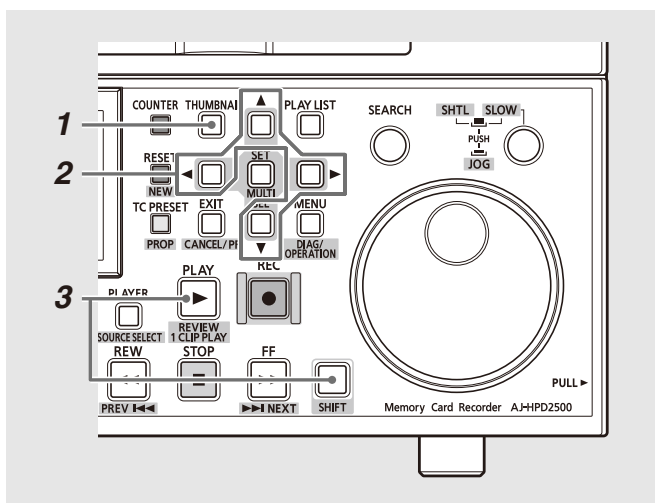
- サムネールからの再生停止後、サムネールに戻るかどうかを [THUMBNAIL] - [SETUP] - [STOP MODE]メニューで設定できます。

STOP MODE:	STAY	再生モードを維持
	<u>RETURN</u>	サムネールに戻る

XXは初期値を表す。

単一クリップを再生する

SHIFTボタンを押しながらPLAY▶ボタンを押すと、カーソル位置のクリップのみを再生することができます。



1 サムネール画面を表示する

2 十字カーソルボタンで、再生したいクリップにカーソルを合わせる

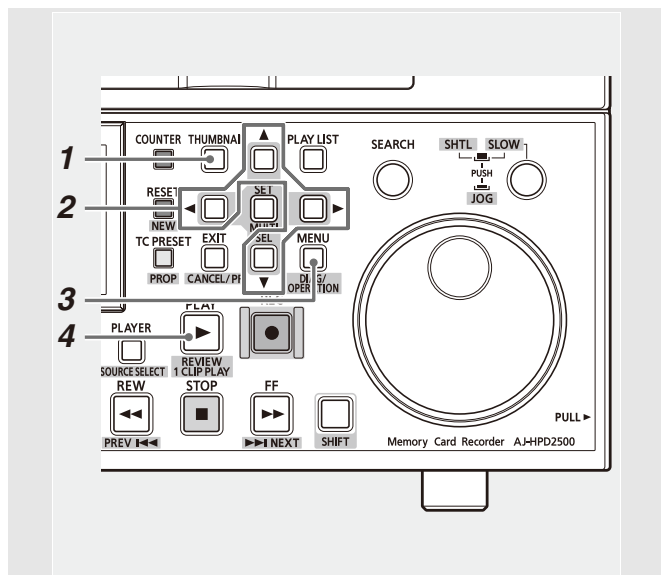
3 1 CLIP PLAY (SHIFT+PLAY) ボタンを押す

◆NOTE:

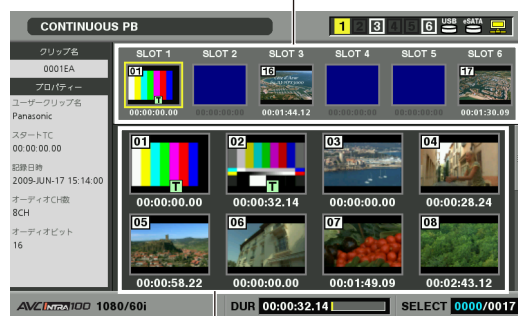
- 単一クリップの再生終了、あるいはSTOP■ボタンを押したときは、再生が停止しサムネール画面に戻ります。このとき、カーソルは次のクリップに移動します。
- 単一クリップの再生中は、STOP■ボタン以外無効になります。
- 単一クリップの再生開始位置は、[PB POSITION]メニューの設定に従います。[PB POSITION]メニューで[RESUME]が選択されているときは、[RESUME]の設定は無効です。
- 単一クリップの再生には、STOP MODEの設定は無効となります。
- サムネール画面から再生を行い、JOG/VAR/SHTLで静止画を表示しているときに1 CLIP PLAY (SHIFT+PLAY) ボタンを押すと、静止画の位置からクリップの最後までを再生することができます。

P2カードを抜き差ししながらクリップを連続再生する(つなぎ再生)

再生中に挿入されたP2カード内のクリップを含む全クリップを再生します。再生中にP2カードを取り出した場合にはそのP2カード内のクリップは再生されません。



各スロットの先頭クリップのサムネイルを表示。クリップがないスロットは青色表示。



全クリップをスロット順に表示。

◆NOTE:

- サムネイル画面上段にカーソルを移動するときはEXITボタンを、サムネイル画面下段にカーソルを移動するときにはSETボタンを押してください。
- P2カード内に他のP2カードからまたいだクリップしかない場合には、SPANNED表示のサムネイルが表示されます。



- CONTINUOUS PB CLIPS選択中は、THUMBNAILボタンを押し、P2カードを取り出してサムネール一覧を抜けた場合でも再度THUMBNAILボタンを押しサムネール一覧に戻ると、CONTINUOUS PB CLIPSのサムネール画面に戻ります。
- CONTINUOUS PB CLIPSモードを解除するには、サムネール画面の[THUMBNAIL]メニューで[CONTINUOUS PB CLIPS]以外の表示モードを選択します。

1 サムネール画面を表示する

液晶モニターにサムネール画面が表示されます。

2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで [THUMBNAIL]- [CONTINUOUS PB CLIPS]にカーソルを合わせ、 SETボタンを押す



サムネール画面上段には、各スロットの先頭クリップのサムネイルが表示されます。サムネール画面下段には、全スロットのクリップのサムネイルがスロット順に表示されます。

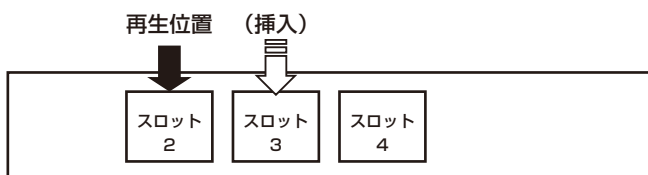
4 カーソルを再生開始したいクリップに合わせ、 PLAY▶ボタンを押す

カーソルを合わせたクリップから、再生がはじまります。サムネール画面上段から再生開始したときは、カーソルを合わせたスロットから順にスロット6まで、再生可能なクリップを連続再生します。

サムネール画面下段から再生開始したときは、カーソルを合わせたクリップから順に最後のクリップまで連続再生します。再生中にP2カードを挿入すると連続再生の対象に追加されます。

現在再生中のスロットより後ろのスロットに挿入したときは、残りのスロット順の該当位置に挿入されて連続再生されませんが、現在再生中のスロットより前のスロットに挿入した場合は、スロット6までのスロット順の再生を行った後に再びスロット1から順に、挿入されたP2カードのクリップも含め、クリップの連続再生が行われます。

再生位置より後ろのスロットにP2カードを挿入した例:



再生順: スロット2→スロット3→スロット4

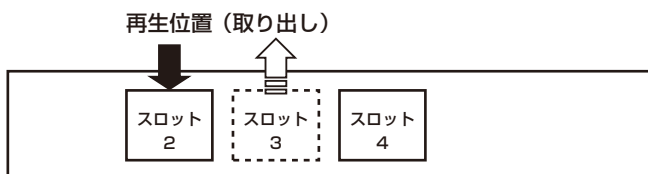
再生位置より前のスロットにP2カードを挿入した例:



再生順: スロット2→スロット4→スロット6→スロット1

再生中にアクセスしていないP2カードを抜いて連続再生の対象から外したり、次の連続再生対象として新たなP2カードを挿入するための空きスロットにすることができます。

再生位置より後ろのスロットのP2カードを取り出した例:

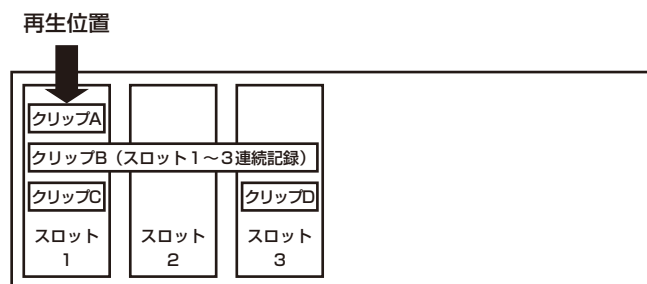


再生順: スロット2→スロット4

通常はスロット順に再生が行われますが、複数スロットのP2カードに連続記録されたクリップの再生が始まると、スロットにまだ再生できるクリップが残っていても連続記録されたクリップを先に再生してから残りのクリップが再生されます。

複数スロットのP2カードに連続記録したクリップが存在する例:

(クリップの記録順はA→B→C→D)



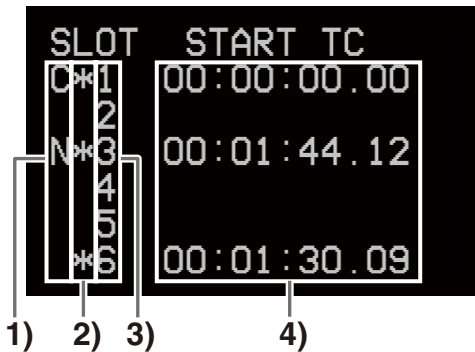
再生順: クリップA → B → C → D

◆NOTE:

- スロット3のカードのクリップBを再生中にスロット1のカードを一度抜いて再度挿入すると、クリップBの残り、クリップDの順に再生したあと、クリップBのスロット1の部分が再度再生されます。

■ つなぎ再生中の情報表示

- 再生中にPROPボタン(SHIFT+TC PRESET)を押している間は、次の画面が表示されます。



1) C(Current)、N(Next)表示

再生中クリップのP2カードスロットの行にC、次に再生対象となるP2カードスロットの行にNが表示されます。

2) *表示

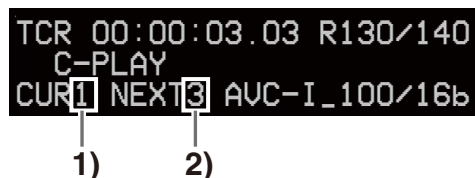
再生対象となるクリップが存在するP2カードスロットの行に*が表示されます。

3) P2カードスロット番号

4) スタートタイムコード

各P2カードスロットで最初に再生されるクリップの先頭タイムコードが表示されます。

- セットアップメニューNo.006(DISPLAY SEL)がT&S&Mのときは、スーパーインポーズ画面の3行目に現在および次の再生対象のP2カードスロット番号が表示されます。



1) 再生中のクリップのP2カードスロット番号

2) 次に再生対象となるP2カードスロット番号

次の再生対象がない場合は“-”が表示されます。

◆NOTE:

- 再生開始時にサムネール画面上のカーソル位置より前にあるスロットまたはクリップは連続再生対象に含まれません。
- 再生中はSTOPボタンおよびSTILL/PAUSEボタン以外は無効となります。メニュー[THUMBNAIL]-[SETUP]-[STOP MODE]がSTAYのときは、その位置で一時停止状態となり、PLAYボタンで再生を継続できます。
- SPANNED表示のサムネールにカーソルがある場合には再生できません。
- クリップ内の再生開始位置は、メニュー[THUMBNAIL]-[SETUP]-[PB POSITION]に従います。
- 再生中にP2カードアクセスLEDがオレンジ点滅しているP2カードは抜かないでください。
- 再生中に未フォーマットやエラーが発生していたり、エラークリップの存在するP2カードを挿入したり、短時間に抜き差しを繰り返すと再生が停止する可能性がありますので行わないでください。
- 再生対象のP2カードに移行する直前および移行中に次の再生対象になるスロットにP2カードを挿入した場合には、その挿入したP2カードはスロット一巡後に再生対象となることがあります。

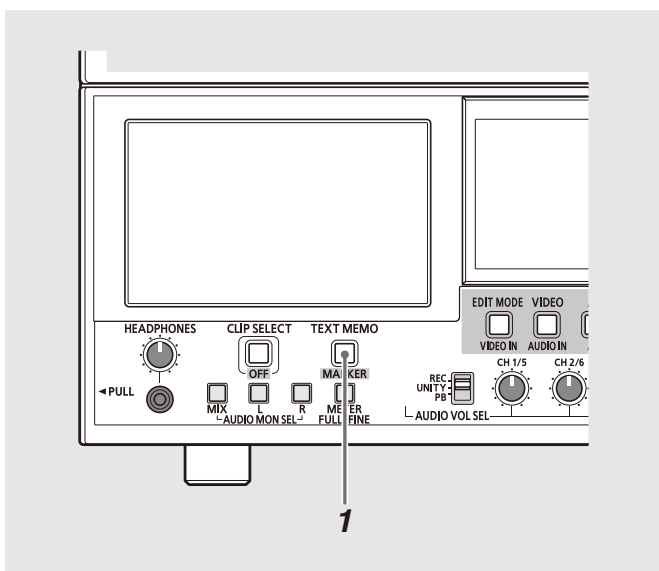
テキストメモやショットマークを付加する

クリップの特定の箇所を区別するために、クリップにテキストメモを付加することができます。また、他のクリップと区別するために、クリップにショットマークを付加することができます。ただし、書き込み禁止スイッチがPROTECTになっているカードには付加できません。

テキストメモを付加する

テキストメモを付加すると、映像を再生中にNEXT / PREVボタンを押して、テキストメモの位置にシークすることができます。

→「セットアップメニューNo.103(SEEK SEL)」(176 ページ)を参照。



1 記録・再生・サムネール表示中にTEXT MEMOボタンを押す

- 記録・再生中にこのボタンを押すと、押したときの位置にテキストメモが付加されます。
- サムネール画面を表示中にこのボタンを押すと、クリップのサムネール(通常は先頭)の位置にテキストメモが付加されます。

◆NOTE:

- テキストメモは、1クリップに最大100個付加できます。
- 再生中にTEXT MEMOボタンを押したときに、再生画が一瞬止まる場合がありますが故障ではありません。
- LOOP REC中、またはVFR ONでの記録中は、テキストメモの記録はできません。

テキストメモ位置から再生する

1 THUMBNAILボタンを押す

液晶モニターにサムネール画面が表示されます。

- ### 2 MENUボタン押し、サムネールメニューより [THUMBNAIL] - [TEXT MEMO CLIPS]を選択する
- サムネール画面上段には、テキストメモが付加されたクリップのサムネールが表示されます。サムネール画面下段には、カーソルで選択されているクリップのテキストメモに関する情報が表示されます。



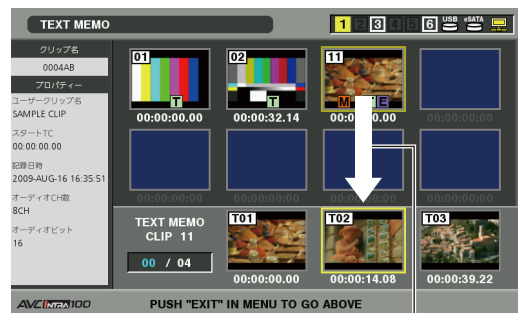
サムネール表示部
テキストメモクリップの選択数(青色)と総数(白色)を表示
テキストメモが関連付けられた静止画像を表示

◆NOTE:

- SYSTEM FREQ設定と異なるAVC-Intraクリップでは、テキストメモクリップの表示時に、下段に表示されるテキストメモ位置のサムネールが表示されずに [] となる場合があります。

3 カーソルを、再生したいテキストメモのあるクリップに合わせ、SETボタンを押す

カーソルがサムネール画面下段に移ります。



カーソルが移動します。

4 カーソルが下段にある状態のまま、十字カーソル左右(◀/▶)ボタンで、カーソルを再生したいテキストメモのサムネールに合わせ、PLAYボタンを押す
カーソルが合わされたテキストメモのタイムコード位置から再生します。

再生中にSTOPボタンを押して止めたり、クリップの終端で再生が終了すると、サムネール画面に戻り、再生を開始したテキストメモのサムネールにカーソルは戻ります。MENUボタンを押し、EXITを選択するか、EXITボタンを押すと、カーソルがサムネール画面の上段に戻ります。

◆NOTE:

- 再生中はSTOPボタン以外は無効になります。

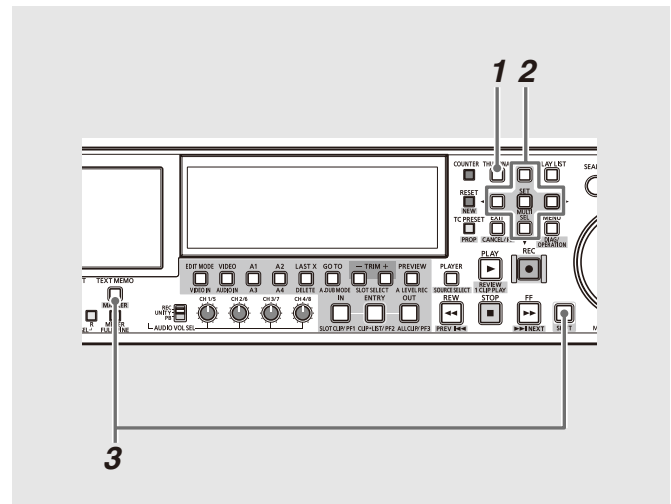
テキストメモを削除する

サムネール画面をテキストメモ表示に変更すると、テキストメモの削除を行うことができます。

- 1** サムネールをテキストメモ表示に変更する
- 2** 十字カーソルボタンでテキストメモを削除するサムネールへ移動し、SETボタンを押す
カーソルが下段に移ります。
- 3** 削除したいテキストメモのサムネールを選択した後に、メニューから[DELETE]を選択する
- 4** 確認で[YES]を選択する
テキストメモが削除されます。

ショットマークを付加する

ショットマークを付加すると、他のクリップと区別することができます。



- 1** サムネール画面を表示する
- 2** 十字カーソルボタンで、対象のクリップにカーソルを合わせる
- 3** SHIFTを押しながらTEXT MEMOボタンを押す
ボタンを押すたびにショットマークインジケータのON / OFFが切り替わります。

◆NOTE:

- 複数のP2カードにまたがるクリップに対してショットマークを付加または削除するときは、そのクリップが記録されたすべてのP2カードを挿入した状態で行ってください。
- LOOP REC中は、ショットマークの付加、削除はできません。

クリップをコピーする

クリップを、任意のP2カードスロットのP2カードやハードディスク、FTPサーバーにコピーできます。

◆NOTE:

- コピー中に電源をOFFにしたり、カードを抜き差ししたりしないでください。不良クリップができます。不良クリップができてしまった場合は、クリップを削除してから、再度コピーを行ってください。
- 不完全クリップは連結した後でコピーしてください。

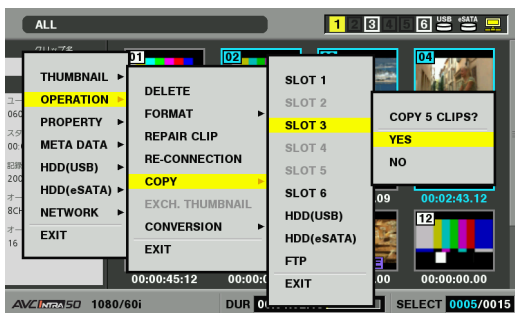
1 サムネイル画面を表示する

2 コピーするクリップを選択する

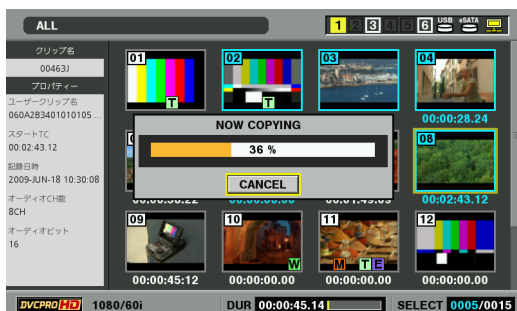
3 MENUボタンを押す

4 十字カーソルボタンで[OPERATION] - [COPY]のリストからコピー先にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

複数のクリップを選択していたときは、SETボタンを押した後に選択しているクリップ数が表示されます。コピー先がHDDやFTPの場合は、コピー先の詳細を選択します。HDDやFTPの詳細は→「本機にハードディスクを接続して利用する」(117ページ)、→「本機をネットワークに接続して利用する」(130ページ)を参照。



5 [YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す クリップのコピーが開始されます。



◆NOTE:

- 途中でコピーを中止するには、SETボタンまたはCANCEL (SHIFT+EXIT) ボタンを押してキャンセルしてください。途中までコピーされたコピー先のクリップは削除されます。
- コピー先に以前コピーするなどした同一クリップ(GLOBAL CLIP IDが同じ)が存在するときは、「OVER WRITE」と表示されます。上書きを行うときは[YES]を、コピーを行わないときは[NO]を選択し、SETボタンを押してください。

6 完了メッセージが表示されたらOK(SETボタン)を押す



◆NOTE:

- 次のエラーメッセージが表示されたときは、コピーは行われません。
 - 「LACK OF REC CAPACITY」
コピー先の記録容量が不足しているため、コピーは行われません。
 - 「UNKNOWN CONTENTS FORMAT!」
選択したクリップに不良クリップが含まれているため、コピーは行われません。
 - 「NO COPY TO SAME CARD!」
同一カードへコピーしようとしたため、コピーは行われません。
 - 「TOO MANY CLIPS!」
選択したクリップが多すぎるため、コピーは行われません。
- テキストメモ下段でテキストメモ選択中にコピーを行うと、選択したテキストメモ位置とその次にあるテキストメモの区間をコピーします。選択したテキストメモの後ろにテキストメモがない場合は、クリップの最後までをコピーします。

クリップ音声を変換する

AVC-Intraフォーマットのクリップの音声を16ビットと24ビット間で変換して、P2カードやハードディスクに保存できます。

◆NOTE:

- 変換中に電源をOFFにしたり、カードを抜き差ししたりしないでください。不良クリップができます。
- 不良クリップができてしまった場合は、クリップを削除してから、再度変換を行ってください。
- 不完全クリップを変換することはできませんが、変換後のクリップはリコネクトできません。
- 変換対象に不良クリップまたは不明クリップが含まれている場合には変換は実行されません。
- 16ビット 8chのクリップを変換すると、24ビット 8chのクリップができますが、ch5からch8の24ビット音声は本機では再生できません。
- 16ビットのクリップを24ビットに変換するとクリップのデータ量が増加するため、同じ容量の別のカードに格納できない場合があります。

1 P2カードまたはハードディスクのサムネール画面を表示する。

→ハードディスクのサムネール画面に関しては「ハードディスクのクリップのサムネール表示」(125ページ)を参照。

2 変換するクリップを選択する

◆NOTE:

- 次のクリップは変換対象にならず、選択しても無視されます。
 - AVC-Intra100、AVC-Intra50以外のフォーマットのクリップ
 - オーディオチャンネル数が2、4、8以外のクリップ
 - オーディオチャンネル間でクリップの長さ(デュレーション)が異なる場合
 - 50P/60Pのフォーマットでクリップの長さ(デュレーション)が奇数の場合
 - オーディオチャンネル間で16ビットと24ビットが混在している場合

3 MENUボタンを押す

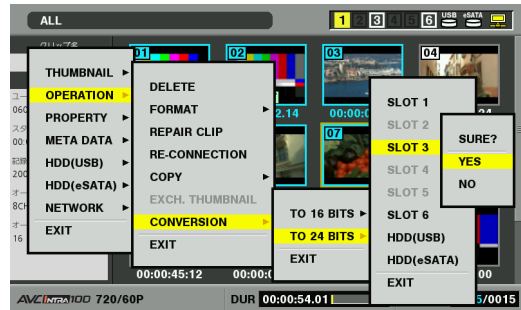
4 十字カーソルボタンで[OPERATION]—

[CONVERSION]のリスト先から変換したいビット数に応じて[TO 16 BITS]もしくは[TO 24 BITS]にカーソルを合わせ、さらにリストからコピー先にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

選択したクリップの音声ビット数に変換先ビット数と同じ場合は変換されません。

◆NOTE:

- ハードディスク上のクリップを変換する場合、保存先はP2カードのみとなります。



5 [YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す クリップの変換が開始されます。



変換完了後、変換したクリップ数が表示されます。

◆NOTE:

- 途中で変換を中止するには、SETボタンまたはCANCEL (SHIFT + EXIT) ボタンを押してキャンセルしてください。ただし、変換が完了したクリップは削除されずに残ります。

6 完了メッセージが表示されたらOK (SETボタン)を押す



◆NOTE:

- 次のエラーメッセージが表示されたときは、変換は行われません。
 - 「LACK OF REC CAPACITY」
変換先の記録容量が不足しているため、変換は行われません。
 - 「UNKNOWN CONTENTS FORMAT!」
選択したクリップに不良クリップもしくは不明クリップが含まれているため、変換は行われません。
 - 「TOO MANY CLIPS!」
選択したクリップが多すぎるため、変換は行われません。
 - 「NO CONVERTIBLE CLIP」
変換可能なクリップが含まれていません。

クリップを削除する

不要なクリップは、次の操作でP2カードから削除できます。

- 1 サムネイル画面を表示する
- 2 削除するクリップを選択する
- 3 MENU ボタンを押す
- 4 十字カーソルボタンで[OPERATION] - [DELETE]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



- 5 [YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
選択したクリップがすべて削除されます。

◆NOTE:

- 3~4の操作の代わりに、DELETE (SHIFT+LAST X) ボタンを押してもクリップを削除できます。
- 途中で削除を中止するには、SETボタンまたはCANCEL (SHIFT+EXIT) ボタンを押してキャンセルしてください。途中まで削除されたクリップはキャンセルしても戻りません。

クリップを修復する・連結する

不良クリップの修復

記録中、急に電源が切れるなどの原因で発生した、不具合のあるクリップには不良クリップインジケータ(黄色の[X])が表示されます。不具合のあるクリップは、次の操作で修復できます。

- 1 サムネール画面を表示する
- 2 修復する不良クリップを選択する
- 3 MENUボタンを押す
- 4 十字カーソルボタンで、[OPERATION] - [REPAIR CLIP]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



- 5 [YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

◆NOTE:

- 壊れ方によっては修復できないときがあります。そのときは赤色の[X]が表示されます。

不完全クリップの連結

複数のP2カードにまたがって記録されているクリップが連続したクリップとして認識されず、不完全クリップ(!インジケータ)になることがあります。このとき連結機能を使って、連続したクリップ(元の連結したクリップ)に復元することができます。

◆NOTE:

不完全クリップは以下のようなときにできます。

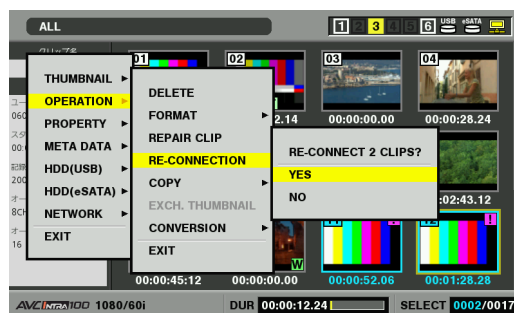
- 複数のP2カードに記録されたクリップを、P2カード毎に別々にコピーしたとき。
- 複数カードに記録されたクリップを、カード毎に別々にハードディスクへコピー後、P2カードへ書き戻したとき。
- DVCPRO HDまたはAVC Intra100で約5分以上(DVCPRO50またはAVC Intra50では約10分、DVCPRO、DVは約20分以上)の長いクリップをハードディスクへコピー後、P2カードに書き戻したとき。

- 1 サムネール画面を表示する
- 2 連結する不完全クリップを選択する

◆NOTE:

- 通常、不完全クリップマークのサムネールは、並んで表示されています。

- 3 MENUボタンを押す
- 4 十字カーソルボタンで[OPERATION] - [RE-CONNECTION]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



- 5 [YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

◆NOTE:

- 3つ以上に分かれた不完全クリップの一部分のクリップだけを連結しても、元のクリップを構成するすべてのクリップを連結するまでは、不完全クリップマークが付いたままになります。

クリップの情報を表示・修正する

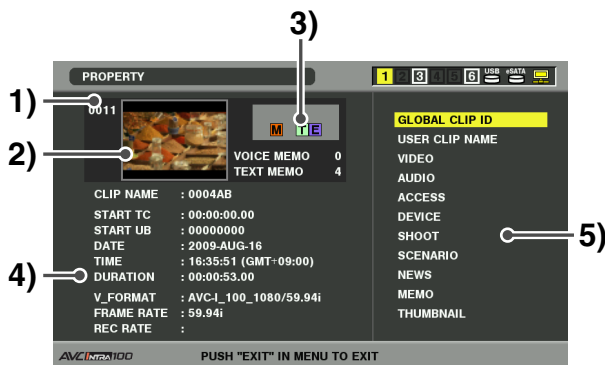
クリップ情報の表示

クリップの詳細な情報を画面に表示して確認できます。

- 1 サムネール画面を表示する
- 2 十字カーソルボタンで、対象のクリップにカーソルを合わせる
- 3 MENUボタンを押す
またはメニューを閉じた状態で、PROP (SHIFT + TC PRESET) ボタンを押す
- 4 十字カーソルボタンで[PROPERTY] - [CLIP PROPERTY]にカーソルを合わせてSETボタンを押す



選択したクリップに関する情報が表示されます。



- 1) クリップ番号
- 2) サムネール

3) クリップ付加情報

クリップに挿入された各種インジケーター、付加されているテキストメモやボイスメモの数が表示されます。また、クリップが記録されたP2カードに、ライトプロテクトがかかけられているとき、マークが表示されます。

◆NOTE:

- **V** ボイスメモ / インジケーター
ボイスメモが付加されたクリップに表示されます。クリッププロパティモードのときのみ表示されます。
- 本機ではボイスメモの記録 / 再生は行えません。

4) クリップ情報

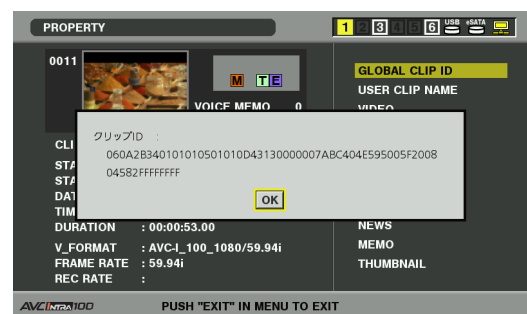
次の情報が表示されます。

CLIP NAME:	クリップ名
START TC:	記録開始時のタイムコード
START UB:	記録開始時のユーザーズビットの値
DATE:	記録した日付
TIME:	記録開始時の時刻
DURATION:	クリップの長さ
V_FORMAT:	クリップの記録フォーマット
FRAME RATE:	再生フレームレート
REC RATE:	記録フレームレート

5) クリップメタデータ

クリップの詳細情報(クリップメタデータ)を参照するための項目が表示されます。

5 必要に応じてクリップメタデータの内容を参照する



十字カーソルボタンでクリップメタデータの項目にカーソルを合わせ、SETボタンを押すと、次の情報が表示されます。

GLOBAL CLIP ID:	グローバルクリップID
CLIP ID:	(同じ番号が他のクリップに付くことがない、世界で唯一の番号)

USER CLIP NAME:	ユーザーが付けることのできるクリップネーム 通常はGLOBAL CLIP IDが入っています。
VIDEO:	ビデオ信号方式など (フレームレート、プルダウン、アスペクト比)
AUDIO:	オーディオの各チャンネル方式など (サンプリングレート、ビットレート)
ACCESS:	最終更新日など (作成者、作成日、最終更新日、最終更新者)
DEVICE:	記録した機器のシリアル番号など (機材メーカー名、シリアル番号、モデル名)
SHOOT:	記録開始、終了した日付など (撮影者、撮影開始日、撮影終了日、撮影地情報、高度、経度、緯度、撮影地情報源、撮影地)
SCENARIO:	番組名、シーンNo. など (プログラム名、シーン番号、テイク番号)
NEWS:	レポーター、取材対象など (レポーター、取材目的、取材対象)
MEMO:	TEXT MEMOの番号、位置、名前、テキスト内容 (NO.、記録位置、メモ入力者、テキスト情報)
THUMBNAIL:	サムネイルの元となる画像のフレーム位置やサイズ(記録位置、幅、高さ)

◆NOTE:

- OFFSETについては、先頭からのフレーム数で表します。
- テキスト番号は左右カーソルで動かします。

◆NOTE:

- 表示の言語はメタデータ表示の言語設定に従います。
- 対応していない文字が入力されていた場合は正しく表示されません。

6 MENUからEXITを選択するかEXITボタンを押して、処理を終了する

クリップメタデータの修正

クリップのメタデータを修正することができます。

1 クリップのメタデータを表示する

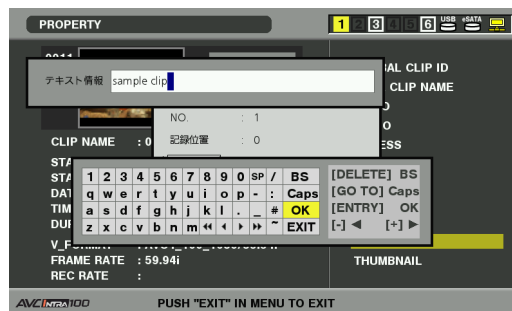
2 十字カーソルボタンで、修正したいメタデータにカーソルを合わせSETボタン押す

変更可能なメタデータは、次の図の「テキスト情報」のように表示されています。



3 十字カーソルボタンで、変更項目へ移動し、SETボタンを押す

- メタデータ修正の画面(ソフトキーボード)が表示されます。また、このときにUSBキーボードも利用できます。
- キーボードでメタデータを修正します。
→「キーボードを利用する」(33ページ)



4 修正終了後[OK]を選択する(またはENTRYボタンを押す)

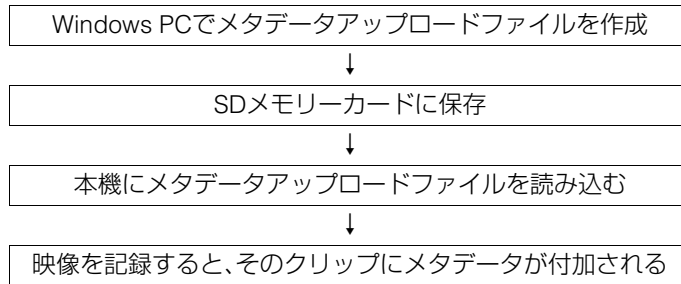
- 修正したメタデータをクリップへ保存し、メタデータの表示へ戻ります。
- EXITを選択すると入力を取り消し、元へ戻ります。

◆NOTE:

- 緯度および経度を削除する場合は、高度に空白を設定してください。単独では削除できません。
- [!]が付いたクリップは、メタデータを修正することができませんので、不足クリップの入ったP2カードを挿入してください。
- MEMO項目は、100文字以上添付されている場合は修正することができません。

クリップにメタデータを付加する

撮影者名やレポーター名、撮影場所、テキストメモなどの情報を記述したメタデータアップロードファイルを、SDメモリーカードに保存しておく、それを読み込んで、クリップメタデータとして記録することができます。



メタデータアップロードファイルの準備

メタデータアップロードファイルは、パーソナルコンピューター上でP2ビューアーを使用して作成します。P2ビューアーはP2カードに記録されたクリップを、Windows PCで操作するためのアプリケーションソフトで、下記のWebサイトで無償配布しています。
日本語：<http://panasonic.biz/sav/>
英語：<http://pro-av.panasonic.net/>
P2ビューアーをパーソナルコンピューターにインストールし、メタデータアップロードファイルを作成してSDメモリーカードに書き込んでください。

◆NOTE:

- P2ビューアーは最新アップデート版をご使用ください。
- メタデータアップロードファイルの作成方法については、P2ビューアーのヘルプを参照してください。
- メタデータアップロードファイルは、本機でフォーマットしたSDメモリーカードに書き込んでください。
→「SDメモリーカードをフォーマットする」(69ページ)を参照。

メタデータを付加するための設定

メタデータアップロードファイルを本機に読み込むための設定を行います。

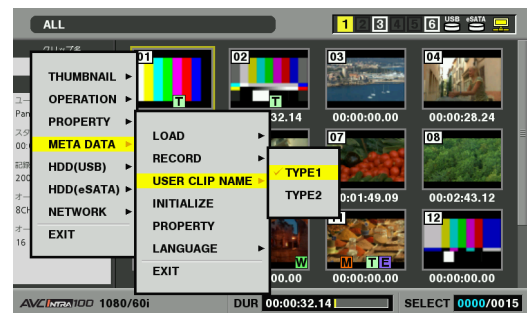
USER CLIP NAMEの記録方法の選択

USER CLIP NAMEの記録方法を設定します。

1 サムネール画面を表示する

2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで[META DATA] - [USER CLIP NAME]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



4 [TYPE1]または[TYPE2]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

記録方法	記録されるUSER CLIP NAME
クリップメタデータ 利用する	TYPE1 読み込んだメタデータ 設定値
	TYPE2 読み込んだメタデータ 設定値+カウンター値
クリップメタデータ 利用しない*1	TYPE1 GLOBAL CLIP IDと同じ
	TYPE2 CLIP NAMEと同じ

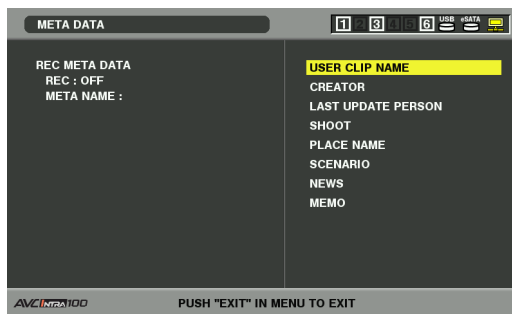
*1メタデータアップロードファイルを読み込んでいるが、[META DATA] - [RECORD]が[OFF]の場合

5 MENUボタンを押して、処理を終了する

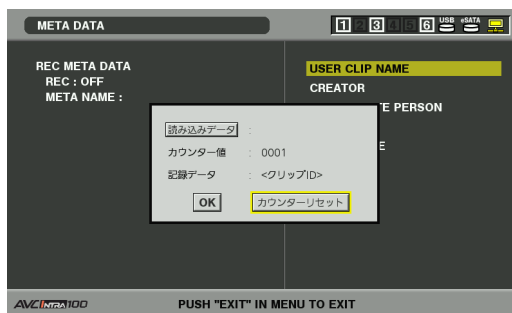
メタデータの表示言語を設定する

メタデータを表示するときの表示言語を設定します。

- サムネイル画面を表示する
- MENUボタンを押す
- 十字カーソルボタンで[META DATA] - [LANGUAGE]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



- 十字カーソルボタンで[カウンターリセット]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



カウンター値が1にリセットされます。

- 表示言語にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
XXは初期値を表す。

ENGLISH:	英語
JAPANESE:	日本語

◆NOTE:

- 各設定で対応していない文字などがある場合は、正しく表示されません。

- MENUボタンを押して、処理を終了する

カウンター値について

カウンター値は、4桁の数字で表示されます。カウンター値は、USER CLIP NAMEの記録方法を[TYPE2]に設定してクリップメタデータファイルを読み込んだとき、記録を行って新しいクリップを生成するたびに1ずつ増加します。

■カウンター値をリセットするには

カウンター値は、次の操作でリセットできます。

- サムネイル画面を表示する
- MENUボタンを押す
- 十字カーソルボタンで[META DATA] - [PROPERTY] - [USER CLIP NAME]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

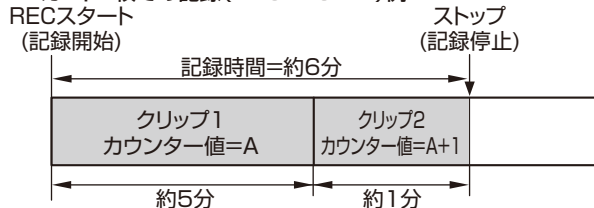
- EXITボタンを押して、処理を終了する

■4 GB超でのUSER CLIP NAMEのカウンター値インクリメントについて

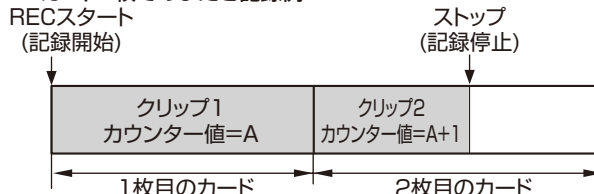
次の場合は、1ショットが複数のクリップとして記録され、カウンター値も自動的に1ずつ増加して記録されます。

- 本機で8 GB以上のP2カードを使用して、1回の連続記録時間が一定時間を超えるとき。
→詳しくは、「4 GB超でのクリップ分割について」(36ページ)を参照。
- 1回の記録がカードをまたいで記録されたとき。

P2カード1枚での記録(DVCPRO HD)例:



P2カード2枚でのまたぎ記録例:



なお、P2機器でクリップのサムネイル表示およびプロパティ表示を行ったときは、クリップ1のサムネイルおよびカウンター値が表示されます。

メタデータ設定値の読み込み

次の操作でSDメモリーカードからメタデータ設定値を読み込みます。

- 1 メタデータアップロードファイルを保存しているSDメモリーカードを本機に挿入する
- 2 サムネール画面を表示する
- 3 MENUボタンを押す
- 4 十字カーソルボタンで[META DATA] - [LOAD]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
SDメモリーカード内のメタデータアップロードファイルのメタデータ名が表示されます。



◆NOTE:

- メタデータ名表示中に十字カーソル右(▶)ボタンを押すとファイル名の表示に切り替えることができます。十字カーソル左(◀)ボタンを押すとメタデータ名の表示へ戻ります。
- 日本語設定の場合でも、ファイルの一覧表示のメタデータ名にASCII表示文字以外は表示されず「*」で表示されます。ただしカーソルをファイルに合わせると右側に日本語で表示できます。

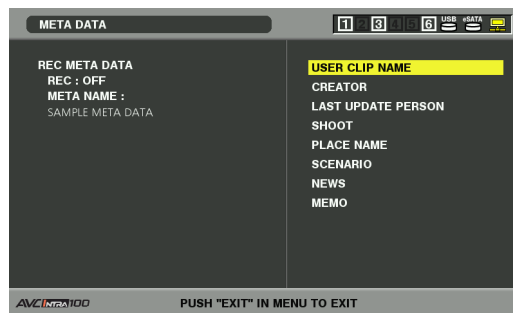
- 5 十字カーソルボタンで、読み込むファイルにカーソルを合わせて、SETボタンを押す
- 6 [YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
メタデータが読み込まれます。
- 7 MENUボタンを押して、処理を終了する

読み込んだメタデータの確認および修正

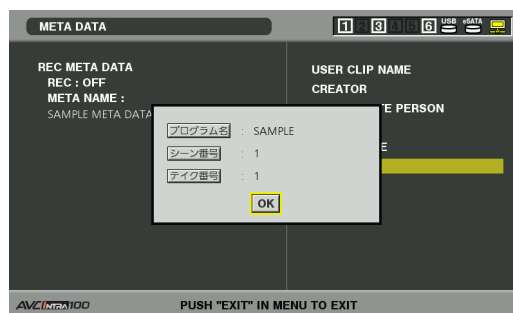
SDメモリーカードから読み込んだメタデータの内容を確認できます。

- 1 THUMBNAILボタンを押す
液晶モニターにサムネール画面が表示されます。

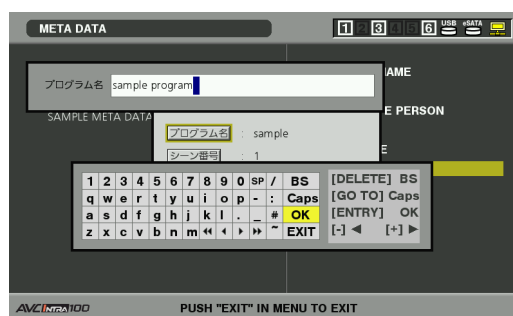
- 2 MENUボタンを押し、サムネールメニューから[META DATA] - [PROPERTY]と選択する
下記のような画面が表示されます。



- 3 十字カーソルボタンでカーソルを動かし、SETボタンを押す
読み込んだメタデータの各設定内容が確認できます。



- 4 メタデータの各設定内容を確認中に、十字カーソルボタンでカーソルを動かし、設定内容を変更したい項目に合わせてSETボタンを押す
ソフトキーボード画面が表示され、設定内容を変更することができます。また、このときにUSBキーボードも利用できます。
→「キーボードを利用する」(33ページ)を参照。



◆NOTE:

〈設定できるメタデータの種類〉

- 十字カーソルボタンで確認したいメタデータの項目にカーソルを合わせ、SET ボタンを押すと、情報が表示されます。

USER CLIP NAME:	読み込んだユーザークリップ名、カウンター値、記録されるデータ
CREATOR:	作成者
LAST UPDATE PERSON:	最終更新者
SHOOT:	撮影者
PLACE NAME:	撮影地
SCENARIO:	プログラム名、シーン番号、テイク番号
NEWS:	レポーター、取材目的、取材対象
MEMO:	メモ入力者、テキスト情報

- 内容を確認できたら、EXITまたはSETボタンを押します。情報が表示されていた画面が消えます。
- 設定変更を終了するときは[OK]を選択します。

5 EXITを押し、メタデータの確認画面を終了する

メタデータを削除する

次の操作で本機内部に保存されているメタデータを削除できます。

- 1 サムネール画面を表示する
- 2 MENUボタンを押す
- 3 十字カーソルボタンで[META DATA] - [INITIALIZE]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



- 4 確認画面で[YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
メタデータが削除されます。

- 5 MENUボタンを押して、処理を終了する

メタデータを付加したクリップの記録

クリップを記録するときに、読み込んだメタデータをクリップに付加します。

- 1 サムネール画面を表示する
- 2 MENUボタンを押す
- 3 十字カーソルボタンで[META DATA] - [RECORD]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



- 4 [ON]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
この設定により、読み込んだメタデータを映像記録時に同時に記録します。また、USER CLIP NAMEは設定した記録方法に従ってメタデータとして付加されます。
- 5 MENUボタンを押して、設定を終了する
- 6 本機で映像を記録する

◆NOTE:

- 手順4で[OFF]に設定したときは、クリップにメタデータは付加されません。

SD/SDHCメモリーカードを利用する

本機ではセットアップメニューの保存や記録用メタデータの保存およびAVCHD記録*1にSD/SDHCメモリーカードも利用できます。

*1 AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)装着時

◆NOTE:

- 各機能については、それぞれの説明を参照してください。
 - メタデータの読み込み
→「クリップにメタデータを付加する」(65ページ)を参照。
 - セットアップメニューの保存と読み出し
→「セットアップ」(162ページ)を参照。
 - AVCHDの記録と再生
→「AVCHDオプションボードを使用する」(149ページ)を参照。
- SDメモリーカードのアクセスランプは、AVCHDとして記録再生中はオレンジ色ですが、以下の場合は緑色で点灯します。
 - メタデータの読み込み中
 - セットアップメニューの保存と読み出し中
 - P2カードのサムネール画面、およびセットアップメニューからのフォーマット中
 - P2カードのサムネール画面のSDメモリーカードプロパティ情報読み出し中

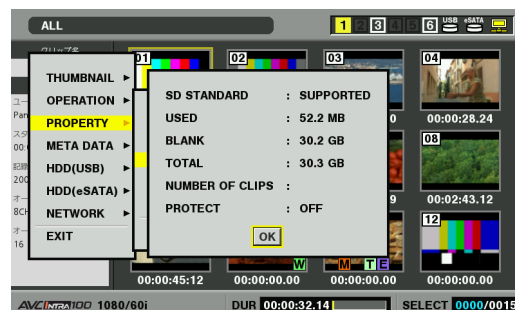
SDメモリーカードの各種情報を表示する

SDメモリーカードの使用状況を画面に表示して確認できます。

- サムネール画面を表示する
- MENUボタンを押す
- 十字カーソルボタンで[PROPERTY] - [DEVICES] - [SD CARD]にカーソルを合わせて、SETボタンを押す



カードの状態が、次のように表示されます。



SD STANDARD:	SDメモリーカードがSD/SDHC準拠でフォーマットしているか表示する。
	SUPPORTED:SD/SDHC準拠
	NOT SUPPORTED:SD/SDHC非準拠
USED:	使用済み容量[バイト]
BLANK:	空き容量[バイト]
TOTAL:	全容量[バイト]
NUMBER OF CLIPS:	プロキシーやP2カムにてSDメモリーカードへクリップコピーを行ったときに、SDメモリーカードに入っているクリップ数
PROTECT:	書き込み禁止状態

- 本機ではプロキシーの記録はできません。

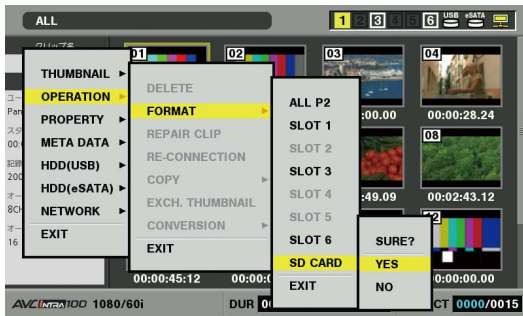
- SETボタンを押した後、MENUボタンを押して、処理を終了する

SDメモリーカードをフォーマットする

次の操作でSDメモリーカードスロットのSDメモリーカードをフォーマットできます。

- サムネール画面を表示する
- MENUボタンを押す
- 十字カーソルボタンで[OPERATION] - [FORMAT] - [SD CARD]を選択する

4 [YES]を選択しSETボタンを押す



フォーマットが開始されます。

◆NOTE:

- フォーマットしないときは[NO]を選択し、SETボタンを押します。
- フォーマットにより消去されたデータは復元することができませんので、必ずデータを確認した後に実行してください。

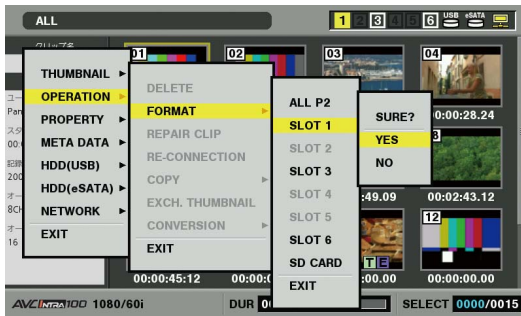
5 完了メッセージが表示されたらOK(SETボタン)を押す

6 MENUボタンを押して、処理を終了する

P2カードをフォーマットする

特定のP2カードをフォーマットする

- 1 サムネール画面を表示する
- 2 MENUボタンを押す
- 3 十字カーソルボタンで [OPERATION] – [FORMAT] – [SLOT n](フォーマットしたいP2カードが挿入されたP2カードスロット番号)にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



- 4 [YES]を選択しSETボタンを押す
フォーマットが開始されます。

◆NOTE:

- フォーマットしないときは [NO] を選択し、SET ボタンを押します。

- 5 完了メッセージが表示されたら OK (SET ボタン) を押す

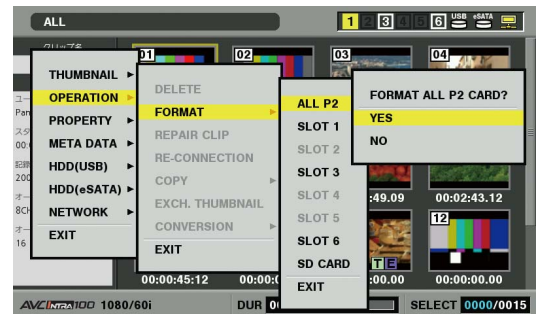
◆NOTE:

- 続けて別のP2カードスロットのP2カードやSDメモリーカードをフォーマットするときは、操作手順3～5の操作を繰り返します。

- 6 MENUボタンを押して、処理を終了する

全てのP2カードをフォーマットする

- 1 サムネール画面を表示する
- 2 MENUボタンを押す
- 3 十字カーソルボタンで [OPERATION] – [FORMAT] – [ALL P2]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



- 4 [YES]を選択しSETボタンを押す
フォーマットが開始されます。

◆NOTE:

- フォーマットしないときは [NO] を選択し、SET ボタンを押します。

- 5 完了メッセージが表示されたら OK (SET ボタン) を押す

- 6 MENUボタンを押して、処理を終了する

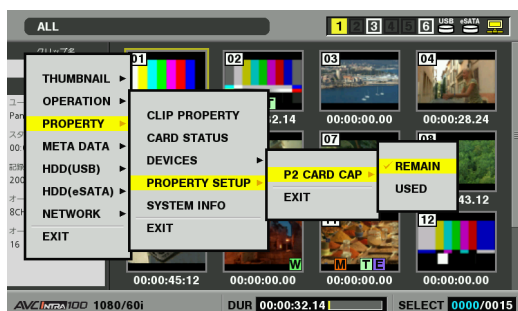
カードの状態を確認する

P2カードスロットの状態やP2カードの使用状況など、カードの情報を画面に表示して確認できます。

表示する情報を指定する

P2カードの情報を表示するときに、残容量と使用済み容量のどちらの表示を行うのかを設定します。

- 1 サムネイル画面を表示する
- 2 MENUボタンを押す
- 3 十字カーソルボタンで[PROPERTY] - [PROPERTY SETUP] - [P2 CARD CAP]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



- 4 十字カーソルボタンで設定したい項目にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

REMAIN: 残容量表示(初期値)

USED: 使用済み容量表示

XXは初期値を表す。

- 5 MENUボタンを押して、処理を終了する

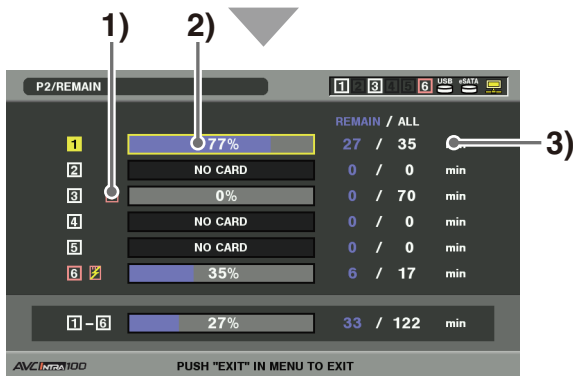
カードの状態に関する情報を表示する

前ページの操作で表示する情報を設定した後、次の操作で各P2カードスロットのP2カードの状態を確認できます。

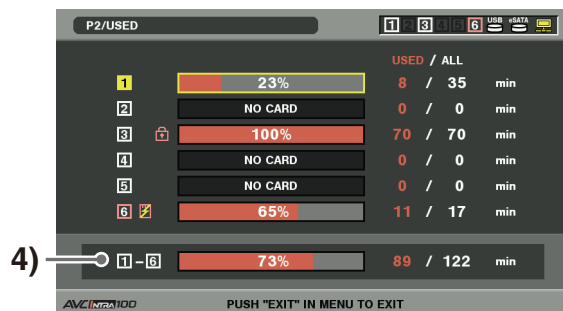
1 サムネイル画面を表示する

2 MENUボタンを押す

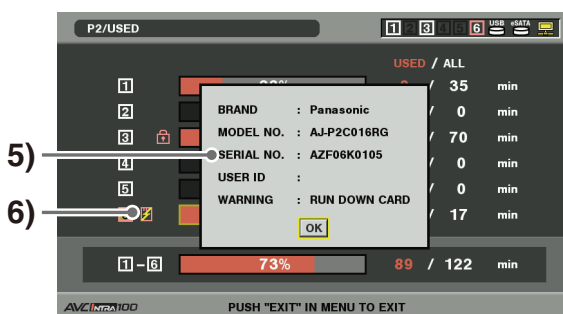
3 十字カーソルボタンで[PROPERTY] - [CARD STATUS]にカーソルを合わせて、SETボタンを押す P2カードの状態が表示されます。



または




4)



5)

6)

1)書き込み禁止マーク

P2カードに、ライトプロテクトがかかっているとき、マークが表示されます。

2)P2カード状態

記録残量表示のときは、P2カードの記録残量がメーターとパーセントで表示されます。
使用済み容量表示のときは、P2カードの使用容量がメーターとパーセントで表示されます。
また、カードの状態によって次のように表示されます。

FORMAT ERROR:	フォーマットされていないP2カードが挿入されている。
NOT SUPPORTED:	本機に対応していないカードが挿入されている。
NO CARD:	P2カードが挿入されていない。

3)P2カード残量(または使用容量) / 総容量

P2カードの記録残量(または使用容量) / 総容量が、分に換算して表示されます。分以下は切り捨て表示のため、P2カード毎の記録残量(または使用容量)の合計と総容量が一致しないことがあります。

4)スロット記録残量(または使用容量)合計

6つのP2カードスロットの記録残量(または使用容量)を総合計した数値が表示されます。

◆NOTE:

• ライトプロテクトがかかっているP2カードの空き容量は、空き容量の合計に含まれません。

5)P2カード詳細表示

P2カード状態表示のスロットにカーソルを合わせてSETボタンを押すと、P2カードのモデル番号などの詳細情報が表示されます。
もう一度SETまたはEXITボタンを押すと、詳細情報が消えます。

6)警告カードマーク

P2カードが以下の場合にこのマークが表示されます。
「RUN DOWN CARD」
P2カードの規定の書き換え回数を超えた場合
「DIR ENTRY NG CARD」
P2カードのディレクトリ配置が不正規の場合
警告内容はP2カード詳細表示で確認することができます。

4 EXITボタンを押して、処理を終了する

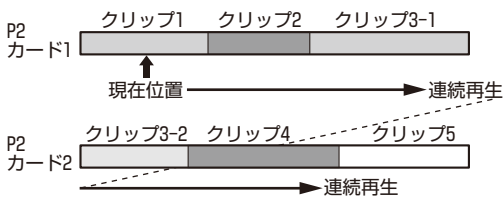
編集

プレイリストについて

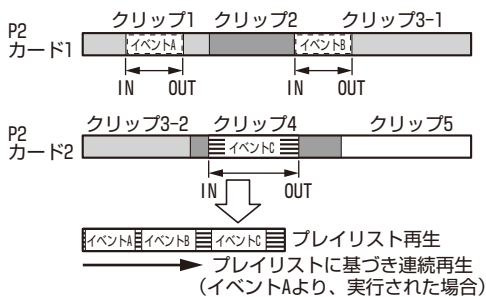
本機ではP2カードに記録されたクリップの再生したい音や映像部分をつなぎ合わせて再生リストを作成し、そのリストに従って再生を行うことで編集後の再生状態を実現します。この再生したい音や映像の単位をイベントといい、そのイベントをつなぎ合わせて作成した再生リストをプレイリストといいます。

クリップを直接操作しないため、編集結果をすぐに確認することができます。

通常の再生では、再生を開始した位置から最後のクリップまでが連続して再生されます。



プレイリストの再生では、クリップの必要な部分だけを連続再生します。



本機のプレイリストモードでは、このプレイリストを作成します。

◆NOTE:

- プレイリストは本機メモリーのプレイリスト領域に保存され、プレイリスト画面に切り替えるといつでも利用できます。また、必要に応じてプレイリストをP2カードに保存することができます。
- オーディオの追加記録を行うことができます。このときオーディオデータはプレイリストと同じP2カードに保存するため、あらかじめプレイリストもP2カードに保存しておく必要があります。
- ノンリニア編集を行った24PNのクリップは、プレイリストに使用しないでください。編集点が正しく登録されない場合があります。
- コピーを行った同一クリップを同時に複数使用し登録を行うと、誤認識することがありますので、同時に使用しないようにしてください。
- イベントは1トラックあたり最大100個作成できます。
- プレイリストの最大デュレーションは23:59:59:29です。
(ドロップフレーム表示のときには24:01:26.13、24PNのときには23:59:59:20)

編集の流れ

プレイリストモードにおいては、プレーヤーとレコーダーを使って、編集結果となるプレイリストを作成していきます。

プレーヤー

プレイリスト画面の左側の映像がプレーヤーのサムネールまたは再生画像となります。

通常は、P2カード内のクリップを使用しますが、ハードディスクや外部のREMOTE端子(RS-422A)で制御するように接続した外部のVTRなどの機器にも切り替えることができます。

→「プレイリスト画面各部の名称とはたらき」(77ページ)を参照。

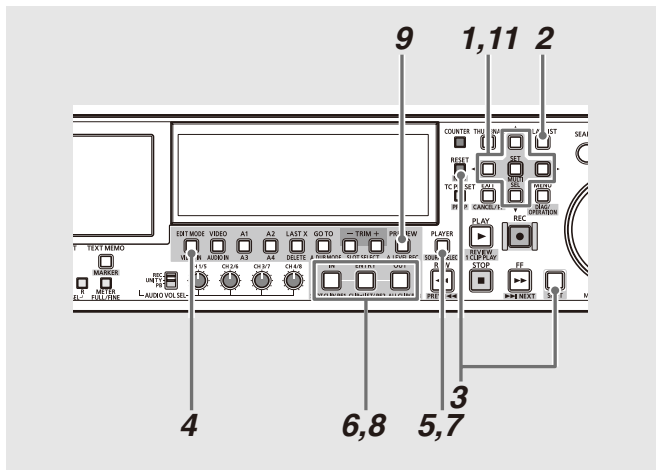
レコーダー

プレイリスト画面の右側の映像がレコーダーの再生画像、画面下部がそのタイムラインとなります。編集結果の再生確認や編集の状況を確認できます。

→「プレイリスト画面各部の名称とはたらき」(77ページ)を参照。

カット編集の流れ

カット編集についての操作の流れは次のようになります。



1 セットアップメニューで、プレイリスト編集の対象としたい、クリップのプレイリストフォーマットなどを決定する

→「プレイリスト作成の準備」(86ページ)を参照。

2 PLAY LISTボタンを押し、プレイリスト画面を表示する

3 NEW(SHIFT+RESET)ボタンを押し機器に保存されているプレイリストをクリアする

4 EDIT MODEボタンを押しOVERWRITEモードを選択し、合わせて全てのトラックを選択状態にする

5 PLAYERボタンを押し、プレーヤー(左)側の操作へ切り替える

プレーヤー操作中にはPLAYERボタンが点灯します。



6 プレーヤーの再生を行い、プレーヤーに対してIN点(IN+ENTRYボタン)、OUT点(OUT+ENTRYボタン)を設定し、クリップの必要な区間の指定を行う

7 PLAYERボタンを押し、レコーダー(右)側の操作へ切り替える

PLAYERボタンは消灯します。

8 レコーダーに既にイベントがありカットを追加する場合は、再生を行いIN+ENTRYボタンでIN点を設定する

手順3でプレイリストクリア後はレコーダーの先頭が自動的にIN点として設定されています。

9 PREVIEWボタンを押し、編集結果をプレビューして確認する

プレビューすると、編集した部分がタイムラインに追加表示されます。

10 手順5~9を繰り返し、カットをつなげる

11 最後に十字キー操作で先頭のイベントにカーソルを移動し、レコーダー側で再生を行う

プレイリスト通りの再生を行います。
必要に応じてエディットコピー(OPERATION - EDIT COPYメニュー)を使って、完成したプレイリストを元に、新たな1つのクリップを作成します。

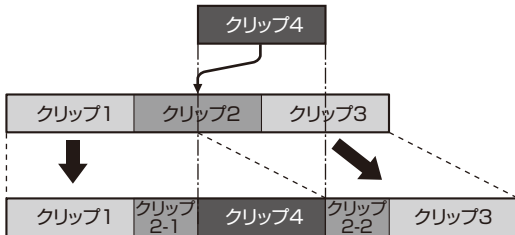
挿入編集モードと上書き編集モードについて

プレイリストモードにおけるイベントの追加方法には、挿入編集モード(ININSERT)と上書き編集モード(OVERWRITE)を選択できます。

EDIT MODEボタンで切り替えます。

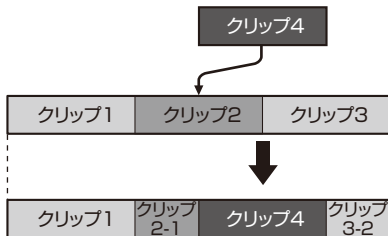
挿入編集モード

指定位置にイベントが追加挿入され、指定位置以降の元のイベントは挿入されたイベントの後ろへ移動します。プレイリスト全体のデュレーションは挿入された分長くなります。



上書き編集モード

上書き編集のときは、取り込んだイベントが指定位置から上書きされます。前後のイベントのデュレーションは変わりませんが、プレイリスト全体のデュレーションは変わりません。



また、その他の操作も、選択されている編集が挿入編集か上書き編集かによって、操作結果が異なります。

操作内容	挿入編集モード	上書き編集モード
イベント削除	削除したイベント以降のイベントが前へ移動	削除したイベント区間が無映像、無音声区間となる
トリム (拡げる)	拡げた分だけ以降のイベントが後ろへ移動	拡げた分だけ以降のイベントが上書きされる
トリム (縮める)	縮めた分だけ以降のイベントが前へ移動	縮めた分だけ前後のイベントが拡がる

無映像、無音声区間の扱いについて

上書き編集を行った場合などで、タイムラインにビデオやオーディオのない区間ができることがあります。再生した場合、ビデオがない区間は無映像(ブラック)、オーディオがない区間は無音声となります。編集素材のカードが挿入されていないなど、再生できないイベント区間も同じ動作になります。

◆NOTE:

- 無映像の区間があるときにエディットコピーを実行することはできません。ただし、無音声区間は実行可能です。

操作の取り消しと再実行について

プレイリストモードにおける編集操作は、直前の1回操作のみ取り消すこと(Undo)が可能です。また、取り消し後に再実行すること(Redo)も可能です。操作の取り消し、再実行はLAST Xボタンを押します。

◆NOTE:

- 下記の操作は取り消しと再実行を行うことができません。
 - OPERATIONメニュー以外のメニュー操作
 - プレイリスト名の変更 (OPERATION - CHANGE PLAYLIST NAME)
- プレーヤーとしてP2カード以外を選択した場合、3点編集による仮登録状態を取り消し後、再実行することはできません。
- 取り消し/再実行を行うと、イベントの選択が解除されます。
- イベントの登録やプレビューにより作成されたイベントは、操作の再実行後プレビューすることはできません。

イベント間のオーディオフィードについて

オーディオイベント間に次のようなフェード設定を行うことができます。設定はセットアップメニューNo.731(PB FADE)で切り替えます。

AUTO: オート	Vフェード設定 (前のオーディオがフェードアウトした直後に、次のオーディオがフェードイン)
CUT: カット	フェード設定なし

プレイリスト画面各部の名称とはたらき

プレイリスト GUIは次の図に示す画面で表され、以下の4つの要素によって構成されます。



プレーヤー画面

プレーヤー画面には、サムネールを表示するプレーヤーサムネール画面と、プレーヤーの映像を表示するプレーヤー再生画面があります*1。プレーヤーサムネール画面とプレーヤー再生画面の切り替えはTHUMBNAILボタンを押して切り替えます。

*1プレーヤー再生画面ではプレイリストフォーマットと異なるフォーマットのクリップは再生されません。プレーヤーサムネール画面では全クリップが表示されますが、異なるフォーマットなど再生できないクリップの番号は赤字で表示されます。

◆NOTE:

- A.DUBモードとなっている場合は、プレーヤー画面には映像は表示されず「A.DUB」の文字のみ表示されます。



プレーヤーサムネール画面



プレーヤー再生画面

1. プレーヤータイムコード表示

プレーヤーの再生位置のタイムコードなどを表示します。

- 表示内容

TCR:	プレーヤーのタイムコードが表示されます。
UBR:	プレーヤーのユーザズビットが表示されます。
CTL:	プレーヤーの先頭からの相対位置が表示されます。
IN:	プレーヤーのIN点が設定されている場合にINボタンを押している間、IN点のタイムコードが表示されます。
OUT:	プレーヤーのOUT点が設定されている場合にOUTボタンを押している間、OUT点のタイムコードが表示されます。
DUR:	プレーヤーのIN点、OUT点の両方が設定されている場合に、INボタンとOUTボタンを同時に押している間、IN点 - OUT点間のデュレーションを表示します。

◆NOTE:

- IN、OUTどちらかが設定されていない場合は設定されている点と現在位置までのデュレーションが示されます。

P2	: プレーヤーがP2カードの場合に表示します。
Ext	: プレーヤーが外部機器の場合に表示します。
LIVE	: プレーヤーが外部入力の場合に表示します。
HDD	: プレーヤーがハードディスクの場合に表示します。

2. プレーヤーサムネール状態表示

プレーヤーサムネールの表示状態を表します。

ALL、SAME FORMAT、SELECTED、MARKER、TEXT MEMO、SLOT nがあります。

3. プレーヤーサムネール表示

プレーヤーのサムネールを表示します。

クリップ番号、インジケーターなどの表示内容はサムネール表示と同じです。

→「サムネール画面各部の名称とはたらき」(44ページ)を参照。

4. プレーヤータイムバー表示

タイムバーの横幅全体が、プレーヤーの全長(合計デュレーション)を表します。タイムバーの背景色は、プレーヤーが操作状態になっている場合は明るい灰色となり、レコーダーが操作状態になっている場合は暗い灰色となります。

黄色のバー(|): 現在のおおよその再生位置に表示されます。

◆NOTE:

- プレーヤーが外部機器のときは、再生位置を示す黄色のバー(|)は表示されません。

緑色の三角(▶): プレーヤーのIN点が設定されている場合、IN点のおおよその位置に表示されます。

◆NOTE:

- プレーヤーが外部機器のときはIN点の位置にかかわらず、タイムバーの1/3の位置に表示されます。
- プレーヤーサムネールの状態をSELECTED CLIPS表示などに設定したとき、トリム操作時に対応するプレーヤーのクリップがその中に含まれない場合はタイムバーの左端に緑のバー(|)が表示されません。

赤色の三角(◀): プレーヤーのOUT点が設定されている場合、OUT点のおおよその位置に表示されます。

◆NOTE:

- プレーヤーが外部機器のときは、OUT点の位置にかかわらず、タイムバーの2/3の位置に表示されません。
- プレーヤーサムネールの状態をSELECTED CLIPS表示などに設定したとき、OUT点を設定したクリップがその中に含まれない場合は、タイムバーの右端に赤のバー(|)が表示されます。

5. プレーヤー再生画面表示

プレーヤーの再生中の映像が表示されます。

レコーダー画面

レコーダー画面は、プレイリストに登録されているイベントの映像を表示する画面です。



1. レコーダータイムコード表示

レコーダーの再生位置のタイムコードを表示します。

- 表示内容

TCR: レコーダーのタイムコードが表示されます。

UBR: レコーダーのユーザズビットが表示されます。

CTL: レコーダーの先頭からの相対位置が表示されます。

IN: レコーダーのIN点が設定されている場合にINボタンを押している間、IN点のTCが表示されます。

OUT: レコーダーのOUT点が設定されている場合にOUTボタンを押している間、OUT点のTCが表示されます。

DUR: レコーダーのIN点、OUT点の両方が設定されている場合に、INボタンとOUTボタンを同時に押ししている間、IN点 - OUT点間のデュレーションが表示されます。

◆NOTE:

- IN、OUTどちらかが設定されていない場合は設定されている点と現在位置までのデュレーションが示されます。

2. レコーダー再生画面表示

レコーダーの再生中の映像が表示されます。

3. レコーダータイムバー表示

タイムバーの横幅全体が、レコーダーの全長(合計デュレーション)を表します。タイムバーの背景色は、レコーダーが操作状態になっている場合は明るい灰色となり、プレーヤーが操作状態になっている場合は暗い灰色となります。

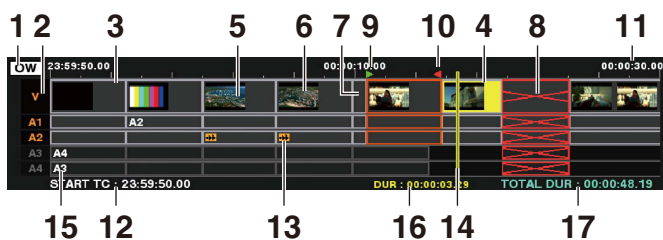
黄色のバー(|): レコーダーの再生リストの全長に対する現在のとおよその再生位置に表示されます。

緑色の三角(▶): レコーダーのIN点が設定されている場合、IN点のおおよその位置に表示されます。

赤色の三角(◀): レコーダーのOUT点が設定されている場合、OUT点のおおよその位置に表示されます。

タイムライン

タイムラインには、プレイリストに登録されているイベントの状態を表示します。



1. 編集モード表示

イベントの編集モードを表示します。

INST: 編集モードが挿入編集の場合

OW: 編集モードが上書き編集の場合

ReW: 編集モードがリライトエディットの場合

2. トラック名表示

各トラックの内容とその選択状態を表示します。

- 表示内容

V: ビデオ

A1: オーディオチャンネル1

A2: オーディオチャンネル2

A3: オーディオチャンネル3

A4: オーディオチャンネル4

- 選択状態

オレンジ色: 選択されているトラック

灰色: 選択されていないトラック

3. イベント表示

灰色イベント: イベントの登録元の素材クリップがP2カード内に存在し、正常に再生することができるイベント。

黄色イベント: カーソル位置のイベント。(→4 カーソル表示)

黒色イベント: イベントの削除などによって、無映像あるいは無音声となった区間。(→7 無映像・無音声区間表示)

赤色(X)イベント: イベントの登録元の素材クリップがP2カード内に存在しないイベント。(→8 無効イベント表示)

サムネール表示: ビデオトラックのイベントに関して、表示されているブロックにスペースがある場合、IN点優先でイベントのIN/OUT点のサムネールを表示します。(→6 IN/OUT点サムネール表示)

4. カーソル表示

カーソル位置のイベントが黄色になります。

カーソルは十字カーソルボタンにより上下左右に、SHIFT+▲/▼/◀/▶ボタンによりイベントの一番上/下/左/右へ移動します。

◆NOTE:

- 再生中、サーチ中はカーソルは移動しません。停止または一時停止するとカーソルが移動します。

5. イベント枠

水色:	選択されたイベント
オレンジ色:	外部機器、外部入力(ライブ記録)やハードディスクなどがブレイヤーの場合の仮登録状態のイベント。
赤色(×):	イベントの登録元の素材クリップがP2カード内に存在しないイベント。ただし、選択されている場合は選択が優先され、枠の色は水色となります。

◆NOTE:

- 選択については以下のように行います。
→詳細は「プレイリストの操作で使用するボタン」(82ページ)を参照。
 - ・ SETボタン
カーソル位置のイベントの選択/解除。
 - ・ SETボタン長押し(1秒以上)
カーソル位置と同じIN/OUTのイベントを一度に選択。
 - ・ イベント選択後のMULTI SEL (SHIFT+SET) ボタン
直前の選択位置から現在位置までの間のイベントの一括選択。
 - ・ CANCEL (SHIFT+EXIT) ボタン
すべての選択が解除されます。

6. IN/OUT点サムネール表示

「3 イベント表示」の説明を参照。

7. 無映像・無音声区間表示

「3 イベント表示」の説明を参照。

8. 無効イベント表示

「3 イベント表示」の説明を参照。

9. レコーダーIN点表示

レコーダーのIN点が設定されている場合、IN点に緑色の三角(▶)を表示します。

10. レコーダーOUT点表示

レコーダーのOUT点が設定されている場合、OUT点に赤色の三角(◀)を表示します。

11. スケール表示

タイムラインの拡大縮小率に合わせたタイムコードと目盛りを表示します。

REPLACE TCが ONの場合:	タイムライン上に表示開始位置、表示中央位置、表示終了位置のタイムコードを表示します。
REPLACE TCが OFFの場合:	タイムコードは表示しません。

12. 開始タイムコード表示

REPLACE TCが ONの場合: 設定したスタートタイムコードの値が表示されます。

REPLACE TCが OFFの場合: 「--:--:--」が表示されます。

A.DUBモード時は、開始タイムコードではなくオーディオ追加記録の残量が表示されます。

13. オーディオレベル変更マーク

オーディオレベルの変更を行った場合、そのイベントにマークを表示します。

ただし、対象イベントにマーク分のスペースがない場合は表示しません。

14. シークバー

レコーダーの現在の再生位置を示します。

次に再生を行う場合はシークバーの位置から再生を行います。

15. オーディオチャンネル変更表示

オーディオチャンネルが入れ替わっているイベントに対し、入れ替わった素材のチャンネル番号を表示します。

オーディオチャンネルが入れ替わっていないイベントでは表示されません。また対象イベントのブロックに番号分のスペースがない場合は表示しません。

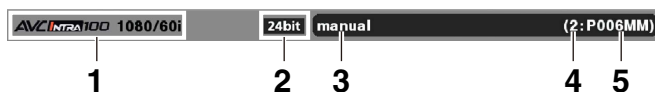
16. カーソル位置イベント長表示

カーソル位置のイベントの時間(デュレーション)を表示します。

17. プレイリスト総合計時間表示

全イベントの合計時間(トータルデュレーション)を表示します。

情報バー



1. プレイリストフォーマット表示

プレイリストフォーマットを表示します。

2. 音声ビット数表示

プレイリスト画面の音声ビット数が24ビットのとき、表示されます。

音声ビット数はセットアップメニューNo.034 (A.SMPL RES)で設定できますが、登録イベントがある場合には、そのイベントの音声ビット数が優先されます。

◆NOTE:

- 16ビット音声と24ビット音声のイベントを混在させることはできません。

3. プレイリスト名表示

プレイリスト名が表示されます。

◆NOTE:

- プレイリスト名が付加されていない場合は何も表示しません。
- プレイリスト名の文字数が多く全て表示できない場合は、末尾に「..」を表示して省略します。

4. プレイリストファイル保存スロット表示

プレイリストファイルが保存されているスロット番号を白色で表示します。

ファイルが保存されていない場合は、白色で「-」と表示します。

読み込み専用ファイルの場合は、スロット番号が灰色になります。

ファイルが保存されているP2カードが挿入されていない場合は、赤色で「-」と表示します。

5. プレイリストファイル名表示

プレイリストのファイル名を白色で表示します。

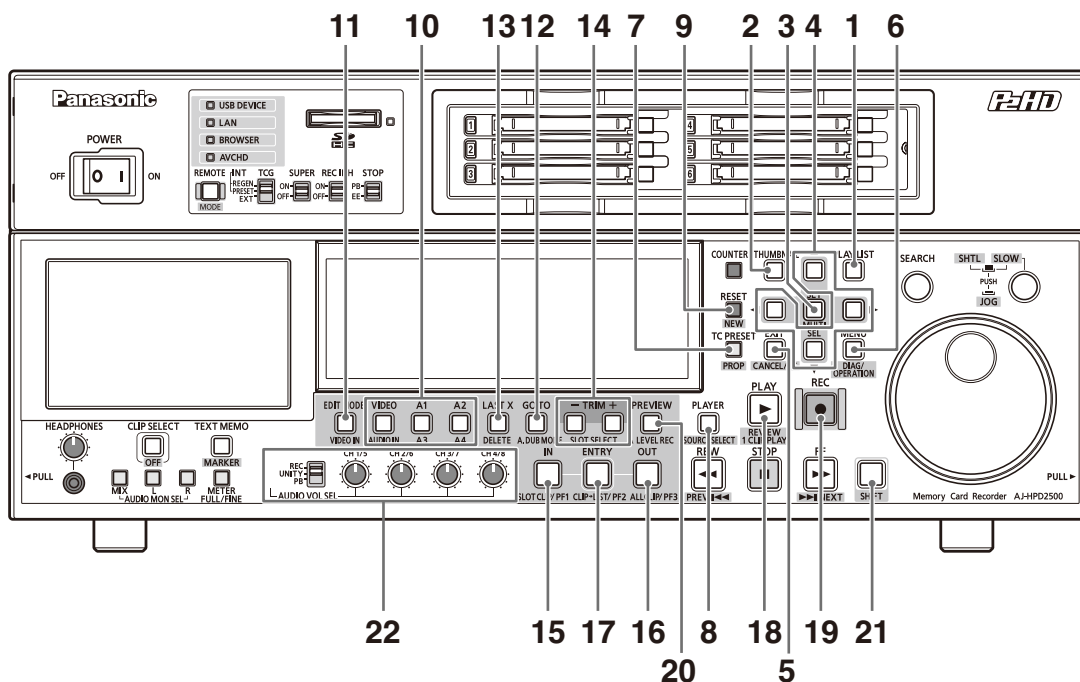
灰色のファイル名: 読み込み専用ファイルの場合

赤色のファイル名: ファイルが保存されているP2
カードが挿入されていない場
合

◆NOTE:

- ファイルが保存されていない場合は、白色で「(-----)」と表示します。

プレイリストの操作で使用するボタン



1. PLAY LISTボタン

プレイリストを作成するときや作成したプレイリストを再生するプレイリストモードに切り替えるボタンです。プレイリストモード中にはこのボタンが点灯します。プレイリストモード中にこのボタンを押すと録再モード(GUIオフ)画面となります。

2. THUMBNAILボタン

プレイリストモード中にTHUMBNAILボタンを押すと、プレーヤー画面のサムネール表示のON/OFFを切り替えることができます。

3. SET / MULTI SELボタン

メニューの選択・実行やイベントの選択および、イベントの複数選択に使用します。選択されたイベントは、枠が水色になります。

- イベントの選択について

SET: カーソル位置のイベントの選択/解除(トグル動作)を行います。

SET長押し(1秒以上): カーソル位置と同じIN/OUTのイベントを一括選択/一括解除します。

◆NOTE:

- 1つでも未選択のイベントがある場合には、一括選択となります。

イベント選択後 (SHIFT+SET): 直前の選択位置から現在位置までの間のイベントを一括選択します。

4. 十字カーソル(◀/▶/▲/▼)ボタン

- レコーダー操作中

タイムラインのカーソル位置が上下左右に移動します。移動は無映像(ブラック)、無音声のイベントも対象となります。

左右ボタン: カーソルの移動と同時に、再生開始位置がカーソル位置のイベントの先頭へ移動します。トラックの最後のイベントまで移動後さらに▶ボタンを押すと、プレイリストの最終フレーム+1の位置に移動します。イベントを追加登録する際、レコーダーのIN点を設定するのに使用することができます(このとき、IN点には***:***:***:***が入ります)。SHIFTボタンを押しながら◀/▶ボタンを押すと、カーソル位置のトラックの先頭/最終のイベントへ移動します。

上下ボタン: 現在の再生位置にあるイベントのトラックを上下に移動します。SHIFTボタンを押しながら▲/▼ボタンを押すと、現在の再生位置のビデオトラック/最下段のオーディオトラックに移動します。

- プレーヤーサムネール操作中

サムネールのカーソル移動と同じ動作をします。

→「サムネール画面でのカーソルの操作」(45ページ)を参照。

- メニュー操作中

サムネールのメニューと同じ動作をします。

→「画面の切り替えとメニューの操作について」(31ページ)を参照。

5. EXIT / CANCELボタン

EXITボタン

メニュー表示中のEXITと同等の処理を行います。

CANCEL(SHIFT+EXIT)ボタン

イベントの選択の一括解除や、仮登録状態の解除を行う場合に、SHIFTボタンを押しながらEXITボタンを押します。

6. MENU / OPERATIONボタン

MENUボタン

STOPボタンを押し停止状態のときにMENUボタンを押すと、メニューウィンドウが開きます。再度押すと、メニューウィンドウが閉じます。

OPERATION(SHIFT+MENU)ボタン

SHIFTボタンを押しながらMENUボタンを押すと、GUIメニューのOPERATIONを開きます。

7. (TC PRESET)/ PROPボタン

PROP(SHIFT+TC PRESET)ボタン

SHIFTボタンを押しながらTC PRESETボタンを押すと、そのときの状態により次の表示となります。

- レコーダー操作中

カーソル位置のイベントの詳細情報を表示します。

- プレーヤー操作中

カーソル位置のクリップの詳細情報を表示します。ただし表示内容はサムネールモードでの画面左側のプロパティに表示している項目のみとなります。

EXITボタンを押すことで通常画面へ戻ります。

→「イベントとクリップの情報を表示する」(109ページ)を参照。

8. PLAYER / SOURCE SELECTボタン

PLAYERボタン

プレーヤー、レコーダーの操作を切り替えます。プレーヤー操作中にはボタンが点灯し、プレーヤー画面が操作可能となります。レコーダー操作中にはボタンが消灯し、レコーダー画面とタイムラインが操作可能となります。

SOURCE SELECT(SHIFT+PLAYER)ボタン

プレーヤーとして使用する機器(インターフェース)を選択メニューから選びます。このボタンを押すと使用できる機器の選択メニューが表示されます。その中からカーソルで接続を選択しSETボタンを押し、切り替え設定をします。

P2 CARD (初期設定):	P2カードのクリップをプレーヤーとするときに選択します。
--------------------	------------------------------

EXT PLAYER <RS-422>:	外部のRS-422A制御機器をプレーヤーとするときに選択します。
-------------------------	----------------------------------

◆NOTE:

- プレイリストフォーマットが24PN、30PNのときはSYSTEM FREQの設定を同じにしないと選択できません。

USB HDD:	USB接続のハードディスクをプレーヤーとする*1ときに選択します。
----------	-----------------------------------

eSATA HDD:	eSATA接続のハードディスクをプレーヤーとする*1ときに選択します。
------------	-------------------------------------

CANCEL:	選択せずに終了します。
---------	-------------

*1 再生可能なパーティションはHDD EXPLOREから再生対象として選択しておく必要があります。

→「ハードディスクの情報の表示(エクスプローラー画面)」(122ページ) / 「パーティション / フォルダーの操作対象選択」(122ページ)を参照。

9. RESET / NEWボタン

RESETボタン

CTLカウンターをリセットします。

RESET+IN/OUTボタン

IN/OUTボタンを押しながらRESETボタンを押すと、そのときのプレーヤーあるいはレコーダーのIN/OUT点をリセットします。

NEW(SHIFT+RESET)ボタン

SHIFTボタンを押しながらRESETボタンを押すと、新規プレイリストを作成します([FILE] - [NEW]と同じ操作)。

10. VIDEO / A1 / A2 / A3(SHIFT+A1) / A4(SHIFT+A2)ボタン

編集の対象となるトラックを選択します。オーディオの5~8チャンネルは編集の対象とすることはできませんが、元のクリップに存在する場合は、メニュー[SETTING] - [AUDIO CH] - [CH5-8]で再生およびエディットコピー時の出力 / 非出力を設定することができます。

→「プレイリストから新しいクリップを作成する(エディットコピー)」(112ページ)

11. EDIT MODEボタン

このボタンを押すたびに挿入編集、上書き編集を切り替えます。

12.GOTO / A. DUB MODEボタン

GOTOボタン

GOTOボタンを押しながらIN/OUTボタンを押すと、そのとき設定されているIN/OUT点へ再生位置が移動します。

GOTOボタンを押しながらTRIM(+)ボタンやTRIM(-)ボタンを押すと、前後にコマ送りできます。(プレイリストのEXT PLAYER選択時、プレーヤー側では無効です。)

A. DUB MODE(SHIFT+GOTO)ボタン

SHIFTボタンを押しながらGOTOボタンを押すとA.DUBモードへ移行します。A.DUBモード中には、オーディオの追加記録を行うことができます。

→「オーディオを追加記録する」(103ページ)を参照。

13.LAST X / DELETEボタン

LAST Xボタン

このボタンを押すと直前の編集操作を、1回のみ取り消して以前の状態に戻します。取り消し後に再度押すと、以前の操作を再実行します。

DELETE(SHIFT+LAST X)ボタン

レコーダー操作中に、イベントを削除したいときに使用します。対象のイベントにカーソルを合わせてSETボタンを押して選択し、SHIFTボタンを押しながらLAST Xボタンを押すと、選択したイベントを削除できます。

14.TRIM (+/-) / SLOT SELECTボタン

TRIM (+/-)ボタン

タイムライン表示を拡大(+)/縮小(-)します。

IN/OUT+TRIM (+/-)ボタン

- イベントが選択されていないとき
登録されているプレーヤーのIN点、OUT点、レコーダーのIN点、OUT点を微調整する場合に使用します。
→「プレーヤー / レコーダーのIN/OUT点の修正」(92ページ)を参照。
- イベントが選択されている(枠が水色になっている)とき

選択されているイベントのレコーダーのIN点、OUT点を微調整する場合に使用します。

→「登録イベントの修正」(95ページ)を参照。

SHIFT+IN+TRIM (+/-)ボタン

- イベントが選択されている(枠が水色になっている)とき

選択されているイベントのプレーヤーIN点とレコーダーのIN点を同時に微調整する場合に使用します。

→「登録イベントの修正」(95ページ)を参照。

SLOT SELECT(SHIFT+TRIM (+/-))ボタン

外部機器(RS-422A)、外部入力(ライブ記録)やハードディスクからタイムラインへ取り込むときの記録対象となるカードスロットの位置を動かします。

15.IN / SLOT CLIPボタン

16.OUT / ALL CLIPボタン

IN/OUTボタン

IN/OUTボタンを押している間、プレーヤー、レコーダーのそれぞれで設定されているIN/OUT点のタイムコードが、スーパー表示されます。

IN+OUTボタン

INとOUTボタンを同時に押している間、プレーヤーまたはレコーダーで設定されているIN、OUT点間のデュレーションを表示します。IN点またはOUT点が登録されていない場合は現在の位置までのデュレーションとなります。

SLOT CLIP (SHIFT+IN)ボタン

プレーヤーサムネールを操作中にSHIFTボタンを押しながらINボタンを押すと表示対象とするクリップの種類を変更することができます。

→「サムネール画面の表示の変更」(47ページ)を参照。

ALL CLIP(SHIFT+OUT)ボタン

プレーヤーサムネール操作中にSHIFTボタンを押しながらOUTボタンを押すと表示対象とするクリップの種類をALLへ変更することができます。

→「サムネール画面の表示の変更」(47ページ)を参照。

その他の操作については、ENTRYボタン、TRIM +/- ボタン、RESETボタン、GO TOボタンの説明をご覧ください。

17.ENTRY / CLIP→LISTボタン

ENTRYボタン

IN/OUT点のトリムを確定するときに押します。

IN/OUT+ENTRYボタン

プレーヤー、レコーダーそれぞれにおいて、IN/OUTボタンを押しながらENTRYボタンを押すと、現在の再生位置がイベントのIN/OUT点として設定されます。

CLIP→LIST(SHIFT+ENTRY)ボタン

プレーヤーサムネールで選択されているクリップを、レコーダーのカーソル位置のイベントのIN点へ取り込みます。

18.PLAY / REVIEWボタン

PLAYボタン

プレーヤーやレコーダーの再生を行います。

REVIEW(SHIFT+PLAY)ボタン

レコーダー操作時に現在のカーソル位置あるいは仮登録状態のイベントのレビュー再生を行います。

19.RECボタン

編集を確定してイベント登録しタイムラインへ表示します。外部機器(RS-422A)、外部入力(ライブ記録)やハードディスクをプレーヤーとして使用しているときはP2カードへキャプチャを行います。

A.DUBモードのときには、再生中のREC+PLAYボタンなどでオーディオの追加記録を行います。

→「オーディオを追加記録する」(103ページ)を参照。

20.PREVIEW / A LEVEL RECボタン

PREVIEWボタン

登録しようとしているイベントのプレビュー再生を行います。プレビュー前にイベントが登録されタイムラインに表示されます。プレーヤーがP2カードのときは、プレビュー中にボリューム操作を行って登録されたイベントには、操作時のレベル変化がそのまま設定されます。

→「オーディオのレベル設定を行う」(106ページ)を参照。

◆NOTE:

- 外部機器やハードディスクがプレーヤーのときはオレンジ色の仮登録イベントとして表示されます。
- 外部入力(ライブ記録)時には、プレビュー再生はできません。

A LEVEL REC(SHIFT+PREVIEW)ボタン

このボタンを押すと、レコーダーのIN点、OUT点の区間のプレビューを行うと同時に、ボリュームによりオーディオのレベル調整を行うことができます。このモードではイベント内でオーディオレベルをダイナミックに変化させることができます。

→「オーディオのレベル設定を行う」(106ページ)を参照。

21.SHIFTボタン

他のボタンと組み合わせて使用します。

22.REC / UNITY / PB選択スイッチとオーディオボリューム

オーディオの記録や再生レベルを調整するとき、およびオーディオの追加記録(再生オーディオとのミックス記録の再生音)をするときなどに、スイッチで記録(REC側)あるいは再生(PB側)の選択を行い、ボリュームでレベルコントロールを行います。

◆NOTE:

- プレイリストの再生時は、レベルの調整はできません。

プレイリスト作成の準備

この章では、プレイリストを作成する前に必要な設定項目について説明します。

システム周波数の設定をする

セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)で、システム周波数を設定します。設定したシステム周波数によって、使用可能なプレイリストフォーマットが異なります。

プレイリストフォーマットの設定をする

プレイリストフォーマットとは、プレイリストが扱うことのできるフォーマットのことで、下記のセットアップメニューの組み合わせにより決定されます。

No.020	SYS FORMAT
No.024/025	REC FMT (SD) / REC FMT (HD)
No.026	PLY LST FMT
No.034	A.SMPL RES

各メニューの詳細は「セットアップ」(162ページ)を参照してください。

プレイリストフォーマットは、プレイリストの新規作成時に設定されます。プレイリストに登録するイベントはプレイリストフォーマットと一致する必要があります。既に登録されているイベントがある場合にはその設定が優先されます。登録されているイベントがあるときにプレイリストフォーマットを変更した場合は、変更を有効にするために、プレイリストを新規作成してください。

→「プレイリストを新規作成する」(88ページ)を参照。

◆NOTE:

音声記録されていないクリップの場合、セットアップメニューNo.034(A.SMPL RES)の値は一致する必要はありません。

再生時のタイムコード (TC) の設定をする

プレイリスト再生時にタイムコードを連続した値に付け替えて出力するのか、各クリップのタイムコードをそのまま出力するのかを切り替えることができます。

タイムコードを付け替えて出力するとき、タイムコードの開始値を設定することもできます。

1 PLAY LISTボタンを押し、プレイリスト画面を表示する

2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで[SETTING] - [REPLACE TC] - [REPLACE]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

4 [ON]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
この設定により、再生時にタイムコードの付け替えが行われます。

◆NOTE:

- OFFにすると、付け替えは行われず、各クリップのタイムコードがそのまま出力されます。このときのプレイリストのドロップフレームフラグは、全体が先頭のイベントが参照しているクリップのドロップフレームフラグとなります。
- レコーダーの再生やエディットコピーにおいて、ビデオトラックの素材クリップのタイムコードがそのまま出力され、タイムコードが不連続となることがあるため、通常はONにして使用していただくことをお勧めします。
- OFFに設定したときは、手順7に進んで、設定を終了します。

5 十字カーソルボタンで[SETTING] - [REPLACE TC] - [START TC]にカーソルを合わせてSETボタンを押し、タイムコードの開始値を入力する

開始値の初期値は00:00:00:00です。

6 十字カーソルボタンで[SETTING] - [REPLACE TC] - [DROP FRAME]にカーソルを合わせてSETボタンを押し、[DF](ドロップフレーム)または[NDF](ノンドロップフレーム)を設定する

◆NOTE:

- プレイリストのフォーマットが24PNのときは、[DF]の設定はできません。
- REMOTE端子からの制御でVTRなどの外部機器や外部入力(ライブ記録)から取り込むイベントの場合は、プレイリストの登録確定時に外部機器からのクリップ作成(記録)動作が行われます。プレイリスト上のイベントはREPLACE TCの設定に従いますが、このイベントの元となるクリップのタイムコードはタイムコードジェネレーターの設定に従ったタイムコードとなります。

7 MENUボタンを押して、設定を終了する

その他の設定をする

プリロール時間の設定

プレビューやオーディオ追加記録時のプリロール時間を設定します。

1 MENUボタンを押し、十字カーソルボタンで [SETTING] - [PREROLL TIME]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

2 プリロール時間を3、5、7秒から選択する

テキストメモ位置での映像のイベント分割を設定する

イベント登録時にテキストメモ位置で映像のイベント分割を行うことができます。

1 MENUボタンを押し、十字カーソルボタンで [SETTING] - [DIVIDED APPEND]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

2 [ON]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

ON:	テキストメモ位置で映像のイベント分割を行います。
OFF:	テキストメモ位置で映像のイベント分割を行いません。

オーディオチャンネルの入れ替え内容を設定する

イベント作成時に有効となる、オーディオの入れ替えの設定を行います。

1 MENUボタンを押し、十字カーソルボタンで [SETTING] - [AUDIO CH]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

2 各チャンネルに入れるチャンネルを設定する

例: CH1とCH2の音声を入れ替えて登録する場合
[AUDIO CH] - [CH1]=CH2
 [CH2]=CH1
 [CH3]=CH3
 [CH4]=CH4

◆NOTE:

- MENUボタンを押し、メニューウィンドウから[SETTING] - [AUDIO CH] - [RESET]メニューを実行すると、全てのオーディオチャンネル設定を初期値に戻します。
- ここでの設定内容は、オーディオチャンネルの入れ替え操作でも使用します。
→「オーディオチャンネルを入れ替える」(98ページ)を参照。

オーディオチャンネル5-8の出力の設定

プレイリストの再生とエディットコピーを行った場合の、オーディオ5-8チャンネルの出力の設定を行います。

1 MENUボタンを押し、十字カーソルボタンで [SETTING] - [AUDIO CH]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

2 [CH5-8]にカーソルを合わせ、SETボタンを押し設定を変更する

NONE:	オーディオ5-8チャンネルを出力しません。
CH5-8:	オーディオ5-8チャンネルとして、ビデオクリップのオーディオの5-8チャンネルを出力します。

オーディオフィードの設定をする

イベント作成時に有効となる、オーディオフィードの設定を行います。セットアップメニューNo.731(PB FADE)で設定をします。

オートエントリーの設定をする

オートエントリーを有効にすると、PREVIEWや、RECボタンによる編集の確定後、レコーダーのIN点が自動的に編集区間の最終フレームの次の位置に設定されます。

1 MENUボタンを押し、十字カーソルボタンで [SETTING] - [AUTO ENTRY]にカーソルを合わせる

2 SETボタンを押した後、[ON]にカーソルを合わせてSETボタンを押す

◆NOTE:

- 次の全ての条件に当てはまる場合、レコーダーのIN点のタイムコードが「*:*:*:*:*:*:*:*:」で表示されます。
-AUTO ENTRYがONで設定されている
-REPLACE TCがOFFで設定されている
-レコーダーのタイムラインの最終フレームを含んだ編集を行う

追加オーディオの設定をする

オーディオを追加記録(「オーディオを追加記録する」(103ページ)を参照。)を行う場合に必要なミックス記録の有無、記録音の出力の有無の設定を行います。

下記のセットアップメニューを設定します。

No.793	A DUB PB MIX
No.797	A DUB MONI

メニューの詳細は「セットアップ」(162ページ)を参照してください。

プレイリストを新規作成する

プレイリストを削除し、新しいプレイリストを準備します。

- 1 「プレイリスト作成の準備」(86ページ)の項目を設定する
- 2 PLAY LISTボタンを押し、プレイリスト画面を表示する
- 3 MENUボタンを押す
- 4 十字カーソルボタンで[FILE] - [NEW]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

◆NOTE:

- NEW(SHIFT+RESET)ボタンを押しても[FILE] - [NEW]と同等の操作ができます。

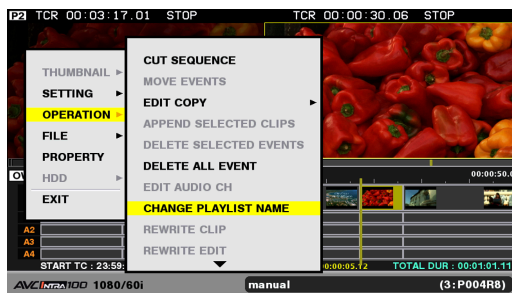
- 5 [YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
表示中のプレイリストが削除され、イベントのない新しいプレイリストが表示されます。

プレイリスト名を付ける

プレイリストに名称を付けることができます。

- 1 PLAY LISTボタンを押し、プレイリスト画面を表示する
- 2 MENUボタンを押す

- 3 十字カーソルボタンで[OPERATION] - [CHANGE PLAYLIST NAME]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



- 4 ソフトキーボードを用いて名称を入力しOKを押す



- 5 メニューを閉じPLAYLIST NAMEに入力した文字が登録される

プレイリストを作成する

プレイリストへの登録

プレイリストへのイベントの登録はプレーヤー、レコーダーのIN点、OUT点を登録する方法とサムネールからクリップを登録する方法の二つがあります。

IN/OUT点設定によるイベント登録

プレーヤーのIN点、OUT点と、レコーダーのIN点、OUT点のいずれか3点が決まると、残り1点は自動的に決まるため、3点を決めることでイベントへの登録ができます。

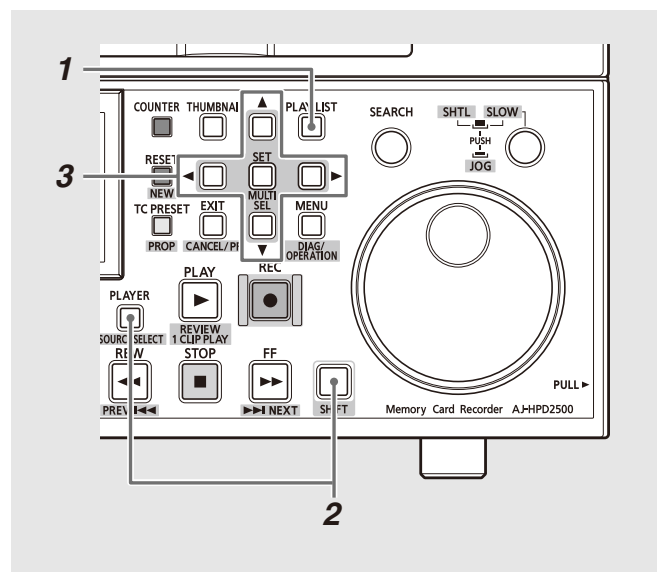
またプレーヤーIN、レコーダーINのみの設定も可能です。

◆NOTE:

- プレーヤーIN、レコーダーINのみの設定の場合、プレーヤーがP2カードまたはハードディスクのとき、プレーヤーINから、INの設定されたクリップの最後までイベント映像音声、レコーダーのIN以降に挿入もしくは上書きされます。
- プレーヤーとして外部機器 (RS-422A) や外部入力 (ライブ記録) を使用している場合は、レコーダー長が24時間 (プレビュー区間を除く) までの長さの映像音声、レコーダーのIN以降に挿入もしくは上書きされます。
- 外部入力 (ライブ記録) 時は、プレーヤーのIN点、OUT点は登録できません。

プレーヤーを選択する

プレーヤーとしての機器をP2カード、ハードディスク、外部機器 (RS-422A)、外部入力 (ライブ記録) から選択します。通常はP2カードが選択されています。その他の機器を使用する場合や外部入力 (ライブ記録) する場合、P2カードへ設定を戻す場合は以下のように設定を行います。



1 PLAY LIST ボタンを押し、プレイリスト画面を表示する

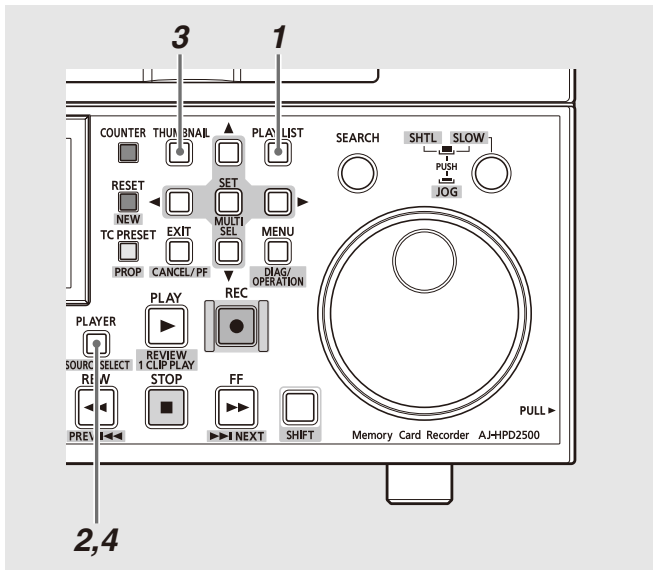
2 SOURCE SELECT (SHIFT+PLAYER) ボタンを押す

3 プレーヤーとして動作する機器のインターフェースを十字カーソルを使用して選択し、SET ボタンを押す
リモート操作する外部機器 (インターフェース) が設定されます。

→ 外部機器の接続、設定については、「接続」(115ページ) / 「外部機器のリモート操作」(128ページ)を参照。



プレーヤーとレコーダーの切り替え



1 PLAY LISTボタンを押し、プレイリスト画面を表示する

プレイリストモードに入った直後はレコーダー(右)側が選択されます。またプレーヤー(左)側はサムネールが表示されます。



2 PLAYERボタンを押し、プレーヤー操作へ切り替える

PLAYERボタンが点灯し、画面左側が黄色の枠で囲まれます。



3 THUMBAILボタンを押し、プレーヤー側を映像に切り替える

THUMBAILボタンが消灯し画面がプレーヤーの映像に切り替わります。



4 PLAYERボタンを押し、レコーダー操作へ切り替える

PLAYERボタンが消灯し、画面右側が黄色の枠で囲まれます。



◆NOTE:

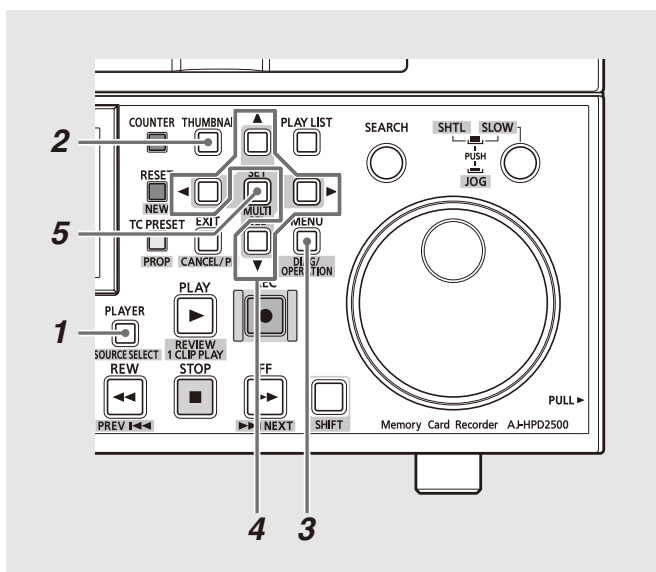
- P2カードやハードディスクのクリップをプレーヤーとした場合、サムネール表示では全てのクリップが対象ですが、対象とするクリップを限定することができます。
→「プレーヤーとして使用するクリップを限定する」(91ページ)を参照。
- 外部機器(RS-422A)または外部入力(ライブ記録)をプレーヤーとした場合、プレーヤー位置バーの再生位置(黄色のバー)は表示されません。またサムネールへも切り替えできません。
- セットアップメニューNo.53(UNFOCUS SCRIN)で選択されていないプレーヤーやレコーダー画面の明るさを設定できます。

プレーヤーとして使用するクリップを限定する

プレーヤーは、通常、プレイリストフォーマットに合ったP2カード内の全てのクリップを対象にし、それらをつなぎ合わせたもので構成されています。次の操作により、プレーヤーを、特定もしくは任意のクリップに限定することができます。

◆NOTE:

- プレイリストフォーマットと異なるフォーマットのクリップは、赤番号で表示され、プレーヤーの再生対象にはなりません。
- 外部機器 (RS-422A) や外部入力 (ライブ記録) を使用している場合、この機能は使用できません。



1 プレーヤー操作へ切り替える

PLAYERボタンを押して、プレーヤー操作へ切り替えます。

2 プレーヤーサムネールを表示する

プレーヤー操作中に、THUMBNAIボタンを押し、プレーヤー画面にサムネールを表示します。

3 MENUボタンを押す

4 十字カーソルボタンで、[THUMBNAI]の下から、次の表示したいクリップの種類にカーソルを合わせる

ALL CLIP:	全てのクリップを対象とします。
SAME FORMAT CLIPS:	プレイリストフォーマットと同一フォーマットのクリップを対象とします。
SELECTED CLIPS:	選択したクリップを対象とします。
MARKED CLIPS:	ショットマークが付加されたクリップを対象とします。

TEXT MEMO CLIPS:	テキストメモデータがあるクリップを対象とします。
SLOT CLIPS:	n番スロットのP2カード内のクリップを対象とします。

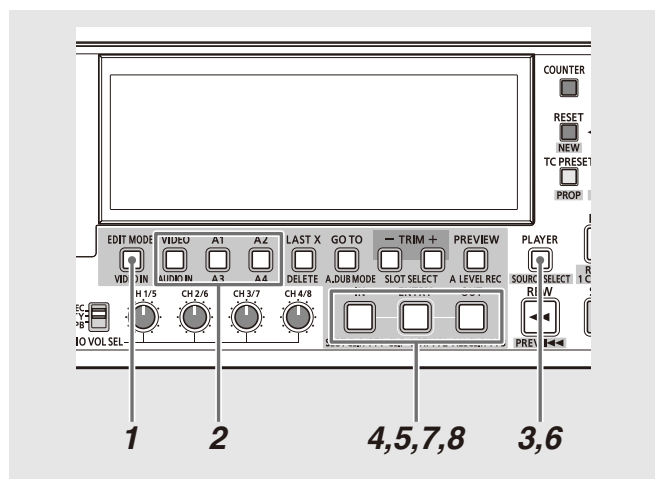
◆NOTE:

- プレーヤーとして使用したいクリップを、任意に選択したい場合は、プレーヤーサムネールで使用したいクリップを選択し、[SELECTED CLIPS]を選択します。その場合クリップの並び順は選択した順番となります。
- SLOT CLIP (SHIFT+IN) ボタンを押すたびにSELECTED→SLOT1→SLOT2…SLOT6→SELECTED(ただしカードが挿入されているスロットのみ)に切り替えることができます。
- ALL CLIP (SHIFT+OUT) を押してALL CLIPに切り替えることができます。

5 SETボタンを押す

プレーヤー画面へ戻り、限定したクリップのみがプレーヤーの対象として表示されます。

IN/OUT点を設定する



1 挿入編集、上書き編集を選択する

EDIT MODEボタンにより、挿入編集 (INSERT) か上書き編集 (OVERWRITE) を選択します。

2 トラックを選択する

VIDEO/A1/A2/A3/A4ボタンにより、取り込むトラックの選択を行います。選択されているトラックは、タイムラインの左側にあるトラック名がオレンジ色になります。

3 プレーヤー操作へ切り替える

PLAYERボタンを押して、プレーヤー操作へ切り替えます。

◆NOTE:

- 外部入力 (ライブ記録) のときには、プレーヤーには切り替わりません。

4 プレーヤーのIN点を設定する

プレーヤー画面を見ながら、必要な区間の開始位置でINを押しながらENTRYボタンを押し、プレーヤーのIN点を設定します。プレーヤー位置バーに緑色の▶が付きます。INボタンを押している間は、プレーヤー画面に、設定したIN点のタイムコードが表示されます。

5 プレーヤーのOUT点を設定する

プレーヤー画面を見ながら、必要な区間の終了位置でOUTボタンを押しながらENTRYボタンを押し、プレーヤーのOUT点を設定します。プレーヤー位置バーに赤色の◀が付きます。OUTボタンを押している間は、プレーヤー画面に、設定したOUT点のタイムコードが表示されます。

6 レコーダー操作へ切り替える

PLAYERボタンを押して、レコーダー操作へ切り替えます。

7 レコーダーのIN点を設定する

プレーヤーで指定した区間を挿入もしくは上書きしたい位置で、INボタンを押しながらENTRYボタンを押し、レコーダーのIN点を設定します。レコーダー位置バーに緑色の▶が付きます。INボタンを押している間は、レコーダー画面に、設定したIN点のタイムコードが表示されます。プレイリストが新規の状態(イベントがない場合)には、レコーダーのIN点を設定してなくても、先頭が挿入、上書き位置となります。

8 レコーダーのOUT点を設定する

プレーヤーで指定した区間を上書きしたい位置の終了位置で、OUTボタンを押しながらENTRYボタンを押し、レコーダーのOUT点を設定します。レコーダー位置バーに赤色の◀が付きます。OUTボタンを押している間は、レコーダー画面に、設定したOUT点のタイムコードが表示されます。

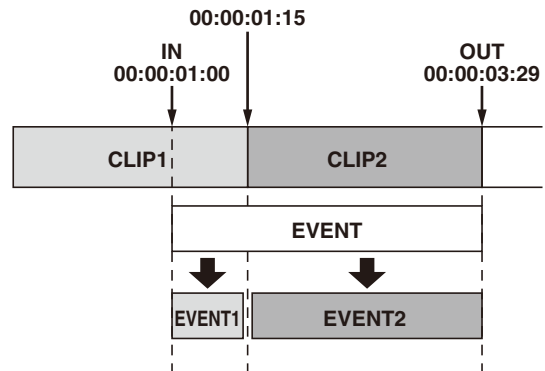


◆NOTE:

- プレーヤーのIN点、OUT点、レコーダーのIN点、OUT点は、いずれも任意の順番で設定することが可能です。
- プレーヤーのIN点、OUT点、レコーダーのIN点、OUT点のいずれか3点が決まっているときに、4点目を設定すると、4点目の対称となる登録点(例えば、プレーヤーのIN点を設定した場合は、レコーダーのIN点)を自動的に解除します。
- プレーヤーのIN点、OUT点は、各イベントのデュレーションが

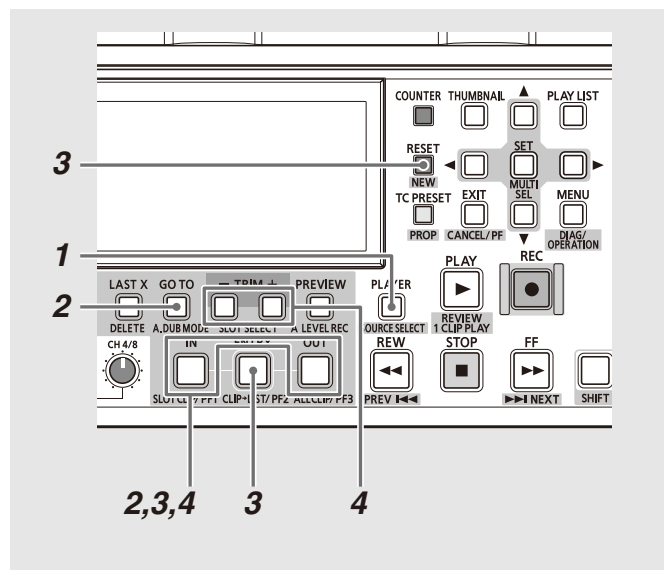
10フレーム以上になるように設定してください。短いイベントが続くと正しく再生できないことがあります。

- プレイリストフォーマットが24PNの場合は4フレーム単位の編集となります。
- プレーヤーのIN点、OUT点を設定した区間が、複数クリップにまたがっているときには、複数のイベントが作成されます。



- IN点とOUT点の位置が逆になったときには、後から設定した点が優先されます。
- 次の全ての条件に当てはまる場合、レコーダーのIN点のタイムコードが「**:*:*:*」で表示されます。
 - REPLACE TCがOFFに設定されている
 - レコーダーのIN点をタイムラインの最終フレームの次の位置で設定する
- プレイリストに連続してイベントを追加作成(アSEMBル編集)する場合には、メニューのAUTO ENTRYを有効にします。イベントの登録後、レコーダーのIN点が自動的にプレイリストの最終フレームの次の位置に設定されます。レコーダーのIN点を設定する操作が不要となり、プレーヤーのIN点、OUT点設定を行うだけで連続してイベントを作成することができます。
- P2カードや外部機器上に設定したプレーヤーのIN/OUT点は、プレイリストモードを終了しても保持されます。

プレーヤー / レコーダーのIN/OUT点の修正



1 プレーヤー / レコーダー操作へ切り替える

PLAYERボタンを押して、プレーヤー / レコーダー操作へ切り替えます。

2 GOTOボタンとIN/OUTボタンを用いてIN/OUT点へシークする

IN/OUTを押しながらGOTOボタンを押すことで、再生位置をIN/OUT点へ移動することができます。

3 プレーヤー/レコーダーのIN/OUT点を設定する

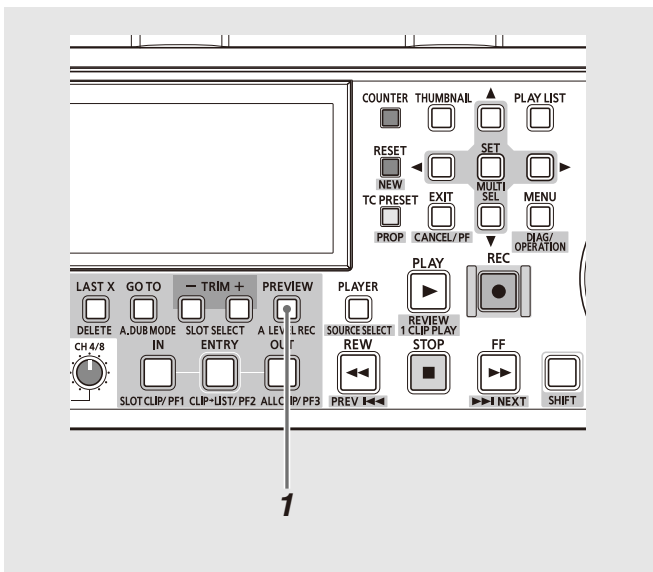
プレーヤー/レコーダー画面を見ながら、IN/OUTを押しながらENTRYボタンを押し、IN/OUT点を再設定します。また、IN/OUTボタンを押しながらRESETボタンを押すことで、IN/OUT点を解除することができます。

4 必要に応じて、プレーヤー/レコーダーのIN/OUT点を移動する

微調整を行う場合には、IN/OUTを押しながらTRIM+/−ボタンを押すことで、IN/OUT点の移動を行うことができます。長押しすることで連続して移動することができます。

プレビューとイベントの登録 (プレーヤーがP2カードのとき)

IN/OUT点を設定した後は、プレビューを行うことにより、レコーダーにおける編集結果を事前に確認することができます。



1 PREVIEWボタンを押し、プレビューを行う

プレビューはPREVIEWボタンを押すと開始され、レコーダーの編集区間の3秒(PREROLL TIME設定による)前から1秒後までを再生します。

2 結果がタイムライン上にイベント登録される

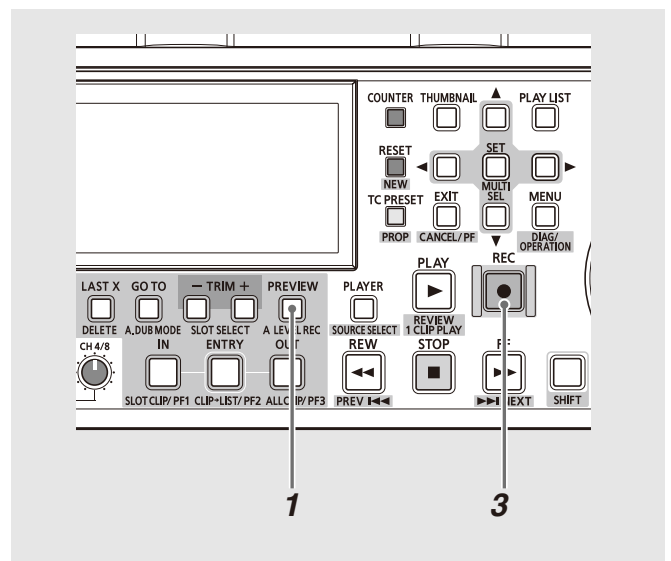


◆NOTE:

- プレビューを中断するには、STOPボタンを押します。
- プレビュー中にイベント単位での音声のレベル調整ができます。
→「オーディオのレベル設定を行う」(106ページ)を参照。
- プレビューを行わず、直接RECボタンを押し、編集結果を確定することも可能です。
- プレビュー中にレコーダーのOUT点を設定すると、プレビューを停止して新しいOUT点で再編集を行います。
- プレーヤーのIN点、レコーダーのIN点だけのときはプレーヤーのクリップの終端をプレーヤーのOUT点とした編集が行われます。
- 編集確定後、別の操作を行わない状態で再度プレビューを行うと、直前の編集区間を再生します。このとき音声のレベル調整を行うこともできます。IN/OUT点の設定もしくはイベントの操作を行った後は無効となります。

プレビューとイベントの登録 (プレーヤーが外部機器(RS-422A)またはハードディスクのとき)

IN/OUT点を設定した後は、プレビューを行うことにより、レコーダーにおける編集結果を事前に確認することができます。

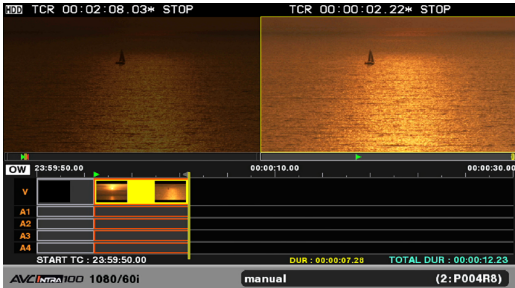


1 PREVIEWボタンを押し、プレビューを行う

プレビューはPREVIEWボタンを押して開始され、レコーダーの編集区間の3秒(PREROLL TIME設定による)前から1秒後までを再生します。

2 プレビュー時にオレンジ色のイベントが表示される

プレビュー時、タイムライン上に、仮の編集区間を示す仮登録イベント(オレンジ色のイベント)が作成されます。この状態のことを仮登録状態と呼びます。仮登録状態はイベントは取り込まれていない(P2カードにキャプチャされていない)状態となります。



3 RECボタンを押し、イベント登録を行う

プレーヤーの必要な区間をP2カードへキャプチャします。キャプチャ先は記録対象スロットのP2カードとなります。記録開始前に必要に応じてSLOT SELECTボタンで記録対象スロットを変更してください。キャプチャは編集後のトリム用としてIN/OUT点より前後2秒長く記録します。

4 イベント登録され、タイムラインにイベントが表示される



◆NOTE:

- プレビューを中断するには、STOPボタンを押します。
- 外部機器(RS-422A)をプレーヤーとする場合の仮登録区間の再生およびレビューでは無映像・無音声再生を行います。レビューは、仮登録区間全体を再生します。
- プレビューを行わず、直接RECボタンを押し、編集結果を確定することも可能です。
- 編集がプレーヤーのIN点、レコーダーのIN点だけで行われている場合、仮登録イベントはレコーダー長が約24時間まで作成されます。プレビュー中にOUT点を設定するか、キャプチャ中にSTOPを押すとその時点のイベント長に再設定されます。
- キャプチャにより取り込まれる編集区間前後のマージンは、それぞれ最大2秒です。プレーヤーがハードディスクの場合はクリップのIN/OUT点を超える分、プレーヤーが外部機器の場合は素材の始端/終端を超える分は、取り込まれません。また、プリロールにはプリロールタイム設定に2秒を加えた時間が必要となります。

- プレーヤーがP2カード以外の場合は、編集確定後(キャプチャ後)、IN/OUT点が設定されていない状態でのプレビューを行うことはできません。
- 外部機器(RS-422A)をプレーヤーとする場合、外部機器側のタイムコードが不連続の場合は、キャプチャが動作しても正しくタイムラインに取り込まれない場合があります。その場合でもOUT点のずれが2秒以内であれば、トリム機能で取り込み後のイベントを修正することで対応できる場合があります。
- プレーヤーがP2カード以外の場合は、イベントの登録もしくはプレビュー時にオーディオレベル設定を行うことはできません。
- 外部機器(RS-422A)をプレーヤーにして編集を行った場合、オーディオチャンネルの入れ替え設定は無効となります。→「オーディオチャンネルの入れ替え内容を設定する」(87ページ)を参照。
- 仮登録状態中は、イベントの選択やメニュー操作を行うことはできません。仮登録状態を解除したい場合は、CANCEL(SHIFT+EXIT)ボタンを押してください。
- 外部機器(RS-422A)をプレーヤーとする場合、SHIFTボタンとCOUNTERボタンを同時に押すと、レコーダー画面にTCGが表示されます。
- セットアップメニューNo.27(VDCP CMD)がONの場合は、外部機器をプレーヤーとして選択できません。

イベントの登録(ライブ記録のとき)

ライブ記録では、レコーダー側のIN点を必ず設定する必要があります。

1 RECボタンを押し、イベント登録を行う

まず、IN点からプリロール後再生が開始されます。IN点に到達後一時停止(約1秒)し、記録が開始されます。OUT点に到達するかSTOPボタンを押すと記録が停止します。

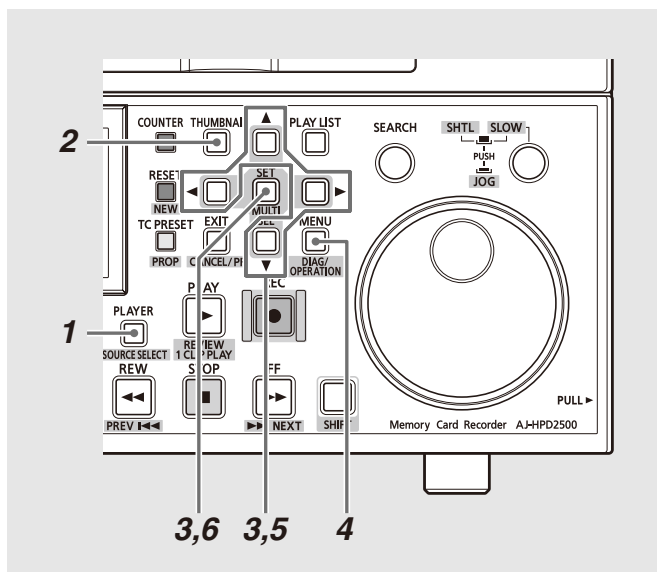
2 イベント登録され、タイムラインにイベントが表示される

◆NOTE:

- 1秒以下のライブ記録においては、1秒間記録されますが、IN/OUT点の設定区間のみタイムライン上にイベント登録されます。また、RECボタン点灯などの表示は、IN/OUT点の設定区間のみ動作します。
- トラック選択は可能ですが、出力はすべて入力データとなります(FULL EE)。
- 次の設定のときは外部機器(RS-422A)や外部入力(ライブ記録)をプレーヤーとして選択できません。
 - セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)が59-23、60-24、60-25の場合
 - プレイリストのフォーマットが30PN、24PN、25PNの場合

クリップ単位でのイベント登録

選択したクリップをプレイリストに追加します。この操作では、クリップの先頭をIN点、最後をOUT点とするイベントとして登録されます。



1 プレーヤー操作へ切り替える

PLAYERボタンを押して、プレーヤー操作へ切り替えます。

2 プレーヤーサムネールを表示する

プレーヤー操作中に、THUMBNAIボタンを押し、プレーヤー画面の位置にサムネールを表示します。

3 十字カーソルボタンで、イベントに追加したいクリップにカーソルを合わせ、SETボタンを押し、選択するクリップ枠が水色になります。

◆NOTE:

- イベント登録時にテキストメモ位置で映像のイベント分割を行う場合は、[SETTING] - [DIVIDED APPEND]メニューで[ON]を選択します。
→「テキストメモ位置での映像のイベント分割を設定する」(87ページ)を参照。
- イベント分割後にイベント数が100を超える場合は登録できません。[SETTING] - [DIVIDED APPEND]メニューで[OFF]を選択してください。

4 MENUボタンを押す

5 十字カーソルボタンで[OPERATION] - [APPEND SELECTED CLIPS]にカーソルを合わせる

6 SETボタンを押す

選択したクリップの先頭をIN点、最後をOUT点とするイベントが登録されます。

◆NOTE:

- プレイリストフォーマットと異なるフォーマットのクリップは、クリップ番号が赤色で表示され、登録することができません。
- この操作はカーソル位置イベントの直前への追加挿入となります。上書きや任意の位置への追加挿入はできません。
- 5の操作の代わりにCLIP→LIST (SHIFT+ENTRY) ボタンを押しても、クリップをイベントとして追加できます。
- クリップを追加した結果、イベント数が1トラックあたり100を超えるときは、追加できません。
- 複数のクリップを追加することができます。また、その場合は選択した順に追加されます。
- 上書き編集モードのときも、イベントは挿入されます。

登録イベントの修正

タイムラインに登録されているイベントを修正することができます。

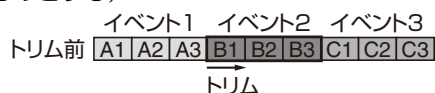
イベントのトリム

イベントのIN点、OUT点をフレーム単位(24PNのときには4フレーム単位)で修正します。選択されている編集が挿入編集か上書き編集かによって、トリム結果が異なります。

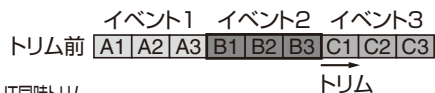
操作内容	挿入編集	上書き編集
トリム (広げる)	広げた分だけ以降のイベントが後ろへ移動	広げた分だけ前または後ろのイベントが上書きされる
トリム (縮める)	縮めた分だけ以降のイベントが前へ移動	縮めた分だけ前後のイベントが伸張する

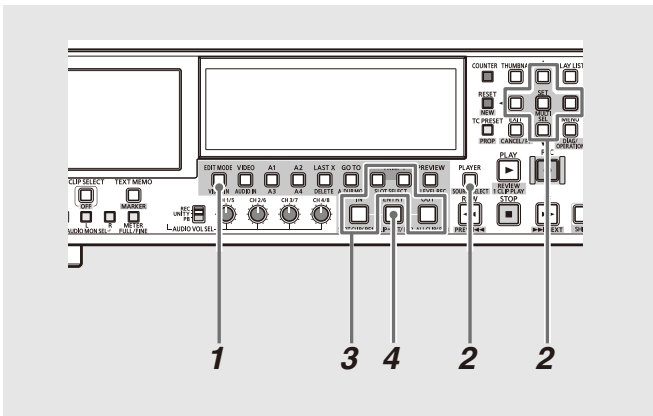
イベント2を上書き編集で+方向へ1フレームだけINトリムした例

(A1はイベント1が参照する素材クリップAの先頭から1フレーム目を表すものとする)



イベント2を挿入編集で+方向へ1フレームだけOUTトリムした例





1 挿入編集、上書き編集を選択する

EDIT MODEボタンにより、挿入編集か上書き編集を選択します。

2 トリムするイベントを選択する

PLAYERボタンを押して、レコーダー操作へ切り替えます。十字カーソルボタンを使用して、トリムするイベントへカーソルを動かしSETボタンで選択します。

◆NOTE:

- トリムする対象は、素材クリップにおける同一位置・長さのイベントならば同時選択できますが、それ以外の複数イベントが選択されていた場合はトリムできません。選択の解除はCANCEL (SHIFT+EXIT) ボタンでできます。

3 トリムを行う

IN(OUT)ボタンを押しながらTRIM+またはTRIM-ボタンを押すと、トリム画面が表示されます。TRIM+/-ボタンを押すと、IN(OUT)点が1フレーム単位(24PNのときは4フレーム単位)で増減します。

◆NOTE:

- 挿入編集の場合は常にレコーダーとプレーヤーの同時トリムになります。
- プレーヤー側のIN/OUT点をトリムする場合はPLAYERボタンを押しプレーヤーを操作対象とした後にTRIM+/-ボタンを押します。
- レコーダー側でSHIFTボタンを押しながらトリム操作を行うことでプレーヤーとレコーダーの同時トリムができます。



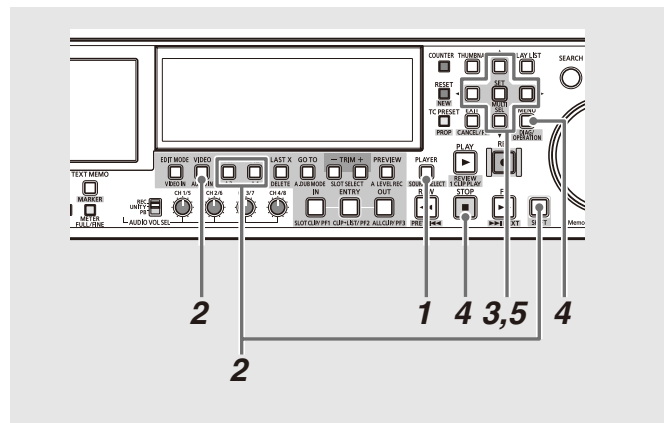
4 ENTRYボタンを押してトリムを確定する

◆NOTE:

- 次のいずれかの操作を行うと、変更内容を破棄してプレイリスト画面に戻ります。
 - EXITボタンを押す
 - CANCEL (SHIFT+EXIT) ボタンを押す
- 元となるクリップの先頭と最後を越えて修正することはできません。
- IN点、OUT点が逆転するような修正はできません。
- タイムラインはトリム確定後に変更され、トリム中は動きません。
- トリム中にはTRIM+/-以外に、サーチダイヤルなどで映像を動かしてIN/OUT+ENTRYにより編集点を再登録することもできます。プレーヤーの画を別のクリップに置き換えるときなどに使用すると便利です。
- 赤色イベントはトリムを行うことができません。
- プレーヤーがP2カード以外の場合は、プレーヤーでのトリムを行うことができません。

イベントのカット

レコーダーの再生位置(タイムラインの黄色のバーの位置)で、イベントをカット(分割)することができます。



1 レコーダー操作へ切り替える

PLAYERボタンを押して、レコーダー操作へ切り替えます。

2 カットしたいイベントのトラックを選択する

VIDEO / A1 / A2 / A3 (SHIFT+A1) / A4 (SHIFT+A2) ボタンにより、トラックの選択を行います。選択されているトラックは、タイムラインの左側にあるトラック名がオレンジ色になります。

3 カットしたい位置へ再生位置を移動する

4 STOPボタンを押し、停止後にMENUボタンを押す

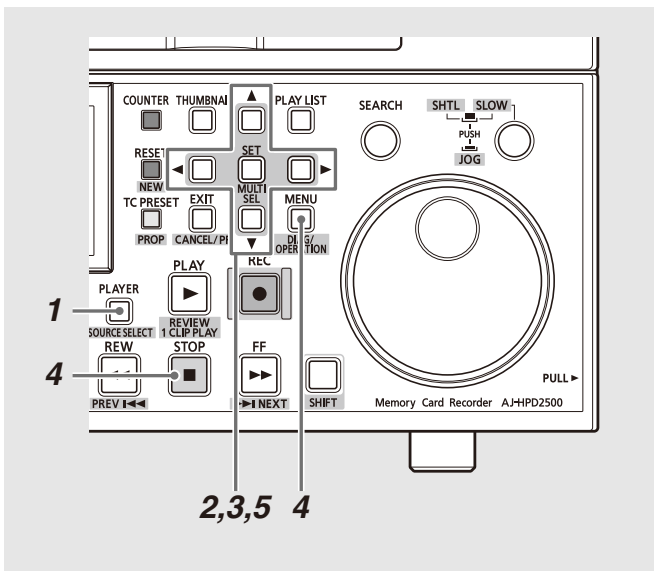
5 十字カーソルボタンで、[OPERATION] - [CUT SEQUENCE]にカーソルを合わせてSETボタンを押す
対象のイベントがカットされます。

◆NOTE:

- この操作は再生できないイベント(赤色イベント)には実行できません。
- プレイリストフォーマットが24PNの場合は4フレーム単位の編集となります。

イベントの移動

選択したイベントを移動することができます。移動の対象となるイベントは、V、A1~A4イベントのIN点、OUT点が揃っているものに限り、移動先も、カーソル位置のV、A1~A4イベントのIN点が揃っているものに限り、移動することができます。



1 レコーダー操作へ切り替える

PLAYERボタンを押して、レコーダー操作へ切り替えます。

2 移動したいイベントを選択する

十字カーソルボタンにより、移動したいイベントの位置へカーソルを移動し、SETボタンを押してイベントを選択します。

◆NOTE:

- 選択はVIDEO、A1、A2、A3、A4すべてに対して行ってください。
- SETボタンを1秒以上長押しすると、カーソル位置と同一長の区間のイベントが一括選択/一括解除されます。

3 移動先のイベントに移動する

十字カーソルボタンにより、移動先となるイベントの位置へカーソルを移動します。(ここでカーソル移動したイベントの直前に挿入されます)

4 STOPボタンを押す、MENUボタンを押す

5 十字カーソルボタンで、[OPERATION] - [MOVE EVENTS]にカーソルを合わせてSETボタンを押す
選択したイベントが移動します。

◆NOTE:

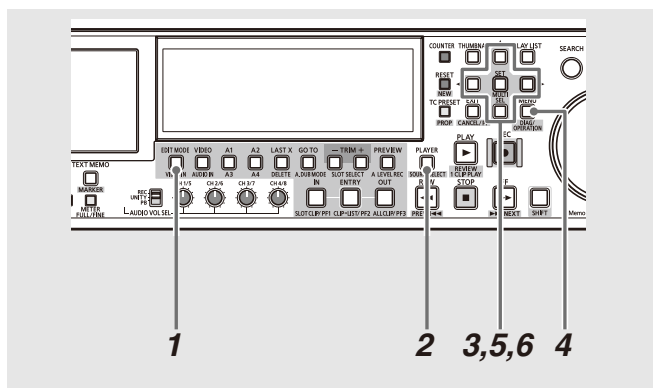
- この操作はカットつなぎの部分へ移動となります。任意の位置や上書きはできません。またイベントのIN点が揃っていない場合も挿入できません。
- 選択された各イベントが揃っていても、イベント全体としてのIN点、OUT点が揃っていれば、移動することができます。

イベントの削除

選択したイベントを削除することができます。挿入編集か上書き編集によって、削除結果が異なります。

挿入編集: 削除したイベント以降のイベントが前へ移動

上書き編集: 削除したイベント区間が無映像、無音声区間となる



1 挿入編集、上書き編集を選択する

EDIT MODEボタンにより、挿入編集か上書き編集を選択します。

2 レコーダー操作へ切り替える

PLAYERボタンを押して、レコーダー操作へ切り替えます。

3 削除したいイベントを選択する

十字カーソルボタンにより、削除したいイベントの位置へカーソルを移動し、SETボタンにより選択します。

4 MENUボタンを押す

5 十字カーソルボタンで、[OPERATION] - [DELETE SELECTED EVENTS]にカーソルを合わせてSETボタンを押す

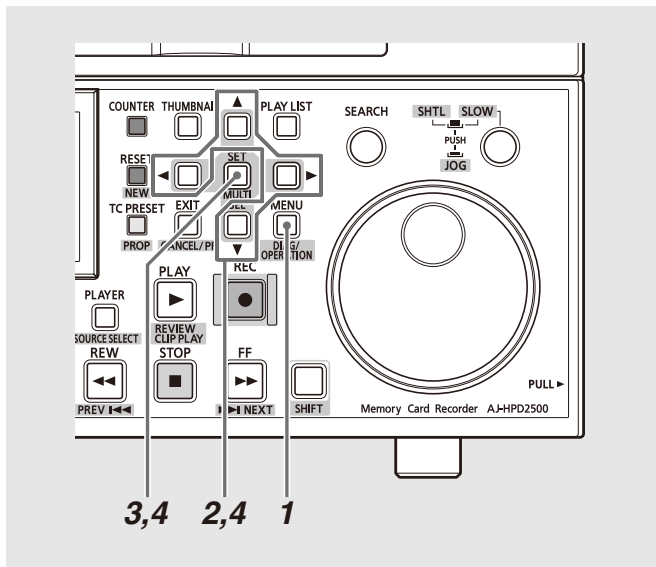
DELETE (SHIFT+LAST X) ボタンでも削除できます。

6 削除の確認画面で、[YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

選択したイベントが削除されます。

全てのイベントをまとめて削除する

プレイリストの全てのイベントを一度に削除します。プレイリストの新規作成(「プレイリストを新規作成する」(88ページ)を参照)とは異なり、プレイリストフォーマット、プレイリスト名は以前のままで、イベントの削除のみを行います。



1 MENUボタンを押す

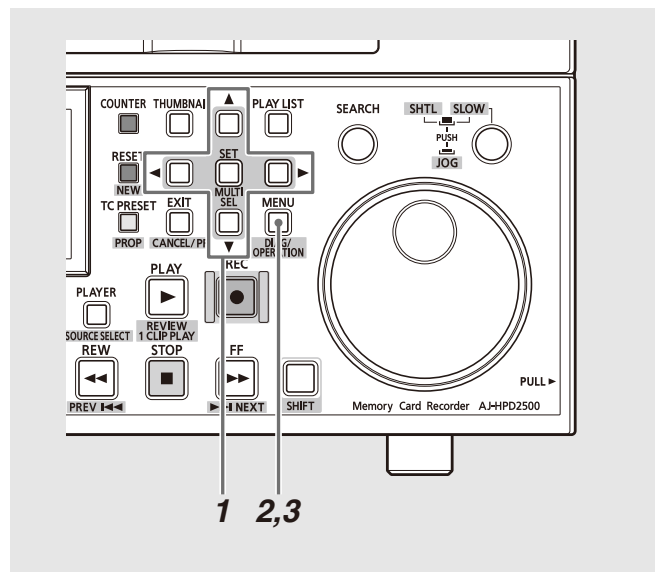
2 十字カーソルボタンで[OPERATION] - [DELETE ALL EVENT]にカーソルを合わせる

3 SETボタンを押す

4 削除の確認画面で、[YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
プレイリストのイベントが全て削除されます。

オーディオチャンネルを入れ替える

作成済みのイベントに対して、音声のチャンネルを入れ替えることができます。



1 イベントを選択する

オーディオチャンネルを変更したいイベントを選択します。複数選択も可能です。

2 チャンネル設定をする

MENUボタンを押し、メニューウィンドウから[SETTING] - [AUDIO CH]メニューを実行し、各チャンネルに入力するチャンネルを設定します。

例: CH1とCH2の音声を入れ替えて登録する場合

[AUDIO CH] - [CH1]=CH2

[CH2]=CH1

[CH3]=CH3

[CH4]=CH4

◆NOTE:

- MENUボタンを押し、メニューウィンドウから[SETTING] - [AUDIO CH] - [RESET]メニューを実行すると、全てのオーディオチャンネル設定を初期値に戻します。

3 入れ替えを実行する

MENUボタンを押し、メニューウィンドウから[OPERATION] - [EDIT AUDIO CH]メニューを実行して、2で設定した内容をイベントに反映します。

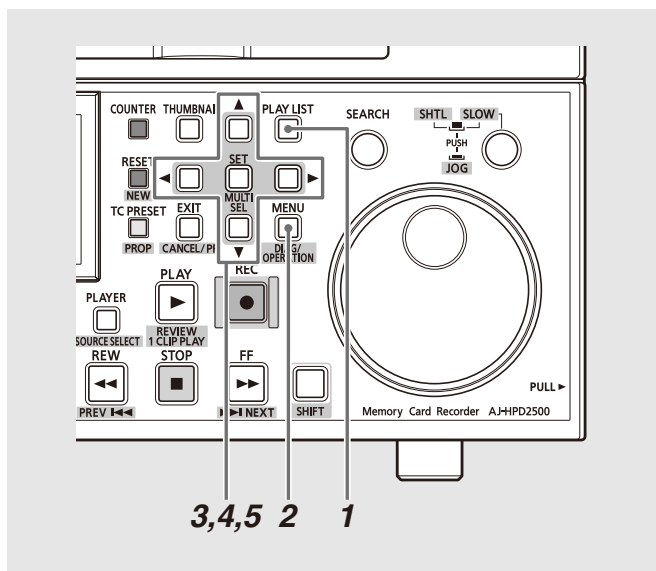
◆NOTE:

- 入れ替えた状態はタイムライン表示で見ることができます。

プレイリストをP2カードに保存する

プレイリストの新規保存

本機メモリーのプレイリスト領域に保存されているプレイリストを、次の操作でP2カードに保存できます。



1 PLAY LISTボタンを押し、プレイリスト画面を表示する

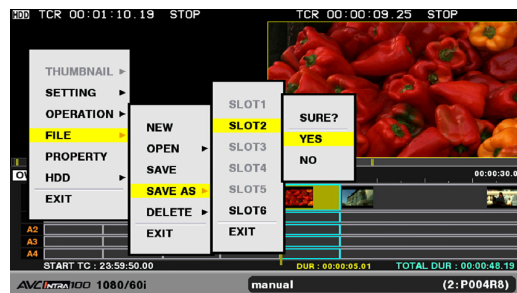
2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで[FILE] - [SAVE AS]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



4 十字カーソルボタンで保存先のP2カードスロット番号にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

5 ファイル保存画面で[YES]にカーソルを合わせて、SETボタンを押す

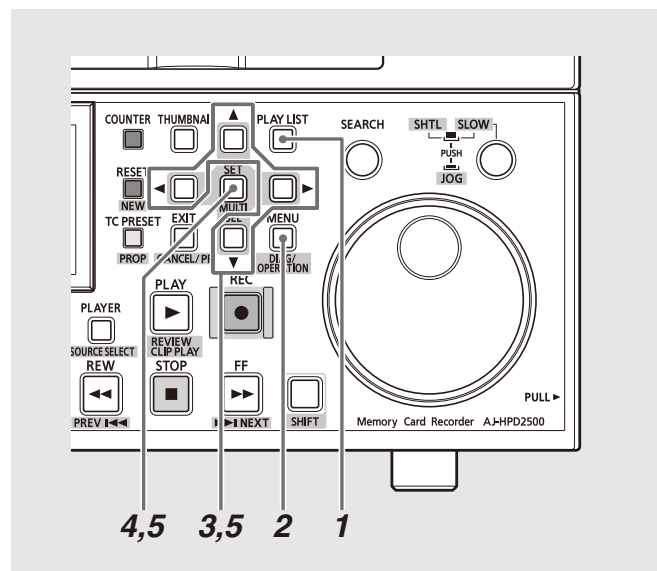


◆ NOTE:

- ファイル名は自動で生成され、変更することはできません。パーソナルコンピュータなどで変更すると、読み込むことができません。
- 本機以外で作成したプレイリストは、本機で読み取り専用で開いた後、一度保存してから使用してください。読み取り専用状態では編集を行うことができません。
- プレイリストファイルは、P2カードのEDITLISTフォルダー内に作成されます。

プレイリストファイルの上書き保存

プレイリストファイルを読み込んで編集しているときや、すでに[FILE] - [SAVE AS]でプレイリストファイルを保存しているときは、次の操作で上書き保存ができます。一度も保存していないときは、SAVE ASで保存を行ってください。



1 PLAY LISTボタンを押し、プレイリスト画面を表示する

2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで[FILE] - [SAVE]にカーソルを合わせる

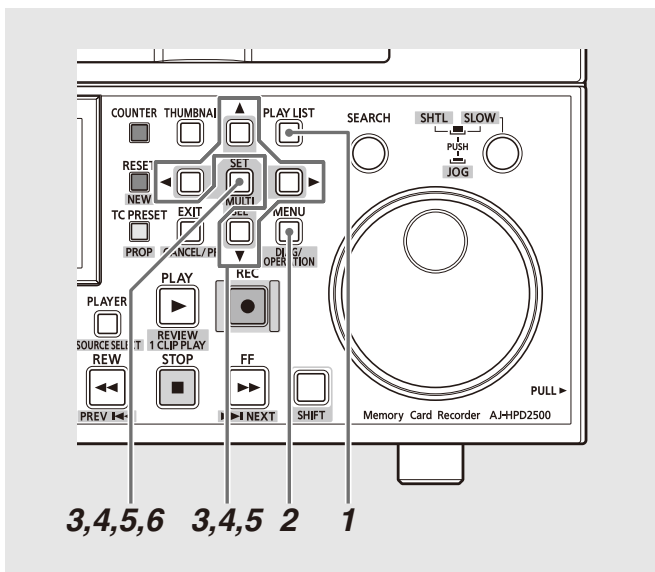
4 SETボタンを押す

5 確認画面で[YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

プレイリストファイルが上書き保存されます。

プレイリストファイルを開く

次の操作で、P2カードに保存しているプレイリストファイルを読み込んで、置き換えることができます。

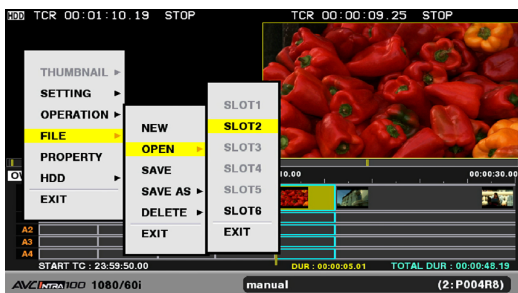


1 PLAY LISTボタンを押し、プレイリスト画面を表示する

2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで[FILE] - [OPEN]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

4 十字カーソルボタンで読み込み元のP2カードスロット番号にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

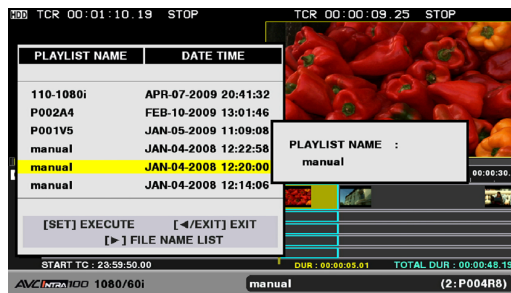


5 読み込むプレイリストファイルにカーソルを合わせ、SETボタンを押す

プレイリストファイルの一覧として、初めは設定したプレイリスト名での一覧が表示されます。

プレイリスト名が設定されていないファイルは、代わりにファイル名が表示されます。

十字カーソル右(▶)ボタンを押すとファイル名の一覧となります。



6 確認画面で [YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

プレイリストファイルが読み込まれます。

◆NOTE:

- 1トラックあたりのイベント数が100を超えるプレイリストファイルを開くことはできません。
- オーディオレベル設定量が本機で扱えるサイズを超えている場合は、全てのオーディオレベル設定を読み込みません。
- AJ-SPD850/HPM100/HPM110/HPS1500で作成されたプレイリストファイルは読み取り専用で開きます。このプレイリストを編集する場合は、一度別名保存([SAVE AS])を行い、別のプレイリストファイルにします。
- AJ-SPD850/HPM100/HPM110/HPS1500で作成されたプレイリストファイルを開く場合、そのプレイリストが使用しているクリップの入ったP2カードが挿入されていない場合は開くことができません。
- HPM100/HPM110でEXTRAオーディオイベントを使用していた場合、そのプレイリストファイルのEXTRAオーディオイベントは、対応するオーディオトラックへ上書きされた形で開かれます。
- AJ-SPD850でSDメモリーカードに保存されたプレイリストファイルは読み込みません。一度P2カードに新規保存を行って取り込んでください。

プレイリストをエクスポートする

登録されているイベントをP2カードやHDD、FTPサーバーにエクスポートできます。エクスポートすると、プレイリストファイルも自動的にエクスポート先に作成されます。

- 1 PLAYLISTボタンを押し、プレイリスト画面を表示する
- 2 MENUボタンを押す
- 3 十字カーソルボタンで[OPERATION] - [PLAYLIST EXPORT]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
- 4 エクスポート先を選択し、SETボタンを押す
エクスポート先がHDDやFTPの場合は、エクスポート先の詳細を選択します。
→HDDやFTPの詳細は「本機にハードディスクを接続して利用する」(117 ページ)、「本機をネットワークに接続して利用する」(130ページ)を参照。
- 5 確認画面で[YES]にカーソルを合わせて、SETボタンを押す



プレイリストファイルがエクスポート先にエクスポートされます。

◆NOTE:

- 素材データのクリップの全領域はエクスポートされません。タイムラインで参照している範囲とその前後2秒のみが分割してエクスポートされます。前後2秒のデータがない場合は、ある範囲でエクスポートされます。
- 作成されるクリップの予想サイズに対してエクスポート先の空き容量が足りない場合は、「LACK OF REC CAPACITY!」という警告が表示され、エクスポートは開始されません。エクスポート先がFTPの場合は、開始後に容量がなくなった時点で警告が表示されます。
- 複数枚のP2カードへエクスポートできます。指定したカードの残量が不足しているときは、自動的にスロット番号順に挿入されているP2カードに分割してエクスポートされます。エクスポート中および終了時に、エクスポート先スロット番号が表示されます。
- エクスポート中にSETボタン、またはCANCEL (SHIFT+EXIT) ボタンを押して [YES] を選択し、SETボタンを押すと、エクスポートを中止します。

- 無映像イベント(枠が赤色のイベントまたはビデオイベントが空欄)があるときにはエクスポートは実行できません。
- エクスポート実行中は関係するP2カードアクセスLEDが点滅します。LEDが点滅しているP2カードを抜かないでください。

プレイリストファイルを削除する

P2カード内に保存されているプレイリストファイルを、次の操作で削除できます。

1 PLAY LISTボタンを押し、プレイリスト画面を表示する

2 MENUボタンを押し

3 十字カーソルボタンで[FILE] - [DELETE] にカーソルを合わせ、SETボタンを押し

4 十字カーソルボタンで削除するプレイリストファイルが格納されているP2カードスロット番号にカーソルを合わせ、SETボタンを押し

5 削除するプレイリストファイルにカーソルを合わせ、SETボタンを押し

プレイリストファイルの一覧として、設定したプレイリスト名での一覧が表示されます。

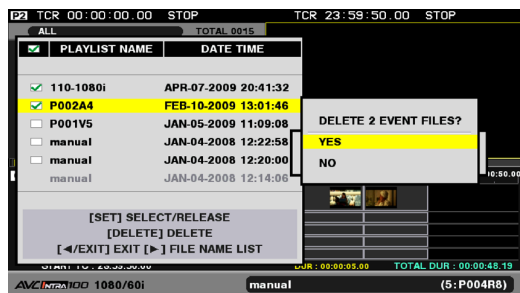
プレイリスト名が設定されていないファイルは、代わりにファイル名が表示されます。

十字カーソル右(▶)ボタンを押すとファイル名の一覧となります。

プレイリストファイルが選択されると、チェックマークが表示されます。

必要に応じてこの操作を繰り返し、複数のプレイリストファイルを選択します。

6 DELETE(SHIFT+LAST X)ボタンを同時に押し、[YES] にカーソルを合わせ、SETボタンを押し



プレイリストファイルが削除されます。

◆NOTE:

- 連続したファイルをすばやく選択するには
MULTI SEL (SHIFT+SET)ボタンを押すと、前回SETボタンを押して選択したファイルからMULTI SELボタンを押したカーソル位置までの全ファイルを選択することができます。
- 選択を解除するには
選択状態のファイルにカーソルを合わせて、SET ボタンを押すとそのファイルの選択が解除されます。
- 選択を全解除するには
CANCEL (SHIFT+EXIT) ボタンを押すと、すべてのファイルの選択状態が解除されます。
- 現在編集中のプレイリストファイルは、灰色表示され選択できません。

オーディオを追加記録する

オーディオの追加記録を行い、追加記録した音声を編集に使用することができます。一度に記録できるチャンネル数は1あるいは2チャンネルです。入力音と、再生音とのミックスを記録することもできます。追加記録されたオーディオは、オーディオイベントとしてタイムラインに表示されます。

◆NOTE:

- 追加記録のオーディオデータは、プレイリストを保存しているP2カードに書き込まれます。従って、オーディオ記録の前にはプレイリストを保存しておく必要があります。保存していない場合は警告が表示され、記録できません。
- 1回あたりの最大記録時間は約720分です。
- プレイリストを保存するときは、P2カードの残量を確認して保存してください。残量が少ないと、追加記録できる時間も少なくなります。P2カードがFULLのときはエラーとなり、記録することができません。
- セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)を24、60-24に設定したときは、オーディオの追加記録はできません。
- 追加したオーディオを記録したカードが挿入されていないとき(イベントが赤色(X)表示)、そのオーディオイベントの削除や、プレイリストファイルの保存はできません。
- オーディオ追加記録で作成したオーディオイベントは、オーディオチャンネルを入れ替えることはできません。
→オーディオチャンネルの入れ替えについては、「オーディオチャンネルを入れ替える」(98ページ)を参照。
- プレーヤーがP2カード以外の場合は追加記録することができません。プレーヤーをP2カードに戻してから操作を行ってください。

オーディオの追加記録の準備

オーディオの追加記録を行う前に、関連する設定を行います。
→設定操作については、「セットアップ」(162ページ)を参照。

再生音とのミックスを設定する

セットアップメニューNo.793(A DUB PB MIX)で、オーディオ追加記録をするときに再生音と入力音をミックスするかどうかを設定します。

◆NOTE:

- プレイリスト再生時の再生レベルは、UNITY固定あるいは登録レベルとなり、可変できません。ただし、オーディオ追加記録中の記録対象トラックのEE音については再生レベル調整を行うことができます。
- 静止状態からの追加記録のときのプリロール中は、再生レベル調整はできません。

記録時の出力音声を設定する

セットアップメニューNo.797 (A DUB MONI)で、オーディオ追加記録実行中の記録音を出力するかどうかを選択します。

設定例:

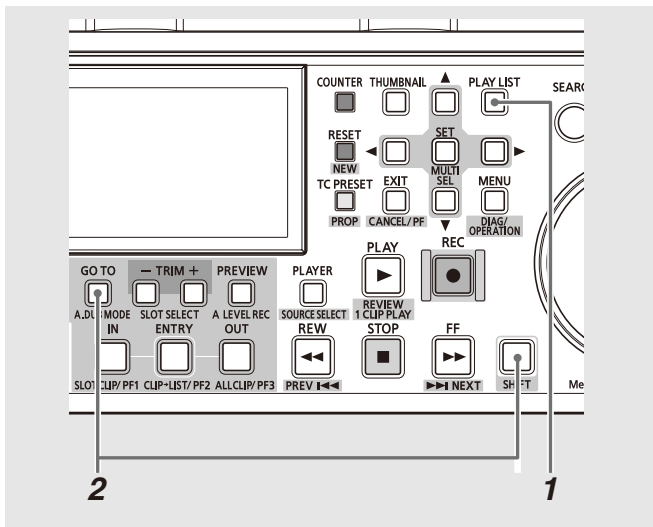
アナログCH2にマイクを入力し、CH2の再生音にマイクをミックスしてCH2に記録する。記録時には、ヘッドホンで再生音を聞く。

記録トラック設定	GUI上でトラック選択をA2のみにする
再生音とのミックス設定	セットアップメニューNo.793(A DUB PB MIX)をONに設定する
記録時の同時再生設定	セットアップメニューNo.797(A DUB MONI)をONに設定する

◆NOTE:

- SDI入力の音声をミックスするときは、リファレンス信号を入力してください。

オーディオ追加記録モードを開始する



1 PLAY LISTボタンを押し、プレイリスト画面を表示する

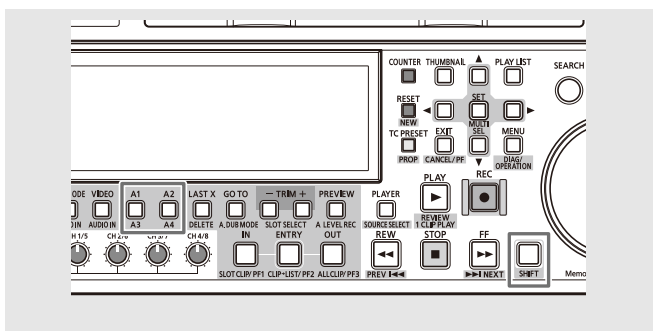
2 A. DUB MODE (SHIFT+GOTO) ボタンを押し、オーディオ追加記録モードにする

オーディオ追加記録モード中はプレーヤー画面に「A.DUB」と表示されます。

◆NOTE:

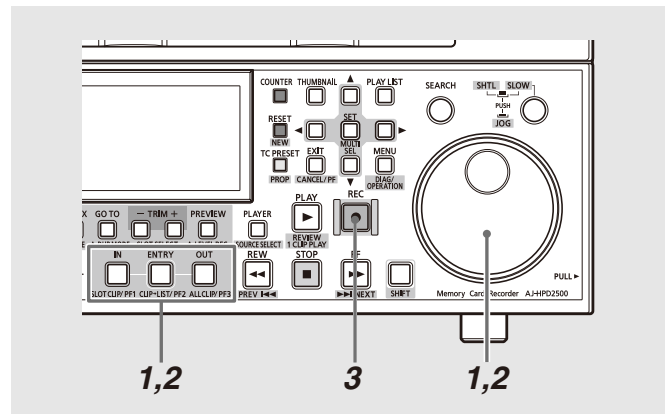
- オーディオ追加記録モードは、A. DUB MODE (SHIFT+GOTO) ボタンで終了します。

記録トラックを設定する



A1 / A2 / A3 (SHIFT+A1) / A4 (SHIFT+A2) ボタンにより、オーディオの追加記録をするトラックを選択します。選択されているトラックは、タイムラインの左側にあるトラック名がオレンジ色になります。選択できるトラックは、1つあるいは2つのチャンネルです。3チャンネル以上選択した場合はオーディオ追加記録ができません。

IN / OUT点を指定してからの追加記録



1 オーディオの追加記録を開始する位置を探し IN+ENTRYボタンを押し

操作ボタン / サーチダイヤルを操作して、オーディオを追加記録する位置を探します。続いて、INボタンとENTRYボタンを同時に押し、IN点を登録します。登録されるとINボタンが点灯します。

2 オーディオの追加記録を終了する位置を探し OUT+ENTRYボタンを押し

操作ボタン / サーチダイヤルを操作して、オーディオの追加記録を終了する位置を探します。続いて、OUTボタンとENTRYボタンを同時に押し、OUT点を登録します。登録されるとOUTボタンが点灯します。

3 RECボタンを押し

登録したIN点からプリロール時間として設定された時間オートバックし、プリロール後、音が記録されます。OUT点を通過するか記録中にOUT+ENTRYボタンを押すことでOUT点を再設定した場合、またはSTOPボタンを押すと記録が終了します。

必要に応じてVR(オーディオボリューム)を操作し、再生音のレベル調整を行います。

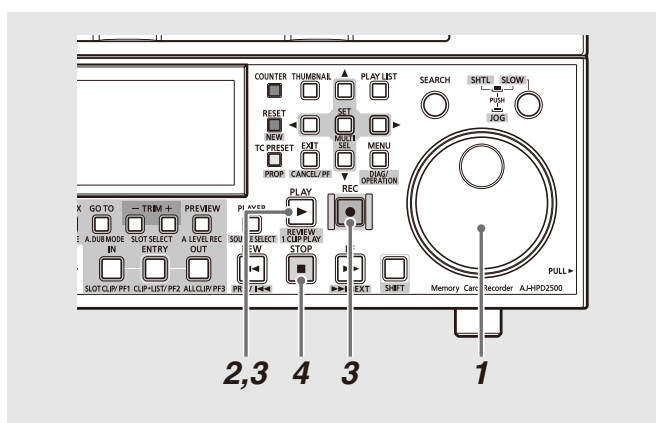
◆NOTE:

- 必要に応じて、手順2でOUT点を登録せずに追加記録することもできます。その場合は、タイムラインの終端あるいはSTOPボタンかOUT+ENTRYボタンを押すまで記録は続きます。

◆NOTE:

- セットアップメニューNo.026(PLY LST FMT)で設定しているプレイリストのフォーマットが24PNのときは、オーディオ追加記録のIN点、OUT点は4フレーム単位で設定されます。それ以外の点で記録を開始または終了したときは、IN点、OUT点とも記録範囲の内側へ自動的に補正されます。
- タイムライン先頭からのオーディオ追加記録はできません。先頭から1秒以降の位置から開始するようにしてください。

再生状態からの追加記録



1 オーディオを追加記録する位置より前の位置を探す
操作ボタン/サーチダイヤルを操作して、オーディオを追加記録する位置より前の位置へ移動します。

2 PLAYボタンで再生する

3 追加記録したい位置で、RECボタンを押しながら
PLAYボタンを押す

音の記録が始まります。

必要に応じてVR(オーディオボリューム)を操作し、再生音のレベル調整を行います。

4 STOPボタンを押してオーディオ追加記録を終了する

◆NOTE:

- セットアップメニューNo.026(PLY LST FMT)で設定しているプレイリストのフォーマットが24PNのときは、オーディオ追加記録のIN点、OUT点は4フレーム単位で設定されます。それ以外の点で記録を開始または終了したときは、IN点、OUT点とも記録範囲の内側へ自動的に補正されます。

オーディオ追加記録部分の修正

追加記録されたオーディオイベントは通常のイベントと同様に修正することができます。

→「登録イベントの修正」(95ページ)を参照。

オーディオのレベル設定を行う

プレイリストの指定区間に対して、一定、もしくは可変のオーディオレベルの設定を行うことができます。レビューやプレイリスト再生時には、設定されたオーディオレベルで再生され、エディットコピーでは設定されたオーディオレベルの素材が作成されます。

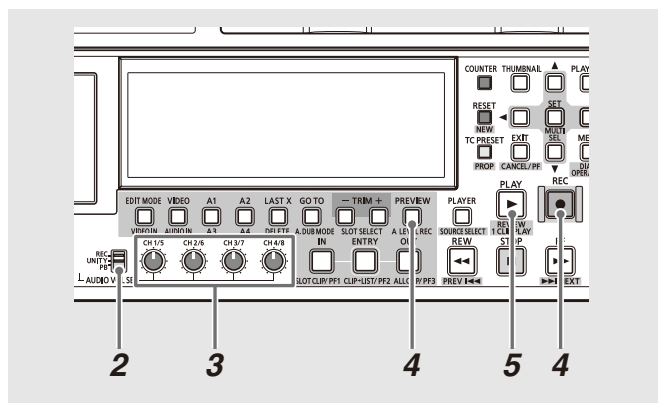
レベルの指定は、イベント登録時に行う方法とあらかじめ存在するプレイリスト上の区間に対して行う方法があります。

◆NOTE:

- レベル設定はメモリーに保存するため設定量(時間)に制限があります。
目安: 1チャンネルあたり10分
(レベルの変化量などにより変動します)
制限量を超えた設定を行った場合、その操作における設定は無効になります。

イベント登録時にイベント全体に一定のオーディオレベル設定を行う

プレイリストへ新規イベントを登録するとき、登録されるオーディオイベントに一定のオーディオレベルを設定します。



1 IN/OUT点登録などを行い、イベントを登録可能な状態にする

→「プレイリストへの登録」(89ページ)を参照。

2 AUDIO VOL SELスイッチをPBにする

3 オーディオボリュームを設定したいレベルに合わせる

4 RECボタンまたはPREVIEWボタンによるイベント登録を実行する

イベントが登録され、一定のオーディオレベル設定がされたタイムラインのイベントにはレベル設定済アイコン

▶▶▶ が表示されます。

5 レビューやプレイリストの再生を行いレベルを確認する

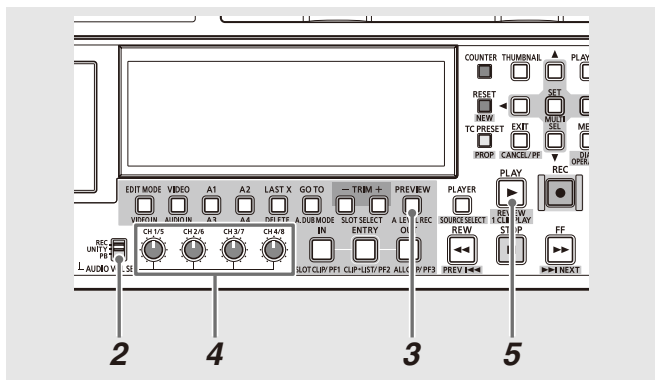
レベル設定されたイベントはPLAYボタンまたはREVIEW (SHIFT+PLAY)ボタンを押して確認することができます。

◆NOTE:

- 手順2で選択したチャンネルに新しくイベントが登録されない場合、オーディオレベルは設定されません。
- 設定したレベル値がUNITY値の場合はレベル設定済アイコンは表示されません。
- プレビュー中にオーディオボリュームを動かした場合は、「イベント登録時にイベント途中で変化するオーディオレベル設定を行う」(107ページ)を参照してください。
- プレーヤーがハードディスクおよび外部機器の場合は、この方法によるオーディオレベル設定はできません。

イベント登録時にイベント途中で変化するオーディオレベル設定を行う

プレイリストへ新規イベントを登録するときに、登録するオーディオイベントの途中でオーディオレベルを変化させます。



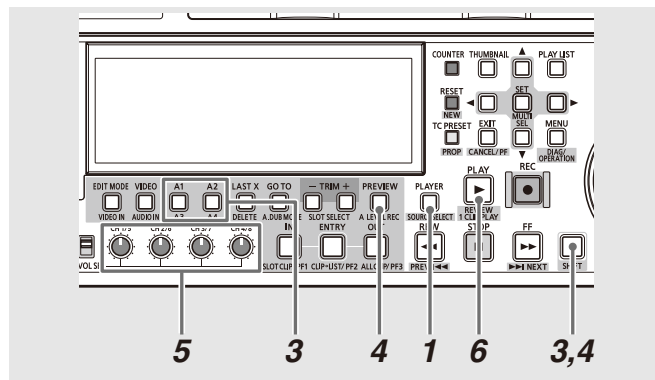
- 1 IN/OUT点登録などを行い、イベントが登録可能な状態にする
- 2 AUDIO VOL SELスイッチをPBにする
- 3 PREVIEWボタンによるイベント登録を実行する
プレビュー中は、設定に応じたレベルでオーディオが出力されます。
- 4 プレビュー中にボリュームを操作してレベルの変更を行う
プレビュー終了または中断したときにそこまで行ったオーディオレベル設定が反映されて、タイムラインのイベントにはレベル設定済アイコンが表示されます。
- 5 REVIEWやプレイリストの再生を行いレベルを確認する

◆NOTE:

- 1つのイベント内の全区間のレベル設定値がUNITY値の場合、そのイベントのレベル設定済アイコンは表示されません。
- プレイリスト全体で、レベル設定を長時間行った場合は、レベル設定の追加ができず、エラーが表示されることがあります。
- プリロール、ポストロール再生区間ではレベル設定の変更はできません。
- プレーヤーがハードディスクおよび外部機器の場合はこの方法によるオーディオレベル設定はできません。
P2カードへのキャプチャ後にオーディオレベル設定を行ってください
- プレビューを繰り返すと、プレビュー開始毎にトラック選択が有効なプレビュー区間のレベル設定はクリアされます。
- プリロール区間でプレビューを中断した場合はレベル設定および前回のレベル設定のクリアは行われません。
- プレビューをSTOPボタンで中断した場合は、中断時までの設定が有効となり、イベント内の中断地点以降のオーディオレベルは中断地点のレベルで一定に設定されます。

区間を指定してオーディオレベル設定を行う

プレイリスト上の指定区間に対して、オーディオレベルを変化させます。



- 1 PLAYERボタンを押して、レコーダー操作へ切り替える
- 2 レコーダーのオーディオレベル設定を開始したい位置でIN点を、終了したい位置でOUT点を設定する
→「IN/OUT点を設定する」(91ページ)を参照。
- 3 オーディオレベル設定をしたいトラックを選択する
A1 / A2 / A3(SHIFT+A1) / A4(SHIFT+A2) ボタンで選択します。
- 4 A LEVEL REC(SHIFT+PREVIEW)ボタンを押して、オーディオレベル記録再生を開始する
指定したIN点からPREROLL TIMEで設定した時間分前から再生が始まり1秒後で停止します。オーディオレベル記録再生中は、レコーダー画面に、「A LEVEL REC」がスーパー表示されます。
- 5 オーディオレベル記録再生中に、オーディオボリュームでレベルを調整する
オーディオレベル記録再生終了または中断したときに、そこまで行ったオーディオレベル設定が反映され、タイムラインのイベントにはレベル設定済アイコンが表示されます。
- 6 レビューやプレイリストの再生を行いレベルを確認する
イベントの途中でIN/OUT点を設定し、音声記録レベルを変更後にレビューしても、そのイベントの頭から最後まで再生します。音声記録レベル変更部分のみ再生確認したい場合は、SEEK TO IN POINT (IN+GOTO) ボタンを押してIN点へシーク後に再生してください。

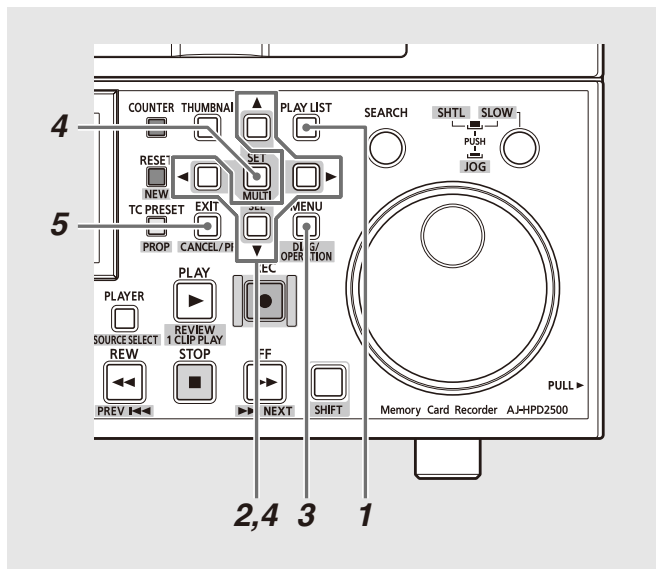
◆NOTE:

- 「イベント登録時にイベント途中で変化するオーディオレベル設定を行う」のNOTE(→107 ページ)を参照。
- プレイヤーがハードディスクおよび外部機器、外部入力(ライブ記録)で仮登録状態の場合は、この方法によるオーディオレベル設定はできません。

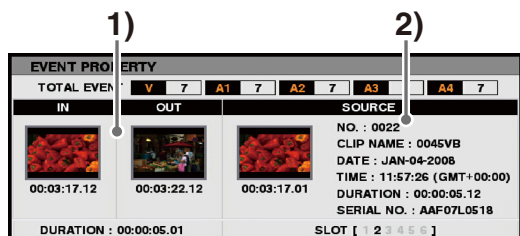
イベントとクリップの情報を表示する

イベントのプロパティの表示

レコーダー操作時に、カーソル位置のイベントの各種情報を表示して、内容を確認できます。



- 1 PLAY LISTボタンを押し、プレイリスト画面を表示する
- 2 十字カーソルボタンで、情報を表示するイベントにカーソルを合わせる
- 3 MENUボタンを押す
- 4 十字カーソルボタンで[PROPERTY]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



イベントの情報が表示されます。

◆NOTE:

- イベント情報画面は手順3以降の代わりにPROP (SHIFT+TC PRESET) ボタンを押し表示することもできます。

1) イベントの情報

- IN点、OUT点のサムネール(オーディオイベントは、元素材のIN点、OUT点に該当する画)とタイムコード値
- DURATION(イベントの長さ)
- 各トラックの登録イベント数

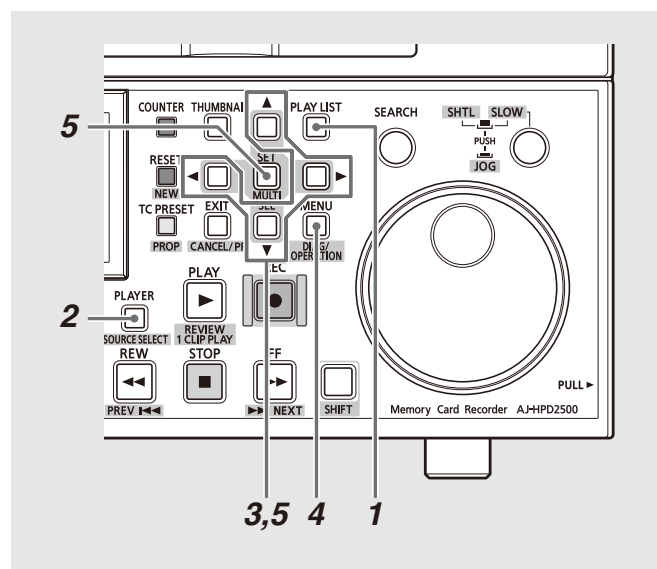
2) イベントの元となるクリップの情報

- クリップの番号(サムネール表示時の番号と同じ)
- クリップのサムネール
- CLIP NAME(クリップ名)
- DATE(記録日付)
- TIME(記録時間)
- DURATION(元のクリップの長さ)
- 元のクリップが入っているP2カードのシリアル番号
- 元のクリップの入っているスロット番号

5 EXITボタンを押して、情報の表示を終了する

クリップのプロパティの表示

プレーヤー画面のサムネール表示時に、カーソル位置のクリップの各種プロパティを表示して、内容を確認できます。

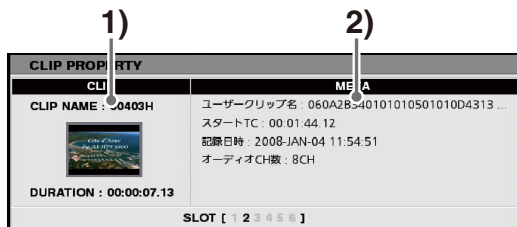


- 1 PLAY LISTボタンを押し、プレイリスト画面を表示する
- 2 PLAYERボタンを押し、プレーヤー操作へ切り替える

3 十字カーソルボタンで、情報を表示するサムネールにカーソルを合わせる

4 MENUボタンを押す

5 十字カーソルボタンで[PROPERTY]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



◆NOTE:

- イベント情報画面は手順3以降の代わりにPROP(SHIFT+TC PRESET)ボタンを押すことで表示することもできます。

1) クリップの情報

- CLIP NAME(クリップ名)
- クリップのサムネール
- DURATION(クリップの長さ)

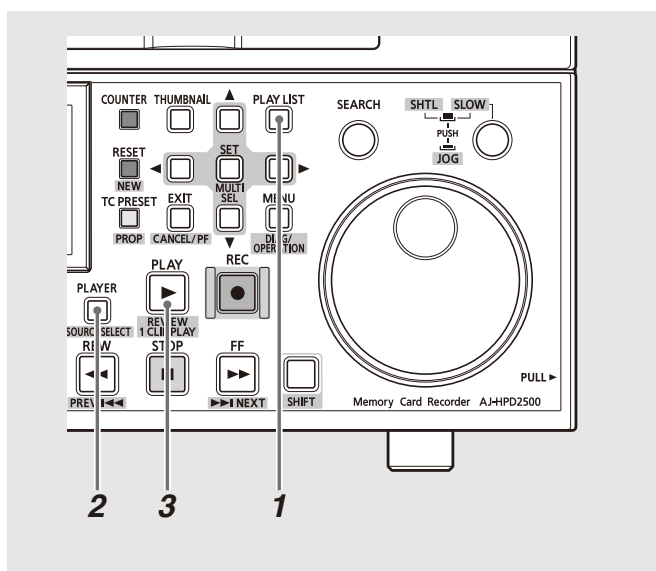
2) クリップのメタ情報

- 表示されるメタ情報は、「プロパティ表示する項目を設定する」(49ページ)で設定された情報が表示されます。

プレイリストを再生する

プレイリストを再生する

次の操作でプレイリストを再生します。



1 PLAY LISTボタンを押し、プレイリスト画面を表示する

2 レコーダー操作へ切り替える

レコーダー選択状態でない場合、PLAYERボタンを押してレコーダー操作に切り替えます。

3 PLAYボタンを押す

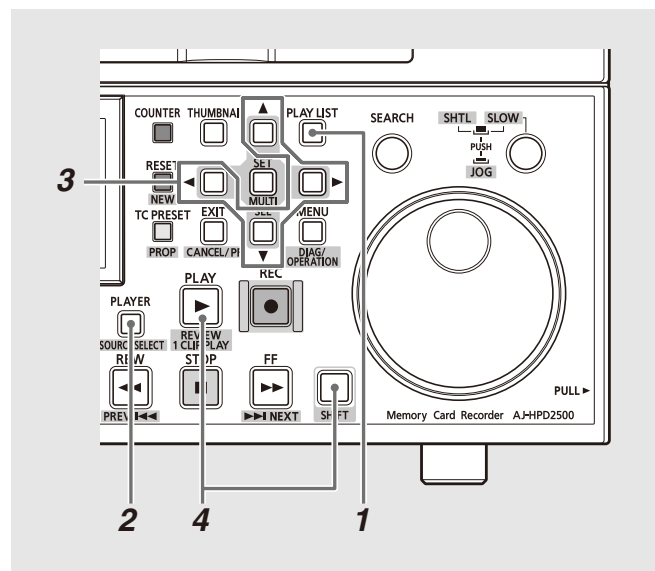
再生開始位置からプレイリストの最後までを連続再生します。

◆NOTE:

- プレイリストの再生を行うときは、プレイリストを構成するすべてのP2カードを挿入してください。プレイリスト再生が正しくできません。参照しているクリップが存在しないイベントは、イベント枠が赤色(×)となり、無映像(ブラック)、無音声での再生となります。
- 再生中はSTOPボタンで再生を中断することができます。再生中断後の再生開始位置は、再生中断時の位置となります。
- イベントでカーソルを移動した場合は再生位置はイベントの先頭となります。
- プレイリスト再生時においても、REMOTEボタンで外部から本機をコントロールするモードに切り替えることで、外部コントローラーなどから再生制御することができます。プレイリスト編集した結果を編集ソースとして用いる場合に有効です。
- 外部機器をプレーヤーとしている場合、編集の仮登録状態の再生は、無映像(ブラック)、無音声での再生となります。編集区間の確認はプレビューを行ってください。
- プレイリストの再生終端では無映像(ブラック)が出力されます。
- プレイリスト再生ではREPEAT PLAY設定は常に無効となります。

イベントをレビューする

現在のカーソル位置のイベントを再生し、内容を確認できます。



1 PLAY LISTボタンを押し、プレイリスト画面を表示する

2 レコーダー操作へ切り替える

レコーダー選択状態でない場合、PLAYERボタンを押してレコーダー操作に切り替えます。

3 十字カーソルボタンで、レビューしたいイベントにカーソルを合わせる

4 REVIEW(SHIFT+PLAY)ボタンを押す

IN点からPREROLL TIMEでの設定時間分前から再生開始し、OUT点の1秒後で再生が終了します。

◆NOTE:

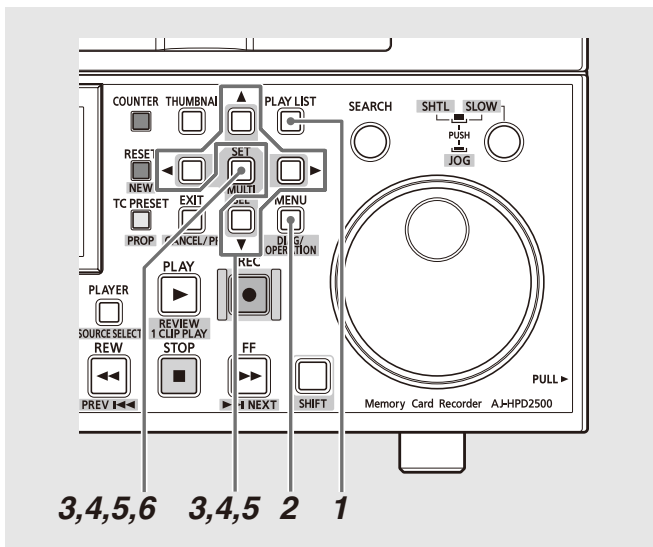
- プレイリストの先頭イベントでは、PREROLL TIMEの設定に関係なく、イベントの始めから再生開始します。
- プレイリストの最終イベントでは、イベントの最後で再生が停止します。
- レビュー終了、あるいはSTOPボタンを押した場合は、再生が停止します。
- レビュー中、STOPボタン以外は無効になります。
- レビュー実行中に、再度レビューを行うこともできます。

プレイリストから新しいクリップを作成する (エディットコピー)

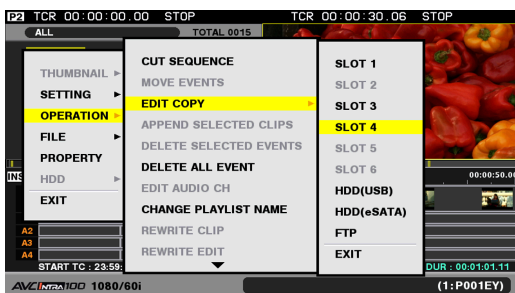
プレイリストを元に、新たに1つのクリップを作成することができます。この機能をエディットコピーと呼びます。

◆NOTE:

- 再生時のタイムコードの設定により、エディットコピーで作成するクリップのタイムコードを、設定した値から始めるようにすることができます。必要に応じて、あらかじめ再生時のタイムコードの設定を行ってください。
→「再生時のタイムコード(TC)の設定をする」(86ページ)を参照。
- AJ-SPD850/HPM100/HPM110/HPS1500で作成したプレイリストファイルは、読み込むことはできますが、そのままではエディットコピーはできません。一度プレイリストメニューの[FILE] - [SAVE AS]によりプレイリストファイルを別名で保存を行った後にエディットコピーを行ってください。



- 1 PLAY LISTボタンを押し、プレイリスト画面を表示する
- 2 MENUボタンを押し
- 3 十字カーソルボタンで[OPERATION] - [EDIT COPY]にカーソルを合わせ、SETボタンを押し
- 4 エディットコピー先となるP2カードスロット番号、HDDもしくはFTPにカーソルを合わせ、SETボタンを押し



コピー先がHDDやFTPの場合は、コピー先の詳細を選択します。

→HDDやFTPの詳細は「本機にハードディスクを接続して利用する」(117ページ)を参照、「本機をネットワークに接続して利用する」(130ページ)を参照。

- 5 [YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押し
エディットコピーが開始されます。

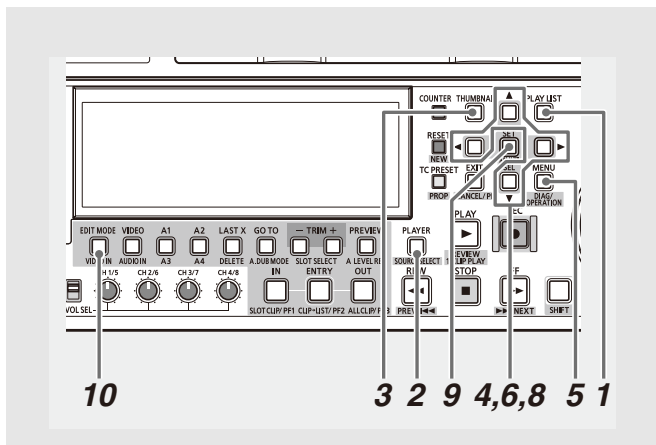
- 6 プログレスバーが表示され、完了後終了メッセージが表示されるのでSETボタンを押し
エディットコピーによって作成されたクリップが、P2カード、ハードディスクまたはFTPに追加されます。

◆NOTE:

- エディットコピーによって作成されるクリップの予想サイズに対して、挿入されているP2カードの空き容量が足りない場合は、「LACK OF REC CAPACITY!」という警告が表示され、エディットコピーは開始されません。
- エディットコピー先がFTPの場合は、開始後に残量が0になった時点で「CANNOT COPY!」が表示される場合があります。
- 複数枚のP2カードへのエディットコピーができます。指定したカードの残量が不足しているときは、自動的にスロット番号順に挿入されているP2カードに分割してコピーします。コピー中および終了時に書き込むスロット番号を表示します。
- エディットコピー中にSETボタン、またはCANCEL(SHIFT+EXIT)ボタンを押すと、エディットコピーを中止します。
- エディットコピーしたクリップの編集点(各ビデオイベントの先頭)にはテキストメモが自動的に挿入されます。
- エディットコピーは、ユーザークリップ名以外の情報はコピーしません。
- プレイリストに、異なるアスペクト比のクリップが混在している場合には、エディットコピーは実行できません。
- 再生できないイベントや無映像イベント(ビデオイベントの枠が赤色)があるときにはエディットコピーは実行できません。7枚以上のP2カードのクリップを使用して作成したプレイリストは、これにあてはまる場合があり、エディットコピーができません。このときはプレイリストで使用しているクリップを、コピーなどでP2カード6枚以内に収めてからエディットコピーを行ってください。
- エディットコピー実行中は関係するP2カードスロットのLEDが点滅しますので、P2カードを抜かないでください。
- メニューの[SETTING] - [AUDIO CH] - [CH5-8]の設定がNONEの場合は5-8CHは出力しません。設定がCH5-8の場合はビデオイベントの5-8CHをエディットコピー先のクリップに出力します。

クリップを編集して上書きする（リライトエディット）

クリップに上書き編集して保存することにより、クリップを修正することができます。編集元になるクリップをベースクリップ、この機能をリライトエディットと呼びます。



1 PLAYLISTボタンを押し、プレイリスト画面を表示する

2 プレーヤー操作へ切り替える

PLAYERボタンを押し、プレーヤー操作へ切り替えます。プレーヤーとしてP2カードを選択しておいてください。

◆NOTE:

- ベースクリップは、P2カードからのみ選択できます。ハードディスク、外部機器からは選択できません。

3 プレーヤーサムネールを表示する

プレーヤー操作中に、THUMBNAILボタンを押し、プレーヤー画面の位置にサムネールを表示します。

4 十字カーソルボタンで、修正クリップにカーソルを合わせ、SETボタンを押して選択する

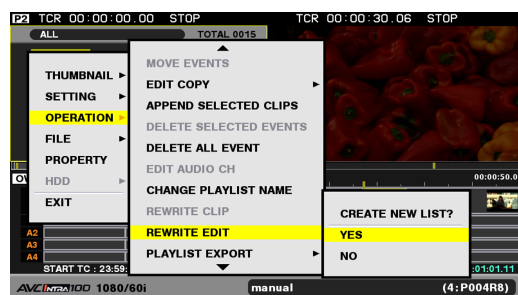
クリップ枠が水色になります。選択するクリップは1個のみにしてください。ここで選択したクリップが、ベースクリップになります。

5 MENUボタンを押す

6 十字カーソルボタンで[OPERATION]-[REWRITE EDIT]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

リライトエディットモードになり、タイムラインの編集モード表示がReWに変わります。

プレイリスト画面は初期化され、選択したクリップがタイムライン上に登録されます。

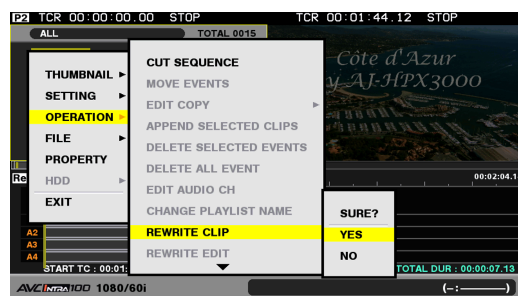


7 編集作業を行う

上書き編集のみが可能です。

8 編集完了後、十字カーソルボタンで[OPERATION]-[REWRITE CLIP]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

ファイルの上書き保存が開始されます。



9 プログレスバーが表示され、完了後、終了メッセージが表示されたらSETボタンを押す

リライトエディットによって編集されたクリップが書き換えられます。

10 EDITI MODEボタンを押すか、メニュー[FILE]-[NEW]で初期化を行ってリライトエディットモードから抜ける

上書き編集モードに戻ります。

◆NOTE:

- クリップの上書き保存中(REWRITE CLIP実行中)にP2カードを抜いたり、電源を切ったりしないでください。クリップが壊れるおそれがあります。
- リライトエディットでは、クリップの長さを変更することはできません。
- リライトエディット中の再生時のタイムコードはREPLACE TC=ONとして出力されます。リライトエディットで作成されたクリップのタイムコードはベースクリップと同じになります。
- 編集を行ったクリップは、リライトエディットにより上書きされます。リライトエディットに対するUNDOはできません。
- クリップの上書き保存中(REWRITE CLIP実行中)はキャンセルできません。
- 編集点(各ビデオイベントの先頭)にはテキストメモが自動的に挿入されます。また、ベースクリップに存在するテキストメモもそのまま継承されます。
- リライトエディットでは、ベースクリップの持つプロキシは継承されません。
- 再生できないイベントや無映像イベント(ビデオイベントの枠が赤色)があるときにはリライトエディットは実行できません。
- ベースクリップに対しての音声チャンネルの変更はできません。
- リライトエディットで保存されたプレイリストファイルにはリライトエディット情報は保存されません。
- リライトエディット完了時は、メニュー[SETTING]-[DIVIDED APPEND]の設定(→「テキストメモ位置での映像のイベント分割を設定する」(87ページ))がONの場合でも、テキストメモによる分割は行われません。

接続

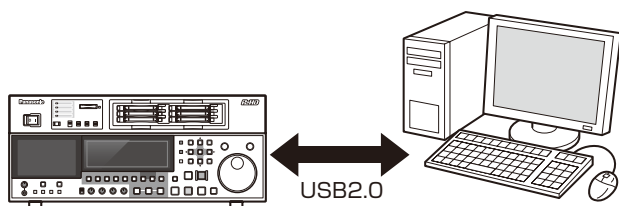
USB端子やeSATA端子を利用する

本機のUSBデバイス端子にパーソナルコンピューターを接続したり、USBホスト端子やeSATA端子にハードディスクを接続し、クリップの保存や管理を効率よく行うことができます。

また、ソフトウェアキーボードが表示されたときに、USBホスト端子にキーボードを接続して使用することができます。

→「キーボードを利用する」(33ページ)を参照。

USBデバイスとして利用する



パーソナルコンピューターなどとUSB2.0で接続することにより、本機のP2カードスロットに挿入されたP2カードをマスタストレージとして扱うことができます。このとき、パーソナルコンピューターには、USB専用ドライバーをインストールする必要があります(USB2.0でご使用ください)。

また、弊社が下記のWebサイトで無償配布しているP2ビューアーを使用すると、P2カードに記録されたクリップを、Windows PCで操作できます。

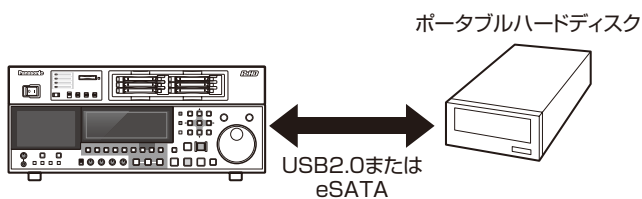
日本語：<http://panasonic.biz/sav/>

英語：<http://pro-av.panasonic.net/>

◆NOTE:

- この接続での操作については、利用するコンピューターやアプリケーションソフトの取扱説明書を参照してください。

ハードディスクと接続する

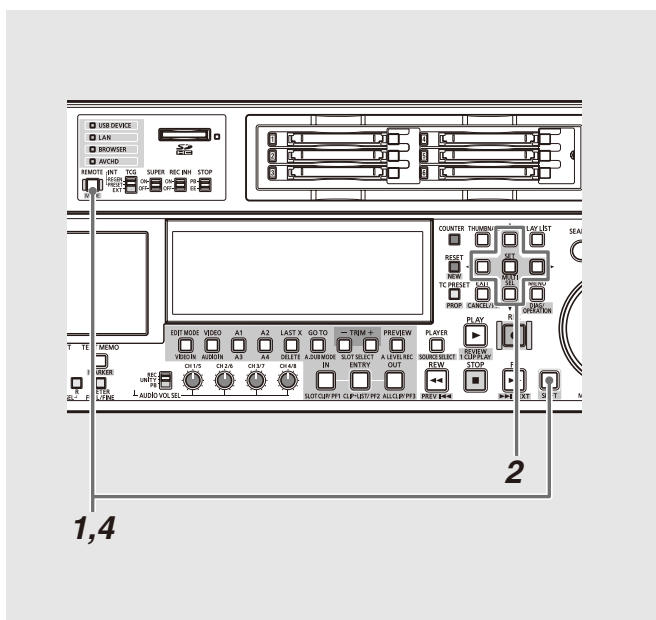


USB2.0やeSATA対応のハードディスク1台と接続して、P2カードデータの保存や、保存したクリップサムネールの閲覧、P2カードへのインポートを行うことができます。また、ハードディスク上のクリップを簡易再生して内容を確認することができます。

→「本機にハードディスクを接続して利用する」(117ページ)を参照。

本機にパーソナルコンピュータを接続して利用する

USBデバイスモードへの切り替え



1 停止状態のときにMODE(SHIFT+REMOTE)ボタンを押す

2 選択画面で、[USB DEVICE]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



液晶モニターのUSB DEVICEの文字が点滅してモードが切り替わります。モードが切り替わると、液晶モニターにUSB DEVICE DISCONNECTと表示されます。その後パーソナルコンピュータとの接続が完了すると、USB DEVICE CONNECTの表示に切り替わります。

3 USBデバイスモードでの操作を行う

4 MODE(SHIFT+REMOTE)ボタンを押して、通常モードに戻る

◆NOTE:

- USBデバイスモードでは、録画・再生を含むほとんどの操作はできません。
- プレイリストモード、リモート中およびセットアップメニュー No.27 (VDCP CMD)ON時は、MODE(SHIFT+REMOTE)ボタンは受け付けません。
- USBデバイスモードでは、表示パネルにUSBと表示されます。
- Windows PCをお使いの場合は、付属のCD-ROMからドライバーのインストールを行ってください。
- 録再モードにおいて、外部から本機にFTPログイン時は、FTPログイン解除画面が表示されます。

本機にハードディスクを接続して利用する

使用できるハードディスク

次のハードディスクを使用できます。

- Panasonicポータブルハードディスクユニット P2 store (AJ-PCS060G)
- USB2.0で接続できるハードディスク
- eSATAで接続できるハードディスク

◆NOTE:

- eSATA で接続するハードディスクのうち、OS としてLINUXをサポートしていないものは接続できない場合があります。
- eSATAのハードディスクによっては、接続して本機を起動すると時間がかかる場合があります。
- P2 storeはVer2. **以降のみの対応となります。Ver1. **は接続できません。
Ver1. **についてはバージョンアップ後ご利用ください。

ハードディスクのタイプと利用できる機能について

使用するハードディスクにより、利用できる機能が異なります。ハードディスクのタイプはハードディスクのエクスプローラー画面の左側に「PARTITION:」に続けて表示されます。

→「ハードディスクの情報の表示(エクスプローラー画面)」(122ページ)を参照。

◆NOTE:

- USBバスパワー(5 V, 0.5 A)にも対応していますが、ハードディスクによっては起動できないものもあります。その場合はハードディスクに別途電力を供給してください。
- 2 TB(2048 GB)以上のハードディスクには対応していません。

(ハードディスクのタイプと利用できる機能)

ハードディスクタイプ	特徴	利用できる機能								
		サムネール表示	P2カード単位		クリップ単位		再生確認 ^{*3}	プレイリストでの活用 ^{*4}	クリップ画像表示	フォーマット
			P2→HDD	HDD→P2	P2→HDD	HDD→P2				
TYPE S	カード単位で高速に書き込み / 読み込みするための特殊形式です。	○	○	○	○ ^{*1}	○	○	○	○	○
P2STORE	P2 store (AJ-PCS060G) のことです。書き込みはできません。	○	×	○	×	○	○	○	○	×
FAT	先頭の基本パーティションがFAT16またはFAT32になっているものです。そのパーティションのルート、あるいは、任意のフォルダーの下 ^{*2} の「CONTENTS」フォルダーが対象になります。	○	○	×	○	○	○	○	○	○
OTHER	上記以外のハードディスクです。 •NTFSなど、FAT16、FAT32以外のファイルシステムの場合です。	×	×	×	×	×	×	×	×	○

*1クリップの追加書き込みを行った場合は、そのパーティションのカード単位での書き戻しはできなくなります。

*2フォルダーは第3階層まででかつフォルダー数は最大100個となります。フォルダーの表示は上の階層から順に表示されます。またロングファイル名、2バイト文字のファイル名には対応していません。

例:

/CONTENTS	表示可能
/SAMPLE/CONTENTS	表示可能
/SAMPLE/20090101/CONTENTS	表示可能
/SAMPLE/20090101/1200/CONTENTS	表示不可→4階層なので表示できません

*3ハードディスクからの再生はハードディスクの性能や条件によって映像や音声途切れる場合があります。完全な再生は保障致しません。

*4プレイリストのプレーヤー側で選択して、ハードディスク内のクリップを編集素材として活用できます。

◆NOTE:

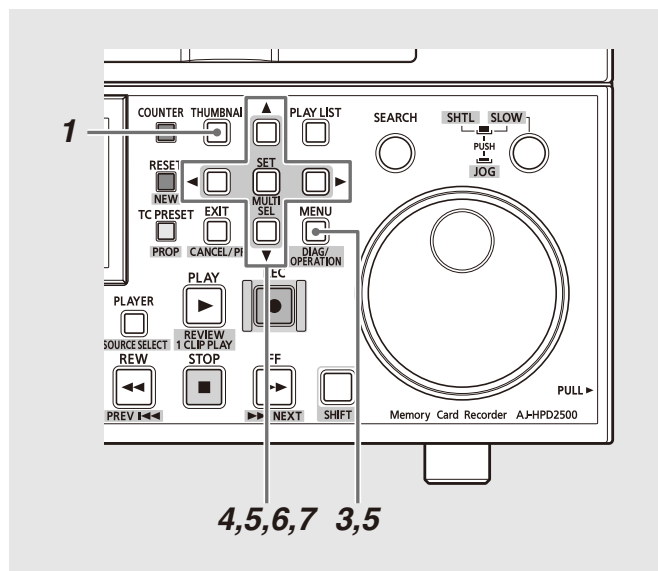
- ハードディスクは以下の条件でご使用ください。
 - ハードディスクの動作保証範囲内(温度など)で使用する。
 - ハードディスクを振動する場所や不安定な場所に置かない。
- ハードディスクやケーブルによっては正しく動作しないことがあります。
- コピーに十分な容量のハードディスクをご使用ください。
- 電源が入っていないハードディスクであっても、ハブなどを介した複数台の接続は行わないでください。ハードディスク以外の機器も、ハブなどを介してハードディスクと一緒に接続しないでください。
- フォーマットやコピー中にケーブルを抜いたり、対象のP2カードを取り出したり、本機やハードディスクの電源を切ったりしないでください。本機およびハードディスクの電源の再起動が必要になります。
- ハードディスクは非常に精密な機器ですので、使用状況によってはデータの読み書きができなくなるおそれがあります。ハードディスクの故障あるいは何らかの不具合によるデータの損失、ならびにこれらに関するその他の直接・間接の損害につきましては、当社では責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- 本機からのコピーで使用したハードディスクを他のパーソナルコンピューターなどで中身を置き換えた場合、以後の本機での動作、およびハードディスクのデータは保証できません。
- 不良クリップが含まれるP2カードは、事前に修復してからハードディスクへコピーすることをお勧めします。
- USB 変換ケーブルを介して接続されたSATA(シリアルATA)や、PATA(パラレルATA)インターフェースのハードディスクは、認識できない場合があります。
- 本機の記録再生中などはケーブルの抜き差しを行わないようにしてください。記録再生が正常に行われません。
- ハードディスクによっては、接続後の最初の再生確認に関してパフォーマンスが低下する場合があります。

ハードディスクのフォーマット

ハードディスクをTYPE SまたはFATで使用できる形式に初期化します。

◆NOTE:

- ハードディスクのフォーマットを行うと、ハードディスクの内容はすべて消去されますので注意してください。



1 THUMBNAIボタンを押す

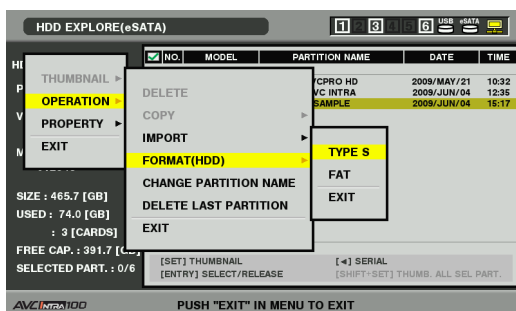
2 USB、eSATAのハードディスクを接続する

ハードディスクが認識されるとハードディスクの状態表示(45 ページ)が白色(または、赤色)に変わります。

3 MENUボタンを押す

4 十字カーソルボタンで[HDD(USBまたはeSATA)] - [EXPLORE]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
エクスプローラー画面が開きます。

5 MENUボタンを押し、十字カーソルボタンで [OPERATION] - [FORMAT(HDD)]にカーソルを合わせSETボタンを押したあと、フォーマットしたい形式(TYPE S、FAT)を選び、SETボタンを押す



6 確認メッセージで[YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

7 再度確認メッセージが出たら、[YES]にカーソルを合わせてSETボタンを押す

ハードディスクがフォーマットされます。

◆NOTE:

- フォーマットにより消去されたデータは復元することができませんので、必ずデータを確認した後に実行してください。

カード単位でのハードディスクへのエクスポート

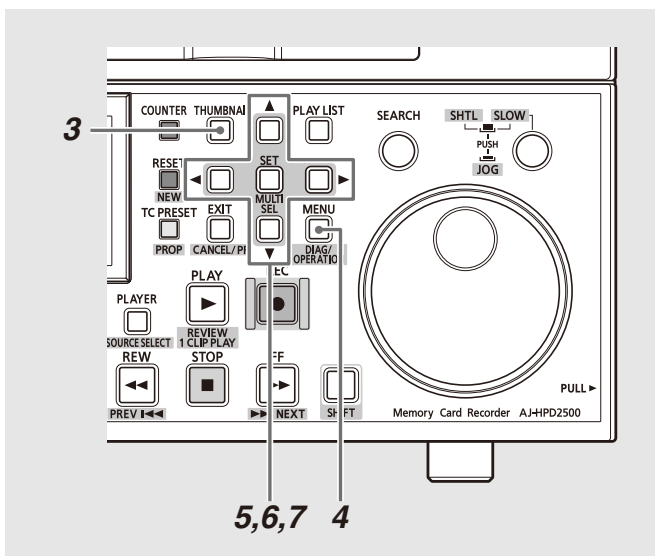
P2カード単位でハードディスクへエクスポート(P2カードからハードディスクへの書き出し)を行うことができます。ハードディスクのフォーマット形式によってコピー結果と最大コピー枚数が異なります。

ハードディスクタイプ	コピー結果	最大コピー枚数*2
TYPE S	カードごとにパーティションが作成され、その中にカードに含まれる全データがコピーされます。本機のエクスプロー画面でコピーしたP2カードの品番やシリアル番号が確認できます。	23
FAT	カードごとにフォルダー*1が作成され、その中にカードに含まれる全データがコピーされます。本機のエクスプロー画面でフォルダー名が確認できます。	100

*1フォルダーは年月日のフォルダーとその下に時分秒フォルダーの2階層が作られます。

例) 2010年3月30日 12時34分56秒の場合:
/10-03-30/12-34-56

*2ストレージデバイスの容量を超えてコピーすることはできません。



1 ハードディスクを接続する

ハードディスクがTYPE SタイプまたはFATタイプでない場合は、ハードディスクをTYPE SタイプまたはFATタイプにフォーマットします。

→「ハードディスクのフォーマット」(119ページ)を参照。

2 P2カードを挿入する

3 THUMBNAILボタンを押し、サムネール画面を表示する

4 MENUボタンを押す

5 十字カーソルボタンで[HDD(USBまたはeSATA)] - [EXPORT] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す TYPE Sタイプの場合



FATタイプの場合



6 コピー元のP2 カードスロット番号にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

TYPE Sタイプの場合、ALL SLOTを選ぶと、そのとき挿入されているカードすべてを一括エクスポートします。

7 [YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

エクスポートが始まります。エクスポート中は進捗バーが表示されます。

◆NOTE:

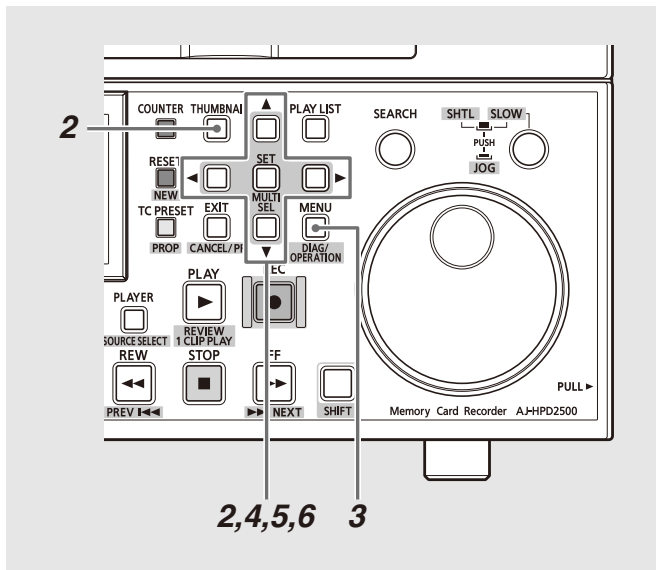
- TYPE S タイプでのエクスポートの場合、工場出荷初期状態ではエクスポート時のベリファイが有効になっています。エクスポート時のベリファイを行わないように設定すると、エクスポートしたデータとの照合は行いませんが、エクスポート完了までの時間が短くなります。設定はメニューの[HDD(USBまたはeSATA)] - [SETUP] - [VERIFY]を[OFF]にします。FATタイプの場合は、この設定値にかかわらず、ベリファイは行われません。
- エクスポートを途中で中断したいときは、SET ボタンを押し、CANCELの確認表示で[YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押すと中断できます。
- ベリファイ中に処理を中断しても、そのP2 カードのコピーは終了しています。
- コンピューターですでに割り当てられているネットワークとドライブが重なって、見えないパーティションがある場合は、弊社が下記のWebサイトで無償配布しているドライバマウントコンバーターをご利用ください。ハードディスクをWindows PCに接続したとき、指定したフォルダーへマウントすることができます。
日本語: <http://panasonic.biz/sav/>
英語: <http://pro-av.panasonic.net/>

エクスポートを完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されます。



クリップ単位でのハードディスクへのコピー

カード全体でなく、選択したクリップだけをハードディスクへコピーすることができます。

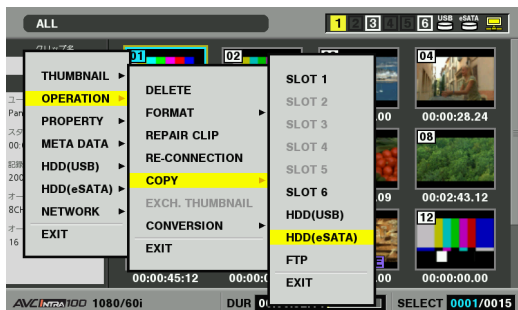


1 ハードディスクを接続する

2 THUMBNAIボタンを押してサムネール画面を表示し、コピーするクリップを十字カーソルボタンで選択して、SETボタンを押し選択する
複数のクリップを選択することもできます。

3 MENUボタンを押す

4 十字カーソルボタンで[OPERATION] - [COPY] - [HDD(USBまたはeSATA)] にカーソルを合わせSETボタンを押す



5 ハードディスクのフォルダーあるいはパーティション一覧が表示されるので、コピー先を選択しSETボタンを押す。

◆NOTE:

- FATタイプのハードディスクの場合、表示されるフォルダーは以下のものになります。
 - ・ルート
 - ・第3階層までにCONTENTSフォルダーを含むフォルダー
- TYPE Sタイプのハードディスクにおいて、パーティションが一つ無い場合はコピーできません。FATタイプにフォーマットするか、エクスポートによりパーティションを作成してからコピーしてください。

6 [YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
コピーが始まります。コピー中は進捗バーが表示されます。

◆NOTE:

- コピーを中断したいときは、十字カーソルでCANCELにカーソルを合わせてSETボタンを押し、CANCELの確認表示で[YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押すと中断できます。途中までコピーされたコピー先のクリップは削除されます。
- TYPE Sタイプのハードディスクへクリップをコピーした場合は、そのパーティションへはカード単位でのインポートはできなくなります。またその場合カードの品番表示に「UNKNOWN」と表示されます。

コピーを完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されません。



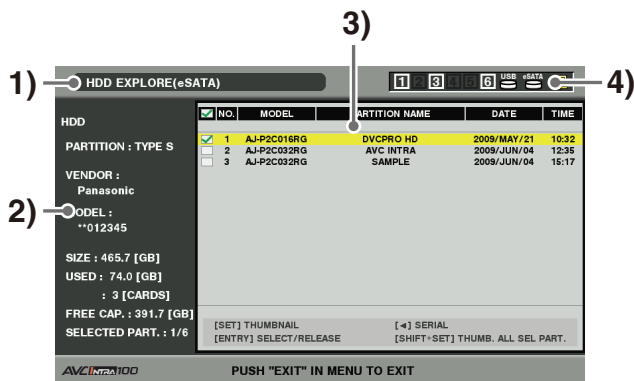
ハードディスクの情報の表示 (エクスプローラー画面)

ハードディスク情報の表示、ハードディスクのパーティション/フォルダーのサムネールの表示選択、操作対象のパーティション/フォルダーの選択ができます。操作対象選択したパーティションはプレイリスト編集でプレーヤーとして簡単に利用することができるようになります。

1 ハードディスクを接続する

2 サムネール画面を表示し、MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで[HDD(USBまたはeSATA)] - [EXPLORE] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



1) 表示状態

ハードディスクエクスプローラー画面であることを示します。

2) ディスク情報

次の情報が表示されます。

カード単位 で書き込み/ 読み出しが 可能なハード ディスク (TYPE S、P2 STORE)	PARTITION:	TYPE S/P2 STORE
	VENDOR:	ベンダー名
	MODEL:	モデル名
	SIZE:	総容量(単位:GB)
	USED:	使用量(単位:GB) 使用P2カード領域 (単位:枚数)最大23
	FREE CAP.:	残量(単位:GB)
	SELECTED PART.:	選択された パーティション数
上記以外の ハードディ スク(FAT、 OTHER)	PARTITION:	FAT/OTHER
	VENDOR:	ベンダー名
	MODEL:	モデル名
	SIZE:	総容量(単位:GB)
	FREE CAP.:	残量(単位:GB)
	SELECTED PART.:	選択された フォルダー数

◆NOTE:

- 2TBを超えるハードディスクを接続する場合、「SIZE:」に「OVER 2TB」と表示されます。

3) パーティション情報(TYPE S タイプのハードディスク、または、P2 store の場合)

<input checked="" type="checkbox"/>	パーティションを操作対象として選択している場合、チェックマークが表示されます。
NUMBER(NO.):	パーティション番号(1~)
MODEL:	P2カードのモデル名
PARTITION NAME:	パーティションにつけられた名称 →「パーティション名の設定」(123 ページ)を参照。
DATE/TIME:	パーティション記録日時
SERIAL:	P2カードのシリアル番号

フォルダー情報 (FATタイプのハードディスクの場合)

<input checked="" type="checkbox"/>	フォルダーを操作対象として選択している場合、チェックマークが表示されます。
NUMBER(NO.):	フォルダー番号(1~)
FOLDER NAME:	フォルダー名 (CONTENTS フォルダ は含みません)
DATE /TIME:	フォルダー作成日時

◆NOTE:

- TYPE Sタイプのハードディスクの場合、左右のカーソルボタンで、パーティション名とシリアル名を切り替えて表示することができます。
- P2 Storeに無効なパーティションがあるときは、パーティション情報がグレーで表示されます。
- メニューの[PROPERTY] - [FREE CAP. OF PARTITION] で対象パーティションの残量を確認することもできます。

4) ハードディスクインジケータ

接続/未接続の区別、ハードディスクのタイプが表示されます。

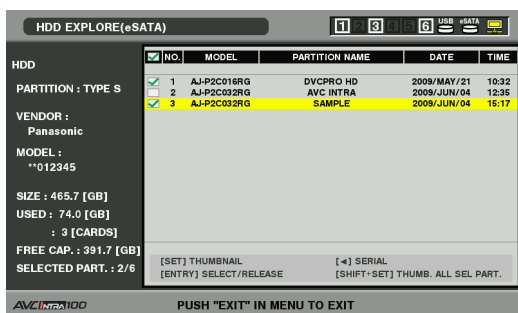
ハードディスクの各種操作について

パーティション/フォルダーの操作対象選択

パーティション/フォルダーを操作対象として選択すると、MULTI SEL (SHIFT+SET) ボタンを押して選択したパーティション/フォルダーに含まれるすべてのクリップを一括してサムネールとして表示できます。また、プレイリストのプレーヤーとして使用することができますので、ハードディスク内部の素材を使った編集が可能となります。
→「プレイリストを作成する」(89ページ)を参照。

この操作対象としては最大6パーティション/フォルダーまで選択することができます。

- 1 ハードディスクエクスプローラー画面で選択するパーティション / フォルダーへカーソルを合わせる
- 2 ENTRYボタンを押す
- 3 パーティション / フォルダーが選択され、□に☑表示がされる



4 選択されたパーティション / フォルダーは操作対象として使用できる

操作対象選択はハードディスクを切り離すあるいは電源を切るまで有効です。操作対象選択を解除する場合は選択されたパーティションで再度ENTRYボタンを押します。CANCEL (SHIFT+EXIT) ボタンを押すとすべての選択が解除されます。

- 7個目を指定した場合は、設定できずワーニングが表示されます。

◆NOTE:

- TYPE S タイプのハードディスクで、MODELが「UNKNOWN」*1になったパーティションと他のパーティションにまたがって記録されているクリップは正常な1つのクリップとなりません。
*1 TYPE S タイプのハードディスクにクリップコピーを行うことで、コピー先のパーティションのMODELが「UNKNOWN」に変更されます。

パーティション名の設定

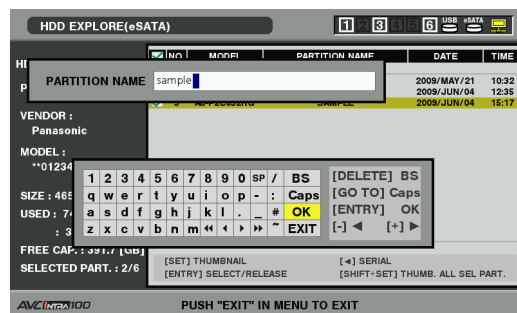
ハードディスクのサムネール表示時に[OPERATION]メニューの[CHANGE PARTITION NAME]を選択することで、そのパーティションに名称(最大20文字)を付けることができます。

◆NOTE:

- パーティション名の設定は、TYPE Sタイプのハードディスクのとき実行できます。設定したパーティション名は、エクスプローラー画面の「PARTITION NAME」に表示されます。

- 1 ハードディスクエクスプローラー画面において設定したいパーティションへカーソルを合わせる。または続けてSETボタンを押し、サムネールの一覧を表示する

- 2 MENUボタンを押し十字カーソルボタンで[OPERATION]メニューの[CHANGE PARTITION NAME]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
- 3 ソフトキーボードが表示され、パーティションに設定する名称を入力する
- 4 ENTRYボタンを押すと名称が設定される



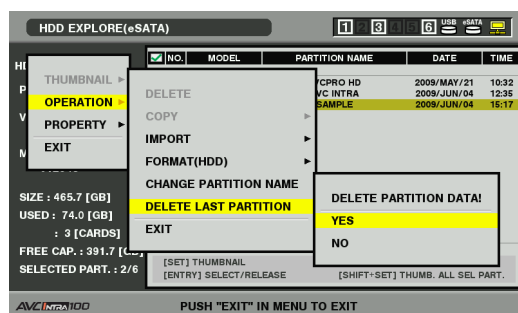
最後のパーティションの削除

ハードディスクの最後のパーティションの削除ができます。

◆NOTE:

- 最後のパーティションの削除は、TYPE Sタイプのハードディスクのときだけ実行できます。削除できるのは、最後のパーティションだけです。途中のパーティションは削除できません。
- 削除したパーティションは復活できませんので、よく確認してから削除してください。

- 1 ハードディスクエクスプローラー画面表示中に、カーソルを最後のパーティションに移動し、メニューを開く
- 2 [OPERATION] - [DELETE LAST PARTITION]へカーソルを合わせ、SETボタンを押す



- 3 確認メッセージがあるのでYESを選択する
- 4 削除が完了するとCOMPLETEが表示され、パーティション一覧画面の最後のパーティションが消える

ハードディスクやFTPサーバーからP2カードへのインポート/コピー

パーティション単位でインポート(TYPE SタイプのハードディスクやP2 storeのみ)

パーティション単位(カード単位)で、元のカードと同じ品番のP2カードへインポート(ハードディスクからP2カードへの読み込み)することができます。

1 インポート先となるP2カードを挿入する

P2カードは必ずフォーマット済のカードを挿入してください。

2 THUMBNAILボタンを押し、サムネイル表示にする

3 ハードディスクを接続し、認識が終わりハードディスクインジケータが表示されるのを待つ

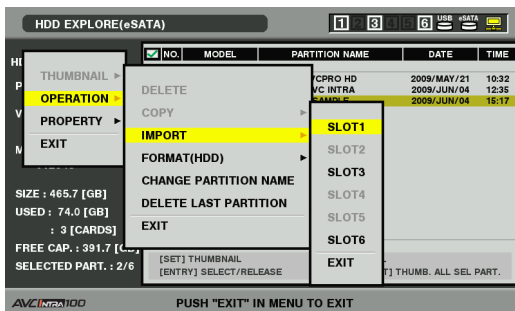
4 MENUボタンを押す

5 十字カーソルボタンで[HDD(USBまたはeSATA)] - [EXPLORE] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

6 ハードディスクエクスプローラー画面においてインポート元のパーティションへカーソルを合わせる。または続けてSETボタンを押し、サムネイルの一覧を表示する

7 MENUボタンを押す

8 十字カーソルボタンで[OPERATION] - [IMPORT] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



9 インポート先のP2カードスロット番号にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

10 [YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

インポートが始まります。

インポートが完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されます。

◆NOTE:

- 元のP2カードとは異なるP2カードにインポートしたとき、クリップによっては不完全(1インジケータ付き)クリップになることがあります。この場合、連結機能を使ってクリップを再構成してください。
→「不完全クリップの連結」(62ページ)を参照。
- メニューの[HDD(USB または eSATA)] - [SETUP] - [VERIFY]の設定により、コピー時にベリファイを行うかどうかを切り替えることができます。
- 異なる品番のP2カードへの、パーティション単位でのインポートはできません。その場合はクリップ単位でコピーを行ってください。

クリップ単位でP2カードやFTPサーバーへのコピー

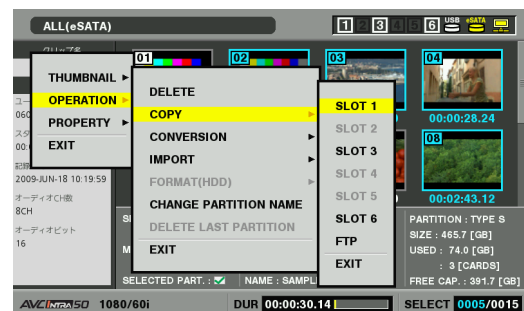
ハードディスクのクリップを指定して、P2カードやFTPサーバーにコピーできます。

1 ハードディスクのサムネイル画面を表示する

2 コピーするクリップを選択する

3 MENUボタンを押す

4 十字カーソルボタンで[OPERATION] - [COPY]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



5 コピー先にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

FTPを選択した場合は、FTPサーバー内のフォルダ一覧が表示されますので、コピー先フォルダを選択します。

6 [YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

コピーが始まります。

コピーが完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されます。

◆NOTE:

- クリップをP2カードやFTPサーバーへコピーするときは、ベリファイは行われません。

ハードディスクのクリップのサムネール表示

ハードディスクに保存したクリップも、本機に装着したP2カードと同様にサムネール表示して管理できます。またサムネール表示から映像を見ることができます。

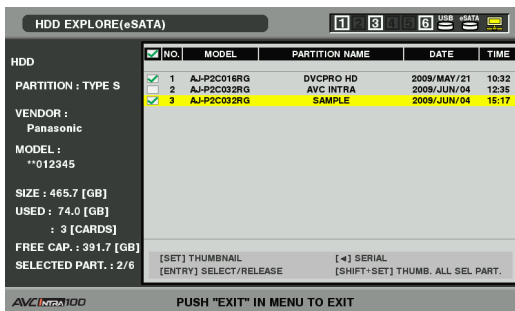
サムネールの表示(TYPE Sタイプのハードディスクや、P2 STOREのみ)

1 ハードディスクエクスプローラー画面を表示する
パーティション一覧が表示されます。

2 十字カーソルボタンでサムネール表示したいパーティションにカーソルを合わせ、SETボタンを押す
そのパーティションのクリップがサムネール表示されます。

◆NOTE:

- 操作対象選択がされている場合はMULTI SEL (SHIFT+SET) ボタンを押すと操作対象選択している全パーティションのサムネールを一括して表示することができます。



SET ▾ ▲ EXIT



1) →

← 2)

1) クリップ情報

クリップのプロパティ表示

2) ハードディスク情報

SERIAL:	P2カードのシリアル番号
MODEL:	P2カードのモデル名
SELECTED PART.:	パーティションを操作対象として選択している場合、チェックマーク(☑)を表示します。
SELECTED PART. No.:	パーティションを複数選択している場合のみ表示され、選択しているパーティション番号の一覧を示します。
NUMBER (NO.):	パーティション番号(1~)
DATE / TIME:	パーティション記録日時
VERIFY:	記録時のベリファイの設定とベリファイ結果
ON:	ベリファイ実施し、一致
FINISHED	
ON:	ベリファイ実施したが不一致
FAILED	
	<ul style="list-style-type: none"> • P2 storeのときは「—」と表示します。
OFF:	ベリファイしていない
NAME:	ユーザーがつけたパーティションの名称
SIZE / USED / FREE CAP.:	ハードディスクの全容量/使用済み容量/残量

◆NOTE:

- EXITボタンを押すと、ハードディスクエクスプローラー画面に戻ります。
- TRIM+ / - ボタンを使うと、ハードディスクエクスプローラー画面に戻ることなく、前後のパーティションのサムネール表示へ移動できます。
- ENTRYボタンを押すと、表示中のパーティションを操作対象に設定することができます。
- 必要に応じてサムネール画面の表示の変更を行うことができます。操作はP2カードのサムネール表示と同じです。
→「サムネール画面の表示の変更」(47ページ)を参照。

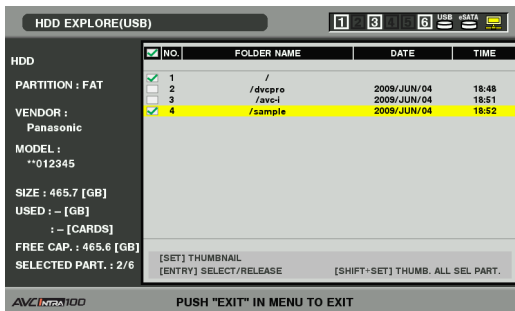
サムネールの表示(FAT)

1 ハードディスクエクスプローラー画面を表示する
フォルダー一覧が表示されます。

2 十字カーソルボタンでサムネール表示したいフォルダーにカーソルを合わせ、SETボタンを押す
そのフォルダーのクリップがサムネール表示されます。

◆NOTE:

- 操作対象選択がされている場合は、MULTI SEL (SHIFT+SET) ボタンを押すと操作対象として選択している全フォルダーのサムネールを一括して表示することができます。



SET EXIT



1) クリップ情報

クリップのプロパティ表示

→「サムネールとクリップの管理について」(43ページ)を参照。

2) ハードディスク情報

SELECTED PART.:	フォルダーを操作対象として選択している場合、チェックマーク(☑)を表示します。
SELECTED PART. No.:	フォルダーを複数選択している場合のみ表示され、選択しているフォルダー番号の一覧を示します。
NUMBER(NO.):	フォルダー番号(1~)
DATE / TIME:	フォルダー作成日時
FOLDER:	フォルダー名*1
SIZE / FREE CAP.:	ハードディスク内の操作可能領域の容量 / 残量

*1ルートには作成日時は表示されません。

◆NOTE:

- EXITボタンを押すと、ハードディスクエクスプローラー画面に戻ります。
- TRIM+ / - ボタンを使うと、ハードディスクエクスプローラー画面に戻ることなく、前後のフォルダーのサムネール表示へ移動できます。
- ENTRYボタンを押すと、表示中のフォルダーを操作対象に設定することができます。
- 1001 個目以降のクリップは表示されません。

ハードディスクのクリップの情報を表示する

ハードディスクに保存したクリップの各種メタ情報を表示できます。表示の方法はP2カードのクリップのプロパティと同じです。

1 ハードディスクのサムネール画面で、対象のクリップへカーソルを移動する

2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで[PROPERTY] - [CLIP PROPERTY]にカーソルを合わせて、SET ボタンを押す

PROP (SHIFT+TC PRESET) ボタンを押しても同様の操作となります。

→詳細は「クリップの情報を表示・修正する」(63ページ)を参照。(ただし、修正を行うことはできません。)

ハードディスクのクリップを削除する (TYPE Sタイプ、FATタイプのハードディスク)

ハードディスクに保存された不要なクリップを削除できます。

1 ハードディスクのサムネール画面で、削除するクリップを選択する

2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで、[OPERATION] - [DELETE] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

4 [YES] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

◆NOTE:

- ☒ (不良インジケータ) や ? (不明クリップインジケータ) が表示されたクリップは、削除できないことがあります。

ハードディスクのクリップの映像と音声の再生確認をする

1 ハードディスクのサムネール画面を表示する

2 十字カーソルボタンで、表示したいクリップにカーソルを合わせる

3 PLAY ボタンを押す

カーソルを合わせたクリップから、再生がはじまります。カーソルを合わせたクリップが終わると、それ以降のクリップが順に再生され、最後のクリップの再生が終わるとハードディスクのサムネール画面に戻ります。

◆NOTE:

- クリップを再生するときには、クリップを選択(サムネールに水色の枠が表示された状態に)する必要はありません。
- サムネール表示設定を変更して、選択したクリップだけを再生したり、テキストメモが挿入されたクリップだけを再生したりすることができます。
- PLAYボタンの代わりにSEARCHボタンを押すと、クリップの先頭フレームの映像が静止画として表示されます。
- クリップ番号が赤色に表示されたクリップは、再生できません。
- PLAYボタンの代わりに、REWボタンを押すと早戻し、FFボタンを押すと早送りが行えます。
- クリップの再生中にSTOPボタンを押すと、再生を停止してサムネール画面に戻ります。
- 再生を停止すると、カーソル位置は停止直前に再生していたクリップに移動します。
- 異なったフォーマット(DVCPRO HD、DVCPRO50、DVCPRO、DV、AVC-Intra50、AVC-Intra100)を再生すると、クリップとクリップの間で映像・音声が乱れますが故障ではありません。
- テキストメモやメタデータなどのデータの付加・修正はできません。
- SHIFTボタンを押しながらPLAYボタンを押すと、カーソル位置のクリップのみを再生することができます。
- ハードディスクによっては再生時に映像が止まったり音が途切れたりすることがあります。途切れなく再生するためには高速なハードディスクドライブを使用してください。また、できるだけeSATA端子での使用をお勧めします。映像の途切れが発生した場合はワーニング(E-75)が表示されます。STOPなどを押すことによりワーニング表示は消えます。

外部リモート制御

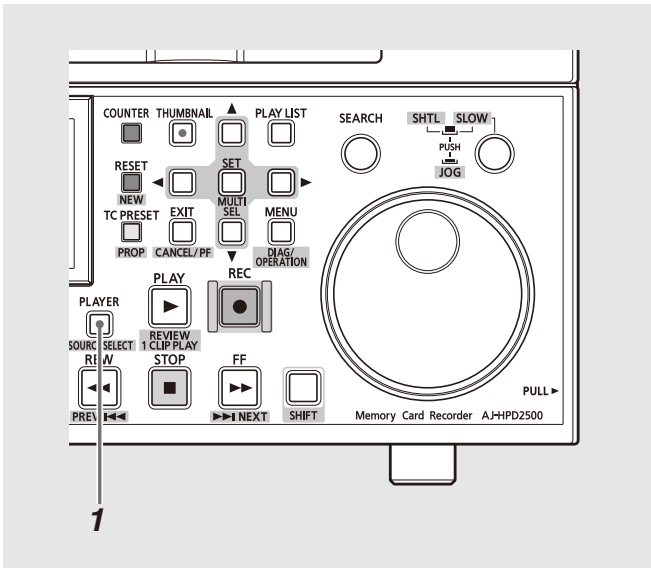
外部機器のリモート操作

RS-422Aインターフェースを用いてコマンドを送信し、外部機器をリモート制御することができます。

リモート制御できる機能は以下の通りです。

- PLAY、STOP、SEARCH、FF、REW
- カウンター表示、ステータスのLED表示

設定方法



1 PLAYER ボタンを押す

外部リモート制御状態となります。

◆NOTE:

- 外部リモート制御する場合は、セットアップメニューNo.25 (SYSTEM FREQ)を59.94、50、23.98、24、29.97、25に設定してください。
- 外部リモート制御する場合は、セットアップメニューNo.27 (VDCP CMD)をOFFに設定してください。
- リモート制御される機器で、制御されるために必要な処理がある場合は、切り替えを行う前に処理を完了させておいてください。

外部リモート制御中の表示

外部リモート制御中は、PLAYERランプが点灯し、以下の表示を行います。

- 外部機器のステータス状態でLEDが点灯
- 外部機器のカウンターを表示
- 強制的にEEとなり外部機器の映像と音声を表示可能
- スーパー表示にて外部機器のカウンター、ステータス、Pマークを表示

リモート操作方法

各制御ボタンを押すことで外部機器をリモート制御します。

STOP	STOP コマンド送信
PLAY	PLAY コマンド送信
SEARCH	JOG、VARまたはSHTLコマンド送信
REW	REW コマンド送信
FF	FF コマンド送信
ダイヤル	JOG、VARまたはSHTLコマンド送信
COUNTER	COUNTER 切り替えのコマンド送信 (CTL/TCのみ)
RESET	CTL モード時に0 リセットコマンド送信

カードへの自動記録

IN/OUT 点を設定し、その区間を自動的にカードに記録する (AUTO CAPTURE) ことができます。

1 外部機器を制御できる状態にする

録再モードで、PLAYERボタンを押します。

2 取り込みたい区間を選択する

• 次のボタンを使用し、取り込みたい区間を選択します。

IN+ENTRY	IN 点の登録
IN+RESET	IN 点の削除
OUT+ENTRY	OUT 点の登録
OUT+RESET	OUT 点の削除
IN+GOTO	IN 点へのCUE-UP コマンド送信
OUT+GOTO	OUT 点へのCUE-UP コマンド送信
IN	IN 点の確認(カウンターへの表示)
OUT	OUT 点の確認(カウンターへの表示)
IN+OUT	DUR の確認(カウンターへの表示)

3 SHIFTボタンを押しながらREC ボタンを押す

- 指定した区間が自動的にカードへ記録されます。
- 動作中はPLAYERボタンが点滅します。
- IN 点が登録されていない場合は、現在点をIN 点として登録します。
- OUT 点まで記録した後自動的に停止します。
OUT 点が登録されていない場合はSTOP ボタンを押した点までを記録します。

本機をネットワークに接続して利用する

ネットワーク端子(1000Base-T / 100Base-TX / 10Base-T)を利用して、ネットワークへ本機を接続し、ネットワーク上のサーバー機器へクリップを転送したり、Webサイトを閲覧したり、ネットワークサービスを起動し各種サービスを行うことができます。

(機能)

- 本機からのクリップの送受信(FTPクライアント機能によるクリップの転送)
- 本機をサーバーとしたファイルの読み出し(FTP / Sambaサーバーサービス)
- パersonalコンピュータなどからのサムネールやメタデータの参照(HTTPサーバーサービス)
- Webサイトの表示(ブラウザー機能)
- 外部機器からのP2カードへのファイル書込み(録再モードでのFTPサーバーサービス)

ネットワークの設定

ネットワークの機能を利用する場合には、LANの設定をはじめ各種設定が必要です。利用する機能に応じて設定をしてください。

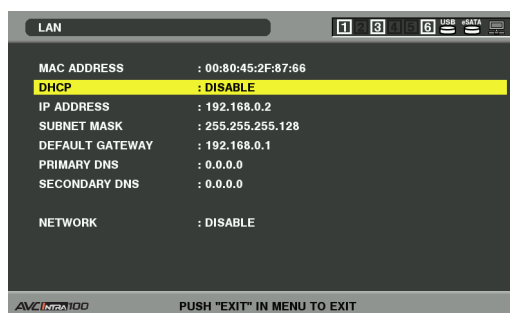
◆NOTE:

- ネットワークの設定を行うと、その設定内容は保存されます。

LANの設定

本機をネットワークに接続して利用する場合には、LANの設定が必要です。

- 1 サムネール画面を表示する
- 2 MENUボタンを押す
- 3 十字カーソルボタンで、[NETWORK] - [SETUP] - [LAN] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



- 5 設定後EXITボタンを押し、サムネール画面へ戻る



- 4 LAN設定画面が表示される

現在の設定値が表示されます。

設定したい項目に十字カーソルボタンでカーソルを合わせ、SETボタンを押すことで設定を行うことができます。

設定項目:

項目名	内容	設定値	工場出荷時の設定
MAC ADDRESS	マックアドレス(固有ID)	変更できません。	設定値(変更不可)
DHCP	DHCP利用設定	ENABLE: DHCP(自動取得)を利用します。	DISABLE
		DISABLE: DHCP(自動取得)を利用しません。	
IP ADDRESS	IPアドレス	テンキーボードを用いて入力します。	192.168.0.2
SUBNET MASK	サブネットマスク	テンキーボードを用いて入力します。	255.255.255.128
DEFAULT GATEWAY	デフォルトゲートウェイ	テンキーボードを用いて入力します。	192.168.0.1
PRIMARY DNS	優先DNSサーバー設定	テンキーボードを用いて入力します。	0.0.0.0
SECONDARY DNS	代替DNSサーバー設定	テンキーボードを用いて入力します。	0.0.0.0
NETWORK	NWサービス開始設定	ENABLE: 電源ON時にネットワークサービスを起動します。	DISABLE
		DISABLE: ネットワークサービスを起動しません。	

◆NOTE:

- NETWORK がENABLEの場合には電源ON時にネットワーク開始のため起動時間が長くなる場合があります。
- NETWORK がDISABLEの場合にはネットワーク機能を利用できません。またENABLE↔DISABLEを変更した場合は、機器を再起動するまで変更が反映されません。
- 設定が変更された場合、ネットワークサービスを再起動するため設定画面終了に時間がかかる場合があります。
- DHCP がENABLEの場合には、MAC ADDRESS、NETWORK以外の設定項目は無効です。
- IPアドレス、サブネットマスク、およびデフォルトゲートウェイは正しい組み合わせでなければなりません。
設定画面終了時に「CANNOT ACCESS GATEWAY!」の警告が表示された場合は、ご利用のネットワークの管理者にお問い合わせください。
- デフォルトゲートウェイやDNSを使用しない場合は、0.0.0.0に設定してください。
- ネットワーク環境によっては、DHCP、DNSが正しく動作しないことがあります。

クライアントの設定

FTPクライアント機能でクリップの転送を行う場合やHTTPブラウザ機能を使用する場合は事前に接続先などの設定が必要です。

現在の設定値が表示されます。

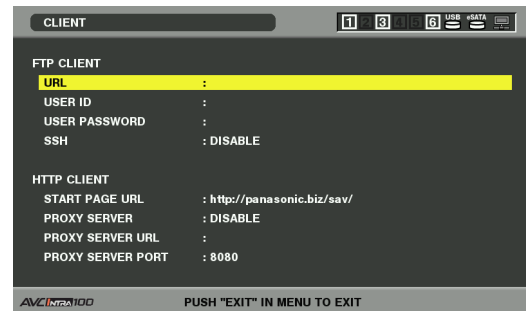
設定したい項目に十字カーソルボタンでカーソルを合わせ、SETボタンを押すことで設定を行うことができます。

1 サムネール画面を表示する

2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで、[NETWORK] - [SETUP] - [CLIENT] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

4 クライアント設定画面が表示される



FTP CLIENT:

項目	内容	設定方法	工場出荷時の設定
URL	接続先サーバー名またはアドレス	フルキーボードを用いて入力します。(最大500文字)	設定なし
USER ID	接続するユーザーID	フルキーボードを用いて入力します。(最大31文字)	設定なし
USER PASSWORD	接続するユーザーのパスワード	フルキーボードを用いて入力します。(最大15文字)	設定なし
SSH	SSHを用いてファイルを転送する場合に設定します	ENABLE: SSHを使用します。	DISABLE
		DISABLE: SSHを使用しません。	

- 設定したパスワードの内容は、本機では表示できません。

HTTP CLIENT:

項目	内容	設定方法	工場出荷時の設定
START PAGE URL	ブラウザ起動時に表示するページのURL	フルキーボードを用いて入力します。	http://panasonic.biz/sav/
PROXY SERVER	PROXYサーバーの使用する有無	ENABLE: PROXYサーバーを使用します。 DISABLE: PROXYサーバーを使用しません。	DISABLE
PROXY SERVER URL	PROXYサーバーのサーバー名またはアドレス	フルキーボードを用いて入力します。	設定なし
PROXY SERVER PORT	PROXYで使用するポート番号	テンキーボードを用いて入力します。	8080

サーバーサービスの設定

各種サーバーサービスの設定を行います。ENABLEに設定したサービスが起動され使用することができます。

FTPサーバーサービス:	LANモードにおいて、FTPクライアントからのアクセスを受けてファイルの転送を行います。ただしP2カードへのファイルの書き込みはできません。
Sambaサーバーサービス:	LANモードにおいて、外部からP2カードやハードディスクをネットワークドライブとして読み出すことができます。(P2カードへの書き込みはできません)
HTTPサーバーサービス:	LANモードにおいて、外部のブラウザからP2カードのサムネールの参照、メタデータの参照、プロキシーデータの再生(クライアントの機器が再生対応している場合のみ)ができます。
BACKGROUND FTPサーバーサービス	録再モードにおいて、FTPクライアントからのアクセスを受けてファイルの転送を行います。P2カードへのファイルの書き込み可能です。

◆NOTE:

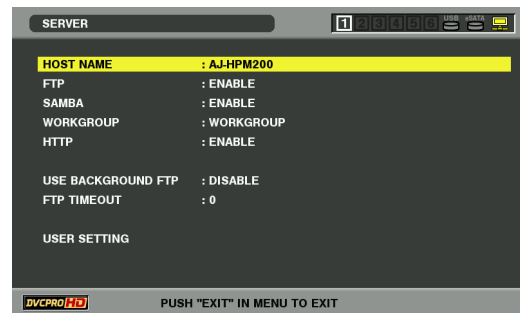
- LANモード中は記録再生を含めた各種操作は行えません。
→「LANモードでのサーバー機能を利用する」(140ページ)を参照。

1 サムネール画面を表示する

2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで、[NETWORK] - [SETUP] - [SERVER] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

4 サーバー画面が表示される



現在の設定値が表示されます。設定したい項目に十字カーソルボタンでカーソルを合わせ、SETボタンを押すことで設定を行うことができます。

項目	内容	設定	初期値
HOSTNAME	ホスト名(最大31文字)	フルキーボードを用いて入力します。	AJ-HPD2500
FTP (LANモード)	FTPサーバー設定	ENABLE: FTPサーバーを起動します。 DISABLE: FTPサーバーを起動しません。	ENABLE
SAMBA (LANモード)	SAMBA設定	ENABLE: SAMBAサービスを起動します。 DISABLE: SAMBAサービスを起動しません。	ENABLE
WORKGROUP	ワークグループ(最大31文字)	フルキーボードを用いて入力します。	WORKGROUP
HTTP (LANモード)	HTTPサーバー設定	ENABLE: HTTPサーバーを起動します。 DISABLE: HTTPサーバーを起動しません。	ENABLE
USER LOGIN SETTING	ユーザー設定	ログインユーザーのユーザーIDとパスワード設定を行います。(別画面に移動します)	guestのみ登録 (PASSWORD : p2guest)
USE BACKGROUND FTP (録再モード)	FTPサーバー設定	ENABLE: FTPサーバーを起動します。 • LAN設定画面のNETWORKもENABLEにする必要があります。 DISABLE: FTPサーバーを起動しません。	DISABLE
FTP TIMEOUT	タイムアウト時間(単位: 分)	FTPの通信タイムアウトによるログイン解除、ファイル転送ペンディング時のタイムアウト時間を設定します。設定可能な値は0(タイムアウトなし)、2分、5分、10分、20分です。	0

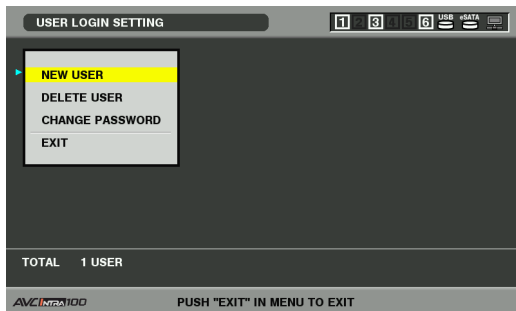
- 設定したパスワードの内容は、本機では表示できません。内容を忘れた場合などは、メニューの[NETWORK] - [INITIALIZE]を選択してSETボタンを押し、設定を初期化してください。初期化すると、ユーザーIDやパスワードも初期値に戻ります。

サーバーサービスのユーザー設定

USER LOGIN SETTINGを選択した場合は次の別画面で設定を行います。

■ 新規登録の場合

1 MENUボタンを押しメニューを開く



2 NEW USERにカーソルを移動しSETボタンを押す

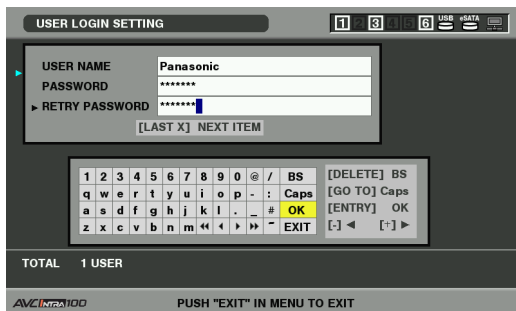
ユーザーの登録画面が表示されるのでUSER NAMEとPASSWORDを入力する。

USER NAMEを入力した後、LAST Xボタンを押してカーソルをPASSWORD入力欄に移動させ、パスワードを入力します。

再度、LAST Xボタンを押してカーソルをRETRY PASSWORD入力欄に移動させ、先ほど入力したパスワードと同じパスワードを入力します。

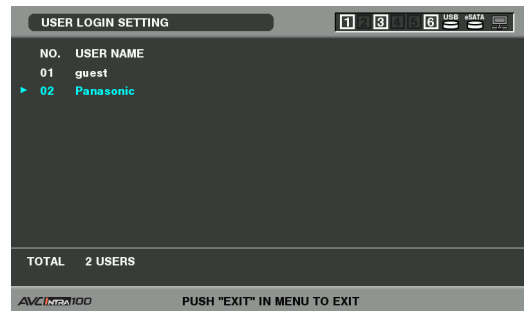
◆NOTE:

- PASSWORDを入力せずにOKをクリックすると、CANNOT ADD! NO INPUT! が表示されます。



■ パスワードの変更・削除

1 パスワードの変更や削除したいユーザーへカーソルを移動する



2 メニューからDELETE USERあるいはCHANGE PASSWORDを選択する

3 パスワード変更の場合は変更画面にてパスワードを変更する

◆NOTE:

- パスワードは6～15文字です。
- ユーザー登録画面、パスワード変更画面ではLAST Xボタンで項目間を移動できます。

設定内容の保存・読み込み

SDメモリーカードに設定内容を保存したり、保存された設定内容を読み込むことができます。

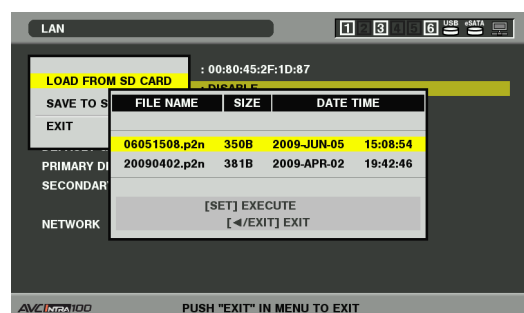
■ SDメモリーカードからの設定内容の読み込み

1 ネットワーク画面を表示する

2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで、[LOAD FROM SD CARD]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

4 設定ファイル一覧が表示されるので、読み込みたいファイル名を選択してSETボタンを押す



- 5 [SURE?]と表示されるので、十字カーソルボタンで、
[YES] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

■ SDメモリーカードへの設定内容の保存

- 1 ネットワーク設定画面を表示する
- 2 MENUボタンを押す
- 3 十字カーソルボタンで、[SAVE TO SD CARD] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
- 4 ファイル名入力画面が表示されるので、ファイル名を入力する
ファイル名は自動で日時を示す数値が入力されますが、フルキーボードを使用して設定することができます。
→「フルキーボードを利用する」(33ページ)を参照。
- 5 [OK]にカーソルを移動させて、SETボタンを押すかENTRYボタンを押す

◆NOTE:

- ファイル名は8文字以内です。
- 設定の保存 / 読み出しはLAN設定、クライアント設定、サーバー設定の全てが一括して行われます。
(どの画面を表示しているかは関係ありません)
- サーバー設定画面のユーザー設定、および、クライアント設定画面のFTP USER PASSWORDは保存 / 読み出しできません。

動作確認のツールとステータス表示および初期化

FTPクライアントのネットワークの接続状況の確認ができます。

■ 接続の確認(PING)

- 1 サムネール画面を表示する
- 2 MENUボタンを押しメニューを表示する
- 3 十字カーソルボタンで、[NETWORK] - [TOOLS] - [PING] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
- 4 設定されたアドレスとの接続確認を実行する
接続が確認された場合は「PING SUCCESSFUL!」が表示されます。
約30秒以内に接続ができない場合は「PING FAILED!」が表示されます。次節のログを表示すると、失敗の原因が表示される場合があります。

■ 接続のログの表示(LOG)

- 1 サムネール画面を表示する
- 2 MENUボタンを押しメニューを表示する
- 3 十字カーソルボタンで、[NETWORK] - [TOOLS] - [LOG] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
ログが表示されるので内容を確認する
- 4 確認終了後はEXITボタンを押しメニューに戻る

◆NOTE:

- ログ内容はFTPサーバーへの接続(PINGを除く)を行う都度クリアされます。
- 操作によっては、ログに何も表示されない場合があります。
- ログ上では、パスワードは"* *"で表示されます。

■ ステータスの表示

- 1 サムネール画面を表示する
- 2 MENUボタンを押しメニューを表示する
- 3 十字カーソルボタンで、[NETWORK] - [STATUS] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
接続状態が表示されます。
- 4 確認終了後はEXITボタンを押しメニューに戻る

◆NOTE:

- ステータス情報はリアルタイムに更新されません。最新の情報を表示するためには再度上記の操作を行ってください。
- DHCP設定がENABLEの場合は、一般にLAN設定の内容と異なる値になります。
- DHCP設定で、アドレス情報の取得中はステータス情報が正しく表示されません。
- デフォルトゲートウェイは、正しく設定されていない場合にはステータス情報としては表示されません。
- LAN設定において、PRIMARY(優先)DNSを設定せずに、SECONDARY(代替)DNSのみを設定している場合はDNS1として表示されます。

■ ネットワーク設定の初期化(INITIALIZE)

- 1 サムネール画面を表示する
- 2 MENUボタンを押し、メニューを表示する
- 3 十字カーソルボタンで、[NETWORK] - [INITIALIZE] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
初期化が完了してメニューに戻ります。

FTPクライアント機能を利用する

FTPクライアント機能を利用するためには、あらかじめ、LAN設定、FTPクライアント設定が必要です。

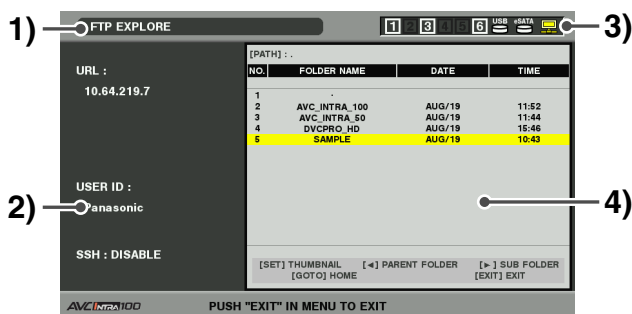
FTPサーバーのフォルダー一覧(FTPエクスプローラー画面)

FTPサーバーのフォルダーツリーを探索し、フォルダー内のサブフォルダー一覧表示や、フォルダーの情報を表示することができます。また任意のCONTENTSフォルダー(P2カードのクリップを格納しているフォルダー)内のサムネール一覧を表示することもできます。

1 サムネール画面を表示する

2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで[NETWORK] - [EXPLORE]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



1) 表示状態

FTPエクスプローラー画面であることを示します。

2) FTPサーバー情報

次の情報が表示されます。

URL:	接続しているFTPサーバーのURL
USER ID:	ログインしているユーザーID
SSH:	SSHのENABLE/DISABLEの表示

3) メディア状態

P2カードの挿抜状態、ハードディスクの接続状態、タイプ、LANケーブルの接続状態が表示されます。

LANインジケータは以下の状態を表します。

灰色:	LANの設定がOFFになっているとき、灰色で表示されます。
白色:	LANの設定がONになっているとき、白色で表示されます。
黄色:	LANケーブルが挿入されLINKしているとき、黄色で表示されます。
赤色:	本機に異常があるときは、赤色で表示されます。故障が考えられますのでお買い上げ販売店にご相談ください。

◆NOTE:

- LANインジケータは実際の状態から数秒遅れて表示が更新されます。

4) フォルダー情報

PATH:	FTPサーバー上における現在フォルダーのパス
NUMBER(NO.):	フォルダー番号(1~)
FOLDER NAME:	フォルダーの名前
DATE /TIME:	最終更新日時

◆NOTE:

- フォルダー一覧に表示されるのは、フォルダーのみで、通常のファイル、リンクファイルは表示されません。
- "."は現在のフォルダーを表します。なお日時情報は表示されません。
- 日時情報は、ローカル時刻の場合と世界標準時の場合とがありますが、FTPサーバーからの情報に依存します。また、年号と時刻はいずれかのみ表示となる場合があります。
- 大文字小文字を区別するかどうかはFTPサーバーに依存します。
- マルチバイト文字のフォルダー名は正しく表示されません。
- 一つのフォルダー内は、100個までしかフォルダーが表示されません。

101個目以上のフォルダーにはFTPエクスプローラー画面上からはアクセスできません。

ただしFTPクライアント設定の、FTP CLIENT URL:にフォルダー名を直接記述しておけば101個目以上であっても、そのフォルダー内にアクセスできます。

- パーソナルコンピュータなどでFTPサーバーに接続した場合は、接続性やフォルダー表示の様子が異なる場合があります。
- FTPサーバーおよび接続環境によっては、エラーメッセージが正しく表示されない場合があります。
- ホテルや公共施設など一部のネットワーク環境では、インターネットの接続に先立ってブラウザによる認証操作が必要な場合があります。その場合は、予めブラウザモードにより認証操作を完了してください。
- 接続中に操作を中断したい場合は、SETボタンを押してください。
- エラーとなる場合は再度操作を行ってください。
- LANケーブル挿入直後にネットワーク関連の操作を行った後、前回の操作を中断した直後に再度操作を行うとエラーとなる場合があります。
- 何度か操作を行っても接続エラーとなる場合は、まずPINGを確認してください。PINGが失敗する場合は、LAN設定が正しいか、LANケーブルが正しく接続されているか、経路上のハブやルーターが正しく動作しているかを確認してください。また、PINGが成功する場合は、FTPサーバーにてサーバー機能のサービスが動作しているか、通信経路上でファイアウォールが設定されていないか、FTPサーバーにおいてログイン可能なユーザーID、パスワードが設定されているかを確認してください。ただし、PINGが失敗してもFTPには接続できる場合もあります。
- 上記の確認を行っても接続できない場合は、ご利用のネットワーク環境のシステム管理者にお問い合わせください。
- FTP操作をキャンセルした直後は、しばらくの間、一部のGUI操作ができないことがあります。

エクスプローラー画面における操作

右(▶)ボタン:	カーソル位置のサブフォルダーの内容が表示されます。
左(◀)ボタン:	現在のフォルダーの上位フォルダーの内容が表示されます。
上/下(▲/▼)ボタン:	カーソルの移動。
GOTOボタン:	ホームフォルダーに戻る。
SHIFT+十字カーソル上下(▲/▼)ボタン:	リスト上の、最上位 / 最下位のフォルダーにカーソルを移動。

◆NOTE:

- サーバー側の動作仕様やアクセス権限設定によっては、フォルダー内容の表示などの操作ができない、フォルダーパスが正しく表示されない、等の場合があります。
- フォルダー内のカーソル位置は、一つ前のフォルダーまで記憶されます。ただしエラーが発生した場合は最上位にリセットされます。また、サムネール表示を行った場合は、直前に表示されているフォルダー一覧のカーソル位置のみ記憶します。

FTPサーバー上のクリップのサムネール表示 (FTPサムネール画面)

FTPサーバー上のクリップも、本機に装着したP2カードと同様にサムネール表示できます。

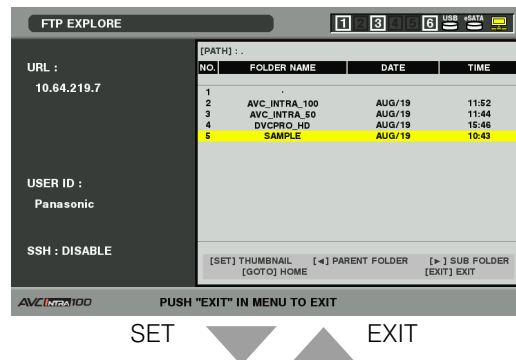
FTPサムネールの表示

1 FTPエクスプローラー画面を表示する
フォルダー一覧が表示されます。

2 十字カーソルボタンでサムネール表示したいCONTENTSフォルダーがあるフォルダーにカーソルを合わせ、SETボタンを押す
そのフォルダーのクリップがサムネール表示されます。

◆NOTE:

- CONTENTSフォルダーでSETボタンを押してもサムネールは表示されません。必ずCONTENTSフォルダーのひとつ上のフォルダーまたは現在のフォルダーを表す[.]でSETボタンを押してください。
- 大文字の"CONTENTS"と小文字の"contents"の両方が存在するフォルダーを選択した場合は大文字の方の内容が表示されます。
- CONTENTSフォルダー以下に、大文字と小文字のフォルダーが混在している場合は、正しくアクセスできなかったり、エラーメッセージが不正になったりする場合があります。



1) クリップ情報

カーソル位置のクリップのプロパティ表示
→「サムネールとクリップの管理について」(43ページ)を参照。

2) FTPサーバー / フォルダー情報

URL:	接続しているFTPサーバーのURL
USER ID:	ログインしているユーザーID
SSH:	SSHのENABLE / DISABLEの表示
PATH:	現在表示しているサムネールのフォルダーのFTPサーバー上のパス
DATE / TIME:	最終更新日時

◆NOTE:

- EXITボタンを押すと、エクスプローラー画面に戻ります。
- 1001 個目以降のクリップは表示されません。
- 日時情報は、ローカル時刻の場合と世界標準時の場合とがありますが、FTPサーバーからの情報に依存します。
- ". "を選択してサムネールを表示した場合、フォルダーの日時情報は表示されません。

FTPサーバー上のクリップを削除する

P2カードの場合と同様にFTPサーバー上の不要なクリップを削除できます。

→「クリップを削除する」(61ページ)を参照。

◆NOTE:

- FTPサムネール表示状態でしばらく放置すると、FTPサーバーが接続を切断する場合があります。その後にクリップ削除の操作を行うと削除できません。この場合は、一度FTPエクスプローラー画面に戻って、再度FTPサムネール表示を行ってから削除の操作を行ってください。

FTPサーバー上のクリップの情報を表示する

FTPサーバー上のクリップの各種メタ情報を表示できます。内容および表示の方法はP2カードのクリップのプロパティと同じです。

1 FTPサムネイル画面で、対象のクリップへカーソルを移動する

クリップの詳細な情報を画面に表示して確認できます。

2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで[PROPERTY] - [CLIP PROPERTY]にカーソルを合わせて、SET ボタンを押す

PROP(SHIFT+TC PRESET)ボタンを押しても同様の操作となります。

→詳細は「クリップの情報を表示・修正する」(63ページ)を参照。

◆NOTE:

- メタデータの表示はしますが、修正はできません。
- FTPサムネイルやFTPプロパティ表示状態でしばらく放置すると、FTPサーバーが接続を切断し、それ以後の操作でサムネイル表示などができなくなる場合があります。この場合は、一度FTPエクスプローラー画面に戻って、再度FTPサムネイル表示などの操作を行ってください。

クリップを転送する

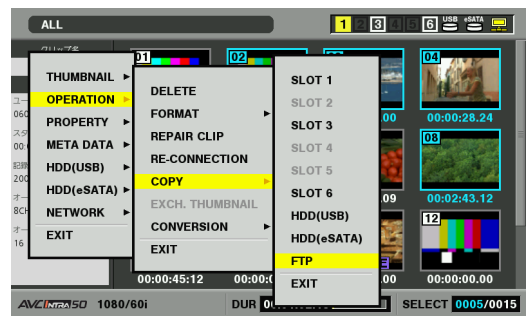
P2カードやハードディスクのクリップをFTPサーバーへ転送したり、FTPサーバーからP2カードやハードディスクへクリップを書き戻したりすることができます。

FTPサーバーへの転送 (エクスポートコピー)

1 サムネイル画面を表示し転送するクリップを選択する(枠を水色にする)

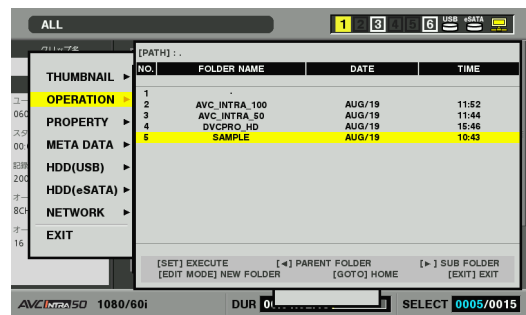
2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで、[OPERATION] - [COPY] - [FTP]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



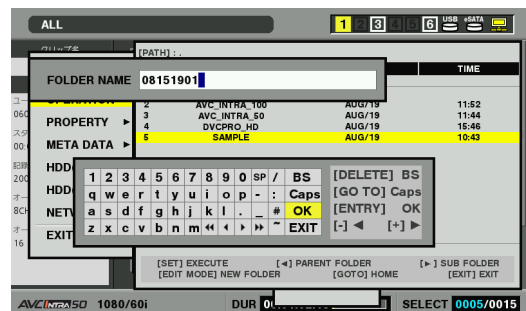
4 サーバー画面が表示される

設定しているサーバーのフォルダーが表示されるので十字カーソルボタンを使用して転送先フォルダーを選択する。



◆NOTE:

- マルチバイト文字のフォルダー名は正しく表示されません。
- EDIT MODEボタンを押すと現在のフォルダー一覧に新規にフォルダーを追加作成します。(カーソル位置は関係ありません) 新規フォルダー名は自動で日時を示す数値が入力されますが、フルキーボードを使用して設定することができます。ただし、FTPサーバーによっては、使用できない文字もあります。また、すでに同じ名前前のフォルダーが存在する場合は作成できません。



5 [YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押す

コピーが開始されます。

→クリップ単位でのインポート時の注意事項は「クリップをコピーする」(59ページ)を参照。



コピーを完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されます。

◆NOTE:

- サーバー上のクリップ数、ネットワークの状態などにより、サムネール表示、コピーに時間がかかる場合があります。
- コピーを中断したいときは、SETボタンを押し、CANCELの確認表示で[YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押すと中断できます。ネットワークが切断されていなければ、途中でコピーされたコピー先のクリップは削除されます。また、ネットワークが切断された場合は、不完全なクリップがFTPサーバーに残る場合があります。
- コピーを開始した後は、通信切れのエラーを検出しません。長時間にわたってコピーが進まない場合は、上記の操作によりコピーを中断してください。
- FTPサーバーの残量はコピー開始前に自動的に確認できませんので、あらかじめFTPサーバー管理者に確認してください。
- FTPサーバーの残量が0の場合にエラーとなるかどうかはFTPサーバーに依存します。エラーとならない場合は上記操作により中断してください。
- FTPサーバーのコピー先フォルダー内のクリップ数が1000を超える場合はコピーできません。
- SSHを利用するには、FTPサーバーがSSHに対応している必要があります。
- SSHをENABLEにすると転送速度は低下します。
- パーソナルコンピューターなどで転送結果を確認するには、パーソナルコンピューター上での表示の更新が必要な場合があります。

FTPサーバーからの書き戻し (インポートコピー)

ネットワーク上のFTPサーバーから、選択したクリップをP2カードまたはハードディスクへ書き戻すことができます。

1 FTPサムネール画面を表示する

2 サーバー上のサムネールが表示されるので、コピーするクリップを選択する



3 MENUボタンを押す

4 十字カーソルボタンで、[OPERATION] - [COPY] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



5 一覧メニューから転送先(P2スロットまたはハードディスク)を選択し書き戻しを開始する

◆NOTE:

- サーバー上のクリップ数、ネットワークの状態などにより、サムネール表示、コピーに時間がかかる場合があります。
- コピーを中断したいときは、SETボタンを押し、CANCELの確認表示で[YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押すと中断できます。途中でコピーされたコピー先のクリップは削除されます。
- コピーを開始した後は、通信切れのエラーを検出しません。長時間にわたってコピーが進まない場合は、上記の操作によりコピーを中断してください。
- コピー先P2カードやハードディスクのフォルダー内のクリップ数が1000を超える場合はコピーできません。
- SSHを利用するには、FTPサーバーがSSHに対応している必要があります。
- SSHをENABLEにすると転送速度は低下します。
- コピーなどの操作でいったんエラーが発生した後は、FTPサーバーへの接続が切断されて、操作の継続ができなくなる場合があります。この場合は、いったんFTPエクスプローラー画面に戻って再度FTPサムネール画面を表示してからコピーなどの操作を行ってください。

コピーを完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されます。

SDメモリーカードのデータを転送する

SDメモリーカード内のデータをFTPサーバーへ転送したり、FTPサーバーからSDメモリーカードへ書き戻したりすることができます。

FTPサーバーへの転送 (エクスポート)

- サムネイル画面を表示する
- MENUボタンを押す
- 十字カーソルボタンで、[NETWORK] - [EXPORT] - [SD CARD] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



◆NOTE:

- SDメモリーカードが挿入されている場合のみ、[SD CARD]メニューが選択できます。
- SDメモリーカードはメモリーカード全体を一括でのみエクスポートすることができます。P2カードのようにクリップを選択してエクスポートすることはできません。

4 サーバー画面が表示される

設定しているサーバーのフォルダーが表示されるので転送先フォルダーを、十字カーソルボタンを使用して選択する。

◆NOTE:

- マルチバイト文字のフォルダー名は正しく表示されません。
- EDIT MODEボタンを押すと現在のフォルダー一覧にフォルダーを新規に追加作成します。(カーソル位置は関係ありません) 新規フォルダー名は自動で日時を示す数値が入力されますが、フルキーボードを使用して設定することができます。ただし、FTPサーバーによっては、使用できない文字もあります。また、すでに同じ名前のフォルダーが存在する場合は作成できません。

5 SETボタンを押すとエクスポートを開始する

◆NOTE:

- ファイル数やサイズ、ネットワークの状態などにより、エクスポートに時間がかかる場合があります。
- エクスポートを中断したいときは、SETボタンを押し、CANCELの確認表示で[YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押すと中断できます。ネットワークが切断されていなければ、途中までエクスポートされたFTPサーバー上のファイルは削除されます。ネットワークが切断された場合は、不完全なファイルがFTPサーバーに残る場合があります。
- エクスポートを開始した後は、通信切れのエラーを検出しません。長時間にわたってコピーが進まない場合は、上記の操作によりエクスポートを中断してください。

- FTPサーバーの残量はエクスポート開始前に自動的に確認できませんので、あらかじめFTPサーバー管理者に確認してください。
- FTPサーバーの残量が0の場合にエラーとなるかどうかはFTPサーバーに依存します。エラーとならない場合は上記操作により中断してください。
- 既存のフォルダーを選択した場合で、その中にSDメモリーカード内と同じパス名のファイルが存在した場合は、警告なく上書きされます。ただし、同じパス名で種類が異なる(フォルダーとファイル)場合はエラーとなります。
- 上書きなどによって意図しない結果になることを防ぐため、できるだけ新しいフォルダーを作成してエクスポートを行ってください。
- SSHを利用するには、FTPサーバーがSSHに対応している必要があります。
- SSHをENABLEにすると転送速度は低下します。

エクスポートを完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されます。

FTPサーバーからの書き戻し (インポート)

ネットワーク上のFTPサーバーから選択したフォルダーをSDメモリーカードへ書き戻すことができます。

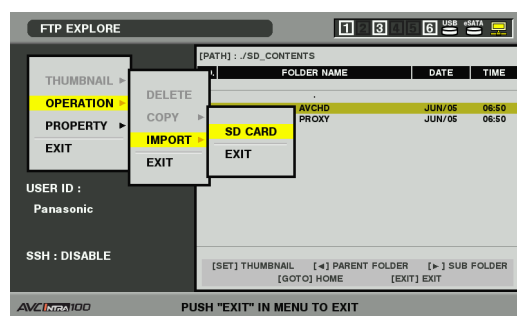
1 FTPエクスプローラー画面を表示する

2 FTPサーバーのフォルダー画面が表示される

設定しているサーバーのフォルダーが表示されるので転送元フォルダーへ十字カーソルボタンを使用して移動する。

3 MENUボタンを押す

- 十字カーソルボタンで、[OPERATION] - [IMPORT] - [SD CARD] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す
- SD IMPORTの確認ダイアログが表示され、OKを押すと、SDメモリーカードへの書き戻しが開始されます。



◆NOTE:

- インポートを中断したいときは、SETボタンを押し、CANCELの確認表示で[YES]にカーソルを合わせ、SETボタンを押すと中断できます。途中までインポートされたSDメモリーカード内のファイルは削除されますが、インポート済みのファイルはそのまま残ります。
- インポートを開始した後は、通信切れのエラーを検出しません。長時間にわたってコピーが進まない場合は、上記の操作によりインポートを中断してください。

- 選択したフォルダー以下のファイル数やサイズ、ネットワークの状態などにより、書き戻しに時間がかかる場合があります。
- SDメモリーカード内に同じパス名のファイルが存在した場合は、警告なく上書きされます。ただし、同じパス名で種類が異なる(フォルダーとファイル)場合はエラーとなります。
- 上書きなどによって意図しない結果になることを防ぐため、できるだけSDメモリーカードをフォーマットしてからインポートを行ってください。
- SSHを利用するには、FTPサーバーがSSHに対応している必要があります。
- SSHをENABLEにすると転送速度は低下します。

インポートを完了すると「COPY COMPLETED!」と表示されます。

LANモードでのサーバー機能を利用する

LANモードでのサーバー機能を利用するためには、あらかじめ、LANの設定やサーバーの設定が必要です。利用するサーバーに応じて設定してください。

→「ネットワークの設定」(130ページ)を参照。

FTP / Samba / HTTPサーバーモードへの切り替え

- 1 MODE(SHIFT+REMOTE)ボタンを押す
- 2 十字カーソルボタンで、[LAN] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



- 3 切り替え処理の後、LANの文字が画面に表示される
- 4 通常モードに戻るには再度MODE(SHIFT+REMOTE)ボタンを押す

MAIN MODEと表示され通常モードへ戻ります。

◆NOTE:

- サーバーモード中は記録再生を含めた各種操作は行えません。
- サーバーモード中にP2カードを挿入することはできませんが、抜いた場合はE-30になります。
- サーバーモードではSDメモリーカードにアクセスすることはできません
- 録再モードにおいて、外部から本機にFTPログイン時は、FTPログイン解除画面が表示されます。

- セットアップメニューNo.27(VDCP CMD)がONの場合は、モード切り替えできません。

FTP / Sambaサーバーサービス

ネットワーク上のコンピューター機器から本機上のP2カードやハードディスクへアクセスすることができます。FAT形式のハードディスクは読み出し/書き込みが可能ですが、それ以外のハードディスク、およびP2カードは読み出しのみとなります。

■ FTPサーバーサービス

ネットワーク上のコンピューター機器からFTPソフトウェアなどを使用してP2カードやハードディスクのクリップをコンピューター機器に転送できます。

■ Sambaサーバーサービス

ネットワーク上のコンピューター機器からP2ビューアーなどを使用し、P2カードやハードディスクの内容の確認やコンピューター機器へのクリップの転送ができます

FTPサーバー、Sambaサーバーでは、P2カード、ハードディスクは以下のフォルダーに配置されます。

P2カード:	/p2/slot1~slot6
ハードディスク(USB):	/usb/hdd_usb_01~hdd_usb_23
ハードディスク(eSATA):	/sata/hdd_sata_01~hdd_sata_23

◆NOTE:

- Sambaで接続したパーソナルコンピューターのウィンドウ上には「プリンターとFAX」アイコンが表示される場合がありますが、設定はできません。
- FTPサーバーに同時に接続できるクライアント数は5つです。
- Sambaで、グループ名やホスト名を用いてのアクセスが可能になるまでにはしばらく時間がかかる場合があります。
- 本機でハードディスクへコピーなどをしたデータは、TYPE Sタイプのハードディスクの場合は対応するパーティション(01-23)へ、FATのハードディスクの場合は01へデータが保存されています。またFATの2ndパーティション以降は見えません。
- LANモードでのFTPサーバーではstatフォルダーも見えますが、その下の階層にはファイルはありません。

HTTPサーバーサービス

ネットワーク上のコンピューター機器から各種ブラウザを使用して本機へアクセスできます。

ブラウザ上に以下の画面が表示されます。

- P2カードのサムネール
- クリップメタデータの参照
- プロキシデータの再生(ブラウザが対応している場合のみ)

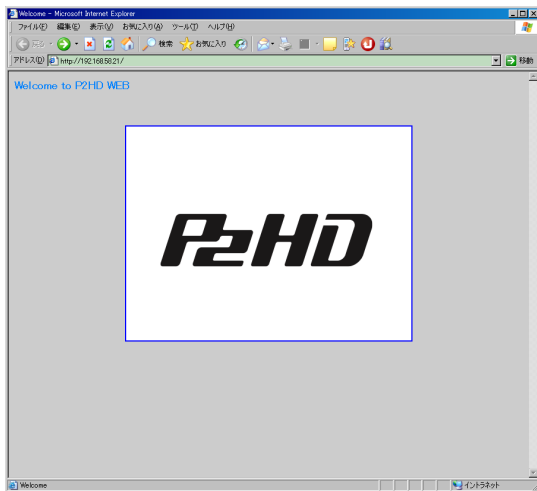
■ 接続方法

1 ブラウザーのアドレスに本機のIPアドレスを入力する



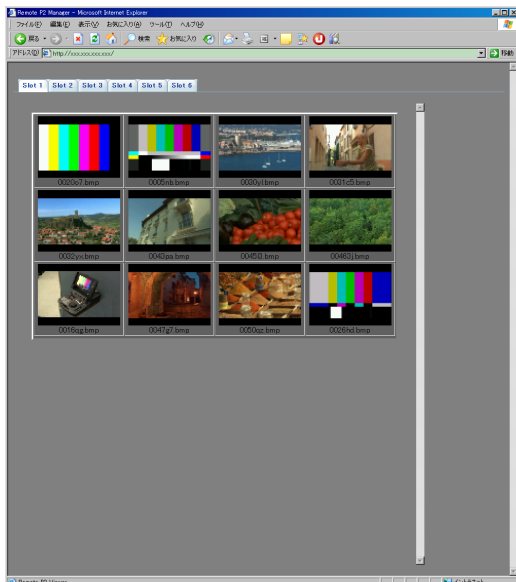
2 移動をクリックする

ブラウザにトップページが表示されます。



3 中央の図をクリックする

サムネール一覧が表示されます。



スロット番号のタブをクリックすると、対応したスロットのクリップ一覧が表示されます。

クリップの名前の部分をクリックすると、メタデータが表示されます。

プロキシーデータが付属するクリップは薄赤色のセルになります。この場合はサムネールをクリックするとプロキシーデータの再生が始まります。

◆NOTE:

- ページの表示の際は、ブラウザの設定(プロキシーサーバーなど)を確認してください。
- HTTPにおけるメタデータは、設定内容によっては正しく表示できません。
- プロキシーデータの再生にはブラウザがMPEG4形式の映像音声のデコードに対応している必要があります。
- 2つ以上にまたがっているクリップは、それぞれが独立したクリップとして表示されます。
- ブラウザーによって表示の様子が変わったり、正しく表示できない場合があります。

ブラウザ機能を利用する

本機にはブラウザが内蔵されています。ネットワークにアクセスする場合に、ブラウザ上でIDやパスワードを入力することで認証が必要な場合に、ブラウザ機能を利用します。MODE(SHIFT+REMOTE)ボタンを押しBROWSERを選択するとブラウザモードに切り替わりブラウザ画面が表示されます。起動時はSTART PAGE URLに設定したURLへアクセスします。

文字などの入力を行うときは、SETボタンを押すとキーボードが表示されます。

→「キーボードを利用する」(33ページ)を参照。

1 MODE(SHIFT+REMOTE)ボタンを押す

2 十字カーソルボタンで、[BROWSER] にカーソルを合わせ、SETボタンを押す



3 切り替え処理の後、ブラウザが画面に表示される



4 通常モードに戻るには再度MODE(SHIFT+REMOTE)ボタンを押す

MAIN MODEと表示され通常のモードへ戻ります。

◆NOTE:

- ブラウザーモード中は記録再生を含めた各種操作は行えません。
- Webページの内容によっては正しく表示できない場合があります。またパーソナルコンピューターなどを使用した場合と表示が異なる場合があります。
- ご利用のネットワーク環境によっては、ブラウザ起動時に初期ページが表示されない場合があります。その場合は、[History]-[Home]メニューを使って初期ページを表示してください。
- 録再モードにおいて、外部から本機にFTPログイン時は、FTPログイン解除画面が表示されます。

- セットアップメニューNo.27(VDCP CMD)がONの場合は、モード切り替えできません。
- Webページの内容によっては、システムエラー(E-37、E-38など)が発生する場合があります。その場合は電源を入れ直してください。

- Webページ上のダウンロード機能は利用できません。
- Webページ上、およびリンクの動画ファイルは再生できません。
- JAVAには対応していません。

ブラウザー画面の使い方

■ 本機のパネルからの操作

THUMBNAILボタン:	マウスモードON / OFF切り替え
十字カーソルボタン:	マウスモードON時、マウスカーソルの移動 マウスモードOFF時、リンクフォーカスの移動
SETボタン:	マウスモードON時、クリック動作 マウスモードOFF時、確定
MENUボタン:	各種メニューの表示
サーチダイヤル:	画面の縦スクロール
SHIFT+サーチダイヤル:	リンクフォーカスの移動

(MENUの内容)

メニュー	メニューアイテム	説明
File	Go to URL	移動するページのURLを入力します。 移動先のURL入力ダイアログが表示されますので、キーボードを使用して入力します。
	Open new tab	新しいタブを開きます。
	Close tab	現在アクティブなタブを終了します。
	Switch tab	アクティブなタブを切り替えます。
History	Back	履歴をひとつ戻ってページを表示します。
	Forward	履歴をひとつすすめてページを表示します。
	Home	ホームページを表示します。
View	Stop	ページの読み込みを中止します。
	Reload	ページを再度読み込みます。
	Encoding	表示中のページの文字コードを確認 / 変更します。
	Text Size	表示中のページの文字のサイズを変更します。
	Zoom	表示中のページのコンテンツを10 %~500 %の範囲で拡大縮小します。
Bookmark	Add	表示中のページをブックマークに保存します。
	Load	保存されているブックマークの一覧を表示したり、選択したブックマークのアドレスへジャンプします。
Exit	Menu	メニューを終了します。

■ USBキーボードからの操作

USBキーボードを接続し、ブラウザーの制御ができます。

方向キーおよびTABキー:	リンクフォーカスを移動する
ENTERキー:	確定

キー	説明
[Alt]+[Home]	ホームページを表示する。
[Alt]+[left]	ページを戻る
[Alt]+[right]	ページを進む。
[Ctrl]+[Tab]	右のタブに移動する。
[Ctrl]+[Shift]+[Tab]	左のタブに移動する。
[Ctrl]+[T]	新しいタブを開く。新しいタブにはホームページが表示されます。
[Ctrl]+[D]	ブックマークを追加する。
[Ctrl]+[B]	ブックマークリストを表示する。
[F5]	ページを再読み込みする(キャッシュ優先)。
[Shift]+[F5]	ページを再読み込みする(サーバー優先)
[Ctrl]+[Q]	ページ読み込みを中止する。
[Ctrl]+[0]	フォントサイズをNormalにする。
[Ctrl]+[+]	フォントを一段階大きくする。
[Ctrl]+[-]	フォントを一段階小さくする。

録再モードでのサーバー機能を利用する

FTPサーバーサービス

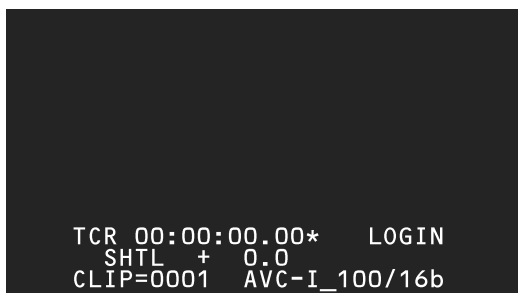
ネットワーク上のコンピュータ機器から本機にFTPログインすることで、本機上のP2カードの読み書き動作が可能になります。

ただし、本機が録再モード以外の状態または記録動作中はFTPサーバーサービスを停止しているため、FTPログインはできません。

再生動作中については、ファイル転送がペンディングされません。

また、FTPログイン中は録再モード以外への切り替えおよび記録動作はできません。ログアウトまで待つか、本機の操作でログインを強制切断する必要があります。

ログイン中は下記の通り液晶画面にログイン表示されます。



FTPサーバーではP2カードは以下のフォルダーに配置されません。

P2カード:	/p2/slot1~slot6
--------	-----------------

◆NOTE:

- FTPサーバーの接続コネクション数は最大5個です。FTPクライアントソフトによっては複数のコネクションを占有します。
- ファイル転送またはP2カード内ファイルの変更、削除操作ができるクライアント数は1つのみです。
- P2カード内には、フォルダーの作成や削除はできません。
- ファイルを書き込むことができるのは、CONTENTSフォルダー階層下のAUDIO、CLIP、ICON、PROXY、VIDEO、VOICEフォルダーです。これらのフォルダーは名前の変更と削除はできません。
- P2カードにあるLastClip.txtファイルは読み出し専用です。
- sambaでのアクセスはできません。
- ログインを強制切断したい場合はMODE(SHIFT+REMOTE)ボタンを押してください。FTPクライアントソフト異常終了時などには、接続コネクションが残っている場合やファイルをオープンしたままの場合があります、この場合は、強制切断でFTPサーバーをリセットできます。

録再モードでのFTPサーバーでは、以下のフォルダーが見えます

P2カード:	/p2/slot1~slot6
ハードディスク(USB):	/usb/hdd_usb_01~hdd_usb_23
ハードディスク(eSATA):	/sata/hdd_sata_01~hdd_sata_23
管理情報:	/stat/cardinfo.csv

ハードディスク(USB)とハードディスク(eSATA)の各サブフォルダー傘下には何もありません。

読み出し専用の管理情報フォルダーには、cardinfo.csvファイルがあり、P2カードのライトプロテクト情報などが記載されています。

◆NOTE:

- P2カード上のファイルは、半角文字で大文字小文字区別なしの、ファイル名8文字、拡張子3文字で表現されます。転送元ファイル名がこの形式にあてはまらない場合は、P2カードで表現可能な文字に修正されるため、転送元では別のファイル名であってもP2カードでは同一ファイル扱いになることがあります。

RS-232Cインターフェースについて

RS-232Cインターフェースを使用して本機とパーソナルコンピューターなどを接続することにより、コマンドによる本機の操作が可能になります。

- セットアップメニューNo.27(VDCP CMD)がONの場合は、RS-232C端子からのコマンドは受け付けません。

RS-232Cインターフェースからの コマンド受け付け条件

- フロントパネルのREMOTEボタンが点灯します。
- 上記条件が成立していない場合は、外部に対して[ACK]+[STX]ER001[ETX]の返答を行います。

ハードウェア仕様について

■ 端子仕様

コネクタ：D-SUB 9ピン

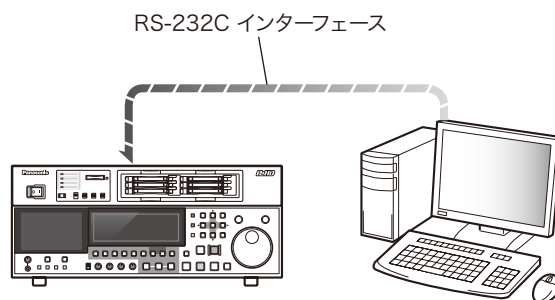
ピンNo.	信号	内容
1		(未使用)
2	TXD	送信データ(パーソナルコンピューターからデータを受信する)
3	RXD	受信データ(パーソナルコンピューターへデータを送信する)
4	DSR	データセットレディ (通信可能状態後正電圧出力)
5	SG	信号用接地(信号用GND)
6	DTR	データ端末レディ(未処理)
7	CTS	送信可(8番ピンと短絡)
8	RTS	送信要求(7番ピンと短絡)
9		(未使用)

ソフトウェア仕様 (プロトコル) について

■ 通信条件

通信方式	調歩同期式・全二重
通信速度	9600
ビット長	8 Bit
ストップビット	1 bit
パリティビット	NONE
ACK コード	返信する

送信フォーマットについて



■ データフォーマット

[STX] [command] [:] [data] [ETX]
02h XX XX XX 3Ah XX.....XX 03h
20H<XX<7FH
(XX=ASCIIコード:記号、数字、英大文字)

command	コマンド識別子(3バイト)です。コマンドとして3バイトの識別子(ASCIIコード:記号、数字、英大文字)を送信します。
:	コロンは、コマンドとデータとの区切りを意味するコードです。
data	必要なバイト数のデータ(ASCIIコード:記号、数字、英大文字)を付け加えることができます。

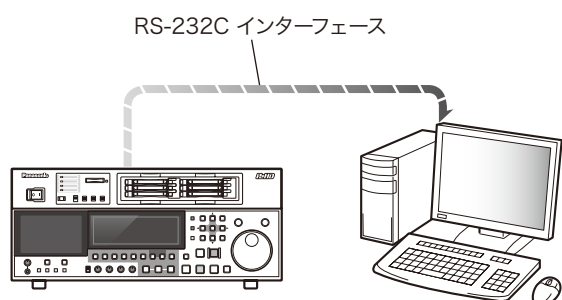
■ コントローラーからの送信手順

送信コマンドは、STX(START OF TEXT = 02h)で始まります。次に続くCOMMANDによりコマンドの識別を行い、必要に応じてデータを付け加えます。最後にETX(END OF TEXT = 03h)で終了します。

新たに別のコマンドを送信する場合は、本機からの応答を待ってから送信します。

ETXを送信する前に再度STXを送信すると、本機側の内部受信データバッファはクリアされます。コマンドエラーをコントローラーへ返信し、再度受信したSTXを先頭として、新たにデータ処理を行います。

返信フォーマットについて



コマンド指示に対して、次の応答を行います。必要に応じて複数の応答を行うこともあります。

■ 通信が正常終了した場合

1. 受信完了メッセージを返信する

[ACK]

06h

2. 実行完了メッセージを返信する

[STX] [command] [data] [ETX]

02h XX XX XX XX.....XX 03h

command 返信するメッセージ(データ)または、実行完了のメッセージ識別子です。

data 返信するデータです。省略が可能です。

例:

送信コマンド 返信メッセージ (データ)

[STX] OPL [ETX] → [ACK] [STX] OPL [ETX]

■ 通信が異常終了した場合

[NACK]

15h

■ 間違ったデータまたはデッキに異常があり処理できない場合

1. 受信完了メッセージを返信する

[ACK]

06h

2. エラーコードを返信する

[STX] [ERN₁N₂N₃] [ETX]

02h エラーコード 03h

エラーコード一覧

ER001	無効コマンド ・未対応コマンド受信 ・コマンド実行エラー
ER002	パラメーターエラー
ER1FF	デッキシステムエラー

コマンド一覧

動作制御(Operation)関連コマンド

◆NOTE:

- 送信コマンドと返信(完了)メッセージの先頭の[STX]と最後の[ETX]は一覧表では記載を省略しています。
- 返信(完了)メッセージは、データ受信時に[ACK]を返信し、その後返信する実行メッセージのみを記載しています。
- 受付が禁止されているときや、未対応のコマンドについては、[ACK]を返信後にER001(無効コマンド)を返信します。

コマンド	動作内容	送信コマンド	引数(data)	返信(完了)メッセージ
STOP	現状動作停止	OSP		OSP
PLAY	再生開始	OPL		OPL
REWIND *1	早戻し再生	ORW		ORW
FAST FORWARD *1	早送り再生	OFF		OFF
REC	録画開始	ORC		ORC
SHTL FORWARD *2	正方向シャトル	OSF:data	0:STILL 1:×0.03 2:×0.1 3:×0.2 4:×0.5 5:×1 6:×2 7:×4 8:×8 9:×16 *2 A:×32 *2	OSF
SHTL REVERSE *2	逆方向シャトル	OSR:data	OSF の引数(data)に同じ	OSR
Device Select	デバイス切り換え	\$NI:data	0:通常 (LOCAL) 1:LAN 2:USB (DEVICE) 3:通常 (REMOTE) 5:BROWSER 6:AVCHD	\$NI

*1最高速度は、セットアップメニューNo.102(FF. REW MAX)の設定により異なります。詳細は、各セットアップメニューをご参照ください。

*2×16倍速と×32倍速は、セットアップメニューNo.101(SHTL MAX)の設定により制限されます。

問い合わせ(Question)関連コマンド

◆NOTE:

- 送信コマンドと返信(完了)メッセージの先頭の[STX]と最後の[ETX]は一覧表では記載を省略しています。
- 返信(完了)メッセージは、データ受信時に[ACK]を返信し、その後返信する実行メッセージのみを記載しています。

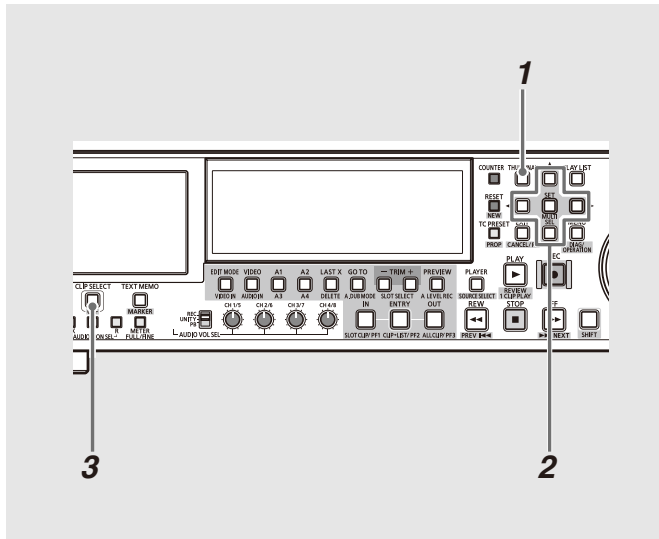
コマンド	問い合わせ内容	送信コマンド	返信(完了)メッセージ	data
CTL/TC DATA REQUEST	カウンター値	QCD	CD data	data = f w gh mm ss ff f = F w = S gh = <u>CTL 時</u> プラス時 g = SP(20h) マイナス時 - (2Dh) h = 0~9:時 <u>TC 時</u> gh = 00~23:時 mm = 00~59:分 ss = 00~59:秒 ff = 00~29:フレーム
STATUS REQUEST	動作モード	QOP	data	OFF: FAST FORWARD OPL: PLAY ORC: REC ORW: REWIND OSP: STOP SRS: (IN/OUT)PREROLL OSF: SHTL FORWARD OSR: SHTL REVERSE OJG: JOG FORWARD/REVERSE OSW: VAR FORWARD/REVERSE
ID REQUEST	使用機器	QID	data	AJ-HPD2500

クリップセレクト機能

クリップセレクト機能について

クリップセレクト機能を用いると、一つのクリップのみ再生対象とすることができます。

クリップセレクトの設定



1 サムネール画面を表示する

2 再生したいクリップにカーソルを合わせる

3 CLIP SELECT ボタンを押す

CLIP SELECTボタンが点灯し、クリップの先頭もしくはサムネール位置*1で頭出しを行います。再生方法は通常の場合と変わりませんが、固定遅延による再生が可能になります。再生を行うと、CLIP SELECTボタンは点滅に変わりますがクリップセレクト状態のままです。再生停止または一時停止状態でCLIP SELECTボタンが点滅中にCLIP SELECTボタンを押すと点灯に変わります。CLIP SELECTボタンが点灯中は、PB/EE MODEの設定にかかわらずPBモードとなります。

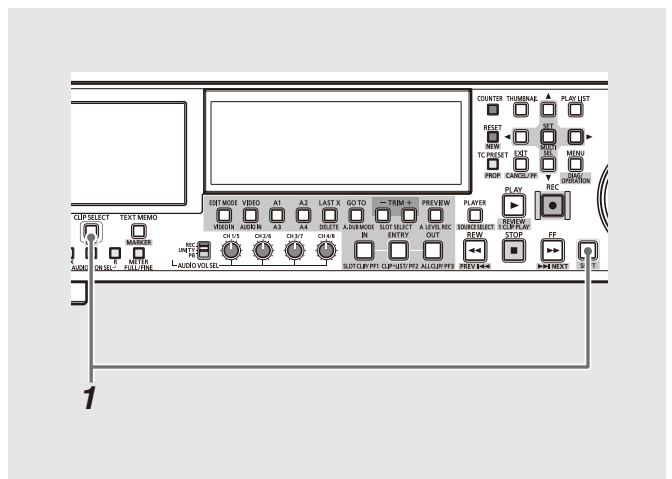
頭出しの位置を変更した場合には、CLIP SELECTボタンが点滅し、固定遅延が解除されますが、CLIP SELECTボタンを押し、CLIP SELECTボタンを点灯状態に戻すことで固定遅延になります。

*1セットアップメニューNo.165(CLIPSEL MODE)の設定値によります(178 ページを参照)

◆NOTE:

- クリップセレクト機能は、セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)の設定が50、59.94のときのみ有効になります。
- セットアップメニューNo.27(VDCP CMD)がONの場合は、クリップセレクト機能は無効になります。
- HDD内部のクリップはクリップセレクトできません。
- AVCHDモードでは、クリップセレクト機能は無効です。
- プレイリストのプレイヤーサムネール画面ではクリップセレクトできません。
- 固定遅延状態で、USB や eSATA、LAN ケーブルを抜き差し後すぐに再生を開始すると、映像が途切れたり固定遅延にならない場合があります。
- クリップセレクト状態では、記録、プレイリスト、サムネール画面、デバイス切り替えなど使えない機能があります。
- CLIP SELECTボタンが点灯中は、PLAYボタンを押して再生が開始されるまでの時間は、常に同じ遅延時間となります。(固定遅延)
- クリップセレクト中にP2カードを挿入すると、P2カードは認識されます。USE BACKGROUND FTPがENABLE設定時は、STILLを除く特殊再生は無効となり、表示管にFTP ONが表示されます。

クリップセレクトの解除



1 SHIFTとCLIP SELECTボタンを同時に押す

CLIP SELECTボタンが消灯します。

◆NOTE:

- クリップセレクト状態の解除は再生停止状態からのみ行えます。
- クリップセレクト状態でSTOPボタンを押して停止したり、クリップセレクトを解除しても、サムネール画面に戻りません。

AVCHD記録・再生

AVCHDオプションボードを使用する

■ AVCHD とは？

高精細なハイビジョン映像を記録・再生するための規格です。映像圧縮はMPEG-4 AVC/H.264 方式、音声はドルビーデジタルで記録します。

◆NOTE:

- SDメモリーカードはカードのフォーマット時の周波数のみで使用することができます。同じSDメモリーカード上には59.94 Hzと50 Hzの混在記録はできません。

(記録したビデオの互換性について)

- AVCHD対応機器以外とは互換性がありません。詳しくは、お使いの機器の取扱説明書をお読みください。
- 互換性のない機器(AVCHDに対応していない機器)では再生できません。
- AVCHD対応機器であっても再生できない場合があります。この場合は、本機で再生してください。
- ドルビーデジタル以外の音声で記録されたクリップは本機では再生できません。

SD/SDHCメモリーカードについて

AVCHD記録再生を行う場合は、つぎの注意が必要です。

- SDスピードクラスがクラス2以上準拠のSDメモリーカード*1、SDHCメモリーカード*1のご使用をお勧めします。
- 当社製のSDメモリーカード、およびminiSDカード、microSDカードをご使用いただくことをお勧めします。また、フォーマットは必ず、本機で行ってください。
- 取扱説明書に記載された情報以外の最新情報は、下記のWebサイトのサポートデスクをご参照ください。

日本語：<http://panasonic.biz/sav/>

英語：<http://pro-av.panasonic.net/>

*1 PHモード、HAモードの記録の場合はクラス4以上が必要です。

◆NOTE:

- SDHC対応機器以外とは互換性がありません。

(SD スピードクラスクラス4 について)

- SD規格で規定された、SD応用機器とSDメモリーカード間の連続的な書き込みに関する速度規格(SDスピードクラス)のクラス4を示します。SD応用機器がSDスピードクラスに対応したクラス4のカードを推奨の場合、クラス4以上準拠のSDメモリーカードのご使用により、安定した記録動作が得られます。

カードの種類	記憶容量	記録・再生	メタデータの読み込み
SDメモリーカード	8 MB 16 MB	使用できません。	使用できます。
	32 MB～ 256 MB	動作保証していません。SDメモリーカードによっては、記録が突然停止することがあります。	
	512 MB～ 2 GB	使用できます。	
SDHCメモリーカード	4 GB～ 32 GB	使用できます。	

◆NOTE:

- 本機はSD規格に準拠したFAT12、FAT16形式でフォーマットされたSDメモリーカード、およびFAT32形式でフォーマットされたSDHCメモリーカードに対応しています。
- 4 GB以上のメモリーカードはSDHCメモリーカードのみ使用できます。SDHCロゴのない4 GB(以上)のメモリーカードは、SD規格に準拠していません。
- SDメモリーカードのフォーマットは本機で行ってください。パーソナルコンピューターなど他の機器でフォーマットすると、記録に時間がかかったり、本機で使用できなくなる場合があります。→「SDメモリーカードをフォーマットする」(69ページ)を参照。
- マルチメディアカードは使用できません。

SDメモリーカードスロットとアクセスランプについて

SDメモリーカードをAJ-HPD2500のSD/SDHCメモリーカードスロットへ挿入すると記録されているクリップをサムネールで表示し再生したり、P2カードへ映像を記録することができます。

■ アクセスランプ

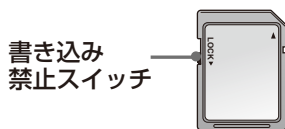
オレンジ色点灯:	読み込み、書き込み可能
オレンジ色点滅(速):	認識中、不良カード判別時
オレンジ色点滅(遅):	アクセス中
消灯:	読み込み/書き込み不可状態、未挿入、未フォーマット、未対応カードの挿入、書き込み保護状態、カード残量なし

◆NOTE:

- P2カードの再生中、またはクリップセレクト中は、SDカードを挿入してもアクセスランプは消灯のままでSDカードは認識されません。P2カードの再生を止めるか、またはクリップセレクトを解除した後に認識されます。

SDメモリーカードの保護について

SDメモリーカードの記録内容を誤って消してしまうを防ぐには、SDメモリーカードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にします。



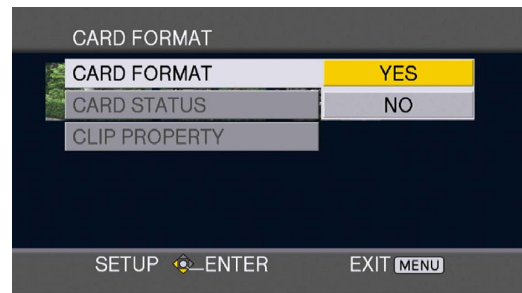
SDメモリーカードのフォーマット

サムネールのメニューからSDメモリーカードをフォーマットすることができます。
→「SD/SDHCメモリーカードを利用する」(69ページ)を参照。
また、AVCHDモードのメニューでもフォーマットを行うことができます。
→AVCHDモードへの切り替え方は「AVCHDモードへ切り替える」(152ページ)を参照。

1 AVCHDモードへ切り替え、MENUボタンを押す

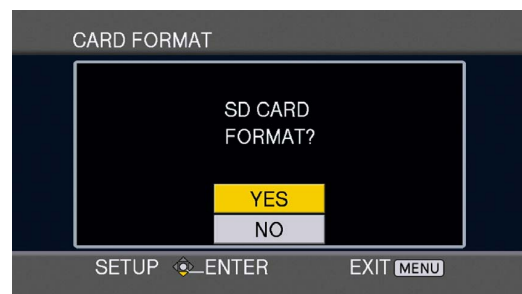
2 [CARD FUNCTIONS] - [CARD FORMAT]を選び、SETボタンを押す

下記のような画面が表示されますので、[YES]を選択しします。フォーマットしない場合は[NO]を選択してください。



3 確認の画面で[YES]を選ぶ

SDメモリーカードがフォーマットされます。



4 MENU ボタンを押して終了する

- フォーマットにより消去されたデータは復元することができませんので、必ずデータを確認した後に実行してください。

SDメモリーカードを取り出す

1 SDメモリーカードアクセスランプが点滅していないことを確認する

2 SDメモリーカードの中央を押し、少し出たらまっすぐ引き抜く

◆NOTE:

- SDメモリーカードは必ずアクセスランプが点滅していないときに取り出してください。アクセスランプが点滅中に取り出した場合SDメモリーカードやカードスロットが故障する原因となります。

SDメモリーカードの修復について

SDメモリーカードアクセスランプが点滅中にSDメモリーカードを取り出したり、電源を切らないでください。万が一、SDメモリーカードアクセスランプが点滅中にSDメモリーカードを取り出した場合や、電源が切れた場合は、次に電源を入れてAVCHDモードに切り替えたときに修復を確認する画面が表示されます。



[YES]を選ぶと修復が始まり、修復が終了すると、REPAIR FINISHEDが表示されます。

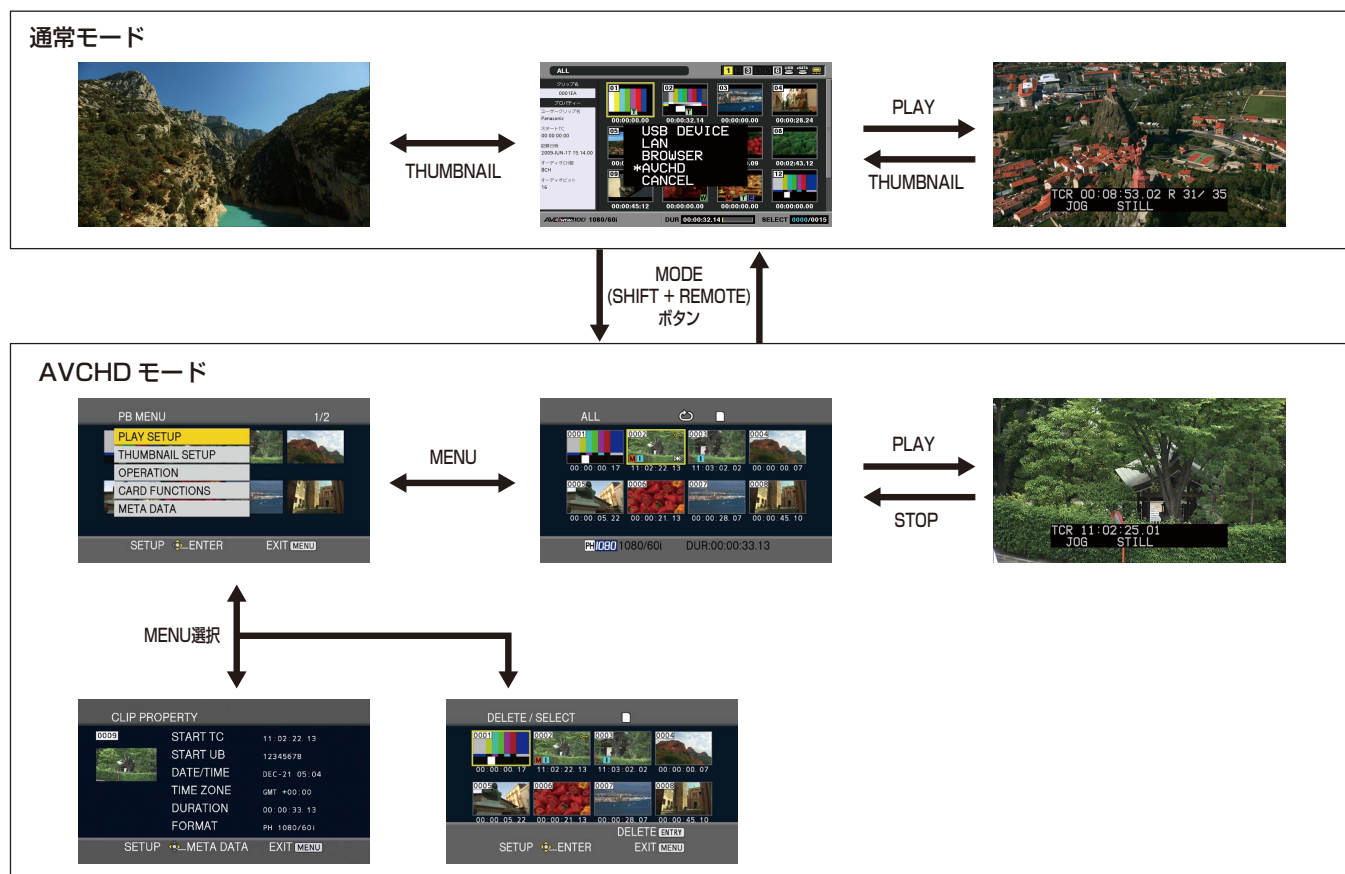
◆NOTE:

- [NO]を選ぶと修復せずに画面が切り替わります。NOを選んだ場合は、本機では修復できなくなりますが、コンテンツ修復ソフトAVCCAMリストアラー*1を使うと修復可能です。
 - エラーの発生していないSDメモリーカードを挿入した場合に、修復確認メッセージが表示されることがありますが、YES / NOのどちらを選択しても修復はされません。
 - 修復時間はカードのエラー発生箇所により最大20分前後かかる場合があります。
 - 修復に失敗すると、SYSTEM ERROR TURN POWER OFFが表示されます。この場合は、コンテンツ修復ソフトAVCCAMリストアラーをお使いください。
 - データの状態によっては、完全に修復できないことがあります。この場合は、電源が切れる前に撮影したクリップが再生できなくなります。
 - 記録時間が10秒未満のクリップは、修復できない場合があります。
 - 記録中に付加したインデックスは修復されません。
 - メタデータは修復されません。
- *1 AVCCAMリストアラーは、AVCHDコーデックボード AJ-YCX250G(オプション)に同梱されています。

AVCHDのサムネイル画面を操作する

画面の構成

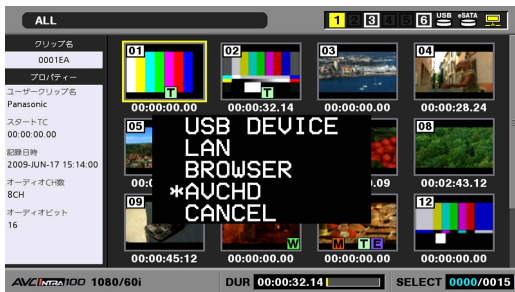
大きく通常のAJ-HPD2500の操作とAVCHDオプション操作画面にわかれます。画面構成は以下のようになります。AVCHDクリップの再生はAVCHDモードのサムネイル画面から行います。



AVCHDモードへ切り替える

次の操作で画面・操作をAVCHDモードに切り替えます。

1 MODE(SHIFT+REMOTE)ボタンを押すとモード 選択メニューが表示される

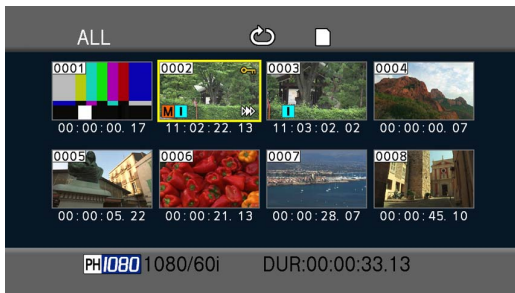


◆NOTE:

- セットアップメニュー No.25(SYSTEM FREQ)の設定が50、59.94のときのみAVCHDを表示・選択することができます。それ以外のときは表示されません。
- セットアップメニューNo.27(VDCP CMD)がONの場合は、AVCHDモードに切り替えできません。
- AVCHDモード時は、外部から本機にFTPログインできません。

2 メニューからAVCHDを選択する

液晶画面にSDメモリーカードの各クリップのサムネールが表示されます。(クリップ数が多い場合、表示されるまでに時間がかかります。)



サムネール画面を使って、以下のようなことができます。

- クリップの再生修復、削除
- ショットマークの付加、消去
- SDメモリーカードのフォーマット

サムネール画面の基本操作

■ サムネールを選ぶには

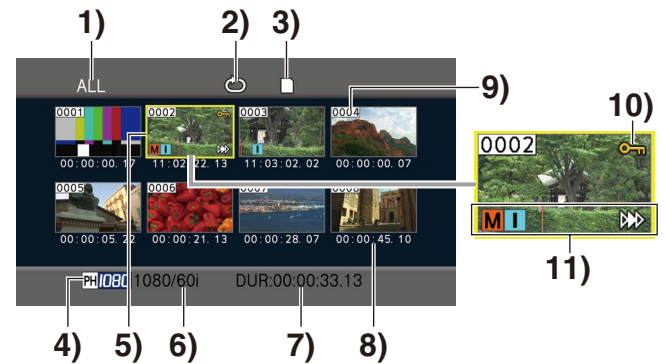
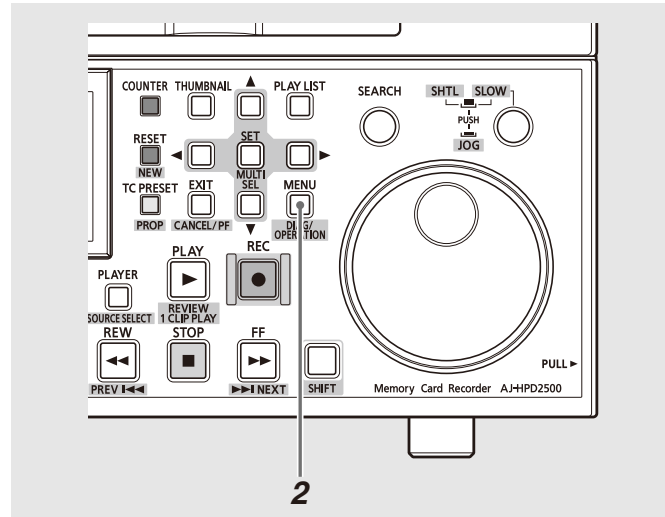
十字カーソルボタンを押してサムネールを選びます。(黄色の枠が移動)

■ クリップを再生するには

サムネールを選んで再生ボタンを押します。(再生について詳しくは「AVCHDクリップを再生する」(158ページ)を参照。)

■ メニューを表示するには

サムネール表示中にMENUボタンを押します。



1) サムネールの表示状態(→153 ページ)

サムネール表示するクリップの種類を示しています。

2) リピート再生インジケータ(→158 ページ)

リピート再生時に表示します。

3) カード状態表示(→154 ページ)

SDメモリーカードの状態を表示します。

4) 記録モード表示

カーソルの位置のクリップの記録モードが表示されます。

5) カーソル(黄色の枠)

選択中のサムネールに表示されます。

6) 記録フォーマット表示

カーソルの位置のクリップの記録フォーマットが表示されます。

7) デレーション表示

カーソルの位置のクリップのデレーションが表示されます。

8) 時間表示(→153 ページ)

設定により、クリップの記録開始時点のタイムコード / クリップの記録開始時点のユーザーズビット / 撮影時刻 / 撮影日 / 撮影日時のいずれかを表示します。

9) クリップ番号


記録した順番に表示されます。(1000クリップまで)記録フォーマットが違うクリップなど、再生できないクリップの番号は赤色で表示されます。赤色のクリップを再生するには、[PLAY SETUP] - [PB FORMAT]の設定を、記録フォーマットに合わせてください。

→「再生フォーマットを設定する (PB FORMAT) (157ページ)を参照。

10) クリッププロテクト表示


プロテクトされたクリップに表示します。

11) 各種インジケータ

 :ショットマーク

ショットマークが付いていることを示しています。

→「ショットマークを付加する」(58ページ)を参照。

 :レジューム再生表示

レジューム再生の対象になるクリップに表示します。

 :インデックス

インデックスが付加記録されていることを示しています。ただし、本機ではインデックスは記録できません。

サムネールの表示方法を選ぶ (THUMBNAIL SETUP)

好みの種類のクリップをサムネール表示させることができます。

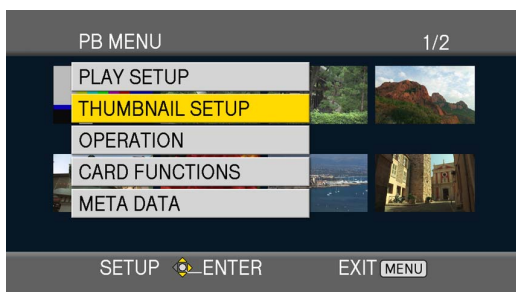
また、サムネール表示のしかたをさらに細かく設定することもできます。

1 MODE (SHIFT+REMOTE) ボタンを押してAVCHDモードに切り替える

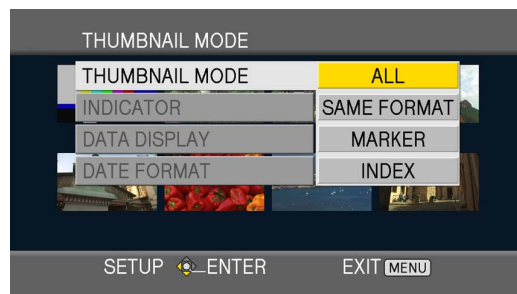
→「AVCHDモードへ切り替える」(152ページ)を参照。

2 MENU ボタンを押す

3 [THUMBNAIL SETUP] を選び、SET ボタンを押す



4 十字カーソル上下(▲/▼)ボタンを押して項目を選び、SET ボタンを押す



THUMBNAIL MODE:

表示するクリップを選びます。

ALL: すべてのクリップを表示します。

SAME FORMAT: PBフォーマットと同じクリップを表示します。

MARKER: ショットマークが付いたクリップを表示します。

INDEX: インデックスが付いたクリップを表示します。
XXは初期値を表す。

INDICATOR:

インジケータの表示/非表示(ON / OFF)を設定します。(工場出荷時はON に設定されています。)

OFF に設定しても、クリッププロテクト表示とレジューム再生表示は表示されます。

DATA DISPLAY:

クリップの時間表示の部分に表示する内容を選択します。

TC: タイムコード

UB: ユーザーズビット

TIME: 撮影時間

DATE: 撮影日

DATE TIME: 撮影日時

XXは初期値を表す。

DATE FORMAT:

記録日時の表示順を選択します。

この表示は、クリップのプロパティで表示される記録日には反映されません。

Y-M-D: 年月日

M-D-Y: 月日年

D-M-Y: 日月年

XXは初期値を表す。

5 MENU ボタンを押して、サムネール画面に戻る

クリップの消去やプロテクトなどを行う (OPERATION)

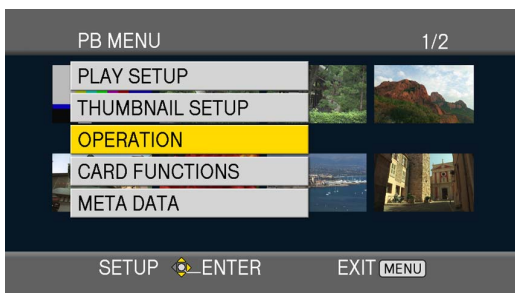
クリップの消去やプロテクト(保護)を行うことができます。

1 MODE(SHIFT+REMOTE)ボタンを押してAVCHDモードに切り替える

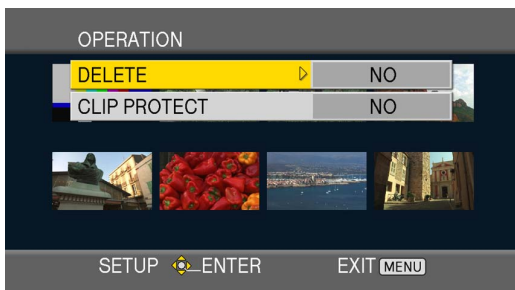
→「AVCHDモードへ切り替える」(152ページ)を参照。

2 MENU ボタンを押す

3 [OPERATION] を選び、SETボタンを押す



4 十字カーソル上下(▲/▼)ボタンを押して項目を選び、SETボタンを押す



DELETE:

クリップを削除します。

ALL すべてのクリップを削除します。消去する / しない CLIPS: (YES / NO)を選び、SETボタンを押してください。

SELECT: 選択したクリップを削除します。SELECTを選択後SETボタンを押し、選択したいクリップにカーソルを移動しSETボタンを押すと選んだクリップがオレンジ色の枠で囲われます。(続けて選択できます。)再度SETボタンを押すと選択を解除できます。選択後、ENTRYボタンを押して確認画面でYESを選択し、SETボタンを押して削除を行います。

NO: 1つ前の画面に戻ります。

◆NOTE:

- プロテクトされているクリップは削除できません。
- ALL CLIPSを選んですべてのクリップを削除するときは、削除する容量によって時間がかかる場合があります。

CLIP PROTECT:

YES: プロテクトのON/OFFが可能になります。プロテクトしたいクリップにカーソルを移動し、SETボタンを押します(マークが表示されます)。あるいは、プロテクトをはずしたいクリップにカーソルを移動し、SETボタンを押します(マーク表示が消えます)。他にもプロテクト状態を変更するクリップがある場合には、そのクリップにカーソルを移動して同じ操作を繰り返します。

NO: ひとつ前の表示に戻ります。

◆NOTE:

- プロテクトされていても、SDメモリーカードのフォーマットを行うと、クリップは消去されます。

5 MENU ボタンを押して、サムネール画面に戻る

モデルNo. シリアルNo.を確認する (SYSTEM INFO)

本機のモデルNo.、シリアルNo.が確認できます。

1 MODE(SHIFT+REMOTE)ボタンを押してAVCHDモードに切り替える

→「AVCHDモードへ切り替える」(152ページ)を参照。

2 MENUボタンを押す

3 十字カーソルボタンで [SYSTEM INFO]を選び、SETボタンを押す

カードのフォーマットとクリップやカードの情報を確認する (CARD FUNCTIONS)

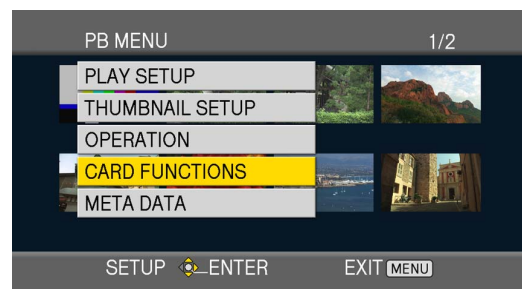
SDメモリーカードのフォーマットを行ったり、クリップやSDメモリーカードの情報が確認できます。

1 MODE(SHIFT+REMOTE)ボタンを押してAVCHDモードに切り替える

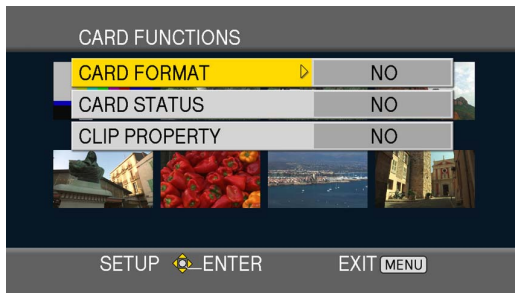
→「AVCHDモードへ切り替える」(152ページ)を参照。

2 MENUボタンを押す。

3 CARD FUNCTIONSを選び、SETボタンを押す。



4 十字カーソル上下(▲/▼)ボタンを押して項目を選び、SETボタンを押す。

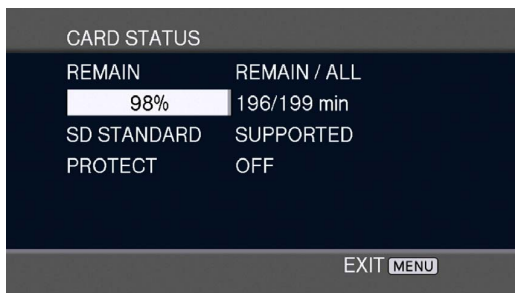


CARD FORMAT :

フォーマットするカードを本機に挿入して、SDメモリーカードをフォーマットします。
実行するとすべてのデータが消去されます。フォーマットする / しない (YES / NO) を選び、SETボタンを押してください。

CARD STATUS:

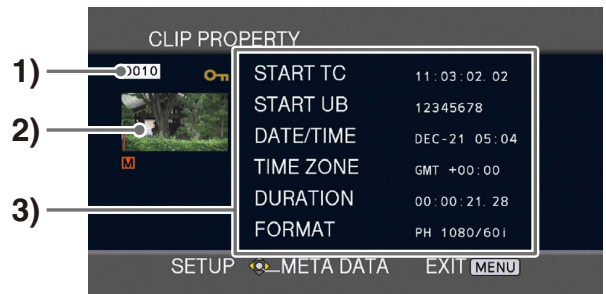
SDメモリーカードの情報が表示されます。



REMAIN:	SDメモリーカードの残量を表示します。
SD STANDARD:	SDメモリーカードがSDおよびSDHC 準拠でフォーマットされている/いない (SUPPORTED / NOT SUPPORTED) を表示します。
PROTECT:	SDメモリーカードの書き込み禁止状態を表示します。

CLIP PROPERTY:

選択したクリップの情報が表示されます。
十字カーソル左右(◀/▶)ボタンを押すと前後のクリップの情報を表示できます。



- 1) クリップ番号
- 2) サムネール
- 3) クリップ情報

クリップに付加された各種インジケータや、さまざまなデータを表示します。

START TC:	記録開始時のタイムコードの値
START UB:	記録開始時のユーザーズビットの値
DATE/TIME:	記録した日付と記録開始時の時刻
TIME ZONE:	タイムゾーンを表示します
DURATION:	クリップの長さ
FORMAT:	記録フォーマット

■クリップメタデータの表示

映像音声フォーマットや、撮影者情報などの詳しいデータを表示します。十字カーソルボタンで項目を選び、SETボタンを押してください。

◆NOTE:

- 本オプションではASCII文字のみ表示可能です。それ以外の文字は*で表示されます。
- 本機では、文字数の表示制限があるためすべてのデータを表示できません。(データが消えているわけではありません。)すべてを確認するにはAVCCAMビューアー*1をご使用ください。

*1 AVCCAMビューアーは、下記のWebサイトにおいてダウンロードすることができます。

日本語: <http://panasonic.biz/sav/>

英語: <http://pro-av.panasonic.net/>

クリップメタデータ情報画面を解除するには十字カーソル左(◀)ボタンを押してください。

5 MENUボタンを押して、サムネール画面に戻る

クリップメタデータについて

SDメモリーカードに記録した映像データには、映像音声方式、撮影者名、撮影場所、テキストメモなどを付加することができます。

■ クリップメタデータの内容

下線の項目は、SDメモリーカード内のメタデータアップロードファイルを読み込むことで設定できます。その他の項目は撮影時に自動的に設定されます。

GLOBAL CLIP ID:	グローバルクリップID (同じ番号が他のクリップに付くことがない、世界で唯一の番号)
USER CLIP NAME:	ユーザーが設定したクリップの名称*1
VIDEO & AUDIO:	• 記録映像のFRAME RATE (フレームレート) • RESOLUTION(解像度) • PULL DOWN(プルダウン方式) • AUDIO(記録音声)
ACCESS:	• CREATOR(収録者名) • CREATION DATE(収録日) • LAST UPDATE DATE(最終更新日) • LAST UPDATE PERSON(最終更新者)
DEVICE:	• MANUFACTURER (オプションボードのメーカー名) • SERIAL NO. (オプションボードのシリアルナンバー) • MODEL NAME (オプションボードのモデル名 AJ-YCX250G)
SHOOT:	• SHOOTER(撮影者名) • PLACE NAME(撮影地の名前)
LOCATION:	• ALTITUDE(撮影地の高度) • LONGITUDE(撮影地の経度) • LATITUDE(撮影地の緯度) • SOURCE(情報源)
SCENARIO:*2	• PROGRAM NAME(番組名) • SCENE NO.(シーンナンバー) • TAKE NO.(テイクナンバー)
NEWS 1:	• REPORTER(リポーター名) • PURPOSE(取材目的)
NEWS 2:	• OBJECT(取材対象)
MEMO:*3	• PERSON(テキストメモの記録者) • TEXT(テキストメモの内容)

*1メタデータアップロードファイルに情報がない場合は、カード単体に、最初に撮影したクリップを0として、撮影順に5桁の連番を付加していきます。USER CLIP NAME の記録方法を選択することが可能です。詳しくは157 ページをご参照ください。

*2SCENARIO を入力するときは、必ずPROGRAM NAME を入力してください。SCENE NO.、TAKE NO. のみの入力ではできません。

*3MEMO を入力するときは、必ずTEXT を入力してください。PERSON のみの入力ではできません。

◆NOTE:

- クリップに付加されているメタデータを修正することはできません。

メタデータのアップロードなどを行う(META DATA)

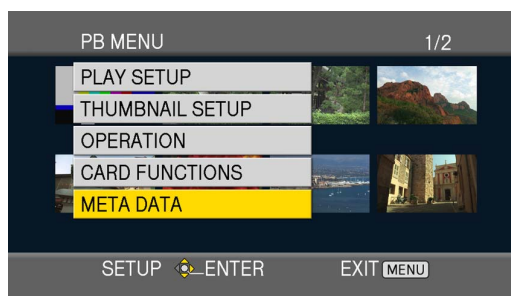
メタデータのアップロード他以下の操作が行えます。必要に応じて準備を行ってください。

- メタデータの読み込み
メタデータを記録したSDメモリーカードを本機に挿入してください。(ロードデータはAVCCAMビューアーまたはP2ビューアーで作成することができます)
- メタデータをSDメモリーカードに記録する / しないの選択
- 本機内メタデータの初期化
- 本機内メタデータの表示

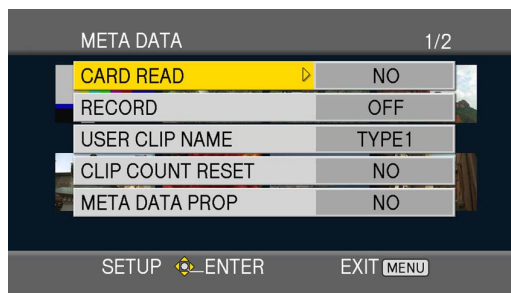
1 MODE(SHIFT+REMOTE)ボタンを押してAVCHDモードにする

2 MENU ボタンを押す

3 十字カーソル上下(▲ / ▼)ボタンを押して [META DATA]を選び、SETボタンを押す



4 十字カーソルボタンを押し項目を選び、SETボタンを押す



CARD READ:

SDメモリーカードに保存したメタデータを本機に読み込みます。読み込みする / しない (YES / NO) を選び、SETボタンを押してください。SDメモリーカードのメタデータは、作成日が新しい順に10個まで表示できます。読み込むメタデータファイル名が半角英数字以外の場合は*に変換されて表示されます。

RECORD:

本機に読み込むメタデータを記録の際にSDメモリーカードに記録するかどうかを設定します。

記録する / しない(ON / OFF) を選び、SETボタンを押してください。

工場出荷時の設定はOFF です。

USER CLIP NAME:

USER CLIP NAME の記録方法を選択することが可能です。詳しくは「USER CLIP NAME の記録方法の選択」(このページ)をご参照ください。

CLIP COUNT RESET:

カウンター値を1 にリセットします。

リセットする / しない(YES / NO)を選び、SETボタンを押してください。

META DATA PROP:

本機に読み込まれたメタデータを表示します。

META INITIAL SET:

本機に読み込まれたメタデータを初期化します。

初期化する / しない(YES / NO) を選び、SETボタンを押してください。

5 MENU ボタンを押して、メニューモードを解除する。

USER CLIP NAME の記録方法の選択

MENU ボタンを押して[META DATA] - [USER CLIP NAME]を選択すると、USER CLIP NAMEの記録方法を選ぶことができます。

TYPE1 とTYPE2 の2 通りがあります。

記録されるUSER CLIP NAME

- クリップメタデータを読み込んでいる場合

TYPE1	読み込まれたデータ
TYPE2	読み込まれたデータ+カウンター 値*1

- クリップメタデータを読み込んでいない、または読み込んだクリップメタデータを記録しない設定の場合

TYPE1	5 桁の撮影順の連番
TYPE2	5 桁の撮影順の連番

*1カウンター値は、4 桁の数字で表示されます。

カウンター値は、クリップメタデータが読み込まれ、かつ記録方法をTYPE2 に設定した状態のとき、記録を行って新しいクリップを生成するごとに、1ずつ増えます。

またカウンター 値は、以下の方法でリセットできます。

MENUボタンを押して[META DATA] - [CLIP COUNT RESET] - [YES]を選んでSETボタンを押すと、カウンター値が1にリセットされます。

クリップにショットマークを付ける

ショットマーク (M) を付けておくと、好みのクリップを探すのに便利です。

1 十字カーソルボタンを押して、黄色の枠をショットマークを付けたいクリップに移動させる

2 MARKER(SHIFT+TEXT MEMO)ボタンを押す
ショットマークを解除するには、上記の操作を再び行ってください。

再生の設定をする

再生するフォーマットや再生の方法を設定します。

再生フォーマットを設定する (PB FORMAT)

再生するフォーマットを設定します。

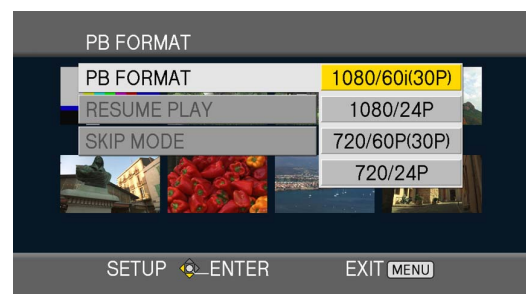
→「メニューの操作」(32ページ)を参照。

1 MENU ボタンを押す

2 [PLAY SETUP]を選び、SETボタンを押す

3 [PB FORMAT]を選び、SETボタンを押す

4 十字カーソル上下(▲ / ▼)ボタンを押して、再生するフォーマットを選び、SETボタンを押す



- 設定できるフォーマット (SYSTEM FREQが59.94 Hzの場合)
1080/60i(30P)、1080/24P、720/60P(30P)、720/24P (SYSTEM FREQが50 Hzの場合)
1080/50i(25P)、720/50P(25P)

5 MENU ボタンを押して、サムネール画面に戻る

再生可能なクリップのクリップ番号が黒色で、再生できないクリップ番号は赤色で表示されます。

再生フォーマットを設定しても、通常モードに切り替えると、セットアップメニューNo.020(SYS FORMAT)の設定値に基づいた再生フォーマットに戻ります。

リピート再生(REPEAT PLAY)

セットアップメニューNo160.(REPEAT PLAY)をONに設定すると、再生可能なすべてのクリップを繰り返して再生します。

→「セットアップ」(162ページ)を参照。

続きから再生する(RESUME PLAY)

設定すると、再生を途中で止めた場合に続きから再生します。

- 1 MENU ボタンを押す
- 2 [PLAY SETUP]を選び、SETボタンを押す
- 3 [RESUME PLAY]を選び、SETボタンを押す
- 4 [ON]を選び、SETボタンを押す
- 5 MENU ボタンを押して、サムネール画面に戻る

6 クリップを選んで再生する

再生を途中で止めた場合は、クリップのサムネールにレジューム再生インジケータが表示され、次に再生操作をすると続きから再生します。

レジューム再生の設定をOFFにするには、手順4でOFFを選んでください。

◆NOTE:

- 設定を変更しても、P2カードのレジューム再生の設定は変更されません。

スキップの方法を設定する(SKIP MODE)

各種再生や一時停止中にスキップ(頭出し)操作をしたときの動作を設定します。

- 1 MENU ボタンを押す
- 2 [PLAY SETUP]を選び、SETボタンを押す
- 3 [SKIP MODE]項目を選び、SETボタンを押す
- 4 スキップの方法を選び、SETボタンを押す

CLIP: 一時停止中に、NEXT(SHIFT+FF)、PREV(SHIFT+REW)ボタンを押すと、前後のCLIPの先頭に移動します。

CLIP & INDEX: 一時停止中にNEXT(SHIFT+FF)、PREV(SHIFT+REW)ボタンを押すと、前後のCLIPの先頭または、前後のインデックスの位置に移動します。

5 MENU ボタンを押して、サムネール画面に戻る

◆NOTE:

- インデックスとは、撮影中または再生中のクリップのある映像ポイントに付加され、インデックスを付けたクリップのみ選んで表示/再生できます。ただし、本機ではインデックスを付加/削除することはできません。

AVCHDクリップを再生する

再生

クリップの再生はサムネールからのみ行うことができます。

- 1 十字カーソルボタンを使用し再生するクリップへカーソルを動かす
- 2 PLAYボタンを押す
カーソル位置のクリップを再生します。
STOPボタンを押すと再生を停止しサムネールへ戻ります。

スロー / 早送り / 早戻し再生

再生または一時停止中に、サーチダイヤルを操作すると所定の速度で再生を行います
通常の再生に戻すには、再生ボタンを押します。

◆NOTE:

- 1倍速時のみ音声も再生されます。
- 逆方向の再生は、約0.5秒ごとのとびとびの映像となります。
- JOGモードでは、P2カード再生のようなスムーズな再生はできません。
- SHTLモードは最大16倍速です。

クリップ送り / 戻し

- 1 再生中または一時停止状態にする
- 2 PREV(SHIFT+FF) / NEXT(SHIFT+REW)ボタンを押す
設定したスキップ動作を行います。

AVCHDの素材をP2カードへ記録する

AVCHDの映像をP2カードへDVCPRO HDあるいはAVC-Intraで記録することができます。

■ 記録の準備

1 記録・再生フォーマットを設定する

セットアップメニューNo.020(SYS FORMAT)から記録するフォーマット(1080i/720p)をPB FORMATと同じフォーマットに設定し、セットアップメニューNo.025(REC FORMAT(HD))で、記録するフォーマット(DVCPRO HD / AVC-I 100 / AVC-I 50)を設定します。次に、AVCHDモードのPB FORMATで再生フォーマットを設定します。

→「再生フォーマットを設定する (PB FORMAT)」(157ページ)を参照。

◆NOTE:

- PB FORMATとセットアップメニューNo.020(SYS FORMAT)の設定が異なる場合はダビングできません。

2 記録可能なP2カードを挿入する

ダビングするカードを挿入あるいはスロットを選択して記録可能な状態とします。

◆NOTE:

- LOOP RECがONに設定されている場合はダビングできません。

3 タイムコードを設定する

TCG スイッチで、INT REGEN / INT PRESET / EXT を設定します。EXTに設定した場合にはAVCHDクリップのTC/UB値を記録します。

4 AUDIOレベルを設定する

必要に応じてAVCHDの再生を行い、PBボリュームによりAVCHDクリップ再生のAUDIOレベルを設定します。

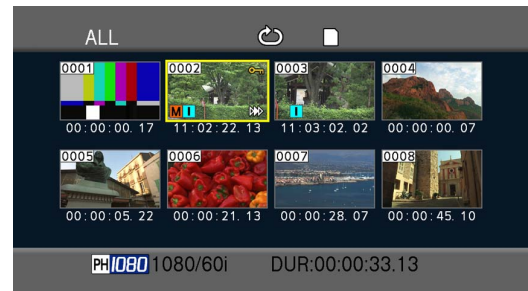
◆NOTE:

- RECボリュームは無効となり、UNITYレベルで記録します。

■ 記録の操作

1 AVCHDのサムネールを表示させる

→「AVCHDモードへ切り替える」(152ページ)を参照。



2 十字カーソルボタンを使ってダビングするクリップを選択する

クリップの途中からダビングする場合は、PLAYボタンなどの再生操作で頭出しを行い、STILLで停止させておきます。

サムネールからのダビング操作では、選択クリップの先頭から再生し、ダビングされます。

◆NOTE:

- レジュームの設定をしている場合はレジューム位置からダビングされます。

3 SHIFT+RECボタンを押す

AVCHDクリップを再生すると同時にP2カード側へ記録を開始します。

P2側が記録可能な状態でない場合やPB FORMATとSYS FORMATが異なる設定の場合は、SHIFT+RECボタンを押しても動作しません。

4 ダビングを終了したい映像でSTOPボタンを押す

P2カード側の記録が停止し、合わせてAVCHDクリップの再生も停止しAVCHDのサムネール画面に戻ります。

◆NOTE:

- ダビングはSDメモリーカードの再生の先頭からは記録されません。
- ダビング中にリファレンス入力信号が乱れると、ダビング映像が乱れます。
安定したリファレンスを入力するか、リファレンス入力無し(内部基準)でダビングを行ってください。

SDメモリーカードへAVCHDを記録する

SDメモリーカードの記録時間について

(SDメモリーカード使用時の記録時間(目安))

SDメモリーカード容量	記録モード			
	PH*1 (最高画質モード*3 / 1920×1080画素または 1280×720画素)	HA*1 (高画質モード / 1920×1080画素)	HG*2 (標準画質モード / 1920×1080画素)	HE*2 (長時間モード / 1440×1080画素)
512 MB	約2分	約3分	約4分	約10分
1 GB	約5分	約7分	約9分	約21分
2 GB	約10分	約15分	約20分	約45分
4 GB	約21分	約30分	約40分	約90分
8 GB	約45分	約60分	約80分	約180分
16 GB	約90分	約120分	約160分	約360分
32 GB	約180分	約240分	約320分	約720分

*1PHモードおよびHAモードで記録する場合は、SDスピードクラス4以上のSDメモリーカードをお使いください。SDスピードクラス4未満およびスピードクラス非対応のSDメモリーカードでは記録できません。

*2HGモードおよびHEモードで記録する場合は、SDスピードクラス2以上のSDメモリーカードをお使いください。SDスピードクラス2未満のSDメモリーカードでは記録できません。

*3本機での最高画質モードです。

◆NOTE:

- 本機はVBR記録方式を採用しております。VBRとはVariable Bit Rate (可変ビットレート)の略で、撮影する被写体によりビットレート(一定時間あたりのデータ量)が自動的に変わる記録方式です。このため、動きの激しい被写体を記録した場合は、記録できる時間が短くなります。
- 表示容量には管理領域等が含まれており、記録に使用できる容量はこれより少なくなります。
- 連続して記録できる時間は最大12時間です。
- 以下のような記録条件では、再生画面にモザイク状のノイズが出る場合があります。
 - 背景に複雑な絵柄がある場合
 - 動きの激しい被写体を記録した場合(特に記録モードをHEに設定しての撮影時)
- 記録・削除を何度も繰り返していると、SDメモリーカードの記録時間が短くなる場合があります。その場合は、本機でSDメモリーカードをフォーマットしてください。フォーマットすると、SDメモリーカードに記録されているすべてのデータは消去され、元に戻すことができません。大切なデータはパーソナルコンピューターに保存しておいてください。
- 記録を開始してから停止するまでが、1クリップとして記録されます。
- 短時間記録の停止動作の場合、STOPボタンを押しても、SDメモリーカードへの書き込み完了までに時間を要する場合があります。その場合は、すぐにSTOPボタンを押しても、動作を受け付けることができません。
- SDメモリーカード挿入直後は、SDメモリーカード情報の読み込みを行っていますので、アクセスランプがオレンジ色の点滅から点灯に変わった後、REC+PLAYボタンを押して記録を開始してください。
- 1枚のSDメモリーカードに、記録できるクリップ数の上限は900です。

P2カードの素材をAVCHDで記録する

P2カードからAVCHDへの記録は、プレイリストモードで必要なクリップの編集を行い作成した映像を再生し、SDメモリーカードへ記録します。

■ ダビングの準備

1 記録・再生フォーマットを設定する

セットアップメニューを以下のように設定する

020	SYS FORMAT	1080iまたは720p
025	REC FORMAT (HD)	DVCPRO HD、AVC-I 100、AVC-I 50

2 セットアップメニューNo.028(AVCHD FMT)を設定する

AVCHDの記録レート(PH、HA、HG、HE)を選択する。

◆NOTE:

- 720p設定の場合はAVCHD FMTの設定にかかわらずPHモードのみとなります。

3 記録するSDメモリーカードをスロットに挿入する

■ AVCHDへのダビングの開始

1 ダビングに必要な素材をプレイリストで作成する

2 SHIFT+RECボタンを押す

プレイリストの現在位置から再生すると同時にSDメモリーカードへ記録を開始します。

このときTCは再生のTCがそのまま記録されます。

終端まで再生したり、SDメモリーカードがFULLなど記録できない状態になったりした場合は停止します。

3 終了点でSTOPを押す

記録と再生が停止します。

◆NOTE:

- ダビング中にリファレンス入力信号が乱れると、ダビング映像が乱れます。
安定したリファレンスを入力するか、リファレンス入力無し(内部基準)でダビングを行ってください。
- プレイリスト再生の先頭からは記録されません。
- 内蔵タイムコードジェネレーターの値は、ダビングしたタイムコード値に更新されます。

外部入力信号を記録する

外部入力信号をP2カードとSDメモリーカードに同時に記録します。SDメモリーカード単独の記録はできません。

■ 記録の準備

1 AVCHD記録を設定する

セットアップメニューNo.170(AVCHD REC)をONに設定します。

2 記録フォーマットを設定する

P2カードの記録フォーマットとAVCHDの記録フォーマットを、セットアップメニューで以下のように設定します。

25	SYSTEM FREQ	59.94または50
020	SYS FORMAT	1080iまたは720p
025	REC FORMAT (HD)	DVCPRO HD、AVC-I 100、AVC-I 50
028	AVCHD FMT	PH、HA、HG、HE

3 記録オーディオチャンネルを設定する

AVCHD記録は2チャンネルのオーディオ記録となります。

セットアップメニューNo.774(AVCHD A CH)で記録するチャンネルを設定します。

■ P2カードとSDメモリーカードへの記録

1 P2カードの録再モードにする

2 REC+PLAYボタンを押し、記録する

P2カードとSDメモリーカードへ同時に入力信号を記録します。

◆NOTE:

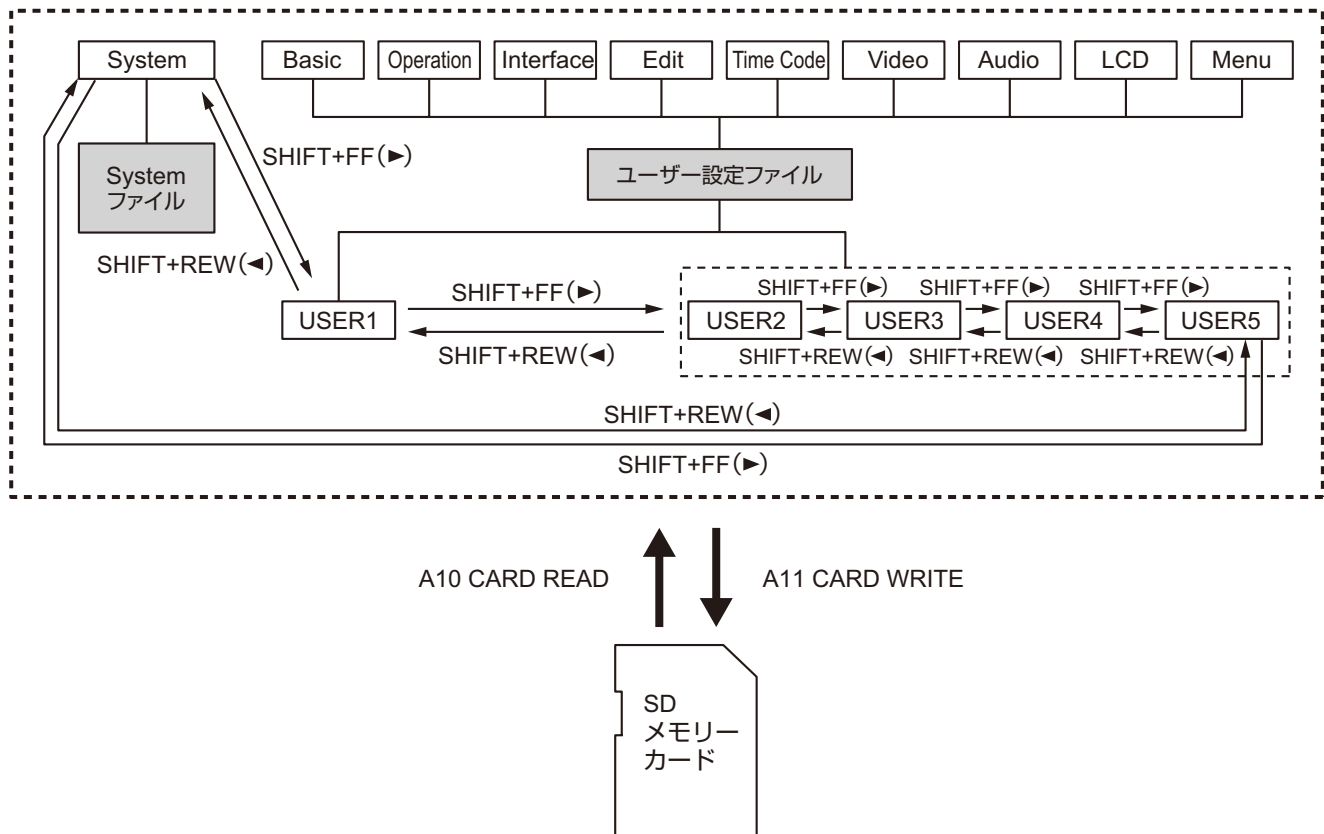
- P2カードへ記録できないときには、AVCHD記録を行いません。
- SDメモリーカードへAVCHD記録を行っているときは液晶モニターにREC P2&AVCHDと表示されます。
- セットアップメニューNo.020(SYS FORMAT)が480i、576iに設定されている場合はAVCHD記録ができません。
- セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)の設定が59.94、50以外に設定されている場合は、AVCHD記録は記録されません。
- 記録開始および終了点はP2カードへ記録されたクリップと一致しません。
- セットアップメニューNo.041(LOOP REC)がONに設定されている場合はAVCHD記録へはLOOP RECを行いません。
- タイムコードはP2カードへの記録と同じものが記録されます。
- AVCHD記録のメタデータはAVCHDモードのメニューにて設定してください。
- コンポジット入力時はAVCHD記録できません。
- セットアップメニューNo.034(A.SMPL RES)の設定にかかわらず、SDメモリーカードには16ビットで音声記録されます。

3 STOPボタンを押し、記録を終了する

セットアップ

本機の設定について

本機の設定項目は、SYSTEM、BASIC、OPERATION、INTERFACE、EDIT、TIME CODE、VIDEO、AUDIO、LCD、MENUに分かれています。このうち、SYSTEMの設定値はSYSTEMファイルに保存され、それ以外の設定値はユーザー設定ファイルに保存されます。ユーザー設定ファイルは、USER1～USER5の5つまで保存できます。これらの設定値はSDメモリーカードへの書き出しや読み込み(4ファイル)ができます。



5つのユーザーファイルを持つことができ、それぞれ異なったメニュー設定の中からいずれかを選択して使用することができます。

必要に応じて設定値を変更できます。
→「変更の操作」(163ページ)を参照。

変更後、USER1の内容をUSER2～USER5へセーブ(複写)することができます。
→「セットアップメニューNo.A01(SAVE)」(191ページ)を参照。

セットアップメニューの設定をSDメモリーカードに保存、および読み込むことができます。
→「セットアップメニューNo.A10(CARD READ)、A11(CARD WRITE)」(191ページ)を参照。

電源を入れたときのユーザー設定ファイルの自動ロードについて

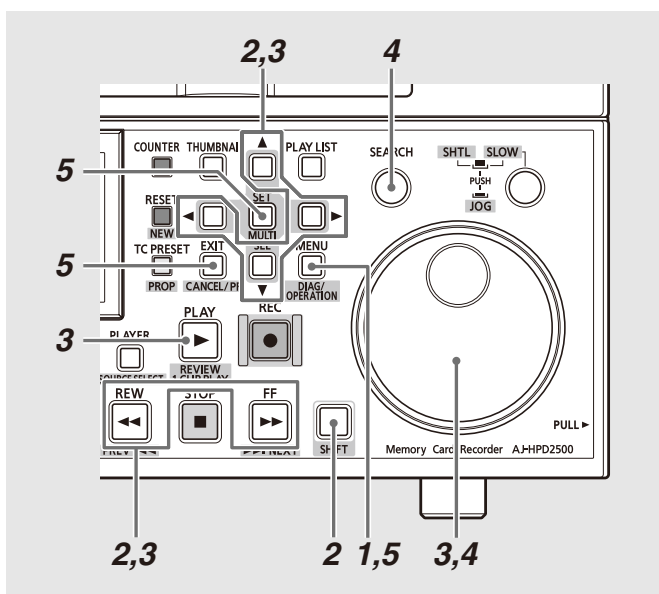
電源を入れたときに、USER1へロードするユーザー設定ファイルを指定しておくことができます。また、前回の設定をそのまま使用するように設定することもできます。

→「セットアップメニューNo.A02(P.ON LOAD)」(191ページ)を参照。

設定の変更

設定の変更は、液晶モニターおよびMON OUT端子、SDI MON OUT端子、SDI OUT端子に接続したモニター(フロントパネル上部のSUPER スイッチが「ON」のとき)のスーパー表示画面にメニューを表示して行います。出力端子へのスーパー表示は、セットアップメニューNo.005(SUPER)により選択できます。

変更の操作



1 MENUボタンを押す

液晶モニターにセットアップメニューの画面が表示され、カウンター表示部にセットアップメニューの項目No.が表示されます。

2 変更対象ファイルを選ぶ

SHIFTボタンを押しながら十字カーソル右(▶)ボタンまたはFF▶ボタンを押すと次のファイルに切り替わり、十字カーソル左(◀)ボタンまたはREW◀◀ボタンを押すと前のファイルに切り替わります。

3 変更項目を選ぶ

サーチダイヤルを回すか、または十字カーソル上下(▲/▼)ボタンを押して、カーソル(*)を変更する項目に移動します。

- サーチダイヤルは、なるべくJOGモードで使用してください。
- 右に回すと項目No.が001→002→003→004→のように増加し、左に回すと減少します。

- PLAY▶ボタンを押しながらFF▶ボタンまたは、+ボタンを押すと次の項目に、PLAY▶ボタンを押しながらREW◀◀ボタンまたは-ボタンを押すと、前の項目に切り替わります。

4 設定値を変更する

変更する項目で、SEARCHボタンを押しながらサーチダイヤルを回すか、または、十字カーソル左右(◀/▶)ボタンを押して、設定値を変更します。

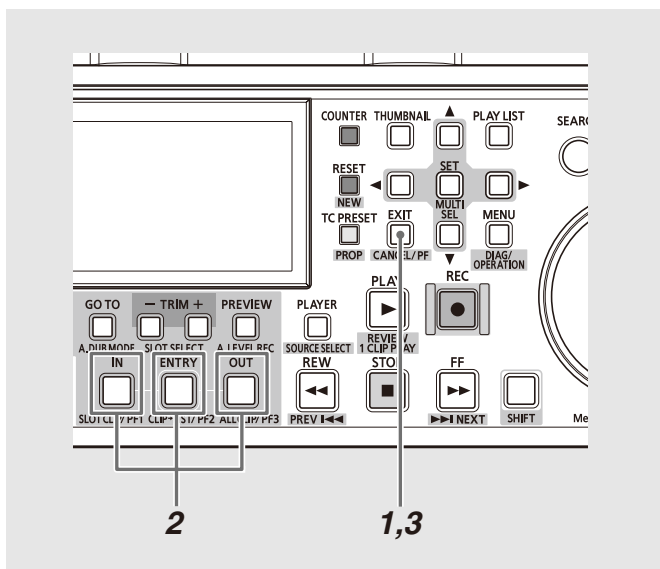
- ダイヤルを右に回す(または十字カーソル右(▶)ボタンを押す)と設定No.が増加し、左に回す(または十字カーソル左(◀)ボタンを押す)と減少します。
- 変更後は、SEARCHボタンを放します。
- サーチダイヤルがSHTLモードのときは、中央位置にしないと項目が移動します。
- 他に変更する項目があるときは、手順3~4を繰り返します。
- 設定値を工場出荷時に戻すには、SEARCHボタンを押しながらRESETボタンを押します。

5 変更を確定する

MENUボタンを押します。

確認メッセージが表示されますので、変更するときはSETボタン、キャンセルするときはEXITボタンを押すと、メニューが閉じて変更が終了します。

PFボタンによる変更



変更頻度の高い項目を3つまでPFボタンに割り当てておき、PFボタンを押して設定値をすばやく変更できます。あらかじめPFボタンに設定項目を割り当てておき、次の操作で設定値を変更します。

→PFボタンへの設定項目の割り当ては、「セットアップメニューNo.A04～A06(PF1 ASSIGN～PF3 ASSIGN)」(191ページ)を参照。

1 PF(EXIT)ボタンを押す

登録されている項目が液晶モニターに表示されます。

2 設定を変更する項目に対応するPFボタン(1～3)を押す

ボタンを押すたびに設定値が更新されます。

3 PF(EXIT)ボタンを押して設定変更を終了する

◆NOTE:

- 約5秒間何も操作しないと、自動的に変更操作が終了します。
- サムネールモード/プレイリストモード中は、PFボタンは無効です。

ロックによるユーザー設定ファイルの保護

システムファイルおよびユーザー設定ファイル(USER2～USER5)が誤って変更されることがないように、ロックすることができます。

→システムファイルのロックの設定および解除は、「セットアップメニューNo.30(MENU LOCK)」(168ページ)を参照。

→ユーザーファイルのロックの設定および解除は、「セットアップメニューNo. A03(MENU LOCK)」(191ページ)を参照。

◆NOTE:

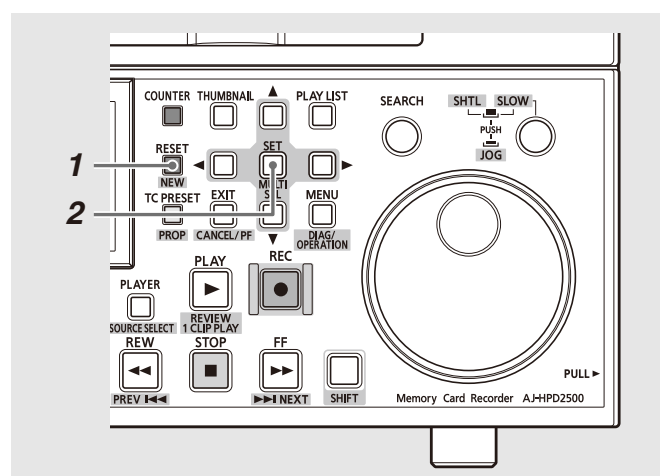
- ロックされている場合でも、SDメモリーカードからの設定の読み込みを行うことができます。読み込み後のロックの状態は、読み込んだ設定に従います。

工場出荷時の設定(初期設定)に戻すには

メニューが表示されているときに、画面に表示されているユーザー設定ファイルの内容を工場出荷時の設定に戻すことができます。

◆NOTE:

- 画面に表示されているユーザー設定ファイルの内容が工場出荷時の設定に戻ります。他のユーザー設定ファイルには影響を与えません。
- システムファイルが画面に表示されているとき、システムの項目内容は、工場出荷時の設定に戻りません。その他の項目は戻ります。
- MENU LOCKのときは工場出荷時の設定には戻りません。MENU LOCKをOFFにしてください。



1 メニューが表示されているときにRESETボタンを長押しする

2 SETボタンを押す

セットアップメニューの構成

SETUP MENU

SYSTEM

(→167ページ)

BASIC

(→169ページ)

OPERATION

(→176ページ)

INTERFACE

(→178ページ)

EDIT

(→179ページ)

TIME CODE

(→179ページ)

- 001 LOCAL ENA
- 002 CTL DISP
- 003 REMAIN SEL
- 005 SUPER
- 006 DISPLAY SEL
- 007 CHARA H-POS
- 008 CHARA V-POS
- 009 CHARA TYPE
- 016 CTL COUNT
- 020 SYS FORMAT
- 024 REC FMT(SD)
- 025 REC FMT(HD)
- 026 PLY LST FMT
- 028 AVCHD FMT
- 031 OUT REF
- 032 REC REF
- 034 A.SMPL RES
- 040 VFR REC
- 041 LOOP REC
- 050 P.ON GUI
- 051 GUI OUTPUT
- 052 GUI HOLD
- 053 UNFOCUS SCRNR
- 069 CLOCK SET
- 05 ENCODER SEL
- 12 SYS H(HD)
- 14 SYS SC(SD)
- 15 SYS H(SD)
- 18 SCH COAR(SD)
- 19 SCH FINE(SD)
- 20 AV PHASE
- 25 SYSTEM FREQ
- 26 HD SYS H ADV
- 27 VDCP CMD
- 28 VDCP ID
- 30 MENU LOCK
- 100 SEARCH ENA
- 101 SHTL MAX
- 102 FF.REW MAX
- 103 SEEK SEL
- 104 REF ALARM
- 108 PLAY DELAY
- 147 WFM DISP
- 148 WFM POS.
- 155 AUTO REC
- 160 REPEAT PLAY
- 165 CLIPSEL MODE
- 170 AVCHD REC
- 202 ID SEL
- 213 EXTEND CMD
- 315 AFTER CUE-UP
- 500 VITC BLANK
- 501 VITC POS-1
- 502 VITC POS-2
- 504 RUN MODE
- 505 TCG REGEN
- 507 EXT TC SEL
- 508 BINARY GP
- 509 PHASE CORR
- 510 TCG CF FLAG
- 511 DF MODE
- 512 TC OUT REF
- 513 VITC OUT
- 514 HD EMBD VITC
- 515 HD EMBD LTC
- 518 VITC GEN
- 519 UB OUT SEL

— VIDEO (→182ページ)		— 601 VIDEO INT SG
		— 602 SDI IN MODE
		— 620 DOWNCON MODE
— AUDIO (→186ページ)	— 701 CH1 IN LV	— 621 UPCONV MODE
	— 702 CH2 IN LV	— 626 D/C ENH H
	— 706 CH1 OUT LV	— 627 D/C ENH V
	— 707 CH2 OUT LV	— 638 IN U/C MODE
	— 710 MONIL OUT LV	— 643 OUT MODE SEL
	— 711 MONIR OUT LV	— 645 WIDE SELECT
	— 712 MONI OUT	— 650 STYLE
	— 725 REC CH1	— 651 HUE STYLE(SD)
	— 726 REC CH2	— 653 Y LVL(HD)
	— 727 REC CH3	— 654 Pb LVL(HD)
	— 728 REC CH4	— 655 Pr LVL(HD)
	— 731 PB FADE	— 656 BK LVL(HD)
	— 732 EMBEDDED AUD	— 658 Y LVL(SD)
	— 750 A CH1/2 SEL	— 659 Pb LVL(SD)
	— 762 AUD RATE CONV	— 660 Pr LVL(SD)
	— 767 METER SELECT	— 661 BK LVL(SD)
	— 774 AVCHD A CH	— 662 V LEVEL
	— 775 25M REC CH	— 663 C LEVEL
	— 776 REF LEVEL	— 664 HUE/C PHASE
	— 778 AUD OUT DLY	— 665 SETUP/BK LVL
	— 782 EMBD CH SEL	— 676 BLK CLIP
	— 785 PB MIX	— 677 LCD ASPECT
	— 790 VOL SEL	— 680 CC(F1) BLANK
	— 793 A DUB PB MIX	— 681 CC(F2) BLANK
	— 797 A DUB MONI	— 684 EDH(SD)
		— 685 ESR MODE(SD)
		— 688 CC REC
		— 689 COMP MODE
		— 690 UMID REC
		— 691 UMID GEN
		— 692 UMID POS
— LCD (→190ページ)	— 900 LCD PROTECT	
	— 905 BRIGHT	
	— 910 CONTRAST	
	— 911 R CONTRAST	
	— 912 G CONTRAST	
	— 913 B CONTRAST	
— MENU (→191ページ)	— A00 LOAD	
	— A01 SAVE	
	— A02 P.ON LOAD	
	— A03 MENU LOCK	
	— A04 PF1 ASSIGN	
	— A05 PF2 ASSIGN	
	— A06 PF3 ASSIGN	
	— A10 CARD READ	
	— A11 CARD WRITE	
	— A12 CARD FORMAT	

各項目の設定内容

SYSTEM

HD SDIおよびSD SDI出力、アナログコンポジット出力、音声出力の位相調整、システム周波数、HD SDI出力のSD REF入力に対する位相、システムファイルのロックの設定を行います。

「設定値」のXXは初期値を表す。

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
05	ENCODER SEL	<u>0001</u> 0002	<u>LOCAL</u> BOTH	ビデオ出力信号の各調整を本機で行うか、外部のエンコーダーリモートコントローラーから行うかを設定します。 LOCAL:本機でビデオ出力信号の各調整を行う BOTH:本機、および外部のエンコーダーリモートコントローラーから、ビデオ出力信号の各調整を行う NOTE: ・エンコーダーリモートコントローラーはRS-422Aを使ったデジタルのコントローラーに対応しています。 ・調整項目について→「ビデオ出力信号の各調整について」(169ページ)を参照。 ・外部エンコーダーリモートコントローラーから調整を行った場合、各調整値はセットアップメニューの各調整項目に反映されます。ただし調整操作を終えて約1分が経過しなければ、各調整項目に反映された数値は、保存されません。外部エンコーダーリモートコントローラーで調整操作を行った後電源を切るときは、操作を終えて1分以上待ってから、電源をお切りください。
12	SYS H(HD)	0000 <u>1375</u> 2750	-1375 <u>0</u> 1375	HD SDI出力のシステム位相を調整します(13.5 nsステップ)。 -:位相を進める +:位相を遅らせる NOTE: この項目は、工場出荷時の設定に戻す操作を行っても設定値に戻すことはできません。ただし、項目を点滅させている状態でRESETボタンを押すと設定値は戻ります。
14	SYS SC(SD)	0000 <u>0128</u> 0255	-128 <u>0</u> 127	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz 60-25Hz のみ アナログコンポジット出力およびSD SDI出力のシステム位相を調整します(トータル可変範囲 ±180°)。 NOTE: この項目は、工場出荷時の設定に戻す操作を行っても、設定値に戻すことはできません。ただし、項目を点滅させている状態でRESETボタンを押すと設定値は戻ります。
15	SYS H(SD)	0000 <u>0864</u> 1728	-864 <u>0</u> 864	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz 60-25Hz のみ アナログコンポジット出力およびSD SDI出力のシステム位相を調整します(37 nsステップ)。 -:位相を進める +:位相を遅らせる NOTE: この項目は、工場出荷時の設定に戻す操作を行っても、設定値に戻すことはできません。ただし、項目を点滅させている状態でRESETボタンを押すと設定値は戻ります。
18	SCH COAR(SD)	<u>0000</u> 0001 0002 0003	<u>0</u> 90 180 270	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz 60-25Hz のみ アナログコンポジット出力のSCH位相を調整します(90° 毎の4ポジション)。 SC位相が変化し、H位相は変化しません。

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
19	SCH FINE(SD)	0000 <u>0032</u> 0064	-32 <u>0</u> 32	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz 60-25Hz のみ アナログコンポジット出力のSCH位相を調整します(トータル可変範囲 ±45° 以上)。 SC位相が変化し、H位相は変化しません。 セットアップメニューNo.18(SCH COAR(SD))と合わせて±180° をカバーします。
20	AV PHASE	0000 <u>0128</u> 0255	-128 <u>0</u> 127	映像出力に対する音声出力の位相を調整します(20.8 μsステップ)。 -: 映像出力に対して、音声出力の位相を進める +: 映像出力に対して、音声出力の位相を遅らせる
25	SYSTEM FREQ	<u>0000</u> 0001 0002 0003 0004 0005 0006 0007 0008	<u>59.94</u> 50 23.98 24 29.97 59-23 60-24 25 60-25	システム周波数を設定します。 0: 59.94 Hz 1: 50 Hz 2: 23.98 Hz 3: 24 Hz 4: 29.97 Hz 5: 59-23 Hz 入力は59.94 Hzで受け付けます。Varicam: AJ-HDC27シリーズ、AJ-HPX2700などから出力される2:3プルダウンされた24フレームの信号を記録する場合に選択します。 6: 60-24 Hz 入力は60 Hzで受け付けます。Varicam: AJ-HDC27シリーズ、AJ-HPX2700などから出力される2:3プルダウンされた24フレームの信号を記録する場合に選択します。 7: 25 Hz 8: 60-25 Hz 入力は60 Hzで受け付けます。Varicam: AJ-HDC27シリーズのバリエーションフレームレートを25pに設定した出力信号を記録する場合に選択します。
26	HD SYS H ADV	<u>0000</u> 0001	<u>0H</u> 90H	59.94Hz 29.97Hz のみ SD REF入力時に、HD SDI出力をSD REF入力に対して、90H位相を進ませるかどうかを設定します。 0: SD REFと同位相で出力 1: HD SDI出力はSD REF出力より90H進んだ位相で出力 NOTE: ・オーディオ出力およびタイムコード出力は、HD SDI出力と同位相で出力します。 ・720pのときは、120Hの位相差となります。
27	VDCP CMD	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	59.94Hz 50Hz のみ REMOTE端子が、VDCPコマンド対応するかを選択します。 0: 対応しない 1: 対応する NOTE: ・「ON」時、REMOTEにするとサムネール画面に移行できません。 ・「ON」時、REMOTEにすると記録できません。 ・「ON」時、Clip Selectボタン、MODE(SHIFT+REMOTE)ボタン、PLAYERボタンによる外部機器制御は無効になります。 ・「ON」時、セットアップメニューNo.050(P.ON GUI)の設定が無効になり、電源をいれたときサムネール画面、プレイリスト画面ともに表示しません。 ・「ON」時、外部機器からSEARCH, FF, REWは受け付けません。
28	VDCP ID	<u>0000</u> 0001 0002 0003 0004	<u>PRGNAME</u> CLIPID USRNAME SCNENO CLPNME	59.94Hz 50Hz のみ VDCPのIDとして用いるメタデータを選択します。 0: PROGRAM NAMEを選択 1: GLOBAL CLIP IDを選択 2: USER CLIP NAMEを選択 3: SCENE NOを選択 4: CLIP NAMEを選択 NOTE: ・サポートするIDは最大64バイトまでの可変長IDです。それ以降は無視されます。 ・本項目変更を有効にするためには電源オフ/オンでの再起動が必要です。
30	MENU LOCK	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	システムファイルのロックモードの設定/解除を行います。 0: ロック解除(変更可能) 1: ロック設定(変更禁止)

ビデオ出力信号の各調整について

各調整の制御マトリクスを下表に示します。

セットアップメニューNo.650(STYLE)でCMPNTを選択した場合

設定	調整項目
05:ENCODER SEL	653:Y LVL 654:P _B LVL 655:P _R LVL 656:BK LVL
LOCAL	本機
BOTH	外部エンコーダーリモート/本機

本機:

セットアップメニューのみの調整となります。

外部エンコーダーリモート/本機:

外部エンコーダーリモートおよびセットアップメニューから調整可能です。

セットアップメニューNo.650(STYLE)でCMPSTを選択した場合

設定	調整項目
05:ENCODER SEL	662:V LEVEL 663:C LEVEL 664:HUE 665:SETUP
LOCAL	本機
BOTH	外部エンコーダーリモート/本機

本機:

セットアップメニューのみの調整となります。

外部エンコーダーリモート/本機:

外部エンコーダーリモートおよびセットアップメニューから調整可能です。

BASIC

「REMOTE」のときにキーパネルで操作できるボタン、CTLカウンター表示の12 / 24時制表示の切り替え、スーパー表示、スーパーやセットアップメニューなどの文字の表示、記録フォーマット、プレイリストに追加できるフォーマット、内蔵時計の時刻の設定を行います。

「設定値」のXXは初期値を表す。

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
001	LOCAL ENA	0000 <u>0001</u> 0002	DIS <u>STOP</u> ENA	REMOTE / LOCALスイッチが「REMOTE」のときに、キーパネルで操作できるボタンを制限します。 0: すべて不可 1: STOPボタンのみ可能 2: すべて可能
002	CTL DISP	<u>0000</u> 0001	± <u>12h</u> 24h	CTLカウンター表示の12 / 24時間表示を切り替えます。 0: 12時間表示 1: 24時間表示
003	REMAIN SEL	0000 0001 <u>0002</u> 0003	OFF 2L <u>1L</u> P2&SD	スーパー表示に、残量時間および総量を表示するかどうかを設定します。 0: 表示しない 1: 2行目にP2カードの残量時間と総量を表示 2: 1行目にP2カードの残量時間と総量を表示 3: 1行目にP2カードの残量時間と総量、2行目にSDメモリーカードの残量時間と総量を表示 NOTE: ・ 2L選択時、セットアップメニューNo.006(DISPLAY SEL)がTIMEに設定されているときは表示されません。 ・ P2&SD選択時、セットアップメニューNo.006(DISPLAY SEL)がTIMEに設定されているときは、総量は表示しません。 ・ 以下の場合、OFF選択時以外は2行目に残量時間を表示します。 - セットアップメニューNo.040(VFR REC)がONに設定されているとき - セットアップメニューNo.041(LOOP REC)がONに設定されているとき - セットアップメニューNo.155(AUTO REC)がOFF以外に設定され自動記録/停止が可能なとき ・ P2カードが挿入されていないときはP2カードの残量は表示されません。 ・ AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)が装着されていないとき、またはSDメモリーカードが挿入されていないときはSDメモリーカードの残量表示はされません。

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
005	SUPER	0000 <u>0001</u> 0002	LCD <u>LCD&M</u> ALL	<p>59.94Hz 50Hz 23.98Hz 29.97Hz 59-23Hz 25Hz 60-25Hz のみ</p> <p>スーパー表示をVIDEO / SD SDI MON / SDI OUTへ出力するかを設定します。 0:出力しない(LCDのみ) 1:LCDおよびVIDEO MONとSD SDI MONへ出力する 2:LCDおよびVIDEO MON, SD SDI MON, SDI OUTへ出力する</p> <p>NOTE:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SUPERスイッチがOFFの場合は表示しません。 ・ セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)が59.94および50以外のときはLCDとLCD&Mのみ設定可能です。 ・ セットアップメニューNo.147(WFM DISP)でウェーブフォームモニターを表示しているときには、スーパー表示はSD SDI MON, SDI OUTへは出力されません。
006	DISPLAY SEL	0000 <u>0001</u> 0002 0003 0004 0005 0006 0007 0008 0009	TIME <u>T&STA</u> T&S&M T&RT T&YMD T&MDY T&DMY T&UB T&CTL T&T	<p>スーパー表示内容を設定します。 ここで、データとはCOUNTERボタンで選択されているCTL / TC / UBの値のことを指します。</p> <p>0: データのみ 1: データ・動作状態 2: データ・動作状態・クリップ番号・映像フォーマット・音声ビット数 3: データ・REC TIME 4: データ・REC DATE (年月日) 5: データ・REC DATE (月日年) 6: データ・REC DATE (日月年) 7: データ・ユーザースビット ただし、COUNTERボタンでUBを選択しているときは、ユーザースビットの次にタイムコードが表示される</p> <p>8: データ・CTL ただし、COUNTERボタンでCTLを選択しているときは、CTLデータの次にタイムコードが表示される</p> <p>9: データ・タイムコード</p> <p>NOTE:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ T&S&Mに設定したときは、ワーニングやエラーが発生するとエラーメッセージがスーパー表示されます。 ・ 音声ビット数は、オーディオデータがないクリップの場合も16bと表示されます。(ただし、プレイリストの外部モニター出力時はプレイリストのビット数を表示します。)
007	CHARA H-POS	0000 <u>0010</u> 0037	0 <u>10</u> 37	スーパー表示の水平方向文字位置を設定します。
008	CHARA V-POS	0000 <u>0027</u> 0032	0 <u>27</u> 32	スーパー表示の垂直方向文字位置を設定します。
009	CHARA TYPE	<u>0000</u> 0001	<u>WHITE</u> W/OUT	スーパーや、セットアップメニューなどの表示タイプを設定します。 0: 白文字を、黒のペタ塗りの背景で表示 1: 白文字を、黒の縁取りで表示
016	CTL COUNT	<u>0000</u> 0001	<u>UP</u> DOWN	<p>59.94Hz 50Hz のみ</p> <p>カウンター表示がCTLのときの表示内容を設定します。 0: 正方向に進むときは正方向に歩進し、負方向に進むときは負方向に歩進する 1: 再生の終端で表示が00:00:00:00になるように、正方向に進むときは負方向に歩進し、負方向に進むときは正方向に歩進する</p> <p>NOTE:</p> <p>AVCHD、CONTINUOS PBモード、プレイリスト、記録中はUPIに設定されます。</p>

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
020	SYS FORMAT	59.94 Hz設定時		59.94Hz 50Hz 29.97Hz 59-23Hz 25Hz のみ 本機の記録フォーマットを設定します。 0: 1080iモード(59.94 Hz, 50 Hz設定時) / 1080pモード(29.97 Hz, 59-23 Hz, 25 Hz設定時) 1: 720pモード 2: 480iモード(59.94 Hz設定時) / 576iモード(50 Hz設定時) NOTE: ・ セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)で23.98, 24が選択されている場合は表示されません。記録フォーマットは1080pとなります。 ・ セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)で60-24, 60-25が選択されている場合は表示されません。記録フォーマットは720pとなります。
		<u>0000</u>	<u>1080i</u>	
		0001	720p	
		0002	480i	
		50 Hz設定時		
<u>0000</u>	<u>1080i</u>	0: 1080iモード(59.94 Hz, 50 Hz設定時) / 1080pモード(29.97 Hz, 59-23 Hz, 25 Hz設定時) 1: 720pモード 2: 480iモード(59.94 Hz設定時) / 576iモード(50 Hz設定時)		
0001	720p			
0002	576i			
29.97 Hz, 25 Hz, 59-23 Hz設定時				
<u>0000</u>	<u>1080p</u>			
0001	720p			
024	REC FMT(SD)	<u>0000</u>	<u>50M</u>	59.94Hz 50Hz のみ セットアップメニューNo.020(SYS FORMAT)が480iまたは576iに設定されているときの記録フォーマットを設定します。 0: DVCPRO50(50 Mbps) 1: DVCPRO(25 Mbps) 2: DV(25 Mbps)
		0001	25M	
		0002	DV	
025	REC FMT(HD)	0000	DVCPRO	セットアップメニューNo.020(SYS FORMAT)が1080iまたは720pに設定されている場合の記録フォーマットを選択します。 0: DVCPRO HD(100 Mbps) 1: AVC-Intra50 2: AVC-Intra100 NOTE: セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)で23.98, 24が選択されている場合は、DVCPROは選択できません。また、セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)で29.97, 25, 59-23が選択されていて、セットアップメニューNo.020(SYS FORMAT)で1080pが選択されている場合はDVCPROに設定してもDVCPRO HDで記録できません。AVC-Intra100記録となります。
		0001	AVC50	
		<u>0002</u>	<u>AVC100</u>	

■ 記録フォーマットの対応表

セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)、No.020(SYS FORMAT)、No.025(REC FMT(HD))の設定と記録フォーマットの対応は、下表の通りです。

各セットアップメニュー設定		記録フォーマット	
No.25: SYSTEM FREQ	No.020: SYS FORMAT	No.025: REC FMT(HD)	
		DVCPRO	AVC-Intra50/100
59.94	1080i	1080/59.94i	1080/59.94i
	720p	720/59.94p	720/59.94p
	480i	480/59.94i	---
50	1080i	1080/50i	1080/50i
	720p	720/50p	720/50p
	576i	576/50i	---
23.98	---	---	1080/23.98p
24	---	---	1080/23.98p
29.97	1080p	---	1080/29.97p
	720p	720/29.97p	720/29.97p
25	1080p	---	1080/25p
	720p	720/25p	720/25p
59-23	1080p	---	1080/23.98p
	720p	720/23.98p	720/23.98p
60-24	---	720/23.98p	720/23.98p
60-25	---	720/25p	720/25p

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
026	PLY LST FMT	59.94 Hz設定時		<p>59.94Hz 50Hz のみ</p> <p>プレイリストで使用するフォーマットを設定します。</p> <p>< DVCPRO HDフォーマット時></p> <p>0: セットアップメニューNo.020(SYS FORMAT)およびNo.025(REC FMT(HD))で設定されたフォーマット</p> <p>1: 720/30PN(59.94 Hz設定時)、720/25PN(50 Hz設定時)</p> <p>2: 720/24PN</p> <p>< AVC-Intraフォーマット時></p> <p>0: セットアップメニューNo.020(SYS FORMAT)およびNo.025(REC FMT(HD))で設定されたフォーマット</p> <p>1: 1080/30PN(59.94 Hz設定時)/ 1080/25PN(50 Hz設定時)または720/30PN(59.94 Hz設定時)/ 720/25PN(50 Hz設定時)</p> <p>2: 1080/24PNまたは720/24PN</p> <p>NOTE:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ セットアップメニューNo.020(SYS FORMAT)を480iまたは576i設定時には30PN、24PNを選択してもSYSFMT設定となります。 ・ AVC-Intraフォーマット時の有効ライン数は、セットアップメニューNo.020(SYS FORMAT)に従います。 ・ セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)で59.94、50以外が選択されている場合は、セットアップメニューNo.020(SYS FORMAT)およびNo.025(REC FMT(HD))で設定されたフォーマットに従います。 ・ AVC-Intraフォーマット時は、セットアップメニューNo.034(A.SMPL RES)で設定された音声ビット数にも従います。
		<u>0000</u>	<u>SYSFMT</u>	
		0001	30PN	
		0002	24PN	
50 Hz設定時		<u>0000</u>	<u>SYSFMT</u>	
		0001	25PN	
028	AVCHD FMT	<u>0000</u>	<u>PH</u>	<p>59.94Hz 50Hz のみ</p> <p>AVCHDの記録レートを設定します。</p> <p>0: PHモード(約21 Mbps)</p> <p>1: HAモード(約17 Mbps)</p> <p>2: HGモード(約13 Mbps)</p> <p>3: HEモード(約6 Mbps)</p> <p>NOTE:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)装着時のみ表示されます。 ・ 720Pモード時は常にPHモードで記録します。
		0001	HA	
		0002	HG	
		0003	HE	
031	OUT REF	<u>0000</u>	<u>AUTO</u>	<p>59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz のみ</p> <p>ビデオ出力のリファレンスを選択します。</p> <p>0: REF端子に入力されたREF信号をリファレンスとして使用する。REF端子に入力がないときは選択されているビデオ入力信号がリファレンスになる。REF入力信号もVIDEO入力信号もないときは内部基準となる。</p> <p>1: REF入力信号がリファレンスになる。その信号がなければ内部基準となる。</p> <p>2: ビデオ入力信号がリファレンスになる。その信号がなければ内部基準となる。</p>
		0001	REF	
		0002	INPUT	
032	REC REF	<u>0000</u>	<u>NORMAL</u>	<p>59.94Hz のみ</p> <p>記録する映像フレームを同期させるリファレンスを選択します。</p> <p>0: 入力されている映像信号のフレームを自動判別してリファレンスにする</p> <p>1: HD SDI入力端子に入力されているタイムコードからフレームを判別してリファレンスにする</p> <p>NOTE:</p> <p>SLTCを選択したとき、この項目の設定を有効にするためには、下記の設定が必要になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ):59.94 ・ セットアップメニューNo.020(SYS FORMAT):720p ・ フロントパネルのVIDEO IN (SHIFT+EDIT MODE)ボタン:HDSDI
		0001	SLTC	

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
034	A.SMPL RES	<u>0000</u> 0001	16BIT 24BIT	0: 音声記録ビット数を16ビットとする 1: 音声記録ビット数を24ビットとする NOTE: 24BITを選択したとき、この項目の設定を有効にするためには、下記の設定が必要になります。 ・セットアップメニューNo.020(SYS FORMAT):1080iまたは720p ・セットアップメニューNo.025(REC FMT(HD)):AVC50またはAVC100
040	VFR REC	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	29.97Hz 59-23Hz 60-24Hz 60-25Hz のみ 記録フォーマットが720pの場合にVFR記録をするかどうかを選択します。 0: VFR記録をしない 1: VFR記録をする →「バリエラブルフレームレートカメラからの記録」(40ページ)を参照。
041	LOOP REC	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	LOOP RECを行うかどうかを選択します。 →「LOOP REC機能」(37ページ)を参照。 0: LOOP RECを行わない 1: LOOP RECを行う NOTE: 電源をOFFにすると、次回電源投入時は初期値(OFF)に戻ります。
050	P.ON GUI	0000 <u>0001</u> 0002	OFF <u>THUMB</u> PLYLST	電源を入れたときにサムネールまたはプレイリスト画面を表示するかどうかを設定します。 0: サムネール画面、プレイリスト画面ともに表示しない 1: サムネール画面を表示する 2: プレイリスト画面を表示する NOTE: セットアップメニューNo.27(VDCP CMD)がONの場合は、常にOFFになります。
051	GUI OUTPUT	<u>0000</u> 0001 0002 0003	<u>LCD</u> LCD&M LCD&S ALL	59.94Hz 50Hz 23.98Hz 29.97Hz 59-23Hz 25Hz 60-25Hz のみ GUI画面表示をANALOG MONITOR OUT / SDI MONITOR OUT/ SDI OUTへ出力するかを設定します。 0: 出力しない(LCDのみ) 1: LCDとANALOG MONITOR OUT, SDI MONITOR OUTへ出力する 2: LCD とSDI OUTへ出力する 3: LCDとANALOG MONITOR OUT, SDI MONITOR OUT, SDI OUTすべてへ出力する NOTE: ・セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)で23.98, 59-23が選択されているときは、SDI OUTへ出力するGUI画面の更新が不自然に見える場合があります。また、GUI画面とビデオ画面が切り替わる時に、出力が乱れることがあります。 ・GUI画面のANALOG MONITOR OUT, SDI MONITOR OUTへの出力は、表示される文字によっては見えにくくなる場合があります。
052	GUI HOLD	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	59.94Hz 50Hz 23.98Hz 29.97Hz 59-23Hz 25Hz 60-25Hz のみ サムネールから再生したときに全画面再生に切り替わるかGUIを保持するかを設定します。 0: 全画面再生へ切り替える 1: GUIを保持する NOTE: ・GUIのスクロールバーやカーソル位置を示す黄色枠は再生中には動きません。停止した後に画面を更新します。 ・GUI保持の画面では、再生クリップのフォーマットやWIDE情報変化時に画面が乱れることがあります。
053	UNFOCUS SCRN	<u>0000</u> 0001	<u>DARK</u> NORMAL	プレイリスト画面で選択されていない画面の輝度を落とすかどうかを設定します。 0: プレイリスト画面で選択されていない画面の輝度を落とす 1: プレイリスト画面で選択されていない画面の輝度を変更しない

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
069	CLOCK SET			内蔵時計の時刻を合わせます。 NOTE: STOPまたはSETボタンを押すとサブ画面に移ります。サブ画面で日時を変更後、SETボタンを押すと時計に日付が設定されます。日付設定しないでサブ画面から戻るには、再度STOPまたはEXITボタンを押します。
サブ画面				
00	YEAR	0000 0037	2000 2037	年を設定します。
01	MONTH	0001 0012	JAN DEC	月を設定します。 NOTE: 2、4、6、9、11月の設定で存在しない日を設定したときは、翌月の1日として設定されます。
02	DAY	0001 0031	1 31	日を設定します。 NOTE: 2、4、6、9、11月の設定で存在しない日を設定したときは、翌月の1日として設定されます。
03	HOUR	0000 0023	0 23	時間を設定します。 24時間制で設定してください。
04	MINUTE	0000 0059	0 59	分を設定します。
05	TIME ZONE	0000 0001 <u>0018</u> 0027 0050	00:00 +00:30 <u>+09:00</u> -12:00 -00:30	年月日時分を設定した場所の世界標準時からの差を設定します。 次の表を参考に、設定してください。

時差	地域
00:00	グリニッジ
+00:30	
+01:00	中央ヨーロッパ
+01:30	
+02:00	東ヨーロッパ
+02:30	
+03:00	モスクワ
+03:30	テヘラン
+04:00	アブダビ
+04:30	カブール
+05:00	イスラマバード
+05:30	ボンベイ
+06:00	ダッカ
+06:30	ヤンゴン
+07:00	バンコク
+07:30	
+08:00	北京
+08:30	
+09:00	東京
+09:30	ダーウィン諸島
+10:00	グアム
+10:30	ロード・ハウ・アイランド
+11:00	ソロモン諸島

時差	地域
+11:30	ノーフォーク諸島
+12:00	ニュージーランド
+12:45	チャタム諸島
+13:00	
-12:00	クワジャリン
-11:30	
-11:00	ミッドウェイ諸島
-10:30	
-10:00	ハワイ
-09:30	マルケサス諸島
-09:00	アラスカ
-08:30	
-08:00	ロスアンジェルス
-07:30	
-07:00	デンバー
-06:30	
-06:00	シカゴ
-05:30	
-05:00	ニューヨーク
-04:30	
-04:00	ハリファックス
-03:30	ニューファンドランド島
-03:00	ブエノスアイレス

時差	地域
-02:30	
-02:00	中部大西洋
-01:30	
-01:00	アゾレス諸島
-00:30	

◆NOTE:

- 時計精度は、電源OFF状態で月差約±50秒程度です。
- 正確な時刻を必要とするときは、ご使用前に、時刻確認、再設定を行ってください。
- AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)装着時は、SDメモリーカードに記録されるタイムゾーンは30分刻みとなります。従って+12:45に設定した場合は+13:00となります。

OPERATION

サーチダイヤル操作への移行方法、シャトル動作の最大速度、FF、REW動作の最大速度、NEXT、PREVシーク動作、REF. VIDEOが接続されていないときのワーニング表示、PLAYの立ち上がり時間、電圧低下時にワーニングや電源OFFを行う電圧の設定を行います。

「設定値」のXXは初期値を表す。

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
100	SEARCH ENA	<u>0000</u> 0001	<u>DIAL</u> KEY	サーチモード(サーチダイヤル操作)への移行方法を設定します。 0: SEARCHボタンを押すか、サーチダイヤルを操作したとき移行 1: SEARCHボタンを押したとき移行
101	SHTL MAX	0000 <u>0001</u> 0002 0003 0004	×8 × <u>16</u> ×32 ×60 ×100	シャトル動作の最大速度を設定します。 0: ×8倍速 1: ×16倍速 2: ×32倍速 3: ×60倍速 4: ×100倍速
102	FF.REW MAX	<u>0000</u> 0001 0002 0003	× <u>32</u> ×60 ×100 SEEK	FF、REW動作の最大速度を設定します。 0: ×32倍速 1: ×60倍速 2: ×100倍速 3: クリップの先頭へのシーク動作 NOTE: ・ SEEK選択時も9P、RS-232CからのFFおよびREWコマンドに対しては、×100倍速のFF、REW動作となります。ただし、セットアップメニューNo.202(ID SEL)がORIGに設定されているときは、9PからのFFおよびREWコマンドでシーク動作となります。サムネール画面ではカーソルが左右に移動します。 ・ シーク動作は、再生モード時に有効となります。
103	SEEK SEL	<u>0000</u> 0001	<u>CLIP</u> CLIP&T	NEXT (SHIFT + FF)、PREV (SHIFT + REW) シーク動作で移動する位置を選択します。 0: クリップの先頭 1: クリップの先頭、およびテキストメモの設定点 NOTE: 本設定はFF、REW操作時は有効となりません。
104	REF ALARM	0000 <u>0001</u>	OFF <u>ON</u>	REF. VIDEOが接続されていないときにワーニング表示するかどうかを選択します。 0: 表示しない 1: STOPランプを点滅させることでワーニング表示する
108	PLAY DELAY	<u>0000</u> 0015	<u>0</u> 15	PLAYの立ち上がり時間をフレーム単位で設定します。 NOTE: セットアップメニューNo.27(VDCP CMD)がONの場合は、常に0になります。
147	WFM DISP	<u>0000</u> 0001 0002	<u>OFF</u> WAVE VECTOR	ウェーブフォームモニターの表示方法を選択します。 0: 表示しない 1: 波形表示 2: ベクトル表示 NOTE: ・ セットアップメニューNo.005(SUPER)で設定されている出力先に表示されます。 ・ コンポジット出力へは表示されません。 ・ LCDモニター以外では、ウェーブフォームが表示されているときはスーパーは表示されません。 ・ LCDモニター上のウェーブフォームモニターはオリジナル信号の波形を表示します。その他の出力ではエンコーダーVR(セットアップメニューNo.662、No.663、No.664 (V LEVEL、C LEVEL、HUE/C PHASE))の設定値で変更した後の信号の波形を表示します。

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
148	WFM POS.	<u>0000</u> 0001 0002 0003	<u>RT</u> LT RB LB	ウェーブフォームモニターの表示位置を選択します。 0: 右上 1: 左上 2: 右下 3: 左下
155	AUTO REC	<u>0000</u> 0001 0002 0003	<u>OFF</u> TYPE1 TYPE2 TYPE3	弊社カメラレコーダーからのHD SDI入力信号の記録 / 停止信号に従って、自動的に記録 / 停止を行うかどうかを選択します。 0: 自動的に記録 / 停止を行いません。 1: HD SDIに付加されているLTC情報内の記録/停止信号に従って自動的に記録 / 停止を行う 2: HD SDIに付加されているSVITC情報内の記録/停止信号に従って自動的に記録 / 停止を行う 3: 他社製カメラレコーダー使用時に設定する NOTE: ・サムネール画面やプレイリスト画面を表示中は、本設定は無効となり動作しません。 ・OFF以外に設定したときは、スーパーインポーズ画面の一行目にARECと表示されません。 ・REMOTEボタンは点灯状態にしてください。TYPE1、またはTYPE2の選択は、このページの「弊社カメラレコーダー、記録フォーマットと記録 / 停止信号(Recording Mark)」を参照してください。 ・自動記録を開始するには、STOPボタンを押して本機をSTOP状態にしてください。STOP状態以外では動作しません。また、自動停止を受け付けた後は、STOP状態になります。 ・通常操作で本機が記録状態にあるときには、本設定は無効となり、自動停止しません。 ・TYPE3対応確認機器は、下記のWebサイトをご覧ください。 (日本語) http://panasonic.biz/sav/autorec_j (英語) http://panasonic.biz/sav/autorec_e

弊社カメラレコーダー、記録フォーマットと記録 / 停止信号(Recording Mark)

機種	記録フォーマット	Recording Mark TYPE	備考		
AJ-HDC27F, H	720/**p over 60p	TYPE1			
AJ-HDX900	720/59.94p				
	720/23.98p over 59.94p				
	720/29.97p over 59.94p				
	720/50p				
	720/50p over 50p				
AJ-HDX900	1080/59.94i			TYPE1/TYPE2	TYPE1で使用の場合はカメラ側設定UB_MODEをFRAM_RATEに設定、TYPE2で使用の場合カメラ側設定VITC_UB_MODEをFRAM_RATEに変更してお使いください。
	1080/23.98p over 59.94i				
	1080/29.97p over 59.94i				
	1080/50i				
	1080/25p over 50i				
AJ-HPD400, A	1080/59.94i				
AJ-HDX400E	1080/50i				
	1080/25p over 50i				
AG-HPX555 AG-HPX175 AG-HPX305 AG-HPX375 AJ-HPX2100 AJ-HPX3000*1 AJ-HPX2700 AJ-HPX3700*1	720/**p 1080/**i				

*1記録フォーマットは1080/**iのみとなります。

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
160	REPEAT PLAY	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	再生のときに、リピート再生を行うかどうかを設定します。 0: リピート再生しない。最終クリップで再生を停止する。 1: リピート再生する。最終クリップを再生後に先頭のクリップから再生を続ける。 NOTE: ・PLAY LISTボタン点灯時およびTEXT MEMOの再生時は、リピート再生を行いません。 ・リピート再生中にP2カードを抜くと、存在しなくなったクリップの再生に到達した時点で再生を中止します。 ・リピート再生中にP2カードを挿入しても、再生を停止して再度リピート再生を実施するまで、追加されたクリップは再生されません。 ・セットアップメニューNo.27(VDCP CMD)がONの場合は、常にOFFになります。
165	CLIPSEL MODE	<u>0000</u> 0001	<u>TOP</u> THUMB	59.94Hz 50Hz のみ クリップセレクトで表示されるクリップ位置を選択します。 0: クリップセレクト時にクリップの先頭を基準に設定する 1: クリップセレクト時にクリップのサムネール位置を基準に設定する
170	AVCHD REC	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	59.94Hz 50Hz のみ 記録時にP2カードへの記録と同時に、SDメモリーカードへAVCHD記録を行うかどうかを選択します。 0: AVCHD記録しない 1: P2カードへの記録と同時に、あるいはAVCHDモード時に、SDメモリーカードへAVCHD記録を行う NOTE: ・AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)装着時のみ表示されます。 ・セットアップメニューNo.020(SYS FORMAT)が480i、576iに設定されている場合は、AVCHD記録はできません。 480i、576i入力信号をAVCHD記録する場合は、アップコンバート記録を行ってください。 ・音声はCH1、CH2のみが記録されます。記録するCHはセットアップメニューNo.774(AVCHD A CH)にて選択できます。 ・記録開始および終了点はP2カードへ記録されたクリップと一致しない場合があります。 ・セットアップメニューNo.041(LOOP REC)がONに設定されている場合は、AVCHD記録はできません。

INTERFACE

コントローラーに返すID情報の設定を行います。

「設定値」のXXは初期値を表す。

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
202	ID SEL	0000 <u>0001</u> 0002	OTHER <u>DVCPRO</u> ORIG	コントローラーに返すID情報を設定します。 0: OTHER 1: DVCPRO 2: ORIG NOTE: ・「OTHER」にはDVCPRO以外のVTRのID情報を設定しています。 ・「ORIG」は特定のパナソニック製のコントローラー(AJ-A850など、別売品)との接続時のみ設定してください。
213	EXTEND CMD	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	REMOTE端子のコマンドを、クリップセレクト機能、LAN、USB切り替え機能に対応したコマンド拡張をするかを設定します。 0: 拡張しない 1: 拡張する

EDIT

キューアップ動作後の本機のモード設定を行います。

「設定値」のXXは初期値を表す。

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
315	AFTER CUE-UP	0000 <u>0001</u> 0002	STOP <u>STILL</u> STILL2	キューアップ動作後の本機のモードを選択します。 0: STOPモードになる 1: 静止画(SHTL +0.0)モードになる 2: 静止画(VAR +0.0)モードになる

TIME CODE

タイムコードの設定を行います。

「設定値」のXXは初期値を表す。

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
500	VITC BLANK	0000 <u>0001</u>	BLANK <u>THRU</u>	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz のみ 再生時、セットアップメニューNo.501(VITC POS-1)とNo.502(VITC POS-2)で指定した位置にVITC信号を出力するかどうかを設定します。 0: 出力しない 1: 出力する NOTE: ・この設定は、アナログコンポジット出力およびSD SDI出力にのみ有効です。 ・EE時は、入力信号に多重されたVITC信号がそのまま出力されます。
501	VITC POS-1	59.94 Hz, 29.97 Hz 設定時		59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz のみ VITC信号の挿入位置を設定します。 NOTE: ・セットアップメニューNo.502(VITC POS-2)と同じラインは選択できません。 ・セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)で23.98、24、59-23、60-24、60-25が選択されているときは、VITC信号を出力しません。 ・セットアップメニューNo.692(UMID POS)と同じラインは選択できません。 ・この設定は、アナログコンポジット出力およびSD SDI出力にのみ有効です。 ・SEARCHボタンを押しながらRESETボタンを押しても、工場出荷設定に戻りません。
		0000 <u>0006</u> 0010	10L <u>16L</u> 20L	
		50 Hz, 25 Hz設定時		
		0000 <u>0004</u> 0015	7L <u>11L</u> 22L	

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
502	VITC POS-2	59.94 Hz, 29.97 Hz 設定時		59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz のみ VITC信号の挿入位置を設定します。 NOTE: ・セットアップメニューNo.501(VITC POS-1)と同じラインは選択できません。 ・セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)で23.98、24、59-23、60-24、60-25が選択されているときは、VITC信号を出力しません。 ・セットアップメニューNo.692(UMID POS)と同じラインは選択できません。 ・本設定は、アナログコンポジット出力およびSD SDI出力にのみ有効です。 ・SEARCHボタンを押しながらRESETボタンを押しても、工場出荷設定に戻りません。
		0000 0008 0010	10L 18L 20L	
		50 Hz, 25 Hz 設定時		
		0000 0006 0015	7L 13L 22L	
504	RUN MODE	0000 0001	REC FREE	内蔵タイムコードジェネレーターが歩進する動作モードを設定します。 0: 記録中のみ歩進 1: 電源がONの間、動作モードに関係なく歩進 NOTE: セットアップメニューNo.040(VFR REC)がONに設定されている場合は、FREEが選択されていても記録中のみ歩進します。
505	TCG REGEN	0000 0001 0002	TC&UB TC UB	TCG(タイムコードジェネレーター)がリジェネモードのとき、リジェネする信号を設定します。 0: タイムコード、ユーザーズビット共にリジェネ 1: タイムコードのみリジェネ 2: ユーザーズビットのみリジェネ
507	EXT TC SEL	0000 0001 0002	EXT_L SLTC SVITC	59.94Hz 50Hz 23.98Hz 24Hz 29.97Hz 25Hz のみ 外部タイムコードを用いるときに使用するタイムコードを設定します。 0: TIME CODE IN端子のLTC 1: HD SDI INに入力されたシリアル信号に付加されているLTC情報 2: HD SDI INに入力されたシリアル信号に付加されているVITC情報 NOTE: SLTC、SVITC設定時、入力信号としてアナログコンポジットまたはSD SDIが選択されているときは、入力ビデオ信号のVITCを使用します。
508	BINARY GP	0000 0001 0002 0003 0004 0005 0006 0007	000 001 010 011 100 101 110 111	TCGで発生するタイムコードのユーザーズビットの使用状態を設定します。 0: NOT SPECIFIED(キャラクターセットを指定しない) 1: ISO CHARACTER(ISO646、ISO2022に準拠した8 bitキャラクターセット) 2: UNASSIGNED1(未定義) 3: UNASSIGNED2(未定義) 4: UNASSIGNED3(未定義) 5: PAGE / LINE 6: UNASSIGNED4(未定義) 7: UNASSIGNED5(未定義)
509	PHASE CORR	0000 0001	OFF ON	59.94Hz 50Hz 23.98Hz 24Hz 29.97Hz 25Hz のみ TIME CODE OUT端子から出力されるLTC出力の位相補正コントロールを行うかどうかを設定します。 0: 位相補正コントロールは行わない 1: 位相補正コントロールを行う
510	TCG CF FLAG	0000 0001	OFF ON	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz 60-25Hz のみ TCGのCFフラグを設定します。 0: OFFにする 1: ONにする

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
511	DF MODE	<u>0000</u> 0001	<u>DF</u> NDF	59.94Hz 29.97Hz のみ CTLおよびTCGのDF/NDFモードを設定します。 0: ドロップフレームモードを使用 1: ノンドロップフレームモードを使用
512	TC OUT REF	<u>0000</u> 0001	<u>VOUT</u> TC_IN	59.94Hz 50Hz 23.98Hz 24Hz 29.97Hz 25Hz のみ TC INT / EXTスイッチが「EXT」のとき、外部LTC入力に対してTIME CODE OUT端子から出力されるタイムコードの位相の切り替え方を設定します (EEモード時のみ)。 0: 出力映像に合わせる 1: 外部タイムコード入力に合わせる
513	VITC OUT	<u>0000</u> 0001	<u>SBC</u> VAUX	SD出力ビデオ信号に重畳するVITCの出力方法を設定します。 0: SBC領域に記録されているタイムコードをVITCとして出力 1: VAUX領域に記録されているタイムコードをVITCとして出力 NOTE: 入力ビデオ信号より検出されたVITC情報は、映像が記録されるときに自動的にVAUX領域に記録されます。
514	HD EMBD VITC	0000 <u>0001</u>	OFF <u>ON</u>	HD SDI出力にVITC情報を重畳するかしないかを設定します。 0: 重畳しない 1: 重畳する
515	HD EMBD LTC	0000 <u>0001</u>	OFF <u>ON</u>	HD SDI出力にLTC情報を重畳するかしないかを設定します。 0: 重畳しない 1: 重畳する
518	VITC GEN	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	59.94Hz 50Hz のみ 内部タイムコードジェネレーターの値を、VAUX領域へ記録するかどうかを設定します。 0: 内部タイムコードジェネレーター値を記録しない 入力ビデオ信号にタイムコードが重畳されているときは、その値を記録する 1: 内部タイムコードジェネレーター値を記録する NOTE: セットアップメニューNo.25 (SYSTEM FREQ) で23.98、24、29.97、59-23、60-24、25、60-25が選択されているときは、VAUX領域のタイムコードは内部タイムコードジェネレーター値が記録され、ユーザズビットはフレームレート情報が記録されます。
519	UB OUT SEL	0000 <u>0001</u>	SBC <u>F_RATE</u>	59.94Hz 50Hz のみ フォーマットが720 / 24PN、720 / 30PN、720 / 25PNのクリップ、およびAVC-Intraの1080 / 24PN、30PN、25PNのクリップを再生するときに、TIME CODE OUT端子およびHD SDI端子から出力されるLTC情報上のユーザズビットを選択します。 0: SBC領域に記録されたユーザズビットをそのまま出力 1: VAUX領域に記録されたユーザズビットをフレームレート情報として出力

用語説明

SBC (Sub Code Data) 領域:	P2カード上の映像および音声データ領域とは別に存在する領域で、SMPTE / EBUに準拠したタイムコード、記録日時などの情報が格納されます。
VAUX (Video Auxiliary Data) 領域:	P2カード上の映像データ内に存在する領域で、映像データに関連する付加情報が格納されます。

VIDEO

ビデオに関する設定を行います。

「設定値」のXXは初期値を表す。

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
601	VIDEO INT SG	<u>0000</u> 0001 0002 0003 0004	<u>100%CB</u> 75%CB SMPTE ARIB BLACK	内蔵信号の種類を設定します。SMPTE、ARIB信号は、HDモードのみ有効(SDモード時はブラック)です。 0: 100 %カラーバー 1: 75 %カラーバー 2: SMPTEカラーバー 3: ARIBカラーバー 4: ブラック
602	SDI IN MODE	<u>0000</u> 0001	<u>DR_OFF</u> DR_ON	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 59-23Hz 60-24Hz 25Hz 60-25Hz のみ HD SDI入力の処理方法を設定します。(DVCPRO HDモードのみ有効) 0: 下位2ビットを四捨五入した上位8ビットを記録 1: ダイナミックラウンディングをかけた上位8ビット信号を記録 NOTE: SD SDI入力のときは、常に下位2ビットを四捨五入した上位8ビット信号が記録されます。
620	DOWNCON MODE	<u>0000</u> 0001 0002	<u>CROP</u> LT-BOX SQUEEZ	59.94Hz 50Hz 23.98Hz 29.97Hz 59-23Hz 25Hz 60-25Hz のみ ダウンコンバーター出力時のアスペクト比を選択します。 0: 垂直軸にそって入力サイズを出力サイズに合わせて倍率を変更(アスペクト比は維持) 1: 水平軸にそって入力サイズを出力サイズに合わせて倍率を変更(アスペクト比は維持) 2: 水平と垂直軸にそって入力サイズを出力サイズに合わせて倍率を変更(アスペクト比は歪むおそれがあります)
621	UPCONV MODE	<u>0000</u> 0001 0002	<u>S-PANL</u> CROP STRECH	59.94Hz 50Hz 23.98Hz 29.97Hz 59-23Hz 25Hz 60-25Hz のみ アップコンバーター出力時のアスペクト比を選択します。 0: 垂直軸にそって入力サイズを出力サイズに合わせて倍率を変更(アスペクト比は維持) 1: 水平軸にそって入力サイズを出力サイズに合わせて倍率を変更(アスペクト比は維持) 2: 水平と垂直軸にそって入力サイズを出力サイズに合わせて倍率を変更(アスペクト比は歪むおそれがあります)
626	D / C ENH H	0000 <u>0001</u>	0dB <u>+1dB</u>	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz 60-25Hz のみ ダウンコンバート時の水平方向の輪郭を強調するかどうかを設定します。 0: 0 dB 1: +1 dB
627	D / C ENH V	0000 <u>0001</u>	0dB <u>+1dB</u>	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz 60-25Hz のみ ダウンコンバート時の垂直方向の輪郭を強調するかどうかを設定します。 0: 0 dB 1: +1 dB
638	IN U/C MODE	<u>0000</u> 0001 0002	<u>S-PANL</u> CROP STRECH	59.94Hz 50Hz のみ アップコンバート記録時の画角を選択します。 0: サイドパネルモード 1: 垂直方向の上部と下部のカット 2: ストレッチモード

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
643	OUT MODE SEL	59.94 Hz, 29.97 Hz 設定時		59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz 60-25Hz のみ ビデオ出力端子から出力される映像信号を設定します。 0: 現在の記録、再生フォーマットに従って自動的に出力を切り替える 1: 1080 / 59.94iまたは1080 / 50i 2: 720 / 59.94Pまたは720 / 50P 3: 480 / 59.94iまたは576 / 50i NOTE: AUTO以外を選択したとき、記録・再生フォーマットと異なる信号は自動的に変換して出力されます。また、アップコンバート記録時は、セットアップメニューNo.020(SYS FORMAT)の設定と異なるHD信号には変換できません。
		<u>0000</u>	<u>AUTO</u>	
		0001	1080i	
		0002	720p	
		50 Hz, 25 Hz, 60-25 Hz設定時		
		<u>0000</u>	<u>AUTO</u>	
		0001	1080i	
		0002	720p	
		0003	480i	
		0003	576i	
645	WIDE SELECT	0001 <u>0002</u>	WIDE <u>NORMAL</u>	59.94Hz 50Hz のみ セットアップメニューNo.020(SYS FORMAT)が480iまたは576i設定時、WIDE情報を記録するかどうかを設定します。 1: 記録する 2: 記録しない
650	STYLE	0000 <u>0001</u>	CMPNT <u>CMPST</u>	レベル調整モードを設定します。 0: コンポーネントスタイルのレベル調整モード 1: コンポジットスタイルのレベル調整モード
651	HUE STYLE(SD)	0000 <u>0001</u>	Pb-Pr <u>U-V</u>	59.94Hz 23.98Hz 24Hz 29.97Hz 59-23Hz 60-24Hz のみ クロマ位相調整の回転軸を設定します。 0: SDI(コンポーネントスタイル)のベクトルスコープ上で正円に回転 1: アナログ(コンポジットスタイル)のベクトルスコープ上で正円に回転 NOTE: セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)を50に設定しているときは、表示されません。
653	Y LVL(HD)	0000 <u>1000</u> 1413	0.0% <u>100.0%</u> 141.3%	HD SDI出力のYレベルを調整します(−∞~0 dB~+3 dB)。 NOTE: セットアップメニューNo.650(STYLE)がCMPNTに設定されているときに有効となります。
654	Pb LVL(HD)	0000 <u>1000</u> 1413	0.0% <u>100.0%</u> 141.3%	HD SDI出力のPbレベルを調整します(−∞~0 dB~+3 dB)。 NOTE: セットアップメニューNo.650(STYLE)がCMPNTに設定されているときに有効となります。
655	Pr LVL(HD)	0000 <u>1000</u> 1413	0.0% <u>100.0%</u> 141.3%	HD SDI出力のPrレベルを調整します(−∞~0 dB~+3 dB)。 NOTE: セットアップメニューNo.650(STYLE)がCMPNTに設定されているときに有効となります。
656	BK LVL(HD)	0050 <u>0150</u> 0250	−10.0% <u>0.0%</u> +10.0%	HD SDI出力のブラックレベルを調整します。 NOTE: セットアップメニューNo.650(STYLE)がCMPNTに設定されているときに有効となります。
658	Y LVL(SD)	0000 <u>1000</u> 1413	0.0% <u>100.0%</u> 141.3%	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz 60-25Hz のみ SD SDIおよびアナログコンポジット出力のYレベルを調整します(−∞~0 dB~+3 dB)。 NOTE: セットアップメニューNo.650 (STYLE)がCMPNTに設定されているときに有効となります。

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
659	Pb LVL(SD)	0000 <u>1000</u> 1413	0.0% <u>100.0%</u> 141.3%	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz 60-25Hz のみ SD SDIおよびアナログコンポジット出力のPbレベルを調整します(−∞~0 dB~+3 dB)。 NOTE: セットアップメニューNo.650(STYLE)がCMPNTに設定されているときに有効となります。
660	Pr LVL(SD)	0000 <u>1000</u> 1413	0.0% <u>100.0%</u> 141.3%	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz 60-25Hz のみ SD SDIおよびアナログコンポジット出力のPrレベルを調整します(−∞~0 dB~+3 dB)。 NOTE: セットアップメニューNo.650(STYLE)がCMPNTに設定されているときに有効となります。
661	BK LVL(SD)	0050 <u>0150</u> 0250	−10.0% <u>0.0%</u> +10.0%	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz 60-25Hz のみ SD SDIおよびアナログコンポジット出力のブラックレベルを調整します。 NOTE: セットアップメニューNo.650(STYLE)がCMPNTに設定されているときに有効となります。
662	V LEVEL	0000 <u>1000</u> 2000	0.0% <u>100.0%</u> 200.0%	ビデオ出力レベルを調整します(−∞~0 dB~+6 dB)。 NOTE: ・セットアップメニューNo.650(STYLE)がCMPSTに設定されているときに有効となります。 ・ビデオ出力レベルの調整は、出力系でのみ有効となります。
663	C LEVEL	0000 <u>1000</u> 1413	0.0% <u>100.0%</u> 141.3%	クロマレベルの調整を行います(−∞~0 dB~+3 dB)。 NOTE: ・セットアップメニューNo.650(STYLE)がCMPSTに設定されているときに有効となります。 ・クロマレベルの調整は、出力系でのみ有効となります。
664	HUE/C PHASE	0000 <u>0062</u> 0124	−31.0 <u>0.0</u> 31.0	クロマ位相を調整します(約−30° ~+30°)。 NOTE: ・セットアップメニューNo.650(STYLE)がCMPSTに設定されているときに有効となります。 ・クロマ位相レベルの調整は、出力系でのみ有効となります。
665	SETUP/BK LVL	0050 <u>0150</u> 0250	−10.0% <u>0.0%</u> +10.0%	セットアップレベルの調整を行います。 NOTE: ・セットアップメニューNo.650(STYLE)がCMPSTに設定されているときに有効となります。 ・セットアップレベルの調整は、出力系でのみ有効となります。
676	BLK CLIP	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	59.94Hz 50Hz 23.98Hz 29.97Hz 59-23Hz 25Hz 60-25Hz のみ SD SDIおよびアナログコンポジット出力のY(輝度)信号に対して、ペダスタル以下の信号をクリップするかどうかを設定します。 0: クリップしない 1: クリップする
677	LCD ASPECT	<u>0000</u> 0001 0002 0003	<u>AUTO</u> 4:3 16:9 15:9	液晶モニターに表示する映像のアスペクト比を設定します。 0: 自動的にアスペクト比を切り替える 1: 480iまたは576iの映像をアスペクト比4:3で表示(1080iまたは720pの映像はアスペクト比16:9で表示) 2: アスペクト比16:9で表示 3: アスペクト比15:9で表示 NOTE: ・本機の液晶モニターサイズは15:9であるため、AUTOまたは16:9設定時には上下に黒みが表示されます。 ・AUTO設定時、アスペクトの切り替わり目などで液晶モニター画面が乱れる場合があります。 AUTO以外に設定することで乱れを軽減できます。

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
680	CC (F1) BLANK	0000 <u>0001</u>	BLANK <u>THRU</u>	<p>59.94Hz のみ</p> <p>再生時のSD SDIおよびアナログコンポジット出力から出力される第1フィールドのクローズドキャプション信号のON / OFFを設定します。</p> <p>0: 強制ブランキングする 1: ブランキングしない</p> <p>NOTE: EE時は入力信号に多重されたクローズドキャプションがそのまま出力されます。</p>
681	CC (F2) BLANK	0000 <u>0001</u>	BLANK <u>THRU</u>	<p>59.94Hz のみ</p> <p>再生時のSD SDIおよびアナログコンポジット出力から出力される第2フィールドのクローズドキャプション信号のON / OFFを設定します。</p> <p>0: 強制ブランキングする 1: ブランキングしない</p> <p>NOTE: EE時は入力信号に多重されたクローズドキャプションがそのまま出力されます。</p>
684	EDH(SD)	0000 <u>0001</u>	OFF <u>ON</u>	<p>59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz 60-25Hz のみ</p> <p>SDI OUTにEDHを重畳するかどうかを設定します。</p> <p>0: 重畳しない 1: 重畳する</p>
685	ESR MODE(SD)	0000 <u>0001</u>	OFF <u>AUTO</u>	<p>59.94Hz 29.97Hz のみ</p> <p>再生回路におけるエッジサブキャリアリダクション(ESR)の動作モードを設定します。</p> <p>0: 強制的にOFFにする 1: 動作モードに応じて自動的にON / OFFを行う</p>
688	CC REC	0000 <u>0001</u>	OFF <u>ON</u>	<p>59.94Hz のみ</p> <p>SD SDIおよびアナログコンポジット入力信号に多重されたクローズドキャプション信号を記録するかどうかを設定します。</p> <p>0: 記録しない EE出力もブランキングされる 1: 入力信号にクローズドキャプション信号が多重されているときに記録する</p>
689	COMP MODE	<u>0000</u> 0001	<u>NORMAL</u> DARK	<p>59.94Hz 50Hz 29.97Hz 59-23Hz 60-24Hz 25Hz 60-25Hz のみ</p> <p>記録時に行う映像の圧縮処理方法を選択します。</p> <p>0: 通常の圧縮処理で記録 1: 約10 IRE(70 mV)以下の暗い部分に発生する圧縮映像ひずみを少なくして記録</p> <p>NOTE 本設定は、DVCPRO HD720pモードで記録する場合に有効になります。</p>
690	UMID REC	0000 <u>0001</u>	OFF <u>ON</u>	<p>UMID情報を記録するかどうかを設定します。</p> <p>0: 記録しない 1: 記録する</p>
691	UMID GEN	0000 <u>0001</u>	INT <u>EXT</u>	<p>セットメニューNo.690(UMID REC)がON設定時、記録するUMID情報の生成方法を設定します。</p> <p>0: 常に新規生成したUMID情報を記録する 1: 入力信号に多重されたUMID情報を記録する 入力信号に多重されていないときは、新規生成したUMID情報を記録する</p>
692	UMID POS	0000 0001 <u>0006</u> 0008	BLANK 12L <u>17L</u> 19L	<p>UMID情報を多重するラインを設定します。</p> <p>NOTE:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セットアップメニューNo.501(VITC POS-1)、No.502(VITC POS-2)と同じラインは選択できません。 ・SEARCHボタンを押しながらRESETボタンを押しても、工場出荷設定に戻りません。 ・記録されたVANCデータに対しては、UMID情報は優先して出力されます。VANCデータを出力するときは、UMID POSを元の多重していたライン以外に設定するか、“BLANK”を選択してください。 ・DVCPRO HDのネイティブクリップの再生時は、UMIDIはNO-INFOとなります。

AUDIO

音声に関する設定を行います。

「設定値」のXXは初期値を表す。

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
701	CH1 IN LV	<u>0000</u> 0001 0002 0003	<u>4dB</u> 0dB -3dB -20dB	オーディオ入力(CH1)の基準レベルを設定します。
702	CH2 IN LV	<u>0000</u> 0001 0002 0003	<u>4dB</u> 0dB -3dB -20dB	オーディオ入力(CH2)の基準レベルを設定します。
706	CH1 OUT LV	<u>0000</u> 0001 0002 0003	<u>4dB</u> 0dB -3dB -20dB	オーディオ出力(CH1)の基準レベルを設定します。
707	CH2 OUT LV	<u>0000</u> 0001 0002 0003	<u>4dB</u> 0dB -3dB -20dB	オーディオ出力(CH2)の基準レベルを設定します。
710	MONIL OUT LV	<u>0000</u> 0001 0002 0003	<u>4dB</u> 0dB -3dB -20dB	オーディオモニター出力(Lch)の基準レベルを切り替えます。
711	MONIR OUT LV	<u>0000</u> 0001 0002 0003	<u>4dB</u> 0dB -3dB -20dB	オーディオモニター出力(Rch)の基準レベルを切り替えます。
712	MONI OUT	0000 <u>0001</u>	UNITY <u>VAR</u>	オーディオモニター出力の音量を、ヘッドホン用の音量調整つまみに連動させるか連動させないかを選択します。 0: 音量つまみの位置に関係なく、固定されたレベルで出力する 1: 音量つまみに連動させる
725	REC CH1	<u>0000</u> 0001 0002 0003 0004 0005	<u>CH1</u> CH2 CH3 CH4 CH1+2 CH3+4	オーディオのCH1に記録する入力を設定します。 0: オーディオ入力のCH1 1: オーディオ入力のCH2 2: オーディオ入力のCH3 3: オーディオ入力のCH4 4: オーディオ入力のCH1とCH2のミックス信号 5: オーディオ入力のCH3とCH4のミックス信号
726	REC CH2	0000 <u>0001</u> 0002 0003 0004 0005	CH1 <u>CH2</u> CH3 CH4 CH1+2 CH3+4	オーディオのCH2に記録する入力を設定します。 0: オーディオ入力のCH1 1: オーディオ入力のCH2 2: オーディオ入力のCH3 3: オーディオ入力のCH4 4: オーディオ入力のCH1とCH2のミックス信号 5: オーディオ入力のCH3とCH4のミックス信号
727	REC CH3	0000 0001 <u>0002</u> 0003 0004 0005	CH1 CH2 <u>CH3</u> CH4 CH1+2 CH3+4	オーディオのCH3に記録する入力を設定します。 0: オーディオ入力のCH1 1: オーディオ入力のCH2 2: オーディオ入力のCH3 3: オーディオ入力のCH4 4: オーディオ入力のCH1とCH2のミックス信号 5: オーディオ入力のCH3とCH4のミックス信号

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
728	REC CH4	0000 0001 0002 <u>0003</u> 0004 0005	CH1 CH2 CH3 <u>CH4</u> CH1+2 CH3+4	オーディオのCH4に記録する入力を設定します。 0: オーディオ入力のCH1 1: オーディオ入力のCH2 2: オーディオ入力のCH3 3: オーディオ入力のCH4 4: オーディオ入力のCH1とCH2のミックス信号 5: オーディオ入力のCH3とCH4のミックス信号
731	PB FADE	<u>0000</u> 0001	<u>AUTO</u> CUT	再生時に、クリップとクリップの間、プレイリストおよびエディットコピーで作成したクリップの編集点で行うオーディオ処理を設定します。 0: 記録時の状態に従う(→「音声Vフェード機能」(200ページ)を参照。) 1: 強制カット NOTE: AVCHD再生時(オプション)は無効です。
732	EMBEDDED AUD	0000 <u>0001</u>	OFF <u>ON</u>	HD SDI出力とSD SDI出力にオーディオデータを重畳するかどうかを設定します。 0: 重畳しない 1: 重畳する
750	A CH1/2 SEL	<u>0000</u> 0001 0002 0003	<u>CH1&2</u> CH3&4 CH5&6 CH7&8	アナログオーディオ出力端子CH1/CH2に出力する信号のチャンネルを選択します。 0: CH1/CH2 1: CH3/CH4 2: CH5/CH6 3: CH7/CH8
762	AUD RATE CONV	0000 <u>0001</u>	OFF <u>ON</u>	59.94Hz 50Hz 23.98Hz 29.97Hz 59-23Hz 25Hz 60-25Hz のみ デジタルオーディオ入出力時のレートコンバータを通さずに(デジタルフィルターをかけない)記録・再生を行うことができます。 0: レートコンバータを通さずに記録・再生します。 1: レートコンバータを通して記録・再生します。 NOTE: ・記録と再生のCH1~CH8が同時にON/OFF制御されます。各CH毎の設定はできません。 ・レートコンバータOFF時は、ビデオ入力とデジタルオーディオ入力が同期している必要があります。また、ビデオ入力とOUT REFで選択されたリファレンス信号も同期している必要があります。(非同期的場合、ノイズが出ることがあります)
767	METER SELECT	<u>0000</u> 0001	<u>CH1-4</u> CH5-8	オーディオレベルメーターで表示するチャンネルを切り替えます。 0: CH1-4 1: CH5-8
774	AVCHD A CH	<u>0000</u> 0001 0002 0003 0004 0005	<u>CH1&2</u> CH3&4 CH5&6 CH7&8 12&34 13&24	59.94Hz 50Hz のみ P2カードからAVCHDへのダビング時やSDメモリーカードへのAVCHD記録時(セットアップメニューNo.170(AVCHD REC)がONのとき)の記録音声を設定します。 0: REC CH1、REC CH2で選択された音声をCH1、2として記録 1: REC CH3、REC CH4で選択された音声をCH1、2として記録 2: CH5、6の音声をCH1、2として記録 3: CH7、8の音声をCH1、2として記録 4: REC CH1、REC CH2で選択された音声をMIXしてCH1として、REC CH3、REC CH4で選択された音声をMIXしてCH2として記録 5: REC CH1、REC CH3で選択された音声をMIXしてCH1として、REC CH2、REC CH4で選択された音声をMIXしてCH2として記録 NOTE: AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)装着時のみ表示されます。

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
775	25M REC CH	<u>0000</u> 0001	<u>2CH</u> 4CH	59.94Hz 50Hz のみ DVCPRO(25 Mbps)またはDV(25 Mbps)を記録する場合のオーディオのチャンネル数を設定します。 0: 2チャンネル記録する 1: 4チャンネル記録する NOTE: DVCPRO HD、AVC-Intra50、AVC-Intra100では常に8チャンネルを、DVCPRO50では常に4チャンネルを記録します。
776	REF LEVEL	<u>0000</u> 0001 0002	<u>FS-20</u> FS-18 FS-12	基準レベルを設定します。 0: -20 dB 1: -18 dB 2: -12 dB
778	AUD OUT DLY	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	23.98Hz 24Hz 59-23Hz 60-24Hz のみ アナログオーディオ出力、ヘッドホン出力、モニター出力、AES/EBU出力の出力タイミングをSDI出力に合わせて遅延させるかどうかを設定します。 0: 遅延しない 出力は液晶モニター、VIDEO OUTにタイミングを合わせます。 1: 遅延する 出力はSDIにタイミングを合わせます。 NOTE: SDIに対して、液晶モニター、VIDEO OUTは約66 msec早く出力されます。
782	EMBD CH SEL	<u>0000</u> 0001 0002	<u>CH1-4</u> CH5-8 CH1-8	59.94Hz 50Hz 29.97Hz 25Hz 60-25Hz のみ SD SDI出力に多重するチャンネルを設定します。 0: CH1-4の4チャンネルを出力 1: CH5-8の4チャンネルを出力 2: CH1-8のチャンネルを出力 NOTE: ・ DVCPRO、DVCPRO50を再生した場合は常にCH1-4の4チャンネルが多重されます。 ・ 受信する機器によっては8チャンネル受信できない場合があります。CH1-8を設定する場合は受信機器の仕様を確認のうえで使用ください。 ・ 24 Hzおよび60-24 Hzの場合は不正規な信号が出力されます。
785	PB MIX	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	アナログ、SDIオーディオ出力の出力音声のMIXを設定します。 NOTE: STOPまたはSETボタンを押すとサブ画面に移行して、各チャンネルの出力音声にミックスするチャンネルを設定できます。サブ画面から戻るには、再度STOPまたはSETボタンを押します。
サブ画面				
01	PB CH1	<u>000</u> 001 002 003 004 005 006 007	<u>CH1</u> CH1+2 CH1+3 CH1+4 CH123 CH124 CH134 CH1234	CH1に出力する再生チャンネルを設定します。 0: CH1の音声出力 1: CH1とCH2の音声出力 2: CH1とCH3の音声出力 3: CH1とCH4の音声出力 4: CH1、CH2とCH3の音声出力 5: CH1、CH2とCH4の音声出力 6: CH1、CH3とCH4の音声出力 7: CH1、CH2、CH3とCH4の音声出力
02	PB CH2	<u>000</u> 001 002 003 004 005 006 007	<u>CH2</u> CH1+2 CH2+4 CH2+3 CH123 CH124 CH234 CH1234	CH2に出力する再生チャンネルを設定します。 0: CH2の音声出力 1: CH1とCH2の音声出力 2: CH2とCH4の音声出力 3: CH2とCH3の音声出力 4: CH1、CH2とCH3の音声出力 5: CH1、CH2とCH4の音声出力 6: CH2、CH3とCH4の音声出力 7: CH1、CH2、CH3とCH4の音声出力

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
03	PB CH3	<u>000</u> 001 002 003 004 005 006 007	<u>CH3</u> CH3+4 CH1+3 CH2+3 CH123 CH134 CH234 CH1234	CH3に出力する再生チャンネルを設定します。 0: CH3の音声出力 1: CH3とCH4の音声出力 2: CH1とCH3の音声出力 3: CH2とCH3の音声出力 4: CH1、CH2とCH3の音声出力 5: CH1、CH3とCH4の音声出力 6: CH2、CH3とCH4の音声出力 7: CH1、CH2、CH3とCH4の音声出力
04	PB CH4	<u>000</u> 001 002 003 004 005 006 007	<u>CH4</u> CH3+4 CH2+4 CH1+4 CH124 CH134 CH234 CH1234	CH4に出力する再生チャンネルを設定します。 0: CH4の音声出力 1: CH3とCH4の音声出力 2: CH2とCH4の音声出力 3: CH1とCH4の音声出力 4: CH1、CH2とCH4の音声出力 5: CH1、CH3とCH4の音声出力 6: CH2、CH3とCH4の音声出力 7: CH1、CH2、CH3とCH4の音声出力
790	VOL SEL	<u>0000</u> 0001	<u>CH1-4</u> CH1-8	記録レベルボリュームの動作を設定します。 0: CH1~4のみ可変とし、CH5~8はUNITYレベルとする 1: CH1~4の可変に加えて、CH1~4のボリュームに連動してCH5~8も可変とする
793	A DUB PB MIX	<u>0000</u> 0001	<u>OFF</u> ON	59.94Hz 50Hz 23.98Hz 29.97Hz 59-23Hz 25Hz 60-25Hz のみ オーディオ追加記録をするときに、再生音をミックスするかどうかを設定します。 0: ミックスしない 1: 入力と再生音をミックスして記録する NOTE: STOPまたはSETボタンを押すと、サブ画面に移行してミックスするチャンネルを選択できます。サブ画面から戻るには、再度STOPまたはSETボタンを押します。
サブ画面				
01	CH1 MIX	<u>0000</u> 0001 0002 0003	<u>CH1</u> CH2 CH3 CH4	CH1にミックス記録する再生チャンネルを設定します。
02	CH2 MIX	0000 <u>0001</u> 0002 0003	CH1 <u>CH2</u> CH3 CH4	CH2にミックス記録する再生チャンネルを設定します。
03	CH3 MIX	0000 0001 <u>0002</u> 0003	CH1 CH2 <u>CH3</u> CH4	CH3にミックス記録する再生チャンネルを設定します。
04	CH4 MIX	0000 0001 0002 <u>0003</u>	CH1 CH2 CH3 <u>CH4</u>	CH4にミックス記録する再生チャンネルを設定します。
797	A DUB MONI	0000 <u>0001</u>	OFF <u>ON</u>	59.94Hz 50Hz 23.98Hz 29.97Hz 59-23Hz 25Hz 60-25Hz のみ オーディオ追加記録実行中の記録音を出力するかどうかを選択します。 0: 出力しない 1: 出力する

LCD

液晶モニターに関する設定を行います。

「設定値」のXXは初期値を表す。

項目		設定値		設定内容および概略機能説明
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.	
900	LCD PROTECT	0000 <u>0001</u>	OFF <u>ON</u>	液晶保護モードを設定します。 OFF:保護モードに入らない ON:保護モードに入る NOTE: ・フロントパネルの操作をまったくしない場合、あるいは映像が更新されない状態が続いた場合に、約5分後液晶の出力をOFFにします。 ・保護モードを解除するには、フロントパネルからのボタン、ダイヤル操作をするか、コントローラーからの再生指示をしてください。なお保護モードを解除するために行った操作はそのまま継続されます。
905	BRIGHT	0000 <u>0007</u> 0014	-7 <u>0</u> 7	液晶の明るさを調整します。
910	CONTRAST	0000 <u>0030</u> 0060	-30 <u>0</u> 30	液晶のコントラストを調整します。 NOTE: この設定値とR、G、Bのコントラストの設定値(セットアップメニューNo.911(R CONTRAST)、No.912(G CONTRAST)、No.913(B CONTRAST))をかけた値がR・G・Bのコントラスト調整値となります。
911	R CONTRAST	0000 <u>0030</u> 0060	-30 <u>0</u> 30	液晶のR(Red)のコントラストの調整を行います。 NOTE: この設定値とセットアップメニューNo.910(CONTRAST)の設定値をかけた値が調整値となります。
912	G CONTRAST	0000 <u>0030</u> 0060	-30 <u>0</u> 30	液晶のG(Green)のコントラストの調整を行います。 NOTE: この設定値とセットアップメニューNo.910(CONTRAST)の設定値をかけた値が調整値となります。
913	B CONTRAST	0000 <u>0030</u> 0060	-30 <u>0</u> 30	液晶のB(Blue)のコントラストの調整を行います。 NOTE: この設定値とセットアップメニューNo.910(CONTRAST)の設定値をかけた値が調整値となります。

MENU

メニューに関する設定を行います。

「設定値」のXXは初期値を表す。

項目		設定値		設定内容および概略機能説明	備考
FR No.	SUPER DISP.	FR No.	SUPER DISP.		
A00	LOAD	0000 0001 0002 0003	USER2 USER3 USER4 USER5	USER1へロードするユーザーファイルを設定します。 0: USER2の内容をロード 1: USER3の内容をロード 2: USER4の内容をロード 3: USER5の内容をロード NOTE: ロード操作を行った後、MENUボタンを押すと確認画面が表示されます。SETボタンを押すと設定値が記憶されます。EXITボタンを押すと設定値は変更されません。	USER1のみ設定可能。
A01	SAVE	0000 0001 0002 0003 0004	USER2 USER3 USER4 USER5 LOCKED	USER1の設定をセーブするユーザーファイルを設定します。 0: USER2へセーブ 1: USER3へセーブ 2: USER4へセーブ 3: USER5へセーブ 4: すべてのユーザーファイルが変更禁止状態の場合に表示します。 NOTE: ・変更禁止に設定されているユーザーファイルは選択できません。 ・すべてのユーザーファイルが変更禁止状態の場合、「LOCKED」表示となりセーブ操作はできません。	USER1のみ設定可能。
A02	P.ON LOAD	0000 0001 0002 0003 0004	OFF USER2 USER3 USER4 USER5	電源を入れたときに、どのユーザーファイルの内容をUSER1へロードし、USER1の設定で起動するのかが設定します。 0: 前回設定したユーザーファイルで起動 1: USER2の内容をUSER1へロードし起動 2: USER3の内容をUSER1へロードし起動 3: USER4の内容をUSER1へロードし起動 4: USER5の内容をUSER1へロードし起動	USER1のみ設定可能。
A03	MENU LOCK	0000 0001	OFF ON	ユーザーファイル(USER2~USER5)のロックモードの設定/解除を行います。 0: ロック解除(変更可能) 1: ロック設定(変更禁止) NOTE: ・USER1のロック設定はできません。 ・ロックされている場合でもSDメモリーカードからの設定の読み込みを行うことができます。読み込み後のロックの状態は読み込んだ設定に従います。	USER2~5のみ設定可能。
A04	PF1 ASSIGN			PF1ボタンにセットアップメニューの項目を登録します。	
A05	PF2 ASSIGN			PF2ボタンにセットアップメニューの項目を登録します。	
A06	PF3 ASSIGN			PF3ボタンにセットアップメニューの項目を登録します。	
A10	CARD READ			SDメモリーカード上の4つのファイルから、読み込むファイルを指定し、メニューへ読み込みます。 読み込みはSYSTEMを含んだUSER1-5とUSER1-5のみを選択できます。	USER1のみ設定可能。
A11	CARD WRITE			SDメモリーカード上の4つのファイルのうち1つへ、メニューの設定値を書き込みます。 書き込みはSYSTEMを含んだUSER1-5すべてに行います。 ファイルには、タイトルをつけることができ、編集することができます。	USER1のみ設定可能。
A12	CARD FORMAT			SDメモリーカードをフォーマットします。	USER1のみ設定可能。

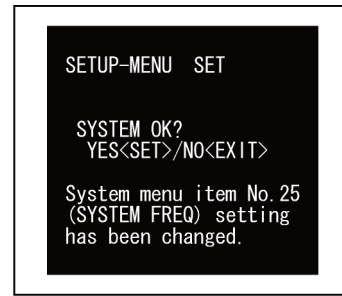
■ システム周波数の切り替え手順

システム周波数を切り替えるには、以下の操作を行います。

1 セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)の設定値を変更する

2 MENUボタンを押す

設定値の変更を有効にするための確認画面が表示されます。



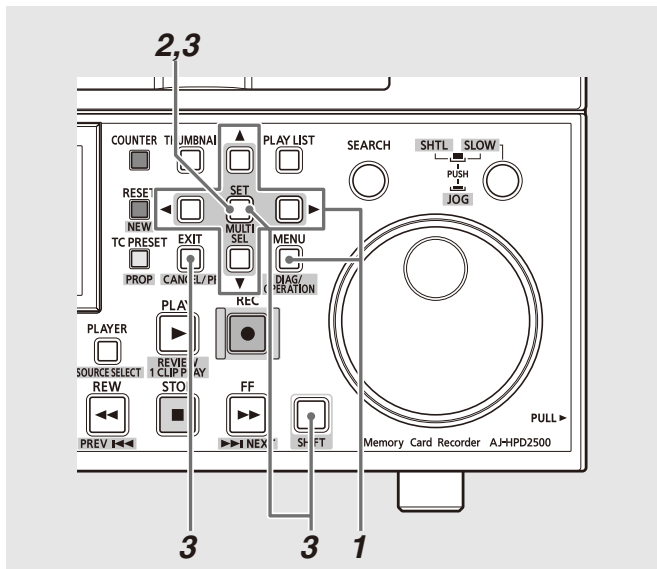
設定値の変更を有効にするには、SETボタンを押します。
設定値の変更を無効にするには、EXITボタンを押します。

3 一度電源を切ったのち、再度電源を入れる

選択した周波数で起動します。

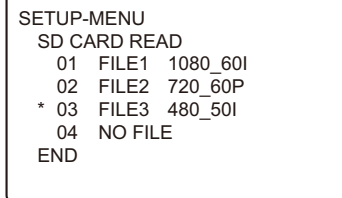
メニューのSDメモリーカードへの保存について

セットアップメニューの設定をSDメモリーカードへ書き出しおよび読み込みをすることができます。メニューファイルは4つまで対応しており、タイトルを入力することもできます。



2 ファイルメニューが表示されるので、読み込みたいファイルを選択し、SETボタンを押す

- 書き込みを行っていないファイルは[NO FILE]と表示されます。
- SDメモリーカードが挿入されていないときは「NO CARD」と表示されます。



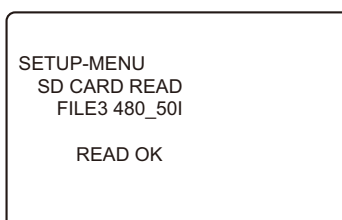
3 読み込みの確認画面が表示されるので、必要な指示のボタンを押す

SETボタン:	SYSTEM設定とUSER1-5の全データの読み込み
MULTI SEL (SHIFT + SET) ボタン:	USER1-5のみのデータの読み込み
EXITボタン:	読み込みを行わず前の画面へ戻る

CARD READ

1 MENUボタンを押し、セットアップメニューのUSER1からA10 CARD READを選択し、SETボタンを押す

4 読み込み中の表示の後、完了メッセージが表示される



CARD WRITE

1 MENUボタンを押し、セットアップメニューの USER1からA11 CARD WRITE を選択し、SETボタンを押す

2 ファイルメニューが表示されるので、書き込みたいファイルを選択し、SETボタンを押す

- 書き込みを行っていないファイルは[NO FILE]と表示されます。
- SDメモリーカードが挿入されていないときは[NO CARD]と表示されます。

3 書き込みの確認画面が表示されるので、書き込む場合はSETボタンを、書き込みをせず前の場面へ戻る場合はEXITボタンを押す

- 書き込み前にタイトルを編集することができます。タイトル位置でカーソルが点滅しているので、文字を入力します。

十字カーソル上下 文字選択
(▲/▼)ボタン:

十字カーソル左右 カーソル位置の移動
(◀/▶)ボタン:

RESETボタン: 文字をすべてクリア

- 書き込み中の表示の後、完了メッセージが表示されます。

```

SETUP-MENU MENU
SD CARD WRITE
FILE4 TITLE4

SYSTEM+USER → FILE4 OK?

YES<SET>/NO<EXIT>

```

FORMAT

1 MENUボタンを押し、セットアップメニューの USER1からA12 CARD FORMATを選択し、SETボタンを押す

2 フォーマットの確認画面が表示される

- 実行する場合はSETボタンを押します。
- フォーマットを行わず前へ戻る場合はEXITボタンを押します。

3 フォーマット中の表示の後、完了メッセージが表示される

- フォーマットにより消去されたデータは復元することができませんので、必ずデータを確認した後に実行してください。

タイムコード／ユーザーズビット／CTLについて

タイムコード

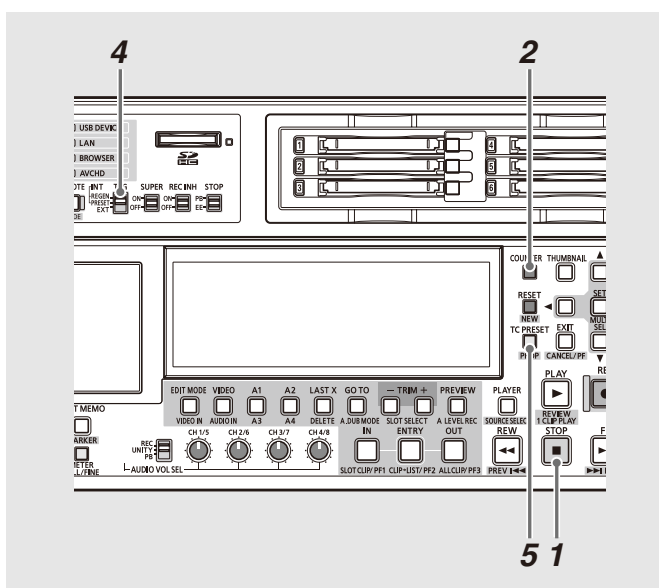
タイムコードは、タイムコードジェネレーターによって発生されるタイムコード信号を記録します。タイムコード値はディスプレイやスーパーインポーズで表示されます。

TCR 00 : 07 : 04 : 24
↑ ↑ ↑ ↑
時 分 秒 フレーム

ユーザーズビット

ユーザーズビットは、タイムコード信号のうちでユーザーに開放された32ビット(8桁)の情報枠のことです。オペレーターナンバーなどを記録することができます。ユーザーズビットに使用できる数字(文字)は0~9とABCDEFです。

内部タイムコードの設定



1 停止モードにする

2 COUNTERボタンで[TC]を選択する

3 セットアップメニューNo.504(RUN MODE)でタイムコードジェネレーターの歩進方法を設定する

REC: 記録中のみ歩進させる。

FREE: 動作モードに関係なく歩進させる。

4 TCGスイッチでプリセットモードを設定する

INT-REGEN: P2カードに記録された最終タイムコードとのタイムコードの連続性を保つ。

INT-PRESET: TC PRESETボタンで設定された値から記録を開始する。

EXT: 外部タイムコード入力に従って記録する。

5 TC PRESETボタンを使ってタイムコード／ユーザーズビットの開始値を設定する

1. TC PRESETボタンを押す

左端の桁が点滅します。

2. 十字カーソル上下(▲/▼)ボタンを押すか、またはSEARCHボタンを押しながらサーチダイヤルを回して値を変更する

3. 十字カーソル左右(◀/▶)ボタンを押すか、またはサーチダイヤルを回して、設定する桁を選択する

選択された桁が点滅します。

設定範囲は次の通りです。

タイムコード:	[59.94 Hz] [29.97 Hz]
	00:00:00:00 - 23:59:59:29
	[50 Hz] [25 Hz] [60-25 Hz]
	00:00:00:00 - 23:59:59:24
	[23.98 Hz] [24 Hz] [59-23 Hz]
	[60-24 Hz]
	00:00:00:00 - 23:59:59:23
ユーザーズビット:	00000000 - FF FF FF FF

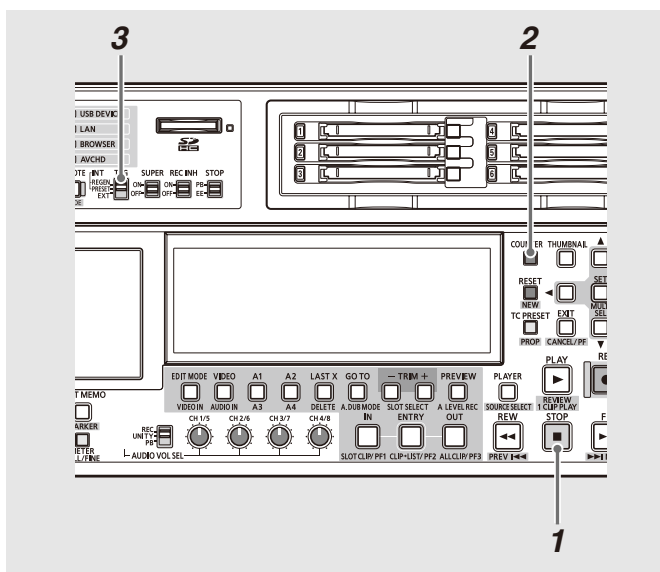
4. 手順2~3を繰り返して、値を変更する

RESETボタンを押すと、プリセット値を0にリセットできます。

5. 開始値の設定終了後、SETボタンを押す

手順3で「FREE」に設定したときには、すぐにタイムコードの歩進が開始します。

外部タイムコードの設定

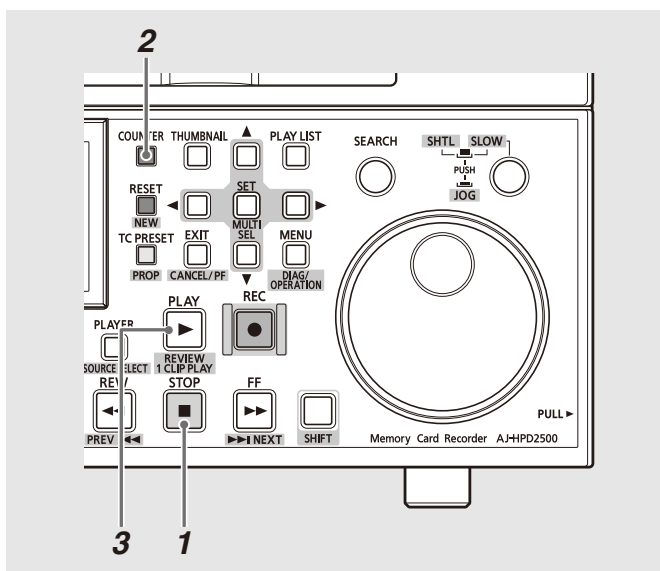


1 停止モードにする

2 COUNTERボタンで[TC]を選択する

3 TCGスイッチの位置を「EXT」にする
(外部タイムコードの選択)

タイムコード／ユーザズビットの再生



1 停止モードにする

2 COUNTERボタンで[TC]または、[UB]を選択する

4 セットアップメニューNo.507(EXT TC SEL)で以下の設定をする

- EXT_L: リアパネルのTIME CODE IN端子(BNC)に入力されるLTC信号が、タイムコードとして記録される。
- SVITC: SDI IN(HD)端子に入力されるシリアル信号に付加されるVITC信号が、タイムコードとして記録される。
- SLTC: SDI IN(HD)端子に入力されるシリアル信号に付加されるLTC信号が、タイムコードとして記録される。

◆NOTE:

- SLTC、SVITC設定時に、入力信号としてアナログコンポジットまたはSD SDIが選択されているときは、入力ビデオ信号のVITCが記録されます。
- セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)が59-23、60-24、60-25では、セットアップメニューNo.507(EXT TC SEL)は表示されません。このときSLTC固定となります。
- セットアップメニューNo.040(VFR REC)がONに設定されている場合、TCGスイッチに関係なくREC RUNに設定されます。

3 PLAY▶ボタンを押す

再生が開始され、タイムコードがディスプレイに表示されます。

SUPERスイッチの位置が「ON」のとき、液晶モニターにタイムコード値がスーパーインポーズされます。

T * R 00:01:04:07*

" " : 第1、第3フィールド
"* " : 第2、第4フィールド

タイムコード信号が欠如したとき、ドロップフレームモードのときは、秒とフレームの間のコロンが「.」[*]表示になります。(ピリオド)になります。

■ 電源供給がないときのタイムコードについて

電源供給がないときもバックアップ機能がはたらいて、タイムコードジェネレーターは長時間(約1年間)動作を続けます。また、電源供給がないときの精度は、月差約±30秒程度です。

◆ NOTE:

- タイムコードジェネレーターが動作モードに関係なく歩進している下記のときに、バックアップ機能ははたらきます。
 - ・フロントパネルのTCGスイッチを「PRESET」に設定し、セットアップメニューNo.504(RUN MODE)を「FREE」に設定したとき。
 - ・フロントパネルのTCGスイッチを「EXT」に設定し、セットアップメニューNo.507(EXT TC SEL)で設定した外部タイムコード入力を、リアパネルの端子から外したとき。
- セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)の設定を変更したとき、歩進データはクリアされます。

TCG スイッチ*5	メニュー*4 No.507 EXT TC SEL	メニュー No.518 VITC GEN	ビデオ入力信号選択	記録するタイムコード*	
				SBC領域	VAUX領域
INT (REGEN / PRESET)	---	OFF	HD SDI CMPST / SD SDI *6	内部TCG値	入力ビデオ信号のSVITC *3 入力ビデオ信号のVITC *3
		ON	HD SDI CMPST / SD SDI *6	内部TCG値	
EXT	EXT_L	OFF	HD SDI CMPST / SD SDI *6	TIME CODE IN端子入力のタイムコード *1	入力ビデオ信号のSVITC *3 入力ビデオ信号のVITC *3
		ON	HD SDI CMPST / SD SDI *6	TIME CODE IN端子入力のタイムコード *1	
	SLTC	OFF	HD SDI CMPST / SD SDI *6	入力ビデオ信号のSLTC *2 入力ビデオ信号のVITC *2	入力ビデオ信号のSVITC *3 入力ビデオ信号のVITC *3
		ON	HD SDI CMPST / SD SDI *6	入力ビデオ信号のSLTC *2 入力ビデオ信号のVITC *2	
	SVITC	OFF	HD SDI CMPST / SD SDI *6	入力ビデオ信号のSVITC *2 入力ビデオ信号のVITC *2	入力ビデオ信号のSVITC *3 入力ビデオ信号のVITC *3
		ON	HD SDI CMPST / SD SDI *6	入力ビデオ信号のSVITC *2 入力ビデオ信号のVITC *2	

*1 TIME CODE IN端子入力から信号が検出できないときは、内部TCG値となります。

*2 入力ビデオ信号からSLTC、SVITC、VITCが検出できないときは、内部TCG値となります。

*3 入力ビデオ信号からSVITC、VITCが検出できないときは、未記録となります。

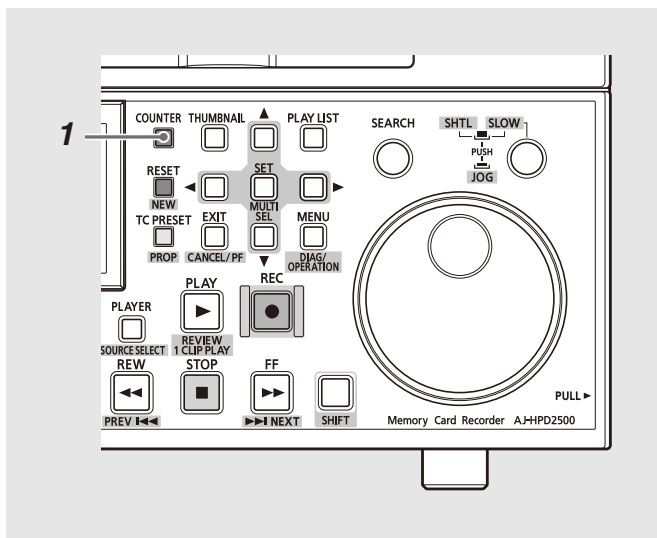
*4 セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)が59-23、60-24、60-25では、セットアップメニューNo.507(EXT TC SEL)は表示されません。このときSLTC固定となります。

*5 セットアップメニューNo.040(VFR REC)がONに設定されている場合、TCGスイッチに関係なくREC RUNとなります。

*6 アップコンバート記録時は、ビデオ入力信号選択表示は、CMPST(U/C)、SDDSI(U/C)となります。

→「VIDEO IN (SHIFT+EDIT MODE) ボタン」(19ページ)を参照。

CTLモード



1 COUNTERボタンで[CTL]を選択する

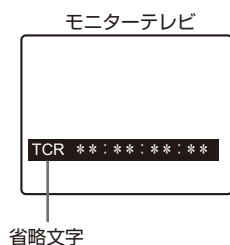
再生時は、先頭から再生する相対位置が表示されます。記録時は、カウンター値が「0:00:00:00」から開始されます。記録終了時は、先頭からの相対位置が表示されます。

◆ NOTE:

- セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)が23.98、24、59-23、60-24のときには再生画とCTLが1フレームずれることがあります。
- セットアップメニューNo.016(CTL COUNT)がDOWNのとき、カウンター値は再生時終端からの相対位置となり、正方向再生で減少し、終端で[00:00:00:00]になります。また、記録中のIN点登録(IN+ENTRY)およびOUT点登録(OUT+ENTRY)は無効になります。
- セットアップメニューNo.016(CTL COUNT)がDOWNのとき、RS422コマンドおよびRS232CからのCTL問い合わせに対しては、終端で[00:00:00:00]になるように終端までの相対位置を引いた値を返します。
- セットアップメニューNo.27(VDCP CMD)がONでREMOTE時は、CTLを選択できません。

スーパーインポーズ画面

コントロール信号やタイムコードなどが省略文字で表示されます。



省略文字

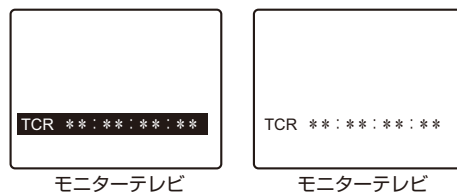
CTL	先頭からの相対位置
DWN	再生終端からの相対位置
TCR	記録されたタイムコードデータ
TCR.	VAUX領域に記録されたタイムコードデータ
UBR	記録されたユーザーズビットデータ
UBR.	VAUX領域に記録されたユーザーズビットデータ
TCG	タイムコードジェネレーターのタイムコードデータ
UBG	タイムコードジェネレーターのユーザーズビットデータ

◆NOTE:

- カードから正しくデータを読み取ることができなかったときは、「T*R」や「U*R」が表示されます。

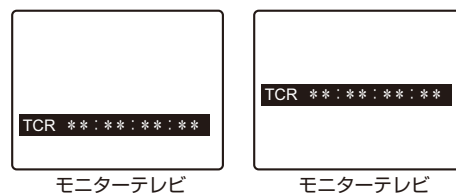
表示文字

スーパーインポーズの表示文字の背景色は、セットアップメニューNo.009 (CHARA TYPE) で変えることができます。



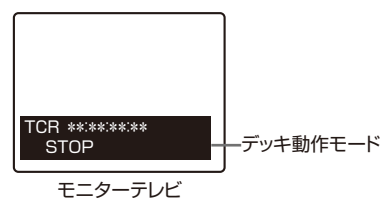
表示位置

スーパーインポーズの表示位置は、セットアップメニューNo.007 (CHARA H-POS) とNo.008 (CHARA V-POS) で変えることができます。



動作モード

セットアップメニューNo.006 (DISPLAY SEL) を設定して、デッキの動作モードを表示することができます。



入力／出力対応フォーマット一覧

■ システム周波数の設定

セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)の設定により、以下のように入力/出力フォーマットが選択されます。

記録フォーマット	入力信号	システム周波数	SDI出力*4
AVC-Intra 50/100	1080/59.94i	59.94	1080/59.94i
			720/59.94P
			480/59.94i
	1080/50i	50	1080/50i
			720/50P
			576/50i
	1080/29.97PsF	29.97	1080/29.97PsF
			720/59.94P *1
			480/59.94i *1
	1080/23.98P over 59.94i *5	59-23	1080/23.98PsF
	1080/23.98PsF	23.98	1080/23.98PsF
	1080/24PsF	24	1080/24PsF
	1080/25PsF	25	1080/25PsF
			720/50P *1
			576/50i *1
	720/59.94P	59.94	720/59.94P
1080/59.94i			
480/59.94i			
720/50P	50	720/50P	
		1080/50i	
		576/50i	
720/29.97P over 59.94P *6	29.97	720/59.94P *1	
		1080/29.97PsF	
		480/59.94i *1	
720/23.98P over 59.94P *6	59-23	1080/23.98PsF	
720/24P over 60P *6	60-24	1080/24PsF	
720/25P over 50P *7	25	720/50P *1	
		1080/25PsF	
		576/50i *1	
720/25P over 60P *6	60-25	720/50P *1	
		1080/25PsF	
		576/50i *1	
DVCPRO HD	1080/59.94i	59.94	1080/59.94i
			720/59.94P
			480/59.94i
	1080/50i	50	1080/50i
			720/50P
			576/50i

*1 2:2 プルダウン

*4 セットアップメニューNo.643(OUT MODE SEL)にて選択。

*5 AJ-HPX2100 / 3000のHD-SDI(1080/23.98P over 59.94i)出力

*6 AJ-HDC27シリーズのHD-SDI(バリアブルフレームレート信号)出力

*7 AJ-HPX2100のHD-SDI(720/25P over 50P)出力

記録フォーマット	入力信号	システム周波数	SDI出力*4
DVCPRO HD	1080/29.97PsF	59.94	1080/29.97PsF
			720/59.94P *1
			480/59.94i *1
	1080/23.98P over 59.94i *5	59.94	1080/23.98PsF *3
			1080/59.94i *2
			720/59.94P *2
			480/59.94i *2
	1080/23.98PsF	---	---
	1080/24PsF	---	---
	1080/25PsF	---	---
	720/59.94P	59.94	720/59.94P
			1080/59.94i
			480/59.94i
	720/50P	50	720/50P
			1080/50i
576/50i			
720/29.97P over 59.94P *6	29.97	720/59.94P *1	
		1080/29.97PsF	
		480/59.94i *1	
720/23.98P over 59.94P *6	59-23	1080/23.98PsF	
720/24P over 60P *6	60-24	1080/24PsF	
720/25P over 50P *7	25	720/50P *1	
		1080/25PsF	
		576/50i *1	
720/25P over 60P *6	60-25	720/50P *1	
		1080/25PsF	
		576/50i *1	
DVCPRO50 DVCPRO DV	480/59.94i *8	59.94	480/59.94i
			1080/59.94i
			720/59.94P
	480/29.97P over 59.94i *8	59.94	480/59.94i *1
			1080/29.97PsF
			720/59.94P *1
	480/23.98P over 59.94i *8	59.94	1080/23.98PsF *3
			480/59.94i *2
			1080/59.94i *2
			720/59.94P *2
	576/50i *8	50	576/50i
			1080/50i
720/50P			
576/25P over 50i *8	50	576/50i *1	
		1080/25PsF	
		720/50P *1	

*1 2:2 プルダウン

*2 2:3 プルダウン

*3 セットアップメニューNo.25 (SYSTEM FREQ)を "2:23.98" または "5:59-23" に設定した場合、再生のみ有効。

*4 セットアップメニューNo.643 (OUT MODE SEL)にて選択。

*5 AJ-HPX2100/3000のHD-SDI (1080/23.98P over 59.94i)出力

*6 AJ-HDC27シリーズのHD-SDI (バリエラブルフレームレート信号)出力

*7 AJ-HPX2100のHD-SDI (720/25P over 50P)出力

*8 入力信号がSDの場合で記録フォーマットがHDの場合は、入力をアップコンバートしてHDで記録・出力を行います。

→「VIDEO IN (SHIFT+EDIT MODE) / AUDIO IN (SHIFT+VIDEO) ボタン」(19ページ)を参照。

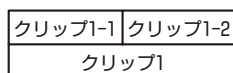
音声Vフェード機能

セットアップメニューNo.731(PB FADE)の設定によるオーディオ処理の違いを説明します。セットアップメニューNo.731(PB FADE)の設定に従って、クリップ選択再生やプレイリスト再生を行うときなどに、クリップ間、イベント間でVフェード/カット処理が行われます。

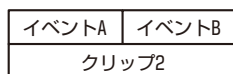
どのような処理が行われるのかを、例を挙げて説明します。

P2カードにまたがったクリップと、エディットコピーにより作られたクリップを例に説明します。

- P2カードにまたがったクリップまたは、8 GB以上のP2カードを使用して、自動的に分割記録されたクリップ

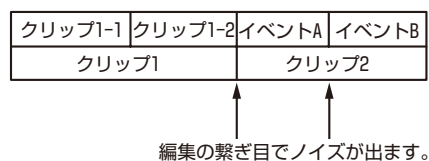


- AJ-SPD850でエディットコピーにより作られたクリップ

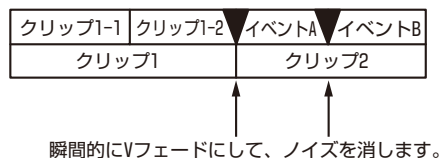


上記2種類のクリップを再生すると、セットアップメニューNo.731の設定により、次のようになります。

- CUTに設定しているとき



- AUTOに設定しているとき



クリップ間およびイベント間で、自動的にVフェード処理が行われます。

ただし、次の箇所では、Vフェード処理は行われません。

- 複数のP2カードにまたがったクリップ
- 8 GB以上のP2カードを使用して自動的に分割記録されたクリップ

音声の記録チャンネルの選択

音声の記録チャンネル

フロントパネルのVIDEO IN (SHIFT+EDIT MODE) / AUDIO IN (SHIFT+VIDEO) ボタンで選択された入力信号を、セットアップメニュー725-728 (REC CH1-4) により、以下のように選択できます。

アナログ入力時

記録トラック	記録信号*1
CH1	CH1入力 / CH2入力 / CH3入力 / CH4入力 / CH1入力+CH2入力 / CH3入力+CH4入力
CH2	CH1入力 / CH2入力 / CH3入力 / CH4入力 / CH1入力+CH2入力 / CH3入力+CH4入力
CH3	CH1入力 / CH2入力 / CH3入力 / CH4入力 / CH1入力+CH2入力 / CH3入力+CH4入力
CH4	CH1入力 / CH2入力 / CH3入力 / CH4入力 / CH1入力+CH2入力 / CH3入力+CH4入力
CH5	なし
CH6	なし
CH7	なし
CH8	なし

*1 CH3, CH4 選択時は無音入力になります。

SDI, AES/EBU入力時

記録トラック	記録信号
CH1	CH1入力 / CH2入力 / CH3入力 / CH4入力 / CH1入力+CH2入力 / CH3入力+CH4入力
CH2	CH1入力 / CH2入力 / CH3入力 / CH4入力 / CH1入力+CH2入力 / CH3入力+CH4入力
CH3	CH1入力 / CH2入力 / CH3入力 / CH4入力 / CH1入力+CH2入力 / CH3入力+CH4入力
CH4	CH1入力 / CH2入力 / CH3入力 / CH4入力 / CH1入力+CH2入力 / CH3入力+CH4入力
CH5	なし(SD) / CH5(HD) *1
CH6	なし(SD) / CH6(HD) *1
CH7	なし(SD) / CH7(HD) *1
CH8	なし(SD) / CH8(HD) *1

*1 音声ビット数が24ビット時は、「なし(HD)」となります。

→「セットアップメニューNo.034(A.SMPL RES)」(173 ページ)を参照。

未永くお使いいただくために

結露

結露が起こるのは、暖房を入れた部屋の窓ガラス一面に水滴(露)が付くのと同じ原理です。本機やカードを温度・湿度差の大きいところに移動したときに起こります。

- 湯気が立ちこもる湿度の多いところや、暖房を入れた直後の部屋へ移動したとき
- 冷房を入れているところから急に温度・湿度の高いところへ移動したとき
- このようなところへ移動したときは、すぐ電源を入れずに、10分程度放置したままお待ちください。

お手入れについて

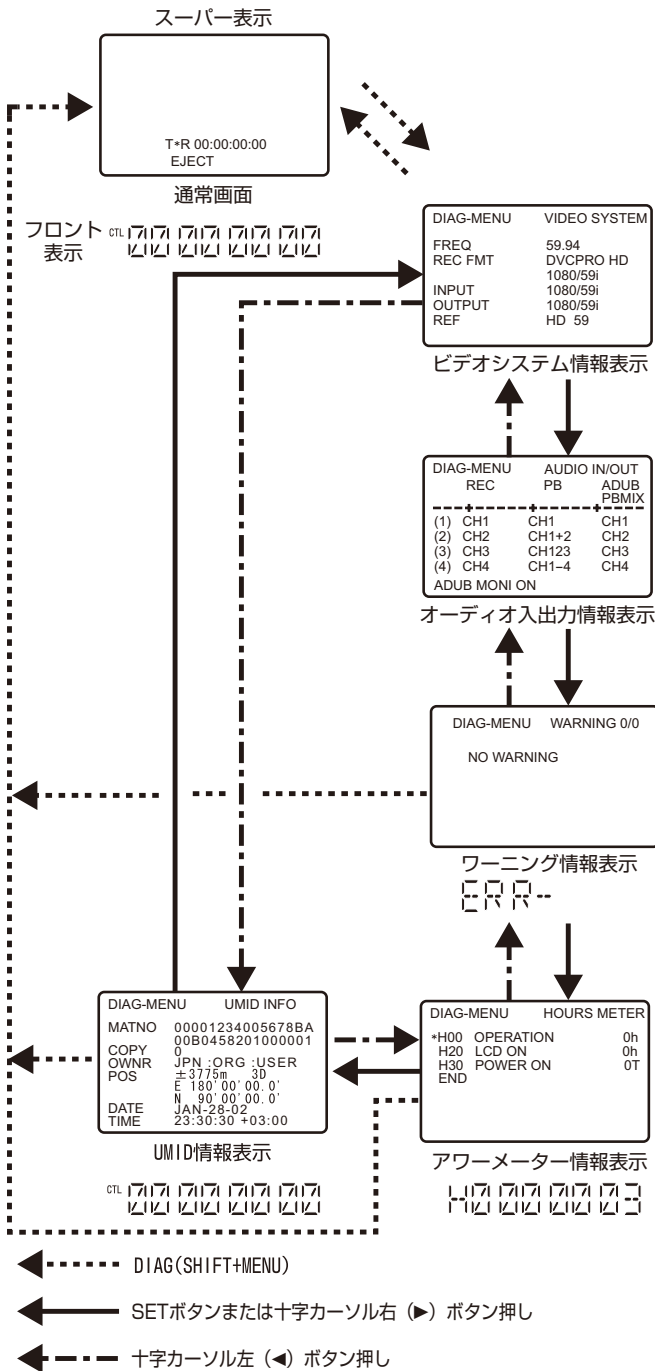
- お手入れ前には、電源スイッチをOFFにし、必ず電源プラグを持ってコンセントから抜いてください。
- キャビネットの清掃は、柔らかい布で行ってください。
- 汚れのひどいときは、台所用洗剤をうすめ、布に浸して固く絞ってふきます。汚れをふき取ったのち、乾いた布で仕上げを行ってください。

◆NOTE:

- アルコール、ベンジン、シンナーなどの溶剤は使用しないでください。外装部品表面の変色や、塗装が落ちる原因になります。

エラーメッセージ

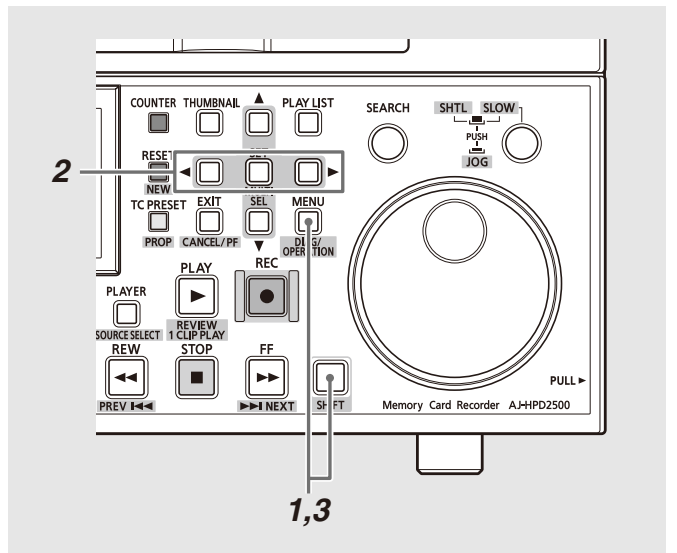
本機にワーニングが発生すると、カウンター表示部にエラー番号が表示されます。ダイアグメニューを開くとカウンター表示部、液晶モニターにその内容が表示されます。また、本機の動作に異常が発生すると、カウンター表示部にエラー番号が点滅表示されます。



ダイアグメニュー

デッキの情報を表示します。デッキの情報にはワーニング情報、シリアル番号、アワーメーター(使用時間)情報、UMID情報などがあります。液晶モニター部およびリアパネルのVIDEO MON端子、SD SDI MON端子にモニターテレビを接続しているときは、モニターテレビにダイアグメニューが表示されます。

ダイアグメニューの表示



- DIAG(SHIFT+MENU)ボタンを押す**
モニター部にダイアグメニューの画面が表示され、カウンター表示部にメッセージがそれぞれ表示されます。
- SETボタンまたは十字カーソル左右(◀/▶)ボタンを押す**
押すたびに、ワーニング情報、アワーメーター情報、UMID情報などの表示が切り替わります。
- 再度DIAGボタンを押す**
元の表示に戻ります。

未永くお使いいただくために

ワーニング情報の表示

- ワーニング発生時は、ワーニングメッセージが表示されます。
ワーニングが発生していないときは、「NO WARNING」と表示されます。
- 複数のワーニングが発生したときは、サーチダイヤルを回すと各内容を確認することができます。
「セットアップメニューNo.006(DISPLAY SEL)」で「T&S&M」を選択しているとき、ワーニングまたはエラー発生時に、モード表示部にメッセージが表示されます。

モニター表示	内容	デッキ動作	カウンター表示部
BUSY	クリップ情報を読み込み中や、クリップ構成が変化しているときに表示されます。 この表示中は、操作ができません。 【原因】 ・カード挿抜時 ・UPDATING中 ・記録後処理中 ・その他	動作継続	BUSY
CANNOT A.DUB	P2カードにオーディオの追加記録ができないときに表示されます。 【原因】 ・使えないカードに記録しようとした ・カードが挿入されていないときに記録しようとした	動作継続	CANTADUB
CANNOT LOOP REC	LOOP RECモード時に、P2カードに記録ができないときに表示します。 【原因】 ・ライトプロテクトがされているときに記録しようとした ・カードに容量が無いときに記録しようとした ・使えないカードに記録しようとした ・記録中にカード状態が変わった ・BUSY中に記録しようとした	STOP	CANTLREC
CANNOT PLAY	クリップの異常などで再生が停止したときに表示されます。 【原因】 ・クリップがないときに再生しようとした ・使えないカードを再生しようとした ・その他の原因で再生を受け付けられないか、または再生が停止した ・BUSY中に再生しようとした	STOP	CANTPLAY
CANNOT REC	P2カードに記録ができないときに表示されます。 【原因】 ・ライトプロテクトがされているときに、記録しようとした ・カードに容量がないときに記録しようとした ・使えないカードに記録しようとした ・記録中にカード状態が変わった ・BUSY中に記録しようとした ・VFR記録を開始したが有効フレーム情報が入力されなかった	STOP	CANT REC
CANNOT REC SD	プロテクトされたカードや、容量不足、PH/HAモードで記録できない場合などに表示されます。 (AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)装着時)	動作継続	CANT REC
CHECK SD	未対応のSDメモリーカード、規格外の管理情報、サムネール情報の不整合を認識したときに表示されます。 (AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)装着時)	動作継続	CHK SD
FTP ON	FTPログイン状態で、PLAY/JOG STILL/VAR.0.0/SHTL.0.0以外の再生動作ができないときに表示します。	動作継続	カウンター表示
INT SG	VIDEO IN(SHIFT+EDIT MODE)ボタンでSGが選択されている、あるいは、AUDIO IN(SHIFT+VIDEO)ボタンでSGが選択されているときに、RECボタンを押してEEモードになるときの開始2秒間表示されます。	動作継続	INT SG
INVALID IN/OUT POINT	登録できない箇所でのIN / OUT点を登録しようとしたときに表示されます。	動作継続	カウンター表示
INVALID TRACK SELECT	P2カードにオーディオの追加記録を行ったとき、オーディオトラックが選択されていない場合、もしくは3チャンネル以上選択されていると表示されます。 追加記録ができるのは2チャンネルまでです。	動作継続	CANTADUB

モニター表示	内容	デッキ動作	カウンター表示部
LACK OF REC CAP.	P2カードにオーディオの追加記録を行ったとき、またはプレイリストでプレーヤーに外部制御や外部入力を選択し、RECボタンを押して記録を開始するとき、カードに容量がないときに表示されます。	動作継続	CANTADUB
MARK ON/OFF	ショットマークを付加、消去したときに2秒間表示されます。	動作継続	MARK ON / MARK OFF
MAX. EVENTS	プレイリストに登録できるイベントが上限に達しています。	動作継続	カウンター表示
NEED TO REPAIR SD	修復が必要なSDメモリーカードを認識したときに表示されます。(AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)装着時)	動作継続	ND REP
NO INPUT	アナログオーディオを除き、VIDEO IN(SHIFT+EDIT MODE)ボタンあるいはAUDIO IN(SHIFT+VIDEO)ボタンで選択されている端子に入力信号がないときに、RECボタンを押してEEモードになるときの開始2秒間表示されます。	動作継続	NO INPUT
PL FILE NOT FOUND	P2カードにオーディオの追加記録を行ったとき、プレイリストファイルが無い場合に表示されます。	動作継続	CANTADUB
REC LIMIT SD	記録中に容量不足や12時間以上記録して、記録を停止した場合に表示されます。(AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)装着時)	動作継続	LIMIT SD
REPAIRING SD	SDメモリーカードのクリップを修復しているときに表示されます。(AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)装着時)	動作継続	REPAIR
R-OUT NOT AVAILABLE	プレイリストモードで挿入編集時に、レコーダーOUT点を使用した操作を行った場合に表示されます。	動作継続	カウンター表示
SLOT SEL INVALID	SLOT SELECT +/- ボタンを押したときに、P2カードの記録スロット切り替えができないときに表示します。	動作継続	INVALID
TEXT MEMO	テキストメモを挿入したときに2秒間表示されます。	動作継続	TEXT MEMO
TEXT MEMO INVALID	テキストメモがすでに100個あり、新規に追加できないときに表示されます。	動作継続	INVALID
WRITE PROTECTED	P2カードにオーディオの追加記録を行ったとき、カードがライトプロテクトされているときに表示されます。	動作継続	CANTADUB

ワーニング情報

カウンター表示部にE-***が点灯したとき、SHIFTボタンを押しながらMENUボタンを押してダイアグメニューを開くと、内容が表示されます。

表示		内容	デッキ動作
No	文字		
10	FAN STOP	ファンモーターが停止したときに表示されます。	動作継続
21	REC WARNING	記録中に映像や音声に異常が発生したときに表示されます。一度電源を切ってからご使用ください。	STOP
26	CARD ERROR <*****>	記録中にP2カードが原因でデータ異常が発生したときに表示されます。記録停止後も次の操作を行うまで表示されたままです。再生時にP2カードからの読み込み異常が発生した場合に表示されます。(※は発生したスロット番号) エラーが発生したスロットのP2カードを交換してください。	STOP
41	LAN NO LINK	通常モードで、LANの接続に問題があるときに表示します。LANの接続を確認してください。	動作継続
44	NET ERROR	通常モードでFTPサーバーサービスが起動していません。ネットワークの設定を確認してください。	動作継続*1
49	LAN ERROR	LANの接続・切断に失敗したときなどに表示します。一度、パワーオフしてからご使用ください。再度E-49が表示される場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。	STOP
50	BATTERY EMPTY	電源ON時に内蔵時計のバックアップ電池の電圧低下を検出したときに表示します。内蔵電池を交換してください。*2	動作継続

*1通常モードでのネットワークからのP2カードアクセスはできません。

*2バックアップ電池が消耗すると「E-50」が表示されます。お買い上げの販売店にご相談のうえ、新しい電池(CR2032相当品)との交換をお買い上げの販売店に依頼してください。電池交換後は、必ず内蔵の時計の設定を、「セットアップメニューNo.069(CLOCK SET)」で行ってください。

表示		内容	デッキ動作
No	文字		
70	DIR NG CARD <*****>	ディレクトリー配置が不正規なP2カードです。(＊は発生したスロット番号) 速やかにカードのバックアップを取り、フォーマット後ご使用ください。	動作継続
71	RUNDOWN CARD <*****>	P2カードの規定の書き換え回数を超過しています。(＊は発生したスロット番号) P2カードの交換をお勧めします。	動作継続*3
75	HDD INTERMITTENT	ハードディスクのモニター再生中にハードディスクの性能低下などにより再生に途切れが発生したときに3秒間表示されます。 より性能の高いハードディスクを使用してください。	動作継続
93	INVALID TC MODE	23.98Hz 24Hz 59-23Hz 60-24Hz 60-25Hz のみ 再生時、タイムコードがDFモードで記録されている場合に表示されます。タイムコードのドロップポイントで映像出力が乱れ、音声出力はミュートされます。 再生クリップを確認してください。 フレームレートが24pのクリップを本機で再生する場合、タイムコードはNDFモードで記録されている必要があります。 EE、記録時にHD SDI入力上のタイムコードがDFモードの場合に表示されます。この場合、正常に記録されません。 本機に入力する信号を確認してください。入力するタイムコードはNDF設定にしてください。	動作継続
95	INVALID EMBEDDED TC	29.97Hz 59-23Hz 60-24Hz 25Hz 60-25Hz のみ 記録された映像のフレームをHD SDI IN端子に入力された信号のタイムコードに同期させるときに、タイムコードが1倍速で歩進していない場合に表示されます。 (セットアップメニューNo.032(REC REF)で「SLTC」を選択時またはセットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)が29.97、59-23、60-24、25、60-25選択時)	動作継続
96	INVALID TC SEQUENCE	23.98Hz 24Hz 59-23Hz 60-24Hz 60-25Hz のみ 再生時、ユーザズビットのフレームレート情報が検出できない場合、または再生のタイムコードが不連続の場合に表示されます。不連続となる部分で映像出力が乱れ、音声出力はミュートされます。 再生クリップを確認してください。 EE、記録時にHD SDI入力上のユーザズビットからフレームレート情報が検出できない場合、または入力のタイムコードが不連続の場合に表示されます。この場合、正常に記録されません。 本機に入力する信号を確認してください。 入力する信号はタイムコードとプルダウンシーケンスが合ったものを入力してください。	動作継続
97	NO ACTIVE FRAME	29.97Hz 59-23Hz 60-24Hz 60-25Hz のみ EE、記録時にHD SDI入力上のユーザズビットから有効フレーム情報が検出できない場合に表示されます。この場合正常に記録されません。 本機に入力する信号を確認してください。 入力信号にはバリエブルフレームレートカメラからの有効フレーム情報が必要となります。 (セットアップメニューNo.25(SYSTEM FREQ)が29.97、59-23、60-24、60-25に設定され、セットアップメニューNo.040(VFR REC)がONに設定されている場合に表示されます。)	記録不可*4 記録中は動作継続
98	INVALID FRAME RATE	60-25Hz のみ EE、記録時にHD SDI入力上のユーザズビットから検出された有効フレーム情報が50pを超えた場合に表示します。この場合、正常に記録されません。 SYSTEM FREQが60-25の場合は、バリエブルフレームレートカメラのフレームレートを50p以下に設定してください。 SYSTEM FREQが60-25に設定され、VFR RECがONに設定されている場合に表示されます。	動作継続

*3動作は継続しますが正常に記録または再生されない事があります。

*4記録操作でいったんボタンは点灯しますが、数秒後ボタンは消灯し記録はできません。

サムネール・プレイリスト画面で問題のある操作を行ったときなどに、ワーニングが表示されます。

項目	メッセージ	内容	対応
サム ネール	CANNOT ACCESS GATEWAY! CHECK LAN SETTING	ゲートウェイサーバーにアクセスできません。	LAN設定が正しいか見直してください。
	CANNOT ACCESS!	コンテンツ不良などによりデータへアクセスできません。	メディア、クリップを正常な状態としてからご使用ください。また、ネットワーク利用時に表示された場合は、LAN設定が正しいか見直して、LANケーブルが正しく接続されているか、お使いのネットワーク環境が機能しているか確認してください。
	CANNOT ADD! NO INPUT	USER NAME やPASSWORD が正しく入力されていません。	USER NAME やPASSWORDを正しく入力してください。
	CANNOT CHANGE!	サムネールが生成できず灰色になっているテキストメモはサムネールが変更できません。	サムネールが表示できるよう設定やコンテンツを修正してください。
	CANNOT CONNECT!	ネットワークに接続できません。	LAN設定が正しいか見直して、LANケーブルが正しく接続されているか、お使いのネットワーク環境が機能しているか確認してください。
	CANNOT CONVERT!	変換できないクリップが含まれています。	選択しているコンテンツを確認してください。
	CANNOT DELETE !	コンテンツバージョンが不整合のため削除できません。	機器とコンテンツのバージョンを合わせてください。
	CANNOT FIND FTP-SERVER!	接続先のFTPサーバーが見つかりません。	FTP CLIENTのURL項目が正しいか確認してください。
	CANNOT FORMAT!	P2カードなどの問題でフォーマットができません。	P2カードを確認してください。
	CANNOT RE-CONNECT!	またぎクリップではないコンテンツを選んでいるなどでクリップの再結合ができません。	選択しているコンテンツを確認してください。
	CANNOT REPAIR IN SELECTION!	選択したクリップの一部が修復できませんでした。	
	CANNOT REPAIR!	修復できないコンテンツを選んでいます。	選択しているコンテンツを確認してください。
	CANNOT SAVE! FILE NAME IN USE	既に同じ名前のネットワーク設定ファイル名がSDメモリーカードに存在します。	別の名前でご保存してください。
	CARD FULL!	P2,SDメモリーカードが一杯です。	空き領域のあるメディアを挿入してください。
	INVALID VALUE!	入力しようとしたデータ値が不正規です。	正常な範囲のデータを設定してください。
	IP ADDRESS IS USED!	設定したIP ADDRESSは他の機器で利用されています。	ネットワーク管理者に相談のうえ、他のIP ADDRESSを設定してください。
	LACK OF REC CAPACITY!	カードの記録容量が不足しています。	記録容量の十分あるカードを挿入してください。
	LOGIN FAILED!	接続先のFTPサーバーへのログインに失敗しています。	FTP CLIENTのUSER IDおよびUSER PASSWORD項目が正しいか確認してください。
	MISSING CLIP!	またぎクリップがすべてそろっていないクリップにはショットマークは付加できません。	またぎクリップが入ったカードをすべて挿入してください。
	NO CARD!	P2,SDメモリーカードが入っていません。	対応メディアを挿入してください。
	NO CONTENTS!	接続先のネットワークフォルダーにP2コンテンツが存在しません。	P2コンテンツが存在するフォルダーに接続してください。
	NO CONVERTIBLE CLIP!	変換可能なクリップが含まれていません。	変換可能なクリップを選択して再度実行してください。
	NO COPY TO SAME CARD!	コピー元とコピー先が同じカードのためコピーできません。	選択しているクリップが入っていないカードへコピーをしてください。
	NO INPUT!	データが入力されていません。	データを入力してから設定をしてください。
NO SD CARD!	SDメモリーカードがありません。	SDメモリーカードを挿入してください。	
NOT SELECTED!	クリップを選択せずに削除などを行おうとしました	削除などを行うクリップを選択してください。	
PING FAILED! CHECK LOGまたは SET FTP-URL	PINGに失敗しました。	LAN設定およびFTP CLIENTのURL項目が正しいか見直して、LANケーブルが正しく接続されているか、お使いのネットワーク環境が機能しているか確認してください。	

項目	メッセージ	内容	対応
サム ネール	SAME CLIP IS SELECTED!	選択クリップ中に同一クリップ(COPYで複製したものが)複数個含まれています。	同一クリップ(COPYで複製したものは)同時に複数個コピーはできませんので、同一クリップを選択からはずしてください。
	TOO MANY CLIPS!	選択しているクリップが多すぎます。	選択しているクリップ数を減らしてください。
	UNKNOWN CONTENTS FORMAT!	本機で対応していないバージョンのコンテンツのときの警告です。	<ul style="list-style-type: none"> • 機器とコンテンツのバージョンを合わせてください。 • 不良クリップがある場合(コピー時は、コピー先に不良クリップがある場合を含む)不良クリップを修復するか削除してください。
	UNKNOWN DATA!	メタデータの文字コードが不正規です。	メタデータの文字コードはUTF-8となっています。ビューアーなどで正しい文字を入力してください。
	USER CLIP NAME MODIFIED!	クリップ名にカウンター値を付加するときに文字削除が必要となりました。	カウンター付加の設定でユーザークリップ名とカウンターは合わせて100バイトまでしか保存できませんので、文字を自動的に削除します。
	WRITE PROTECTED!	P2、SDメモリーカードがライトプロテクトされています。	書き込み可能なメディアを挿入してください。
ハード ディス ク	CANNOT ACCESS CARD!	P2カードのアクセス中にエラーが発生しました。	P2カードを確認してください。
	CANNOT ACCESS TARGET!	接続先のターゲットのアクセス中にエラーが発生しました。	ハードディスクの状態や接続を確認してください。
	CANNOT COPY! FORMAT HDD TO FAT	クリップコピー可能なパーティションがハードディスクに存在しないためクリップコピーできません。	FAT形式でフォーマットしなおすか、P2カードをEXPORTしてパーティションを作成してください。
	CANNOT FORMAT!	ハードディスクのフォーマットができません。	接続しているハードディスクを変更してください。
	CANNOT RECOGNIZE HDD!	接続先のターゲットが正しく認識できません。	ハードディスクの電源を入れ直すか、接続するハードディスクを変更してください。
	CANNOT SELECT! MAX.6 PARTITIONS	6パーティションより多いハードディスクの同時マウントはできません。	選択済パーティションを解除してください。
	CARD IS EMPTY! CANNOT COPY!	コピーするP2カードが空です。	空のカードはコピーする必要がないためコピーを行いません。
	FORMAT P2 CARD!	クリップの存在するP2カードへはインポートできません。	P2カードをフォーマットしてください。
	HDD CAPACITY FULL!	ハードディスクの空き容量が足りません。	接続先のターゲットの残容量が足りないため、新しいハードディスクまたはフォーマットしたハードディスクを使用してください。
	HDD DISCONNECTED!	ハードディスクとの接続が切断されました。	USBを付け直してください。またその後正常に動作しないときは、一度電源をOFFにして、再び電源をONにしてください。
	MISMATCH COMPONENT!	コピー元とコピー先のP2カードの品番が不一致のため、コピーできません。	同一品番のP2カードを使用するか、クリップ単位でインポートしてください。
	P2 CARD IS UNFORMATTED!	P2カードが未フォーマットです。	フォーマットされたP2カードを使用してください。
	TOO MANY PARTITIONS!	パーティションが多すぎます。	ハードディスクの最大パーティション数は23ですので、新しいハードディスクまたはフォーマットしたハードディスクを使用してください。
	TOO MANY TARGETS!	複数の機器が接続しています。	接続を解除後、一度電源をOFFにして、再び電源をONにしてください。
UNKNOWN DEVICE CONNECTED!	未対応のDVDドライブなどが接続されています。	接続を解除後、一度電源をOFFにして、再び電源をONにしてください。	
VERIFICATION FAILED!	コピー後のコンペアが不一致でした。	再度コピーを行ってください。	
ソフト キー ボード	CANNOT CHANGE!	テキストメモがない状態で入力者を変更しようとしてしました。	テキストメモを先に入力してください。
	CANNOT SET! INVALID VALUE!	入力された値が異常です。	入力値を変更してください。

項目	メッセージ	内容	対応
プレイリスト	CANNOT FIND CLIP!	対象クリップが見つかりません。	対象のクリップのあるカードを挿入してください。
	CANNOT FIND SAME FORMAT!	編集フォーマットに合うクリップがありません。	編集フォーマットに合ったクリップを使用して行ってください。
	CANNOT MOVE!	移動できません。	連続した領域を選択し直してください。
	CANNOT OPERATE AT "RED" EVENT!	再生不可(赤色表示)イベントでの操作はできません。	再生不可イベントでは禁止されている操作が行われました。再生可能イベントでの操作、もしくは対象クリップの入ったカードの挿入を行ってください。
	CANNOT OPERATE WITH EXTERNAL PLAYER	外部プレーヤー使用時はA.DUBはできません。	プレーヤーをP2に切り替えてから再度やり直してください。
	CANNOT OPERATE: "RED" A.DUB EVENT INCLUDED	選択イベントに赤A.DUBイベントが含まれているため、操作できません。	赤A.DUBイベントを選択から除外します。
	CANNOT OPERATE: A.DUB EVENT INCLUDED	選択イベントにA.DUBイベントを含んでいるため、操作できません。	A.DUBイベントを選択から除外します。
	CANNOT OPERATE: BLANK EVENT INCLUDED	選択イベントに空白イベントが含まれているため、操作できません。	空白イベントを選択から除外します。
	CANNOT OPERATE: BLANK VIDEO EVENT INCLUDED	選択イベントにビデオの空白イベントが含まれているため、操作できません。	ビデオの空白イベントを選択から除外します。
	CANNOT OPERATE: COLLAPSE CLIP INCLUDED	異常なクリップが含まれています。	正常なクリップを使用してください。コピー先にも異常なクリップが含まれている可能性があります。
	CANNOT OPERATE: DIFFERENT ASPECT RATIO INCLUDED	アスペクト比が混在しています。	アスペクト比は混在できませんので、同じアスペクト比のクリップを使用してください。
	CANNOT OPERATE: DIFFERENT REFERRED POSITION	イベントの参照しているクリップの位置が異なるため、操作できません。	ソースクリップのタイムコードが同じイベントのみを選択してください。
	CANNOT OPERATE: ILLEGAL EVENT INCLUDED	不正なイベントが混在しています。	イベントを正しい状態に修正してください。
	CANNOT OPERATE: INTERNAL MEMORY IS FULL	内部メモリーが上限に達したため、オーディオレベル値が追加できませんでした。	既に存在するオーディオレベル値をUNITYレベルで消去するか、オーディオレベル値が追加されたイベントを削除してください。
	CANNOT OPERATE: INVALID AUDIO FILE	利用できないオーディオファイルです。	16ビット音声と24ビット音声混在しているプレイリストファイルは読み込めません
	CANNOT OPERATE: MULTI FORMAT INCLUDED	フォーマットが混在しています。	フォーマットが混在しているプレイリストファイルは読み込めません。
	CANNOT OPERATE: MULTI SOURCE INCLUDED IN SELECTED EVENTS	選択しているイベントは複数のクリップを参照しているため、操作できません。	同じクリップを参照するイベントのみを選択してください。
	CANNOT OPERATE: PLAYLIST FILE IS NOT FOUND	プレイリストファイルが見つかりません。	プレイリストファイルの入ったカードを挿入してください。
	CANNOT OPERATE: PLAYLIST IS NOT SAVED	プレイリストが保存されていません。	プレイリストを保存してください。
	CANNOT OPERATE: UNMATCH INPOINT	移動元IN点の位置が揃っていないトラックが存在するため、操作できません。	全てのトラックの移動元IN点を揃えてください。
CANNOT OPERATE: UNMATCH INSERT POINTS	移動先の位置が揃っていないトラックが存在するため、操作できません。	移動先は全てのトラックの位置が揃った場所に行ってください。	

項目	メッセージ	内容	対応
プレイリスト	CANNOT OPERATE: UNMATCH OUTPOINT	移動元OUT点の位置が揃っていないトラックが存在するため、操作できません。	全てのトラックの移動元OUT点を揃えてください。
	CAPTURE INCOMPLETED	外部プレーヤーのキャプチャにおいて、クリップ長が不足していますが、キャプチャ終端までを登録します。	不連続タイムコードなどの理由でOUT点がずれた場合は、トリム操作により修正できる場合があります。
	DIFFERENT FORMAT!	編集中のプレイリストと取り込むイベントやクリップの編集フォーマット(コーデック、フレームレート)が異なります。	編集フォーマットが一致したクリップを使用してください。
	DIFFERENT PLAYLIST VERSION!	プレイリストファイルのバージョンが異なります。	プレイリストファイルのバージョンが異なるときは、取り込むことができません。
	DIFFERENT SYSTEM FREQUENCY!	システム周波数が異なるファイルです。	同じシステム周波数のファイルを使用してください。
	DURATION LIMITATION!	プレイリストのデュレーションが24時間以上となるため操作できません。	操作が必要なときは、デュレーションを24時間以内に削減してください。
	ILLEGAL CLIP IN SELECTION!	24PNクリップのデュレーションが不正規です。	24PNクリップでは、4フレーム単位になるようにしてください。
	ILLEGAL FILE!	本機で読み取り可能な形式ではないプレイリストファイルです。	本機で読み取り可能な形式のプレイリストファイルを使用してください。
	INVALID PLAYER RANGE	レコーダーIN点、レコーダーOUT点に対するプレーヤーのIN点またはOUT点が範囲外です。	レコーダーのIN点、レコーダーのOUT点を変更し、プレーヤーの素材に収まるようにしてください。
	INVALID RECORDER RANGE	プレーヤーIN点、プレーヤーOUT点に対するレコーダーのIN点またはOUT点が範囲外です。	プレーヤーのIN点、プレーヤーのOUT点を変更し、レコーダーの素材に収まるようにしてください。
	LACK OF REC CAPACITY!	エディットコピーするカードの容量が不足しています。	空き容量の十分なメディアを挿入してください。
	NO CARD!	指定されたカードがありません。	カードを挿入してから操作してください。
	NO FILE!	指定されたファイルが存在しません。	SAVE ASにて保存するか、正しいカードを挿入してください。
	NO SPACE!	カードの空き容量がありません。	
	NOT AVAILABLE FORMAT!	現在、利用できない編集フォーマットです。	利用可能な編集フォーマットを使用してください。
	NOT SELECTED!	クリップが選択されていません。	サムネイル画面でクリップを選択してください。
	NUMBER OF EVENT LIMITATION!	各トラックのイベント数が上限に達しています。	各トラックのイベント数の上限は100のため、それ以下の状態で操作を行ってください。
	NUMBER OF FILE LIMITATION!	プレイリストファイル数が上限に達しています。	プレイリストファイルは1カードに最大999個です。不要なファイルを削除するか新しいカードを使用してください。
	READ ONLY PLAYLIST VERSION!	プレイリストファイルのバージョンが異なるため、読み取り専用で開きます。	AJ-SPD850、AJ-HPM100、AJ-HPM110、AJ-HPS1500で作成したプレイリストは読み取り専用となります。編集するときは一度保存してください。
	R-OUT POINT IS NOT AVAILABLE IN INSERT MODE	挿入編集ではレコーダーOUT点を使用することができません。	レコーダーOUT点以外の点を使用した編集を行ってください。
WRITE PROTECTED!	指定したカードが書き込み禁止状態です。	書き込みが可能なメディアを使用してください。	

エラー情報

エラー		内容	動作
番号	メッセージ		
E-30	TURN POWER OFF	カードの読み書きに異常が発生したときに表示されます。一度、電源を切ってからご使用ください。	STOP
E-37	COMM ERROR	システムコントロールの指示に従わない場合に表示されます。一度、電源を切ってからご使用ください。	STOP

エラー		内容	動作
番号	メッセージ		
E-38	SYSTEM ERROR	通信異常が発生したときに表示されます。一度、電源を切ってからご使用ください。	STOP
E-55	OPT SYS ERROR	AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)のシステムに異常が発生した場合に表示されます。一度、電源を切ってからご使用ください。	STOP
E-56	OPT NOT RESPONSE	AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)からの通信応答が無い場合に表示されます。一度、電源を切ってからご使用ください。	STOP
E-57	OPT HALT	AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)からの通信が更新されない場合に表示されます。一度、電源を切ってからご使用ください。	STOP

AVCHDワーニング情報(AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)装着時)

液晶モニターに表示される、主な警告表示を記載しています。その他の警告表示については、表示されるメッセージを確認してください。

メッセージ	内容
CANNOT BE USED DUE TO INCOMPATIBLE DATA.	データの規格が異なるため使えません。
CANNOT PLAY.	再生できません。
CANNOT SELECT MORE CLIPS.	選択したクリップが多いため、削除できません。
CANNOT SET THE NUMBER OF INDEXES HAS EXCEEDED THE MAXIMUM LIMIT.	インデックス数が上限をこえるためセットできません。
CARD ERROR. PLEASE REFORMAT.	フォーマットに失敗しました。このカードは再フォーマットが必要です。
CHECK CARD.	カードを確認してください。
CONTROL DATA ERROR HAS BEEN DETECTED.	管理情報にエラーを検出しました。
NO CARD	カードが入っていません。
NO FILE.	METAファイルがありません。
REPAIR CLIP?	クリップを修復しますか？
THE CLIP IS PROTECTED. PLEASE CANCEL PROTECTION.	クリップがプロテクトされています。プロテクトを解除してください。
THUMBNAIL DATA ERROR IS DETECTED.	サムネイル情報にエラーを検出しました。
UNABLE TO FORMAT.	フォーマットできません。
WRITE PROTECT	ライトプロテクトされています。

■ エラー表示

本機やSDメモリーカードなどに異常が発生したときに表示します。一度電源を切っても直らない場合は、表示の内容に従ってカードを交換するか、もしくはお買い上げの販売店へご相談ください。

メッセージ	内容
CANNOT RECORD	撮影時に異常が生じたときに表示します。
REC WARNING	記録時に異常が生じたときに表示します。再度記録してください。それでも警告が出る場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。 警告が続く場合は電源をOFFにしてください。
SYSTEM ERROR TURN POWER OFF	システムに異常が発生したときに表示します。電源を入れ直してください。 クリップを削除したときなど、SDメモリーカードへのアクセス中に表示された場合は、SDメモリーカードが壊れている可能性があります。新しいカードに交換してください。 修復時に表示された場合は、コンテンツ修復ソフトAVCCAM リストアラーをお使いください。 →「SDメモリーカードの修復について」(151ページ)を参照。

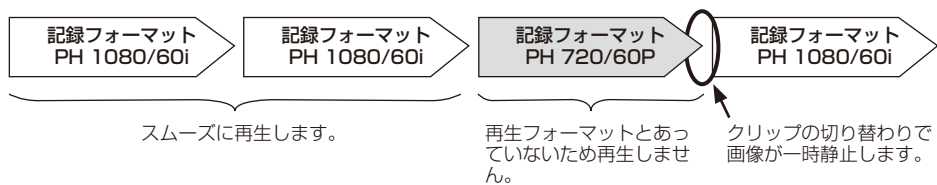
複数クリップの連続再生時にクリップの切り替わりがスムーズに行われずに行われずに行われます。

以下のような場合に、複数クリップを連続再生するとクリップが切り替わる時に画像が一時静止することがあります。

■ 記録フォーマットが混在している場合

記録モード = PH モード

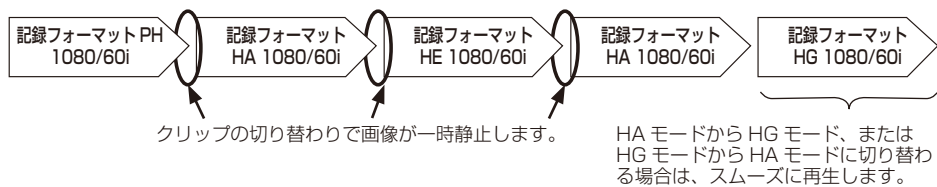
再生フォーマット = 1080/60i(30P)



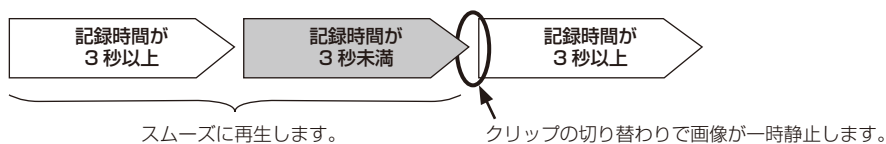
■ 記録モードが混在している場合

記録フォーマット = 1080/60i

再生フォーマット = 1080/60i(30P)



■ 記録時間が3秒未満のクリップがある場合



アワーメーター情報の表示

▲▼ボタンを押すとカーソル(*)が移動し、カーソルのある項目の内容がカウンター表示部に表示されます。

番号	項目	内容	カウンター表示部
Ser	*****	デッキのシリアルNo.が表示されます。	
H00	OPERATION	電源が入っている時間が、1時間単位で表示されます。	0h~99999h
H20	LCD ON	液晶モニターが点灯している時間が1時間単位で表示されます。	0h~99999h
H30	POWER ON	電源を入れた回数が、1回単位で表示されます。	0T~99999T

◆NOTE:

- エラー表示があるときは、カウンター表示部にアワーメーターは表示されません。

ショートカット一覧

■ GUI表示時

ショートカットキー	サムネールGUI時		プレイリストGUI時	
	名称	一覧	名称	一覧
SHIFT+▲(UP)	TOP	先頭のサムネールへ移動	TOP	先頭のサムネールへ移動*2 タイムライン上の最上部(ビデオ)トラックへ移動*3
SHIFT+▼(DOWN)	BOTTOM	最後のサムネールへ移動	BOTTOM	最後のサムネールへ移動*2 タイムライン上の最下部(A4)トラックへ移動*3
SHIFT+▶(RIGHT)	BOTTOM	最後のサムネールへ移動	BOTTOM / RIGHTMOST	最後のサムネールへ移動*2 タイムライン上の最右部のイベントへ移動*3
SHIFT+◀(LEFT)	TOP	先頭のサムネールへ移動	TOP / LEFTMOST	先頭のサムネールへ移動*2 タイムライン上の最左部のイベントへ移動*3
SHIFT+SET	MULTI SEL	サムネールの複数一括選択	MULTI SEL	サムネールの複数一括選択(プレーヤー側かつサムネール時) イベントの複数一括選択(レコーダー側)
SET長押し(1秒)	—	—	SEQ SEL	時間軸が同一のイベント(IN / OUT点のそろっている縦一列)の一括選択
SHIFT+EXIT	CANCEL	選択の解除 / コピーなどの中断	CANCEL	選択の解除 / コピーなどの中断*3
SHIFT+MENU	OPERATION	OPERATIONメニューの表示・選択	OPERATION	OPERATIONメニューの表示・選択
SHIFT+PLAY	1 CLIP PLAY	カーソル位置のクリップのみ(クリップの先頭から最後まで)を再生	REVIEW	カーソル位置のイベントをレビューする
SHIFT+IN	SLOT CLIP	サムネール表示を個々のスロットのみの表示や選択クリップのみの表示に切り替える。押すたびに順に切り替わる	SLOT CLIP	サムネール表示を個々のスロットのみの表示や選択クリップのみの表示に切り替える。押すたびに順に切り替わる*3
SHIFT+ENTRY	—	—	CLIP→LIST	選択しているクリップをイベントとして取り込む*2

*1 AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)装着時には、AVCHDモードでも動作します。

*2 プレーヤー側かつサムネール時

*3 レコーダー側

ショートカットキー	サムネールGUI時		プレイリストGUI時	
	名称	一覧	名称	一覧
SHIFT+OUT	ALL CLIP	サムネールの表示を全クリップの表示に切り替える	ALL CLIP	サムネールの表示を全クリップの表示に切り替える
SHIFT+TRIM(+/-)	SLOT SELECT	記録対象スロットを順方向/逆方向へ移動	SLOT SELECT	記録対象スロットを順方向/逆方向へ移動*2
SHIFT+LAST X	DELETE	選択している全クリップを削除	DELETE	選択している全イベントを削除*3
SHIFT+TC PRESET*1	CLIP PROPERTY	カーソル位置のクリッププロパティを表示	CLIP PROPERTY / EVENT PROPERTY	カーソル位置のクリッププロパティを表示*2 カーソル位置のイベントプロパティを表示*3
SHIFT+RESET	—	—	NEW	新規プレイリストの作成

*1 AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)装着時には、AVCHDモードでも動作します。

*2 プレーヤー側かつサムネール時

*3 レコーダー側

■ GUI非表示時

ショートカットキー	名称	一覧
SHIFT+REW	PREV	1つ前のクリップ(またはテキストメモ)の先頭へ移動*1
SHIFT+FF	NEXT	次のクリップ(またはテキストメモ)の先頭へ移動*1
SHIFT+TRIM(+/-)	SLOT SELECT	記録対象スロットを順方向/逆方向へ移動

*1 AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)装着時には、AVCHDモードでも動作します。

複数ボタン操作一覧

■ プレイリストGUI時

複数ボタン操作	名称	内容
IN+ENTRY	ENTRY IN POINT	IN点を登録する
OUT+ENTRY	ENTRY OUT POINT	OUT点を登録する
IN+OUT	DURATION	IN点とOUT点(登録がない場合は現在点)間のデュレーションの表示
IN+GOTO	SEEK TO IN POINT	IN点へシークする
OUT+GOTO	SEEK TO OUT POINT	OUT点へシークする
IN+TRIM(+/-)	IN TRIM	選択されたイベントがある場合はイベントのIN点をトリムする 選択されたイベントがない場合は設定されているIN点を移動する
OUT+TRIM(+/-)	OUT TRIM	選択されたイベントがある場合はイベントのOUT点をトリムする 選択されたイベントがない場合は設定されているOUT点を移動する
SHIFT+IN+TRIM(+/-)	IN TRIM	プレーヤー側のIN点とレコーダーのIN点を同時にトリムする
IN+RESET	IN POINT RESET	IN点を解除する
OUT+RESET	OUT POINT RESET	OUT点を解除する
SHIFT+A1	A3	A3トラックの選択と解除
SHIFT+A2	A4	A4トラックの選択と解除
SHIFT+GOTO	A.DUB MODE	A.DUBモードの選択
SHIFT+PLAYER	SOURCE SELECT	プレーヤーとして使用する機器を選択するメニューを表示する
SHIFT+PREVIEW	A LEVEL REC	レコーダーのIN点、OUT点区間のオーディオレベル設定記録を開始する
SHIFT+REC	AUTO DUB	P2のプレイリスト再生をAVCHDで記録(ダビング)する。*1
GOTO+TRIM(+/-)	FRAME ADVANCE	コマ送り再生を行う

*1 AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)装着時のみ

■ GUI非表示時

複数ボタン操作	名称	内容
IN+ENTRY	ENTRY IN POINT	シーク位置(IN)を登録する
OUT+ENTRY	ENTRY OUT POINT	シーク位置(OUT)を登録する
IN+OUT	DURATION	IN点とOUT点(登録がない場合は現在点)間のデュレーションの表示
IN+GOTO	SEEK TO IN POINT	シーク位置(IN)へシークする
OUT+GOTO	SEEK TO OUT POINT	シーク位置(OUT)へシークする
IN+TRIM (+/-)	IN TRIM	現在のシーク位置(IN)をトリムする
OUT+TRIM (+/-)	OUT TRIM	現在のシーク位置(OUT)をトリムする
IN+RESET	IN POINT RESET	シーク位置(IN)を解除する
OUT+RESET	OUT POINT RESET	シーク位置(OUT)を解除する
GOTO+TRIM (+/-)	FRAME ADVANCE	コマ送り再生を行う

■ サムネール表示/非表示時

複数ボタン操作	名称	内容
SHIFT+REMOTE	MODE	USB、LANなどのモード切り替えメニューを表示する

本機搭載ファームウェアのアップデート

ファームウェアのアップデート方法は、下記の2通りがございます。

(1) P2HD 5年間無償修理特約にご登録いただいたお客様

専用Webサイトに接続いただくと、アップデートの有無を確認でき、必要なファームウェアをダウンロードすることができます。

詳細ならびご登録は、下記のWebサイトをご覧ください。

日本語: http://panasonic.biz/sav/pass_j/

英語: http://panasonic.biz/sav/pass_e/

(2) P2HD 5年間無償修理特約のご登録がお済みでないお客様

サムネールメニューの[PROPERTY] - [SYSTEM INFO]で本機のバージョンを確認のうえ、下記のWebサイトのファームウェアに関する最新情報にアクセスし、必要に応じてファームウェアをダウンロードしてください。

アップデートはダウンロードしたファイルをSDメモリーカードを介して本機にダウンロードすることにより完了します。

アップデート方法の詳細については下記のWebサイトをご覧ください。

日本語: <http://panasonic.biz/sav/>

英語: <http://pro-av.panasonic.net/>

◆NOTE:

- 本機で使用するSDメモリーカードは、SD規格、SDHC規格に準拠したものをお使いください。
また、SDメモリーカードのフォーマットは、必ず本機で行ってください。

ラックマウント

本機はラックマウントアダプターAJ-MA75P(オプション)をご使用になりますと19インチ標準ラックに組み込むことができます。

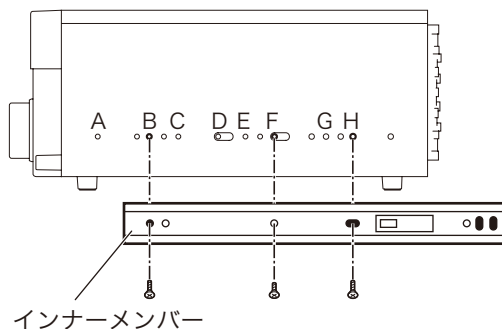
取り付けレールは、摂津金属工業株式会社製18インチレール(品番C-305-18)とブラケット(品番RBA2-35)を使用することをお勧めします。

詳しくは販売店にご相談ください。

ラックに組み込む

- 1 スライドレールのインナーメンバーを取り付ける
ネジ止め位置は、下図を参照してください。

インナーメンバー右 (R) 側のネジ止め位置



◆NOTE:

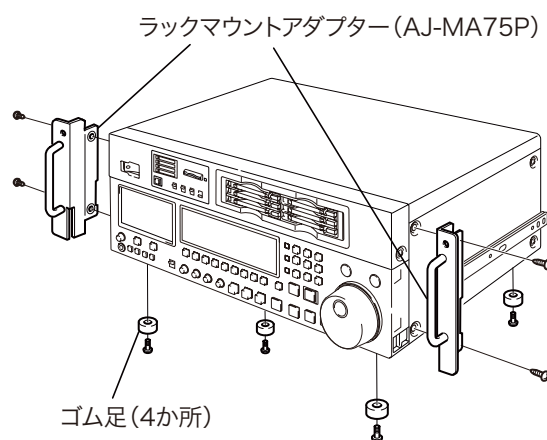
- 使用するネジには、長さの制限があります。
(B, H: 10 mm, F: 6 mm)
- 左(L)側も対称の位置で取り付けてください。
- インナーメンバーは、片側3個ずつ(計6個)のネジで止めてください。
- サイドパネルには、アルファベットの刻印はありません。

- 2 アウターメンバーのブラケットをラックに取り付ける

左右の高さが同じであることを確認してください。

- 3 左右のサイドパネルを取り付けている、フロント側のネジ4本を外す。

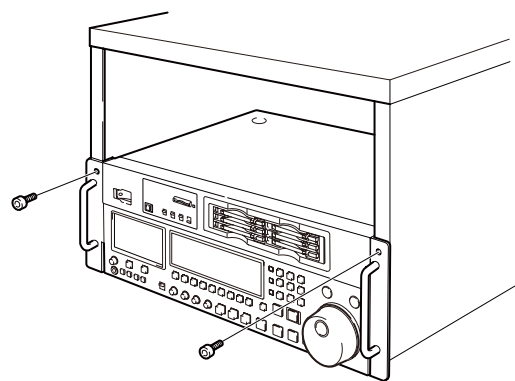
- 4 取り外したネジ4本で、ラックマウントアダプターAJ-MA75Pを取り付ける



- 5 本機底面のゴム足(4か所)を外す

- 6 本機を固定ネジでラックに取り付ける

取り付け完了後、レールの上でスムーズに移動できることを確認します。



◆NOTE:

- ラック内の温度は5℃～40℃に保ってください。
- デッキを引き出したときにラックが倒れないように、ラックをしっかりと床にボルトで固定してください。

P2カード記録データの取り扱いについて

P2カードはプロフェッショナル映像制作・放送用機器「P2HDシリーズ」の記録メディアに採用した、半導体メモリーカードです。

■P2フォーマットの記録データは、ファイル形式のため、パーソナルコンピューターとの親和性にすぐれていますが、そのファイル構造は独自フォーマットであり、MXFファイル化される映像、音声データだけでなく、様々な重要情報が含まれており、右のようなフォルダー構成にて関連付けられています。

これらの情報が一部分でも変更、または削除されると、P2データとして認識できない、もしくはカードがP2機器で使えなくなるなどの不具合が発生する場合があります。



■P2カード内のデータをパーソナルコンピューターなどに転送したり、パーソナルコンピューターに格納したデータをP2カードに書き戻す際は、情報の欠落を防ぐために、必ず専用ソフトウェア「P2ビューアー」または「P2コンテンツマネジメントソフトウェア」を下記ウェブサイトよりダウンロードし、お使いください。(対応OSについても、下記ウェブサイトをご参照ください)

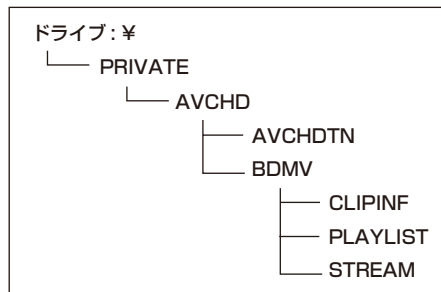
<http://panasonic.biz/sav/>

■Microsoft Windows ExplorerやApple Finderなど、一般のITツールを使用してパーソナルコンピューターに転送する場合は、下記のように行ってください。なお、P2カードへ戻す場合は、必ずP2ビューアーをご使用ください。

- CONTENTS フォルダとLASTCLIP.TXT ファイルごとに行ってください。
CONTENTSフォルダ以下は、操作しないでください。
コピーするときは、CONTENTSフォルダと同時にLASTCLIP.TXTファイルも行ってください。
- 複数のP2カードをパーソナルコンピューターに転送する場合、同一クリップ名の上書きを防ぐため、P2カードごとにフォルダを作成してください。
- P2カード内のデータ消去は行わないでください。
- フォーマットする場合は、必ずお使いのP2機器、もしくはP2ビューアーにて行ってください。

SD メモリーカード記録データの取り扱いについて

AVCHDフォーマットの記録データは、ファイル形式のため、パーソナルコンピューターとの親和性にすぐれていますが、映像、音声データだけでなく、様々な重要情報が含まれており、右のようなフォルダー構成にて関連付けられています。これらの情報が一部分でも変更、または削除されると、AVCHDデータとして認識できない、もしくはカードがAVCHD機器で使えなくなるなどの不具合が発生する場合があります。SDメモリーカードのデータをパーソナルコンピューターに転送したり、パーソナルコンピューターに格納したデータをSDメモリーカードに書き戻す際は、情報の欠落を防ぐために、必ず専用のソフトウェアAVCCAMビューアーを下記のWebサイトよりダウンロードし、お使いください。



(日本語) <http://panasonic.biz/sav/>
(英語) <http://pro-av.panasonic.net/>

■ 本機のメタデータの取り扱いについて

本機のサポートしているメタデータは、AVCHD規格の管理ファイル領域内のメーカー独自領域を使用しています。本機のメタデータをサポートしていない編集ソフトやカメラレコーダーでのファイル削除、コピー、クリッププロテクトの付加、削除などの編集動作を行った場合、メタデータの独自領域が消去され、本機で付加したショットマークやインデックス、PHモードの情報などが失われます。このような編集動作を行う前に、本機のメタデータをサポートしているかをご確認のうえ、作業してください。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

故障・修理・お取り扱い・メンテナンス などのご相談は、まず、 お買い上げの販売店 へ、お申し付けください。

お買い上げの販売店がご不明の場合は、当社（裏表紙）までご連絡ください。

* 内容により、お近くの窓口をご紹介させていただく場合がございますのでご了承ください。

保証書(別添付)

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ずお確かめのうえ、お買い上げの販売店からお受け取りください。

内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。

万一、保証期間内に故障を生じた場合には、保証書記載内容に基づき、「無料修理」させていただきます。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

本機は「P2HD 5 Year(s) Warranty Repair Program」の対象商品です。お客様が本機を購入後1か月以内にWebサイトからユーザー登録を行うと、最大5年間の無償修理特約が提供されます。より詳しい情報については、下記の、P2 Asset Support System Webサイトをご覧ください。

日本語：http://panasonic.biz/sav/pass_j/

英語：http://panasonic.biz/sav/pass_e/

補修用性能部品の保有期間 **8年**

当社では、メモリーカードレコーダーの補修用性能部品を、製造打ち切り後、8年間保有しています。

* 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

保守・点検

保守・点検は機器の機能を常に良好な状態に維持し、お客様が安心してご使用していただくためのものです。

部品の劣化、ごみ、ホコリの付着などにより突発的な故障、トラブルを未然に防ぐとともに、安定した機能、性能の維持のために、定期的な保守・点検を推奨いたします。

保守・点検(有料)についての詳しい内容は、お買い上げの販売店にご相談ください。

メンテナンス時間の目安と実施項目

下記のメンテナンス実施時間は、標準的な目安として設定しており、部品の寿命時間ではありません。また、使用する環境や使用方法により劣化する時間は異なりますので注意してください。

部品名	数量	定期保守点検と時間
LCD	1	LCD ON 8,000時間ごとに交換
ファン	1	12,000時間ごとに交換

修理を依頼されるとき

この取扱説明書を再度ご確認ください。お買い上げの販売店までご連絡ください。

■ 保証期間中の修理は...

保証書の記載内容に従って、修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は...

修理により、機能、性能の回復が可能な場合は、ご希望により有料で修理させていただきます。


■ ご連絡いただきたい内容

品名	メモリーカードレコーダー
品番	AJ-HPD2500
製造番号	
お買い上げ日	
故障の状況	

定格

総合

電源
AC 100-240 V、50 / 60 Hz、65 W(フルオプション)

 は安全項目です。

動作周囲温度: 5 °C ~ 40 °C

動作周囲湿度: 10 % ~ 80 % (結露なし)

保存周囲温度: -20 °C ~ 50 °C

質量: 13 kg

外形寸法(幅×高さ×奥行):

424.0 mm × 175.2 mm × 414.7 mm
(セット足、コネクタ、
JOGダイヤルを除く)

記録フォーマット: AVC-Intra100/AVC-Intra50/
DVCPRO HD/DVCPRO50/DVCPRO/DV
AVCHD*1

フォーマット切り替え

記録ビデオ信号: 1080/59.94i、1080/23.98p、1080/24p、
1080/29.97p、1080/25p、1080/50i、
720/59.94p、720/50p、480/59.94i、576/50i

記録オーディオ信号: DVCPRO HD: 48 kHz 16 bits 8 CH
AVC-Intra100/AVC-Intra50: 48 kHz 16 bits
8 CH / 48 kHz 24 bits 4 CH切り替え
DVCPRO 50: 48 kHz 16 bits 4 CH
DVCPRO/DV: 48 kHz 16 bits 2 CH/4 CH 切
り替え

*1 AVCHDコーデックボードAJ-YCX250G(オプション)装着時

記録時間:

カード	記録方法		
	AVC-Intra100/ DVCPRO HD	AVC-Intra50/ DVCPRO50	DVCPRO/DV
8 GB × 1	約8分	約16分	約32分
16 GB × 1	約16分	約32分	約64分
32 GB × 1	約32分	約64分	約128分
64 GB × 1	約64分	約128分	約256分

◆NOTE:

- 上記の時間は、いずれもP2カードに1クリップを連続記録したときのものです。
- 記録するクリップ数によっては、記録できる時間は上記より短くなるときがあります。

ビデオ

デジタルビデオ

サンプリング周波数:

AVC-Intra100/ DVCPRO HD:

(59.94 Hz)

Y: 74.1758 MHz

P_B / P_R: 37.0879 MHz

(50 Hz)

Y: 74.2500 MHz

P_B / P_R: 37.1250 MHz

DVCPRO50:

Y: 13.5 MHz

P_B / P_R: 6.75 MHz

DVCPRO:

Y: 13.5 MHz

P_B / P_R: 3.375 MHz

量子化:

AVC-Intra100/AVC-Intra50: 10 bits

DVCPRO HD/DVCPRO50/DVCPRO/DV: 8 bits

ビデオ圧縮方式:

AVC-Intra100/AVC-Intra50:

MPEG-4 AVC/H.264 Intra Profile

DVCPRO HD:

DV-Based Compression (SMPTE 370M)

DVCPRO50/ DVCPRO:

DV-Based Compression (SMPTE 314M)

DV:

DV Compression (IEC61834-2)

カラーサンプリング: AVC-Intra 100:

Y : P_B : P_R = 4 : 2 : 2

解像度:

AVC-Intra 100:

1920 × 1080 (1080/59.94i, 1080/50i)

1280 × 720 (720/59.94p, 720/50 p)

AVC-Intra 50:

1440 × 1080 (1080/59.94i, 1080/50i)

960 × 720 (720/59.94p, 720/50 p)

ビデオ入力信号

アナログコンポジット入力:

BNC × 1 (ループスルー × 1)、75 Ω 終端自動
切り替え

1.0 V [p-p] (75 Ω)

リファレンス入力:

ブラックバースト / HD3値SYNC自動切り替
え、BNC × 1 (ループスルー × 1)、75 Ω 終端
自動切り替え

SDI入力:

BNC × 1、

HDシリアルデジタル入力時:

SMPTE 292M / 296M / 299M規格に準拠

SDシリアルデジタル入力時:

SMPTE 259M-C / 272M-A、

ITU-R BT.656-4に準拠

ビデオ出力信号

SDアナログコンポジットMON出力:
BNC×1(スーパーON / OFF)
HDシリアルデジタル / SDシリアルデジタル出力(切り替え式):
BNC×2
HDシリアルデジタル出力時:
SMPTE292M / 296M / 299M規格に準拠
SDシリアルデジタル出力時:
SMPTE259M-C / 272M-A,ITU-R BT.656-4規
格に準拠
SD SDI MON出力: BNC×1
SMPTE259M-C / 272M-A,ITU-R BT.656-4
規格に準拠

ビデオ調整範囲

ビデオ出力ゲイン: メニューによって $-\infty \sim 3$ dB
または $-\infty \sim 6$ dBとなる
ビデオ出力クロマゲイン: $-\infty \sim 3$ dB
ビデオ出力HUE(クロマ位相): $\pm 30^\circ$
ビデオ出力セットアップレベル: $\pm 10\%$
ビデオ出力シンク位相: $\pm 15 \mu\text{s}$
ビデオ出力SC位相: $\pm 180^\circ$

オーディオ

デジタルオーディオ

サンプリング周波数: 48 kHz(ビデオに同期)
量子化: 16 bits (DVCPRO HD / DVCPRO 50 /
DVCPRO / DV)
16 bits/24 bits切り替え可能 (AVC-Intra100
/ AVC-Intra50)
周波数特性: 20 Hz~20 kHz ± 1.0 dB(基準レベルにて)
ダイナミックレンジ: 85 dB以上
(1 kHz, エンファシスOFF, "A"weighted)
歪率: 0.1 %以下
(1 kHz, エンファシスOFF, 基準レベル)
クロストーク: -80 dB以下(1 kHz, 2チャンネル間)
ヘッドルーム: 12 / 18 / 20 dB(切り替え可能)
ディエンファシス: T1=50 μs , T2=15 μs
(ON / OFF自動切り替え)

オーディオ入力信号

アナログ入力(CH1-CH2):
XLR×2, 600 Ω /ハイインピーダンス切り替
え可能(600 Ω で出荷)
4 / 0 / -3 / -20 dBm切り替え可能
デジタル入力: BNC×4(CH1/2, CH3/4, CH5/6, CH7/8)
AES/EBUフォーマット SMPTE276M

SDI入力: BNC×1
(HD:SMPTE 292M / 296M / 299M規格に準
拠、SD:SMPTE 259M-C / 272M-A,ITU-R
BT.656-4規格に準拠)

オーディオ出力信号

デジタル出力: BNC×4(CH1/2, CH3/4, CH5/6, CH7/8)
AES / EBUフォーマット SMPTE276M
SDI出力: BNC×2
(HD:SMPTE 292M / 296M / 299M規格に準
拠、SD:SMPTE 259M-C / 272M-A,ITU-R
BT.656-4規格に準拠、SD-SDI出力時は量子
化16 bitsに固定)
SD SDI MON出力: BNC×1
(HD:SMPTE 292M / 296M / 299M規格に準
拠、SD:SMPTE 259M-C / 272M-A,ITU-R
BT.656-4規格に準拠、SD-SDI出力時は量子
化16 bitsに固定)
アナログ出力: XLR×2, ローインピーダンス
4/0/-3/-20 dBm切り替え
モニター出力: XLR×2, ローインピーダンス
4/0/-3/-20 dBm切り替え
ヘッドホン出力: ステレオミニジャック(3.5 mm径)、8 Ω 、
レベル可変

その他入出力信号

タイムコード入力: BNC×1, 0.5 V[p-p]~8.0 V[p-p], 10 k Ω
タイムコード出力: BNC×1, ローインピーダンス、
2.0 V \pm 0.5 V[p-p]
RS-232C: D-sub 9Pin, RS-232Cインターフェース×1
RS-422A: D-sub 9Pin、
RS-422Aインターフェース×1
パラレル: D-sub 25pin×1
エンコーダーリモート:
D-sub 15pin×1
USB2.0: HOST×1, DEVICE×1
LAN: 1000BASE-T / 100BASE-TX / 10BASE-T×1
eSATA: eSATA 3 Gbit port×1

さくいん

A		修復	151
AVCHD	149	取り出し	150
記録	159	フォーマット	69,150
再生	157	保護	150
AVCHDモード	152	T	
C		THUMBNAIL SETUP	
CARD FUNCTIONS		AVCHD	153
AVCHD	154	U	
CTLモード	196	USB端子	115
E		USBデバイス	115
eSATA端子	115	USER CLIP NAME	
F		AVCHD	157
FTPクライアント	135	い	
FTPサーバー	140	イベント	74
書き戻し	138,139	移動	97
転送	137,139	削除	97
FTPサムネール	136	修正	95
H		登録	95
HTTPサーバー	140	プロパティ	109
I		インポート	139
INSERT	76	インポートコピー	138
IN点		う	
修正	92	上書き編集モード	76
設定	91	え	
L		エクスポート	139
LAN		エクスポートコピー	137
設定	130	エディットコピー	112
LOOP REC	37	エラーメッセージ	203
O		お	
OPERATION		オーディオ	
AVCHD	154	追加記録	103
OUT点		レベル設定	106
修正	92	オーディオフエード	76
設定	91	音声Vフェード	200
OVERWRITE	76	か	
P		外部制御モード	31
P2カード		外部リモート制御	128
記録・再生	35	接続	39
記録時間	36	カット	
挿入	35	イベント	96
取り出し	38	プレイリスト	75
フォーマット	71	き	
プロテクト	38	キーボード	33
R		く	
RS-232Cインターフェース	144	クライアント	
S		設定	131
Sambaサーバー	140	クリップ	
SD/SDHCメモリーカード	149	音声変換	60

コピー	59	情報	122
再生	52	フォーマット	119
削除	61	バリアブルフレームレート	40
修復	62	ふ	
情報	63	フォーマット	
選択	51	P2カード	71
プロパティ	109	SDメモリーカード	69,150
メタデータ	65	ハードディスク	119
メタデータ(AVCHD)	156	フォルダー	122
連結	62	ブラウザ	141
クリップセレクト機能	148	プレイリスト	74
さ		エクスポート	101
サーバーサービス		再生	111
設定	132	削除	102
ユーザー	133	作成	89
サムネール		保存	99
AVCHD	151	読み込み	100
FTP	136	プレイリストモード	31
ハードディスク	122	プレーヤー	75,77
変更	50	プロパティ	
名称とはたらき	44	FTP	137
サムネールモード	31	P2カード	72
し		イベント	109
シャトルモード	42	クリップ	109
情報バー	80	フロントカバー(下部)	
ジョグモード	42	チルト調整	11
ショットマーク	57	め	
AVCHD	157	メタデータ	65
す		AVCHD	156
スーパーインポーズ画面	197	メニュー	
スローモード	42	サムネール	32
せ		プレイリスト	32
セットアップ	162	保存	192
そ		ゆ	
挿入編集モード	76	ユーザーズビット	194
た		ら	
タイムコード	194	ライブ記録	94
タイムライン	79	ラックマウント	217
端子カバー	12	り	
つ		リライトエディット	113
つなぎ再生	54	れ	
て		レコーダー	75,78
定格	221	レビュー	111
テキストメモ	57	ろ	
と		録再モード	31
トリム	95		
ね			
ネットワーク	130		
は			
パーティション	122		
ハードディスク	117		
インポート	124		
エクスポート	119		
コピー	121,124		

プレイリストメニュー

FILE	EDIT AUDIO CH.....	98
DELETE.....	EDIT COPY.....	112
NEW.....	MOVE EVENTS.....	97
OPEN.....	PLAYLIST EXPORT.....	101
SAVE.....	REWRITE CLIP.....	113
SAVE AS.....	REWRITE EDIT.....	113
HDD.....	PROPERTY.....	109
OPERATION	SETTING	
APPEND SELECTED CLIPS.....	AUDIO CH.....	87,98
CHANGE PLAYLIST NAME.....	AUTO ENTRY.....	87
CUT SEQUENCE.....	PREROLL TIME.....	87
DELETE ALL EVENT.....	REPLACE TC.....	86
DELETE SELECTED EVENTS.....	THUMBNAIL.....	47,91

HDD(USBまたはeSATA)メニュー

OPERATION	FORMAT(HDD).....	119
CHANGE PARTITION NAME.....	IMPORT.....	124
COPY.....	PROPERTY	
DELETE.....	CLIP PROPERTY.....	126
DELETE LAST PARTITION.....	FREE CAP. OF PARTITION.....	122

NETWORKメニュー

EXPORT	IMPORT.....	139
SD CARD.....	PROPERTY	
OPERATION	CLIP PROPERTY.....	137
COPY.....		

AVCHDメニュー

CARD FUNCTIONS.....	PLAY SET UP.....	157
CARD FORMAT.....	PB FORMAT.....	157
CARD STATUS.....	REPEAT PLAY.....	158
CLIP PROPERTY.....	RESUME PLAY.....	158
META DATA.....	SKIP MODE.....	158
CARD READ.....	THUMBNAIL SETUP.....	153
CLIP COUNT RESET.....	DATA DISPLAY.....	153
META INITIAL SET.....	DATE FORMAT.....	153
META DATA PROP.....	INDICATOR.....	153
RECORD.....	THUMBNAIL MODE.....	153
USER CLIP NAME.....		
OPERATION.....		
CLIP PROTECT.....		
DELETE.....		

パナソニック株式会社 AVCネットワークス社

〒571-8503 大阪府門真市松葉町2番15号 ☎(06)6901-1161

©Panasonic Corporation 2010-2012